



独立行政法人 地域医療機能推進機構 **九州病院**

病院年報

平成 28 年度

目次

Contents

■ 平成28年度JCHO九州病院年報の発刊にあたって	
院長 多治見 司	001
■ 基本理念	002
■ 病院概況	004
施設概要	005
組織図	009
職員数	011
■ 診療部門の概況	012
総合診療部	013
内科・循環器科	015
内科・消化器科	019
内科・血液・腫瘍部門	020
内科・呼吸器科	021
内科・内分泌代謝部門	023
内科・腎臓部門	024
老年内科	025
神経内科	026
小児科・小児循環器科・新生児小児科	027
放射線科	030
精神科	031
麻酔科	032
緩和ケア	033
外科・上部消化管外科	035
外科・下部消化管外科	036
外科・肝胆膵外科	037
外科・呼吸器外科	039
外科・乳腺外科	041
外科・小児外科	042
整形外科	043
心臓血管外科	044
脳神経外科	046
産婦人科	047
皮膚科	049
眼科	050
耳鼻咽喉科・頭頸部外科・形成外科	052
泌尿器科	053
内視鏡室	054
臨床病理検査科	056
心臓リハビリテーション科	057
健康診断部	058
■ 診療協力部門等の概況	060
看護部	061
医療安全管理部	063
感染管理室	066
入退院センター	070
集中治療室	072
NICU病棟	073
4階北病棟	074
4階南病棟	076
5階北病棟	078
5階南病棟	080
6階北病棟	081
6階南病棟	083
7階北病棟	085
7階南病棟	086
8階北病棟	087
8階南病棟	088
9階北病棟	090
がんセンター	091
(9階南病棟(緩和ケア病棟))	091
(緩和ケア外来)	093
(外来化学療法室)	095
(がんサポートチーム)	097
外来	098
透析室	099
特殊外来	100
放射線治療室	101
がん看護外来	102
手術室	103
薬剤部	105
放射線室	108
中央検査室	111
臨床工学室	113
栄養管理室	115
リハビリテーション室	117
医療情報部	119
医療支援部(地域連携室、福祉相談室)	121
がん相談支援センター	123
臨床心理室	125
■ 委員会	126
委員会組織図	127
委員会活動	129
■ 諸活動	178
メディカルネットワークフォーラム	179
健康フェア	180
健康教室	181
地域包括ケア推進室活動	182
■ 業績目録	184
■ 診療実績及び診療統計	256
臨床指標(CI)	257
入院・外来患者統計	262
1.平成28年度入院科別・月別患者数	262
2.平成28年度入院科別・月別入院患者数	262
3.各科別入院患者数推移	263
(1日平均在院患者数・在院患者延数・新入院患者数・平均在院日数)	
4.病棟別病床稼働率	263
5.入院患者の年齢別構成	264
6.平成28年度外来科別・月別患者数	265
7.平成28年度外来科別・月別再来患者数	266
8.平成28年度入院・外来患者分布図(患者実数)	267
9.紹介件数推移・紹介率、逆紹介件数推移・逆紹介率推移	268
10.平成28年度開放型病床の稼働率推移	269
手術統計	270
1.平成28年度診療科別手術件数	270
2.診療科別・手術コード別件数(上位3)	271
救急患者統計	272
1.平成28年度救急患者数	272
2.平成28年度地域別救急患者数	273
3.平成28年度救急センター実績報告	274
退院患者統計	277
1.疾病統計	
1) 疾病別退院患者数(大分類)	277
2) 疾病別退院患者数(小分類)	278
3) 疾病別死亡患者数(小分類)	286
I 死亡原因別死亡数	293
II 麻酔件数・手術件数・分娩件数・新生児数	293
III 退院患者診療科別転帰統計	293
IV 剖検数	293
2.DPC統計	
1) MDC別退院患者数	294
2) MDC別在院日数分析	295
3) 年齢別・性別退院患者数	296
4) 診療科別在院日数分析	297
5) MDC6桁分類別疾患数(上位20分類)	298



JCHO九州病院年報の発刊に寄せて



院長 多治見 司

このたび、JCHO九州病院・病院年報平成28年度版が上梓され、皆さまに公開できる運びとなりました。地域医療機能推進機構（JCHO）に移行した後、3巻目の年報になりますが、医療を取り巻く環境が厳しくなり、しかも様々な社会や医療界の問題や矛盾を抱えた中で、当院を選んでいただいた患者さんのために質、量を落とすことなく、前向きに頑張っているスタッフの努力に敬意と感謝の念を表したいと思います。

政府が進めている地域医療構想の中で、地域における当院の役割は専門医療、急性期・救急医療などの高度急性期医療機能と考え、体制を整えているところです。当院周辺の人口は20%ほど減少する一方で、入院を要する患者さんは10～20%もの増加が予測されています。高齢者比率の増大のため、癌を含めた生活習慣病が増えており、これらに伴うがん治療件数や救急車搬入件数は急速に増えている状況です。ただ、残念ながら、当院の様々な人的、物理的な制約の中で、手術件数など、現能力的には飽和状態に近づいている部分もあり、更に成長するにはハード面とソフト面での補強も必要であると考えています。

この年報によって当院の現状をより多くの方に知っていただくと共に、我々はこれを元に改善すべき点、伸長させるべき点を見出し、地域の医療・福祉に尚一層貢献すべく、努力してゆきたいと思っています。



JCHO 九州病院 基本理念

「愛と信頼そして納得」の医療を実践し社会に貢献する。

基本方針

- (1) 相互理解と信頼を深め、「病める人」と共に、納得ゆく医療を実践する。
- (2) 急性期・専門医療を中心に最適・最良の医療を多くの人に提供する。
- (3) 関係機関と連携し、生涯にわたる継ぎ目のない地域医療の実現に貢献する。
- (4) 医療の質向上のために日々研鑽するとともに、将来を担う優れた医療人の育成に努める。

運営指針

当院は公的な病院であることから、通常の診療業務の枠を越えた地域社会への貢献を求められている事を自覚し運営されなければならない。その上で住民に信頼され「大切な人を安心して任せられる」病院となるように努力する。

A. 患者の信頼

- 1) 対等な立場で互いに理解し信頼関係を築き、「病める人」と共に、問題の解決、健康回復のために協働する。
- 2) 職員はそれぞれの分野の最先端の知識・技術の修得に努め、病院はこれを積極的に支援する。実践においては「病める人」にとって心身両面で最適・最良な診療を心がけ、医療過誤・事故を起こさないように細心の注意を払う。
- 3) 医療情報を積極的に開示し理解・納得が得られるように十分に説明する。
- 4) 「病める人」の権利と人格を尊重しプライバシー保護に努める。

B. 病院の機能

- 5) 地域における当院の役割は急性疾患・重症疾患の診療であり、急性期医療・高度専門医療を適切・適時に提供し、住民の期待に応えるよう努力する。
- 6) 地域医療機能推進機構の責務として地域医療、包括ケアの要となり地域完結型医療・福祉体制の構築に貢献する。また、院内外からの医療関係者の研修受け入れや積極的な教育活動を通じ幅広い視野を持つ優れた医療人を育成する。
- 7) 災害拠点病院として行政、医師会、地域医療機関と協力し大規模災害に備える。

C. その他

- 8) 法令の下、健全で安定した病院経営を行うことで、良質の医療を継続的に提供出来る基盤を確立する。
- 9) 明るく健康な社会を作るため、地域住民と連帯して、疾病予防・啓発活動やボランティアの受け入れに取り組むなど、開かれた病院を目指す。
- 10) 全ての職員がこの病院で働くことに誇りと生き甲斐を持ち、幸せを感じる事の出来る職場を作る。



平成 28 年度
病院概要

Japan Community Health care Organization JCHO



独立行政法人 地域医療機能推進機構 九州病院



施設概要 (平成28年度)

施設名	独立行政法人 地域医療機能推進機構 (JCHO) 九州病院
所在地	〒806-8501北九州市八幡西区岸の浦1丁目8番1号 TEL (093) 641-5111/FAX (093) 642-1868 URL : http://www.kyusyu.jcho.go.jp
開設者	独立行政法人 地域医療機能推進機構 〒108-0074 東京都港区高輪3-22-12 TEL 03-5791-8220 理事長 尾身 茂 開設 平成26年4月1日 (病院開設許可 昭和30年3月10日 移転 平成16年5月1日)
管理者	院長 多治見 司 副院長 水島 明 内山 明彦 山本 英雄 上村 哲郎 事務部長 三島 俊彦 看護部長 元嶋 文恵
標榜科 (47科)	救急科、内科、循環器内科、消化器内科、胃腸内科、肝臓内科、胆のう内科 腎臓内科、血液内科、腫瘍内科、呼吸器内科、腎臓内科、代謝・内分泌内科 老年内科、外科、呼吸器外科、胃腸外科、肝臓外科、胆のう外科、膵臓外科 消化器外科、乳腺外科、小児外科、小児科、循環器小児科、新生児小児科 心臓血管外科、整形外科、産婦人科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻いんこう科 頭頸部外科、脳神経外科、神経内科、精神科、麻酔科、ペインクリニック外科 放射線診断科、放射線治療科、リハビリテーション科、形成外科 心臓リハビリテーション科、臨床検査科、病理診断科

建物構造	本館：地下2階 地上9階 (免震構造) 別館：地下1階 地上4階
病棟数	一般病棟 14病棟 (緩和ケア病棟1病棟含む)
病床数	一般病床 575床 (ICU病床16床/NICU病床15床/緩和ケア病床12床/HCU28床含む)
救急機能関連	救急患者用ベット4床 オーバーナイトベット12床 (大人8床、小児4床)
手術室	13室 (無菌手術室4室・切替式無菌手術室1室)
透析室	29床
地域災害体制	待合ゾーン、会議室等へ医療ガス設備、防災センター
駐車台数	立体駐車場 557台 (身体障がい者用9台含む)
その他	屋上ヘリポート、医療情報のIT化、等
指定施設認定	へき地医療拠点病院 災害拠点病院 (地域災害医療センター) 地域医療支援病院 地域がん診療連携拠点病院 福岡県地域周産期母子医療センター 基幹型臨床研修指定病院 協力型臨床研修指定病院・・・済生会八幡総合病院及び九州労災病院における 産婦人科臨床研修プログラムに協力 日本医療機能評価機構認定病院 一般病院2 (3rdG: Ver.1.0) 救急告示病院 平成26年4月1日付認定 福岡県災害派遣医療チーム (福岡県DMAT) 指定医療機関

指定医療	結核予防法、生活保護法、障害者自立支援法 (精神通院、更生、育成) 原子爆弾被爆に対する援護に関する法 労働者災害補償保険法、母子保健法、地方公務員災害補償法
------	---



施設基準 (平成 29 年 3 月 31 日現在)

入院基本料関係	一般病棟入院基本料 7 対 1 入院基本料		
入院基本料等 加算	総合入院体制加算 2	超急性期脳卒中加算	在宅患者緊急入院診療加算
	診療録管理体制加算 2	医師事務作業補助体制加算 2 40 対 1	急性期看護補助体制加算 25 対 1 (5 割未満)
	看護職員夜間配置加算 1 イ 12 対 1	療養環境加算	重症者等療養環境特別加算
	無菌治療室管理加算 1・2	緩和ケア診療加算	医療安全対策加算 1
	感染防止対策加算 1 (地域連携加算)	患者サポート体制充実加算	褥瘡ハイリスク患者ケア加算
	ハイリスク妊娠管理加算	ハイリスク分娩管理加算	総合評価加算
	病棟薬剤業務実施加算 1・2	データ提出加算 2 (200 床以上)	退院支援加算 1・地域連携診療 計画加算
	認知症ケア加算	精神疾患診療体制加算	
特定入院料関係	特定集中治療室管理料 3 (小児加算)	ハイケアユニット入院医療管理 料 1	新生児特定集中治療室管理料 1
	小児入院医療管理料 1 (プレイルーム加算)	緩和ケア病棟入院料	短期滞在手術基本料 1
医学管理等関係	高度難聴指導管理料	がん性疼痛緩和と指導管理料	がん患者指導管理料 1・2・3
	外来緩和ケア管理料	移植後患者指導管理料 (造血幹 細胞移植後)	地域連携小児夜間・休日診療料 2
	院内トリアージ実施料	外来放射線照射診療料	ニコチン依存症管理料
	開放型病院共同指導料	がん治療連携計画策定料	肝炎インターフェロン治療計画 料
	薬剤管理指導料	医療機器安全管理料 I・II	
在宅医療	持続血糖測定器加算		
検査関係	HPV 核酸検査及び HPV 核酸検 出 (簡易ジェノタイプ判定)	検体検査管理加算 I・IV	心臓カテーテル法による諸検査 の血管内視鏡検査加算
	時間内歩行試験	胎児心エコー法	ヘッドアップティルト試験
	皮下連続式グルコース測定	神経学的検査	コンタクトレンズ検査料 I
	センチネルリンパ節生検 (片側) 1. 単独法 2. 併用法		
画像診断関係	画像診断管理加算 2	CT 撮影及び MRI 撮影	冠動脈 CT 撮影加算
	心臓 MRI 撮影加算	乳房 MRI 撮影加算	
投薬・注射	抗悪性腫瘍剤処方管理加算	外来化学療法加算 1	無菌製剤処理料
処置関係	透析液水質確保加算 2	磁気による膀胱等刺激法	
リハビリテー ション関係	心大血管疾患リハビリテーショ ン料 I・初期加算	脳血管疾患リハビリテーショ ン料 I・初期加算	運動器リハビリテーション料 I・初期加算
	呼吸器リハビリテーション料 I・初期加算	がん患者リハビリテーション料	
輸血関係	輸血管理料 I	輸血適正使用加算	貯血式自己血輸血管理体制加算
麻酔関係	麻酔管理料 1・2		
放射線治療関係	放射線治療専任加算	高エネルギー放射線治療	外来放射線治療加算
	一回線量増加加算	画像誘導放射線治療加算 (IGRT)	体外照射呼吸性移動対策加算
	直線加速器による放射線治療 (定位放射線治療)	定位放射線治療呼吸性移動対策 加算	
病理	病理診断管理加算 1		



手術等	両心室ペースメーカー移植術・交換術			
	ペースメーカー移植術及び交換術			
	植込型除細動器移植術及び埋込型除細動器交換術及び経静脈電極除去術(レーザーシースを用いるもの)			
	補助人工心臓			
	体外衝撃波腎・尿管結石破碎術			
	経皮の中隔心筋焼灼術			
	経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)			
	大動脈バルーンパンピング法(IABP法)			
	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術・交換術			
	乳腺悪性腫瘍手術に係る乳がんセンチネルリンパ節加算1・2			
	胃ろう増設術(内視鏡下胃ろう増設術、腹腔鏡下胃ろう増設術を含む)			
	胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る)			
	体外衝撃波膀胱石破碎術			
	植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術			
	人工肛門・人工膀胱造設術前処理加算			
	組織拡張器による再建手術(一連につき)[乳房(再建手術)の場合に限る]			
	ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除術後)			
	緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術プレートのあるもの)			
	網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)			
	体外衝撃波胆石破碎術			
	腹腔鏡下肝切除術			
	区分1	頭蓋内腫瘍摘出術等	鼓室形成手術等	経皮的カテーテル心筋焼灼術
		黄斑下手術等	肺悪性腫瘍手術等	
	区分2	靭帯断裂形成手術等	鼻副鼻腔悪性腫瘍手術等	肝切除術等
		水頭症手術等	尿道形成手術等	子宮附属器悪性腫瘍手術等
	区分3	上顎骨形成手術等	バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)	内反足手術等
		上顎骨悪性腫瘍手術等	母指化手術等	食道切除再建術等
	IIその他	人工関節置換術		
		乳児外科施設基準対象手術		
		ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術		
		冠動脈、大動脈バイパス移植術及び対外循環を要する手術		
	経皮的冠動脈形成術、経皮的冠動脈血栓切除術及び経皮的冠動脈ステント留置術			
医科点数表第2章第10部手術の通則16に掲げる手術 〔胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む)〕				
入院時食事療養費関係	入院時食事療養I			



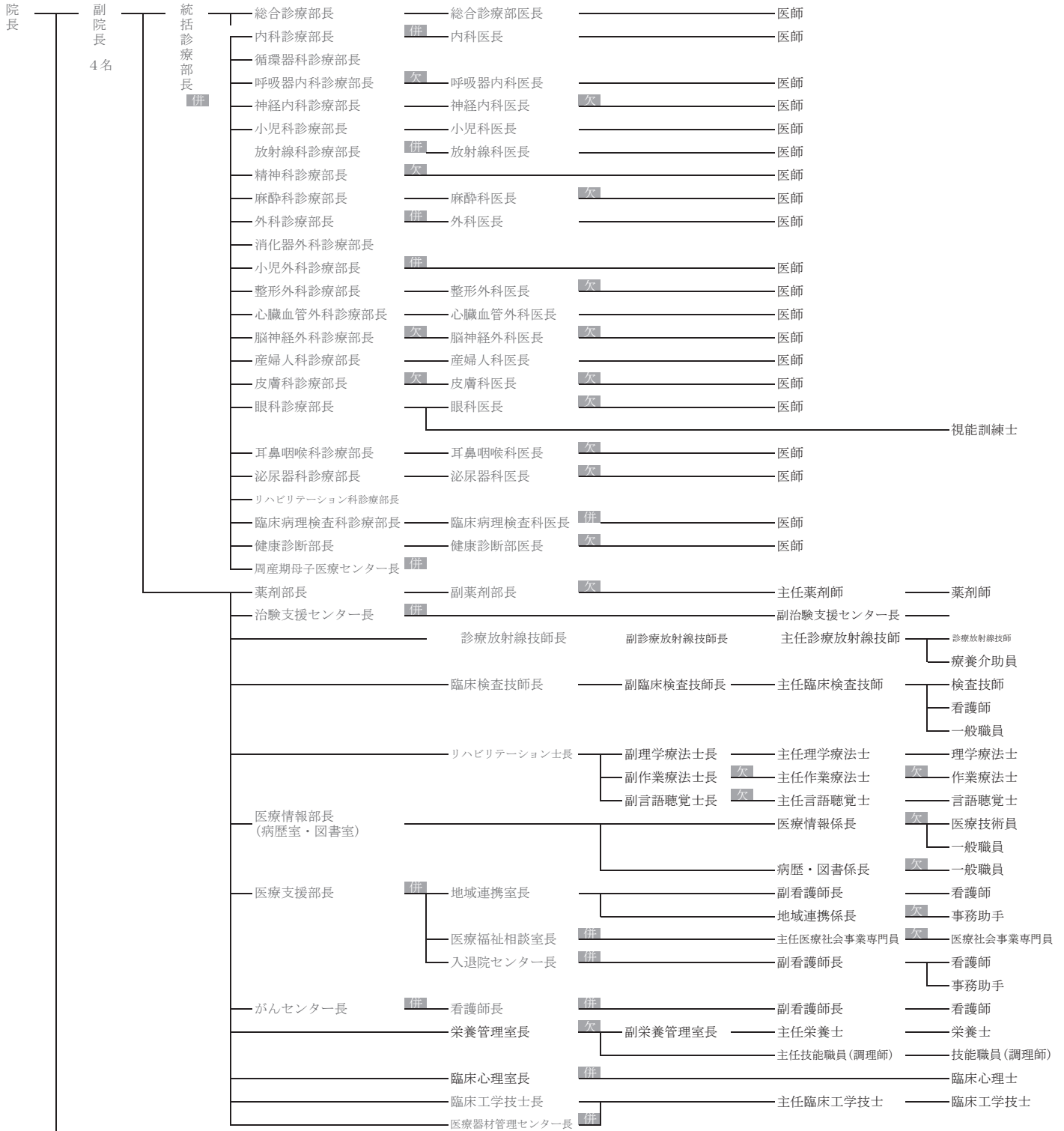
教育関係認定施設一覧 (順不同)

臨床研修協力施設	日本周産期・新生児医学会専門医制度
日本整形外科学会認定医制度研修施設	(周産期新生児専門医) 暫定研修施設
日本外科学会外科専門医制度修練施設	日本周産期・新生児医学会専門医制度
日本外科学会認定医制度修練施設	(周産期母体・胎児専門医) 暫定研修施設
日本眼科学会専門医制度研修施設	ステントグラフト実施施設
日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設	(腹部大動脈瘤・胸部大動脈瘤)
日本麻酔学会麻酔科認定病院	日本静脈経腸栄養学会 NST 専門療法士取得実地修練施設
日本内科学会認定医制度教育病院	日本放射線腫瘍学会認定施設
日本泌尿器科学会専門医教育施設	日本健康・栄養システム学会認定臨床栄養師研修施設
日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設	日本がん治療認定医機構認定研修施設
日本超音波医学会認定専門医研修施設	日本血液学会認定血液研修施設
日本皮膚科学会認定専門医研修施設	小児循環器専門医修練施設群認定施設
呼吸器外科専門医機構関連施設	心臓リハビリテーション研修施設
日本呼吸器学会指導医制度関連施設	臨床栄養師研修施設
日本消化器病学会専門医制度関連施設	日本神経学会専門医制度准教育施設
日本婦人科腫瘍学会専門医制度指定修練施設	日本胸部外科学会認定医認定制度指定施設
日本臨床腫瘍学会認定研修施設	三学会構成心臓血管外科専門医認定基幹施設
日本消化器病外科専門医修練施設	日本小児科学会専門医制度研修施設
放射線科専門医総合修練機関	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院	日本医学放射線学会放射線科専門医修練協力機関
日本産婦人科学会専門医制度卒後研修指導施設	日本脳神経外科学会専門医認定制度訓練施設
日本乳癌学会認定施設	日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設
マンモグラフィ 検診施設画像認定施設	日本頭頸部外科学会認定頭頸部がん専門医研修施設
日本医療薬学会認定薬剤師制度研修施設	日本病理学会研修認定施設
日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設	日本小児外科学会専門医制度教育関連施設
日本臨床細胞学会認定施設	日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設
日本高血圧学会専門医認定施設	



独立行政法人地域医療機能推進機構 九州病院 組織体制図

平成28年4月1日現在





職 員 数

平成 28 年 4 月 1 日現在 単位：人

	常 勤	非常勤 (常勤換算)	合計 (常勤換算)
医師	177		177
歯科医師	0	0.1	0.1
薬剤師	33		33
診療放射線技師	35		35
臨床検査技師	47	1.3	48.3
栄養士	9		9
臨床工学技士	15		15
理学療法士	21	0.8	21.8
作業療法士	5		5
言語聴覚士	3		3
歯科衛生士	0	0.8	0.8
視能訓練士	3	0.8	3.8
心理療法士	3		3
看護師	642	9.4	651.4
事務職	60	9.3	69.3
技能職	16	1.6	17.6
医療社会事業専門員	5		5
保育士	1		1
療養介助職	11	3.3	14.3
合 計	1,086	27.4	1113.4

※育休者含む

平成 28 年度
診療部門の概況

Japan Community Health care Organization JCHO



独立行政法人 地域医療機能推進機構 九州病院

診療部門の概況
◆ 総合診療部
1. スタッフ

職名	氏名	出身校名(卒業年度)	専門分野	資格
部長	酒井 賢一郎	自治医科大学 (平成6年卒)	プライマリ・ケア	日本内科学会総合内科専門医 日本救急医学会救急科専門医 日本プライマリ・ケア連合学会プライマリ・ケア 認定医・指導医
医長	出雲 明彦	三重大学 (平成6年卒)	心臓血管外科、救急医療	日本外科学会外科専門医 心臓血管外科専門医 日本救急医学会救急科専門医 日本脈管学会脈管専門医
医師	芥野 絵理	佐賀大学 (平成21年卒)	内科・循環器	内科認定医
研修医2年目	高畑 有里子	熊本大学 (平成27年卒)		
研修医2年目	堤 親 範	山口大学 平成27年卒		
研修医2年目	坂 梨 溪 太	九州大学 平成27年卒		
研修医2年目	島田 有 貴	九州大学 平成27年卒		
研修医2年目	川床 慎一郎	山口大学 (平成25年卒)		
研修医2年目	長谷川 真紀	九州大学 平成27年卒		
研修医2年目	松下 友 香	九州大学 平成27年卒		
研修医2年目	森田 彰 子	広島大学 (平成27年卒)		
研修医2年目	河野 絵 里	九州大学 平成27年卒		
研修医2年目	白石 研一郎	九州大学 平成27年卒		
研修医2年目	相良 優 佳	福岡大学 平成27年卒		
研修医2年目	古賀 大 貴	九州大学 (平成27年卒)		
研修医1年目	森 麻里母	山口大学 (平成28年卒)		
研修医1年目	石原 沙代子	大分大学 (平成28年卒)		
研修医1年目	橋 野 朗	九州大学 (平成28年卒)		
研修医1年目	伊津野 巧	九州大学 (平成28年卒)		
研修医1年目	中 村 聡	九州大学 (平成28年卒)		
研修医1年目	立 石 烈	長崎大学 (平成28年卒)		
研修医1年目	松永 優 香	九州大学 (平成28年卒)		
研修医1年目	児島 啓 介	九州大学 (平成28年卒)		
研修医1年目	田 代 匠	九州大学 (平成28年卒)		
研修医1年目	竹内 実 芳	九州大学 (平成28年卒)		
研修医1年目	伊与田 彩	鹿児島大学 (平成28年卒)		



2. 活動報告

診療情報提供書には本年度より「救急・総合診療部」という名称を使わせていただいています。

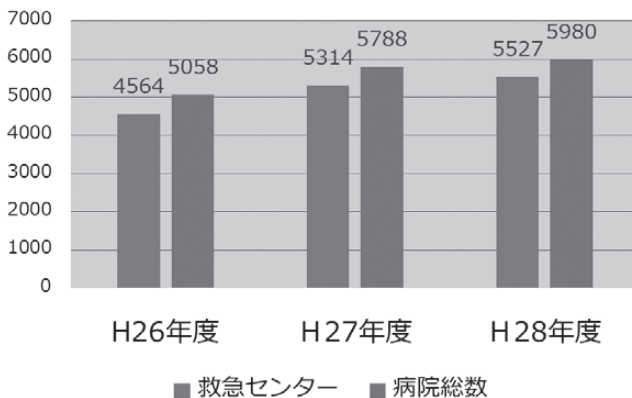
近隣医療機関からの救急および振り分け困難紹介症例、および地域の救急傷病者のうち主に1次から2・5次の救急患者の対応を担っております。小児科は別途急患体制を敷いていることもあり、総合診療部の対象患者年齢は高校生以上となります。「急性期・専門医療を中心に最適・最良の医療を多くの人に提供する」という当院の理念の下、救急専門医や院内各診療科の協力体制を敷き休日・夜間問わず救急医療を地域に提供できていることが当救急部門の特徴です。

北九州市は政令指定都市の中では最も高齢化が進んでいます。将来推定人口は減少の一途ですが、救急搬送される割合の高い高齢者の人口がピークを迎えるのは2030年頃と試算されます。

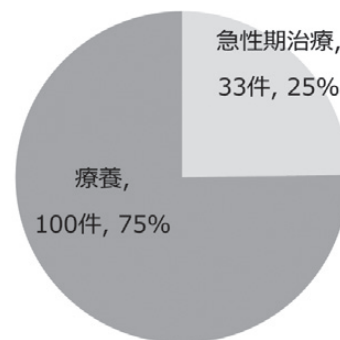
3. 診療実績

平成25年市立夜間・休日急患センターが当院から約1km、黒崎駅に隣接するコムシティ内に移転されました。これにより感冒など軽症の方々は同センターを受診していただき易くなりました。他方、当院も同年診療エリアを1.5倍に拡大するなど、救急車で搬送される傷病者対応に努めてきました。この結果当院救急センター受診者は減少傾向にありますが、平成28年度の救急車搬送件数は過去最高の5980件に上りました。その中で入院を要する方々も増加していますが病床数にも限りがあります。当院での初期評価にて軽症と判断された方々に対しては、近隣の病院での入院治療をしていただくことでより重症の方々への対応ができるよう努めています。

救急車受け入れ年間件数



H28年度 転送目的・件数



診療部門の概況

◆内科・循環器科

1. スタッフ

職名	氏名	出身校名(卒業年度)	専門分野	資格
院長	多治見 司	九州大学 (昭和47年卒)	循環器	日本医師会日医生涯教育認定証、日本内科学会認定医、日本循環器学会循環器専門医
副院長	山本 英雄	九州大学 (昭和55年卒)	循環器 インターベンション 心不全	日本内科学会総合内科専門医、日本循環器学会循環器専門医、日本心血管インターベンション学会認定医、日本心血管インターベンション学会専門医、日本心血管インターベンション学会指導医、日本医師会日医生涯教育認定証
部長	毛利 正博	九州大学 (昭和57年卒)	循環器 冠動脈インターベンション 心不全 心臓リハビリ	日本内科学会総合内科専門医、日本循環器学会循環器専門医、厚生労働大臣外国医師又は外国歯科医師が行う臨床修練に係る臨床修練指導医、日本人間ドック学会人間ドック認定医、福岡県知事特定保健指導実践者育成研修会(基礎編、技術編)、日本心臓リハビリテーション学会心臓リハビリテーション指導士、日本医師会日医生涯教育認定証
医長 (老年病担当)	折口 秀樹	自治医科大学 (昭和59年卒)	循環器 不整脈(アブレーション) 心臓リハビリ 栄養サポート	日本内科学会総合内科専門医、日本循環器学会循環器専門医、日本心血管インターベンション学会名誉専門医、日本心臓リハビリテーション学会心臓リハビリテーション指導士、日本抗加齢医学会専門医、日本不整脈学会専門医、日本老年医学会老年病専門医
医療情報部長	伊藤 浩司	熊本大学 (平成10年卒)	内科、循環器 心エコー 高血圧	日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本内科学会認定内科医、日本循環器学会循環器専門医、日本高血圧学会高血圧専門医・指導医、日本超音波学会超音波専門医、厚生労働省医政局長九州大学病院臨床研修指導医講習会修了、基本情報処理技術者、ITサポート、統計士、日本高血圧学会臨床研究ワークショップ修了
健康診断部部长	宮田 健二	鹿児島大学 (平成6年卒)	冠・末梢動脈インターベンション	日本内科学会認定内科医、日本循環器学会循環器専門医、日本心血管インターベンション学会専門医、日本心臓リハビリテーション学会心臓リハビリテーション指導士、腹部ステントグラフト実施医、AHA-BLS、ACLSインストラクター
医長 (内科:救急担当)	菊池 幹	産業医科大学 (平成8年卒)	循環器病学(不整脈) 救急医療	日本内科学会認定内科医、日本循環器学会循環器専門医、日本プライマリ・ケア連合学会プライマリ・ケア認定医、日本救急医学会救急科専門医
医師	川村 奈津美	長崎大学 (平成9年卒)		日本内科学会認定内科医 日本循環器学会循環器専門医
医師	鬼塚 健	山口大学 (平成17年卒)	循環器	日本内科学会認定内科医 日本循環器学会専門医
医師	百名 洋平	熊本大学 (平成20年卒)		日本内科学会認定内科医
医師	石北 綾子	(平成20年卒)	循環器	内科認定医
レジデント	永田 拓也	九州大学 (平成24年卒)		日本内科学会認定医
レジデント	田所 知命	九州大学 (平成25年卒)		
レジデント	古澤 峻	九州大学 (平成25年卒)		
レジデント	馬場 功士	九州大学 (平成26年卒)		



2. 活動報告

九州病院での循環器診療は 1955 年に始まり、1966 年に九州地区で最初の心臓カテーテル室が稼働して以来、常に患者さんのためになる最善の心血管病診療を追及してきました。ほぼすべての心臓・血管疾患（虚血性心疾患、心不全、不整脈、弁膜症、心筋疾患、心膜疾患、大動脈瘤や大動脈解離、四肢 / 腎動脈 / 頸動脈などの閉塞性動脈硬化症、深部静脈血栓症、肺塞栓症など）の診療を 24 時間態勢で行なっており、診断治療からリハビリテーションまで一貫して対応しています。

当院には心臓カテーテル検査室が 2 室有り、循環器緊急疾患に常時対応できる体制をとっています。増加する救急入院患者に対応するため、平成 26 年度からは一般血管造影室でも冠動脈検査や治療が出来るように装置機器を整備しました。循環器科の年間の入院患者数は約 1,400 名で、そのうち緊急入院の割合は約 50% です。急性冠症候群、心不全、不整脈が入院の三大疾患です。

冠動脈形成術はもちろんのこと不整脈に対する心筋アブレーション治療、腎動脈 / 末梢動脈形成術、両室ペーシングなどほとんど全てのインターベンション治療を行なっています。また大動脈ステントグラフト内挿術や心房中隔欠損閉鎖術も、それぞれ心臓血管外科、小児循環器科と協力して行なっています。

当院には心臓血管外科が併設されています。開心術は年間約 300 例施行されており、待機的手術はもちろんのこと、内科治療が困難な重症多枝病変による心筋梗塞、急性大動脈解離などの緊急手術も常時可能な態勢をとっています。ハートチームとして、循環器科と心臓外科が一緒になって、症例ごとに治療方針を話し合います。

循環器疾患の治療は急性期のみならず、慢性期の管理指導が大変重要です。当院では日本で最も早く、30 年以上前から心臓リハビリを治療に取り入れた病院のひとつです。本邦でも有数の心臓リハビリ施設とスタッフをそろえており、虚血性心疾患、心不全、心臓血管外科術後の患者さんの運動療法、教育を積極的に行なっています。毎年、九州のみならず全国の医療施設から多くの見学者や研修者が見学や研修に訪れます。

3. 診療実績

(1) 外来

外来は毎日 3～4 名の循環器内科医が診療にあたっています。新患は医療連携室を通しての予約制です。急患については総合受付 (093-641-5111) に電話をいただければ、循環器科の急患担当医に直接つながります (平日時間内)。夜間、土日祝祭日については救急外来が対応し専門医に連絡いたします。

(2) 入院

循環器内科の入院患者数は 1,484 名、うち急患入院が 688 名 (全入院の 46%) でした。退院時主病名は、虚血性心疾患、心不全 / 弁膜症、不整脈 / 失神の順に多く、これらの三大疾患が患者全体の約 8 割を占めています。急性冠症候群と急性心不全が循環器救急入院の 2 大疾患ですが、とくに心不全患者さんの増加が顕著です。(図 1、図 2)

診療部門の概況

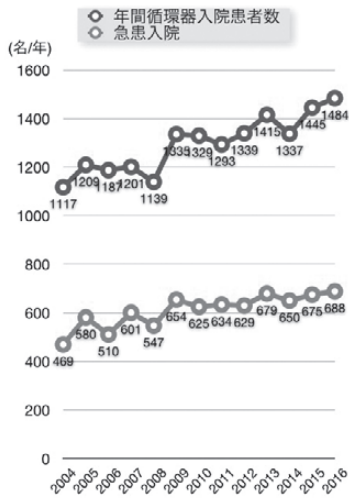


図1

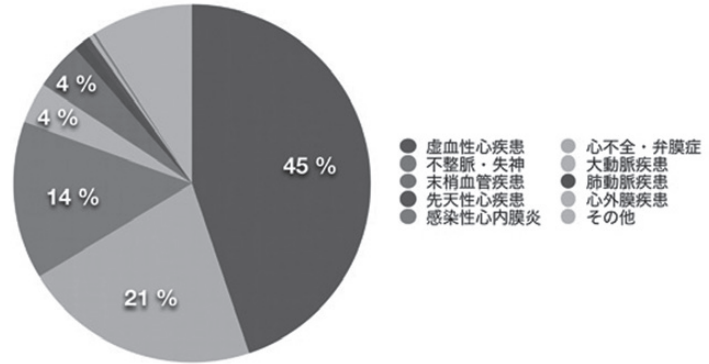


図2

(3) 虚血性心疾患

急性心筋梗塞と不安定狭心症は急性冠症候群 (ACS) と総称され、循環器の救急疾患の中でもっとも緊急度が高いもののひとつです。2016 年には 184 名 (前年より 4 名増) の入院がありました。そのうち 179 名 (97%) のかたが冠動脈造影検査を受けられ、うち 151 名の方がカテーテルインターベンション (PCI) で治療されています。全 ACS 症例のうち 20 名は重症冠動脈病変のため、外科的冠バイパス手術を施行されました。院内に心臓外科チームが待機している当院だからこそ、これらの重症疾患に対しても遅滞なく治療をおこなうことができます。

虚血性心疾患に対するカテーテルインターベンションは適応を厳格に決めて行なっていますが、その施行数は年々増加しています。(図 3)

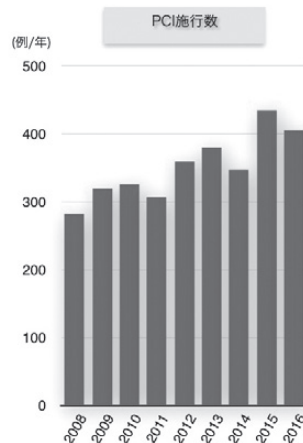


図 3



(4) 心不全

1年間に325名の心不全患者さんの入院がありました。患者さんの平均年齢は76歳で、85歳以上の方が全体の4分の1を占めます。総死亡率は3%でした。社会の高齢化とともに、心不全患者さんの入院は着実に増加しています。患者さんは他疾患に比較して高齢で、自宅へ戻れる方の割合が少なく、転院の上で治療の継続が必要な方の割合が高いという特徴があります。今後の心不全診療については、地域全体で取り組まなければならない課題です。

(5) 末梢血管疾患

下肢動脈、腎動脈、鎖骨下動脈を含む末梢血管疾患をお持ちの患者さんを診療する機会が増えていますが、その理由として「poly-vascular disease（冠動脈、下肢動脈、脳血管を含む複数の血管にアテローム血栓症を合併する病態）」の認識が広がっていることが挙げられます。連携病院から末梢血管疾患をお持ちの多くの患者さんをご紹介いただいておりますが、重症の冠動脈疾患や大動脈疾患を稀ならず合併しています。

(6) 不整脈・失神

1年間に245名の入院がありました（前年より+40名）。心房細動（77例）、心房粗動を含む上室性頻拍症（50例）、房室ブロック（52例）、洞不全症候群（30例）などが主要な疾患です。

116名の患者さんがアブレーションにより治療を受けています。心房細動症例は59例と一番多く、内訳は発作性心房細動が57例、持続性心房細動が2例でした。そのうち57例は肺静脈隔離を行ない、2例は房室結節アブレーション+ペースメーカーにより治療しました。2016年から心房細動治療のためのクライオアブレーションを導入したことにより、これまでよりも術時間が短縮しています。アブレーション治療の対象となった他の不整脈には、心房頻拍13例、房室結節回帰性頻拍10例、WPW症候群9例、心房粗動12例、心室性期外収縮7例、心室頻拍6例などがありました。

(7) 心臓リハビリテーション

長い伝統を持つ心臓リハビリテーションは当院における診療の大きな柱のひとつで、とくに心不全患者さんの非薬物療法を中心となるものです。理学療法士や看護師など心リハチームの努力のおかげで、実施件数だけでなく、その質も年々向上しています。（図4）

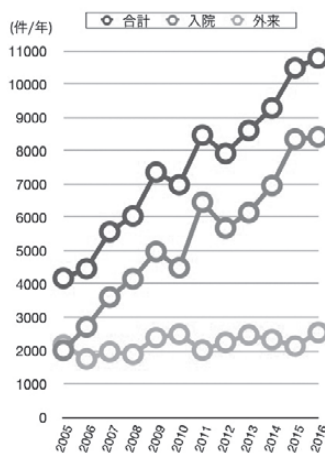


図 4

診療部門の概況
◆内科・消化器科
1. スタッフ

職名	氏名	出身校名(卒業年度)	専門分野	資格
医長	一木 康則	九州大学 (平成4年卒)	肝疾患	日本内科学会総合内科専門医 日本消化器学会消化器病専門医 日本肝臓学会肝臓専門医
医長	藤澤 聖	九州大学 (平成7年卒)	消化管	日本内科学会認定医 日本消化器病学会消化器病専門医 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医
医師	上平 幸史	九州大学 (平成10年卒)	肝・胆・膵	日本内科学会認定医 日本肝臓学会肝臓専門医 日本消化器病学会消化器病専門医 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医
医師	池上 幸治	九州大学 (平成18年卒)	消化器内科	日本消化器病学会専門医 日本消化管学会胃腸科専門医 日本消化器内視鏡学会専門医 日本内科学会認定医 日本ヘリコバクター学会H.pylori感染症認定医
医師	秋吉 大輔	福岡大学 (平成22年卒)	消化器内科	日本内科学会認定医 日本ヘリコバクター学会H.pylori感染症認定医
レジデント	塩月 一生	大分大学 (平成25年卒)	消化器内科	日本内科学会認定医
レジデント	田岡 奈央子	岡山大学 (平成27年卒)		

2. 活動報告

消化管、肝胆膵に関する、ほとんど全ての急性・慢性疾患、悪性腫瘍に対応している。緊急内視鏡についても24時間対応している。

日本消化器病学会関連施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本肝臓学会関連施設として、レジデントなど若い医師の指導にも力を入れた。

地域での研究会や医学会において多くの発表を行った。

3. 診療実績

上下部消化管内視鏡検査および内視鏡的治療の症例数は年々増加傾向である。

ERCPは緊急症例も含めて多くの症例数を行っている。

福岡県の肝疾患専門医療機関として、ウイルス性肝炎に対する抗ウイルス療法や肝臓の治療などに積極的に取り組んでいる。



◆内科・血液・腫瘍部門

1. スタッフ

職名	氏名	出身校名(卒業年度)	専門分野	資格
部長 (血液・腫瘍)	牟田 毅	九州大学 平成5年	血液内科学 化学療法 造血幹細胞移植術	日本内科学会総合内科専門医・指導医 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医・指導医 がん治療認定医 日本血液学会認定血液専門医 血液指導医・評議員 日本造血細胞移植学会評議員・認定医 日本輸血細胞治療学会認定医 日本骨髄バンク調整医師
部長 (移植)	小川 亮介	産医大 昭和63年	血液内科学 化学療法 造血幹細胞移植術	日本内科学会認定医 日本血液学会専門医・指導医 日本造血細胞移植学会認定医 がん治療認定医 日本医師会認定産業医 日本骨髄バンク調整医師 自己血輸血専門医
医長 (血液・移植)	青木 健一	佐賀医大 平成8年	血液内科学 化学療法 造血幹細胞移植術	日本内科学会総合内科専門医・指導医 日本血液学会専門医 日本造血細胞移植学会認定医 がん薬物療法専門医・指導医 がん治療認定医 日本骨髄バンク調整医師 日本輸血細胞治療学会認定医
医長(腫瘍)	牧山 明資	長崎大 平成14年	臨床腫瘍学 化学療法	日本内科学会認定医 がん薬物療法専門医 日本臨床腫瘍学会協議員
医長(腫瘍)	平野 元	佐賀医大 平成15年	臨床腫瘍学 化学療法	日本内科学会認定医 がん薬物療法専門医

2. 活動報告

血液;急性白血病の寛解導入療法、地固め療法。悪性リンパ腫の標準治療。自己免疫性の血球減少に対する免疫抑制療法、造血幹細胞移植などをおこなった。

腫瘍;固形腫瘍への化学療法を積極的におこなってきた。

共通項目;学会活動もおこない、研究会への参加も熱心におこなっている。昨年は、海外の論文投稿(平野)や、海外の学会発表(牟田)も行った。

3. 診療実績

血液部門では、造血幹細胞移植を積極的におこなっている。

また、腫瘍内科での診療実績も極めて高い。

腫瘍内科での診療数は、福岡県では3番目におおい。

外来化学療法の件数も多く、昨年度は5千件近い。

標準治療はガイドラインやエビデンスにのっとって行っている。

新規治療は、多施設共同研究に参加して行っている。

腫瘍内科では治験を積極的に行っている。

診療部門の概況
◆内科・呼吸器科
1. スタッフ

職名	氏名	出身校名(卒業年度)	専門分野	資格
部長	大内 洋	聖マリアンナ医科大学 (平成12年卒)	呼吸器	日本呼吸器学会呼吸器専門医・指導医 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医・指導医 日本内科学会認定内科医 日本内科学会総合内科専門医 日本化学療法学会抗菌薬適正使用認定医・指導医 日本がん治療認定医機構日本がん治療認定医 インфекションコントロールドクター 医学博士
医師	川上 覚	九州大学 (平成17年卒)	呼吸器	日本呼吸器学会専門医 日本内科学会総合内科専門医
医師	井上 勝博	京都府立医科大学 (平成19年卒)	呼吸器	日本内科学会認定医・総合内科専門医 日本呼吸器学会専門医 ICD(感染制御医)
レジデント	岡松 佑樹	三重大学 (平成24年卒)		
レジデント	今田 悠介	琉球大学 (平成25年卒)		
レジデント	篠崎 聖兒	鹿児島大学 (平成25年卒)		

2. 活動報告
(1) 外来

当科の外来は月曜日から金曜日まで4名のスタッフが交代で担当しました。平成28年度の時間内新患者数は総計438名であり、その他緊急を要する患者さんに対しても時間外診療を行い、平成28年度の新患総患者数は496名でした。

(2) 入院

当科の入院患者数は常時50名前後であり、平成28年度の入院のべ患者数が1184名でした。内訳としては肺癌患者が626名(52.9%)、肺炎・膿胸などの呼吸器感染症が150名(12.6%)、間質性肺炎(急性増悪含む)が83名(7.0%)、気管支喘息が17名(1.4%)、COPD(COPD急性増悪)が16名(1.4%)、気胸が10名(0.8%)となっております。その他超音波気管支内視鏡検査、局所麻酔下胸腔鏡などの検査入院も行いました。

(3) 気管支鏡検査

肺癌の診断目的に行うTBLB(経気管支肺生検)に加えて、縦隔リンパ節腫大の診断目的に行う超音波気管支鏡ガイド下生検(EBUS-TBNA)や原因不明の胸水精査のために局所麻酔下胸腔鏡検査を行いました。また難治性気胸に対する経気管支塞栓術(EWS)や気管支異物除去なども行っております。



3. 診療実績

(1) 平成 28 年度呼吸器内科入院患者疾患別内訳

疾患	患者数
肺癌	626 (52.9%)
呼吸器感染症	199 (16.8%)
間質性肺炎 (急性増悪含む)	83 (7.0%)
気管支喘息	17 (1.4%)
COPD (急性増悪)	16 (1.4%)
気胸	10 (0.8%)
その他	233 (19.7%)
	1184 名

(2) 平成 23 - 28 年度の気管支鏡関連検査総数

	平成 28 年度	平成 27 年度	平成 26 年度	平成 25 年度	平成 24 年度	平成 23 年度
総数	349	318	441	372	361	354
EBUS - TBNA	17	9	20	25	22	25
局麻下胸腔鏡検査	19	14	24	19	16	8

診療部門の概況**◆内科・内分泌代謝部門****1. スタッフ**

職名	氏名	出身校名(卒業年度)	専門分野	資格
部長	足立 雅広	九州大学 (平成4年卒)	内分泌代謝、糖尿病 肥満症	内科学会認定医 日本内分泌学会専門医 指導医、日本糖尿病学会専門医、指導医 日本肥満学会専門医、日本老年病学会指導医
医師	藤原 俊亮	広島大学 (平成23年卒)	内分泌代謝、糖尿病	

2. 活動報告

糖尿病診療：1型糖尿病、2型糖尿病、妊娠糖尿病、二次性糖尿病患者に対して、外来、入院治療を行った。他科に通院、入院中の糖尿病患者の、血糖管理や、糖尿病教育を行った。外来、入院中の糖尿病患者に対して、糖尿病教室など教育を行った。栄養士、看護師との協力のもと、栄養指導を行った。糖尿病腎症の患者に対して、看護師の協力のもと、生活指導を行った。日本糖尿病学会認定教育施設であり、専門医を目指す医師に指導を行った。

内分泌代謝診療：外来、入院にて、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患の診断、治療を行った。他科にて診療中の患者の内分泌代謝疾患患者の、精査、治療を行った。日本内分泌学会認定教育施設の申請を行い承認された。

3. 診療実績

外来数(時間内)は、新患 177 名、再来 3,306 名であった。前年の平成 27 年度より、新患数は 0.54 倍の減少、再来数は 1.4 倍の増加であった。入院患者数は 153 名であった。入院患者数の内訳は、糖尿病患者、内分泌疾患甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患等)であった。また、他科入院中患者の糖尿病患者、内分泌代謝疾患の治療を行った。



◆内科・腎臓部門

1. スタッフ

職名	氏名	出身校名(卒業年度)	専門分野	資格
医員	田村 恭久	九州大学 (平成9年卒)	腎臓内科、透析	内科認定医
レジデント	菰田 圭佑	東邦大学 (平成25年卒)	腎臓内科	

2. 活動報告

適応があれば PD → HD の順で透析を行っている。

HD 患者の院内 over に対応している。

IW での CHPF にも対応している。

3. 診療実績

	H26	H27	H28
内シャント造設	30	30	38
シャント再建	11	7	4
人工血管(その他)	9	5	2
PTA	26	23	23
腎生検	18	-	10
血液透析導入	29	-	30
腹膜透析導入	11	-	2

**診療部門の概況****◆老年内科****1. スタッフ**

職名	氏名	出身校名(卒業年度)	専門分野	資格
内科医長	折口 秀樹	自治医科大学 1984年	循環器疾患	老年病専門医・指導医

2. 活動報告

- 1) 認知症ケア妄回診：心療科医師・認知症看護認定看護師を中心に医師・薬剤師・リハビリ・臨床心理士・MSW が参加し、毎週水曜日の午前中に対象患者のベッドサイドに赴いて回診を行っている。1回の回診で10～30名程度の患者を回診し、対応や薬物療法の提案などを行っている。
- 2) 総合評価加算の算定：すべての病棟でCGA7を看護師で施行し、問題があった症例は高齢者支援部会の医師が評価を行っている。
- 3) 認知症ケア・高齢者支援部会研修会：高齢者医療に関する研修会を院内外の医療者を対象に行っている。

3. 診療実績

- 1) 認知症ケア妄回診：年間で242名の回診を行った。認知症関連が86名、せん妄関連が76名であった。
- 2) 総合評価加算の算定：全病棟で現在加算算定している。
- 3) 認知症ケア・高齢者支援部会研修会は5月、7月、11月、1月、3月に行い、60名前後の参加があった。



◆神経内科

1. スタッフ

職名	氏名	出身校名(卒業年度)	専門分野	資格
部長	山本 明史	九州大 (昭和63年)	内科疾患に合併する神経疾患 免疫性神経疾患	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 日本神経学会神経内科専門医・指導医 日本脳卒中学会専門医
レジデント	橋本 侑	大分大学 (平成24年)	神経内科一般	日本内科学会認定内科医

2. 活動報告

当科は1980年開設と九州大学神経内科の関連病院の中では比較的早い開設で、長らく4人体制でしたが、諸事情により3人、そして現在の2人体制に至っています。そのため、過去15年の年間入院患者数を調べると2002年頃の400人前後から2015年度は200人台前半へと減少していましたが、2016年度は2人体制と状況は変わりませんが若干盛り返しています。2016年度の入院患者数は270人、その内訳は脳血管障害54%、末梢神経疾患10%、変性疾患(ALS、MSA、SCD、PDなど)は8%、痙攣・てんかん7%、感染症・炎症性疾患5%と、救急疾患が主体ですが、病気の種類は多岐にわたっています。現在、脳血管チームとしてオンコールを神経内科2人、脳神経外科3人で担当しており、神経内科は週三日(火曜日、木曜日、日曜日)を担当しています。発症後4.5時間以内の脳梗塞の患者さんには経静脈的血栓溶解療法も行っています。しかし、当院では急性期の血管内治療は行っていないため、可能な症例については血管内治療を行っている他院への搬送を行っています。

3. 診療実績

診療統計(2016年度分)

外来患者数 2654人(初診457人、再診2197人)

入院患者数 270人

平均在科日数 15.5日

神経伝導検査、筋電図:180件/年

脳波判読:183件/年

tPA投与症例数:7件/年(うち1件は血管内治療のために他院へ搬送)

入院患者の疾患別分類(2016年度退院サマリー269件)(下の表)

大分類	中分類	件数
脳血管障害	脳梗塞	126
	TIA	16
	静脈洞血栓症	2
	脳出血	1
てんかん/痙攣		20
感染・炎症		13
脊髄疾患		9
多発性硬化症/視神経脊髄炎		4
変性疾患	筋萎縮性側索硬化症	12
	多系統萎縮症	4
	パーキンソン病/症候群	4
	脊髄小脳変性症	2
重症筋無力症		9
末梢神経疾患		27
筋疾患		2
他神経疾患		10
内科疾患		8
合計		269

診療部門の概況
◆小児科・小児循環器科・新生児小児科
1. スタッフ

職名	氏名	出身校名(卒業年度)	専門分野	資格
部長	高橋 保彦	岐阜大学 (昭和56年卒)	小児神経、発達 障害、新生児	小児科専門医、新生児指導医、産科医療補償 制度診断協力医
医長 (NICU担当)	山本 順子	山口大学 (平成4年卒)	新生児、呼吸 管理、先天異常	小児科専門医、新生児専門医、産科医療補償 制度診断協力医
医長 (循環器小児科)	宗内 淳	九州大学 (平成10年卒)	小児循環器	小児科専門医、小児循環器専門医・暫定指導医
医師	渡邊 まみ江	佐賀医科大学 (平成5年卒)	小児循環器、小児不整脈 成人CHD	小児科専門医、小児循環器専門医
医師	米田 哲	国立富山医科薬科大学 (平成15年卒)	小児科一般、小児集中治療	小児科専門医
医師	鳥袋 渡	九州大学 (平成19年卒)	小児科一般、小児腎疾患	小児科専門医
医師	城尾 正彦	琉球大学 (平成19年卒)	小児科一般 小児内分泌・代謝疾患	小児科専門医
医師	横田 千恵	九州大学 (平成17年卒)	小児科一般、新生児	小児科専門医
医師	長友 雄作	九州大学 (平成19年卒)	小児循環器	小児科専門医
医師	大村 隼也	熊本大学 (平成20年卒)	小児科一般、新生児	小児科専門医
医師	芳野 三和	熊本大学 (平成21年卒)	小児科一般、小児腎疾患	小児科専門医
医師	岡田 清吾	山口大学 (平成20年卒)	小児循環器、小児科一般	小児科専門医
医師	飯田 千晶	佐賀大学 (平成20年卒)	小児循環器、小児科一般	日本小児科学会専門医 新生児医学会 新生児蘇生法「専門」コース
医師	白水 優光	九州大学 (平成21年卒)	小児科一般	

2. 活動報告

小児科は、新生児疾患を中心に診療する「**新生児小児科**」ならびに、心臓病こども達の診療にあたる「**循環器小児科**」といった極めて専門性の高い分野から、乳児健診から小児の高次救急までをカバーする「**総合小児科**」があります。

その活動は地域の医療機関のみならず、保健所や児童相談所、特別支援学校といった行政機関との協力、また院内・外の各科と協力しながら、子どもたちの抱えるあらゆる問題に対し、多岐にわたって日常診療から高度医療まで実践しています。

具体的活動として

1. 市中病院小児科に求められる急性肺炎や胃腸炎といった小児感染症、また気管支喘息、けいれん、腸重責などの小児に固有な疾患の診療。
2. 市内外の消防局救急隊から、救急搬送されてくる多くのこどもたち、溺水や交通外傷といった重症疾患・緊急手術を要する病態まであらゆる小児の救急疾患に 24 時間対応。
3. 市(県)内外を問わず市中病院小児科から重篤な小児を受け入れ、より高次の医療たとえば、脳低体温療法や血漿交換、また持続血液濾過(CHDF)などの血液浄化療法から体外補助循環は実施。また、NO や NO₂ を併用した特殊な呼吸管理も豊富な経験を有し、小児集中治療室(PICU)として機能。
4. 新生児集中治療室(NICU)は、市内外で出生した未熟児や病的新生児、緊急手術を必要とする児に常時即応できる



体制で、地域の安心安全に貢献。

なお 2014 年 4 月に NICU を拡張し、認可新生児集中治療室(NICU)15 床を含む 31 床で、地域周産期母子医療センターとして産科とともに地域の新生児医療の中心的役割を果たしている。

5. 小児の先天異常のうち最も出生頻度が高い先天性心臓病(CHD)の診療は 30 年来の長い経験を有したチームが専門性の高い医療を実践。
6. 乳幼児期に心臓手術を受け、成人期に達した方々(成人先天性心臓 adult-CHD)の診療。
7. 周産期から乳幼児期の様々な病態によりはからずも重度の後遺症を残されたお子さまは少なくない。重度の障害を抱えても、可能な限り自宅でご家族とご一緒に生活できるよう、医療的ケアが必要な超重症児の在宅医療への取り組み
8. 小児虐待に対し児童相談所や地域の保健センター、家庭相談員との密な連絡を保ちつつ対応。
9. 小児の心身症、アスペルガーや注意欠如多動症などの小児期の発達障害を有することも達への対応、さらには小児の不安障害や不登校、また発達上の諸問題に臨床心理士と共同し対応。
10. 地域の訪問看護ステーションの協力の下、小児の在宅医療に積極的に取り組み、在宅人工呼吸管理症例も 30 例を数え、中には 20 年を超える実績を有している。
さらにはレスパイト入院を積極的に受け入れ、その間に外来では難しい検査や処置・治療などを行い、無理なく小児在宅医療が継続できるよう心がけている。
11. 2014 年 4 月からは「地域連携小児夜間休日診療」体制を組み、地域の開業クリニックの先生方にご協力いただきながら、地域の小児救急医療体制を守っている。
12. 1975 年から院内標榜科として「循環器小児科」を掲げ、国内でも有数の歴史と症例数を誇ります。そのため九州・山口各県の基幹病院から心疾患の治療のために来院されている。
13. 日本小児循環器学会専門医修練施設として小児循環器専門医育成に尽力している。国立病院機構小倉医療センター、山口赤十字病院、中津市民病院、大分県立病院、佐賀大学医学部附属病院は当院と専門医育成のため提携。
14. 産科医・新生児科医の協力のもと、胎児心エコーによる出生前診断を実施。重症先天性心疾患の赤ちゃんは出生前に治療計画をたてることができるようになり、治療成績向上につながっている。
15. 八幡西区の学校心臓二次検診を担当。さらには、北九州市と中間市・遠賀郡の三次検診を実施。地域の子どもたちが安心して学校生活をおくることができるように、専門的な管理・指導をしている。

3. 診療実績

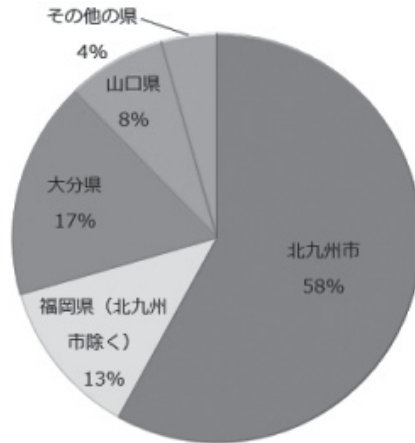
<総合小児科>

1. H28 年度の小児科年間外来患者数は 24,245 人であり、病院全体の 14%。延入院患者数は 19,603 人、病院全体の延入院数の 11.6% を占めていた。
2. H28 年度の小児科救急患者数は 8,342 人で、病院全体の救急患者数の 45% を占めていた。
3. 小児救急患者のうち、1,484 人(17%)が、深夜帯(22:00～5:00)の受診であった。
4. 救急車受け入れ数は 588 件であった。
5. H28 年度の小児科入院死亡患者数は 12 名であった。

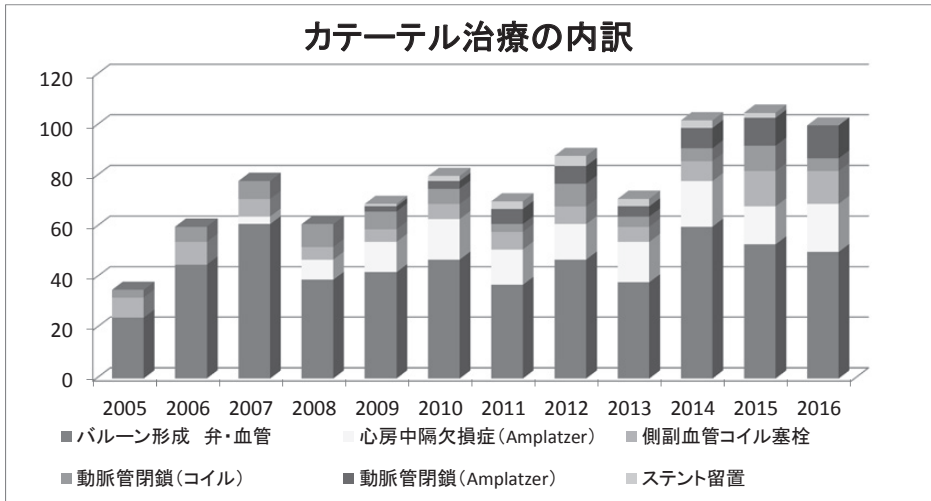
<小児循環器科>

1. 年間 450～500 人の患者さんが、県内外から検査や治療のために入院となり、そのうち年間 150～200 人の患者さんが手術を受けた。手術を受けられる患者さんは術前精密検査として心エコー図検査(年間 5000 件)、運動負荷心電図(年間 100 件)、ホルター心電図(年間 400 件)、心臓カテーテル検査(年間 350-400 件)、心臓 CT 検査(年間 100-120 件)、心臓核医学検査(年間 50 件)などの特殊な検査を実施した。
2. 年間 30～40 例の胎児心エコーを行っており、当院へ入院される方の約 8% で出生前診断がされた。

診療部門の概況

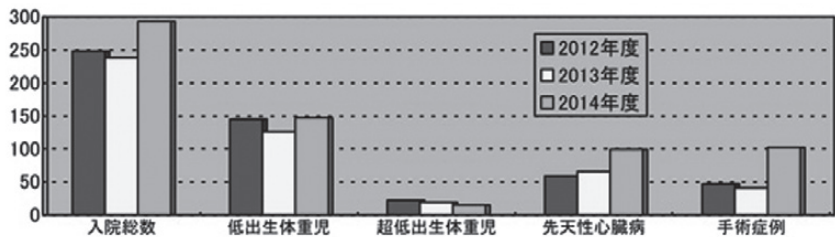


当院を受診される患者さんが来られる地域



<新生児小児科>

- 2016 年度の新生児病棟入院児は院内出生例 (49%)、院外出生例 (51%) で、院内院外がほぼ半数毎であった。なお院内出生児の % は母体が他院から当院産科へ紹介されていた。
- 院外出生児 158 例の児のうち、45% は当院新生児科医が往診後に救急車で当院に搬送している。
- 治療目的で市内外の他病院 NICU からの転院が 43% あり、うち県外からが約 30% もあり、重症新生児が集中している。ヘリコプターでの搬送も毎年 3 ~ 5 件と少なくない。



当院 NICU/GCU 入院新生児の内訳



◆放射線科

1. スタッフ

職名	氏名	出身校名(卒業年度)	専門分野	資格
副院長 (診療部長)	水島 明	九州大学 (昭和55年卒)	画像診断	放射線診断専門医、PET核医学認定医
医長 (光学医療担当)	堀江 靖洋	九州大学 (昭和61年卒)	画像診断、消化管内視鏡	放射線診断専門医
医長 (消化器診療担当)	平賀 聖久	九州大学 (平成元年卒)	消化管	放射線診断専門医、消化器内視鏡指導医 消化器がん検診指導医
医長 (画像診断担当)	篠崎 賢治	九州大学 (平成6年卒)	画像診断	放射線診断専門医、IVR専門医
医長 (放射線治療担当)	渥美 和重	九州大学 (平成14年卒)	放射線治療	放射線診断専門医、放射線治療専門医 日本がん治療認定医
医師	牧角 健司	九州大学 (平成元年卒)	画像診断	放射線診断専門医、PET核医学認定医 検診マンモグラフィー読影認定医
医師	井上 公代	長崎大学 (平成11年卒)	画像診断	放射線診断専門医 検診マンモグラフィー読影認定医
レジデント	小田原 裕子	九州大学 (平成24年卒)	画像診断	検診マンモグラフィー読影認定医
レジデント	笠井 尚史	熊本大学 (平成26年卒)	画像診断	

2. 活動報告

放射線科では9名の医師で画像診断、IVR、放射線治療、内視鏡などの診療業務を行っています。

3. 診療実績

画像診断	読影件数
CT 検査	25130
MR 検査	6946
RI 検査	1586
血管造影検査	151
腹部超音波検査	80
単純写真読影	8301

放射線治療	
リニアック 外照射	
新患者数	370
実患者数(再照射含む)	416

内視鏡	(放射線科医施行数)	
上部・下部	検査・特殊検査・処置	2447
放射線科入院	(消化管の内視鏡治療)	9

放射線治療	
外照射 部位別内訳	患者数
脳・脊髄腫瘍	1
頭頸部腫瘍 (甲状腺腫瘍を含む)	47
肺癌・気管・縦隔腫瘍	65
乳癌	82
食道癌	12
肝・胆・膵癌	16
胃・小腸・結腸・直腸癌	21
婦人科腫瘍	31
泌尿器系腫瘍	30
その他	24
RALS 内照射	14
全身照射	8

診療部門の概況**◆精神科****1. スタッフ**

職名	氏名	出身校名(卒業年度)	専門分野	資格
医師	天津 透彦	熊本大学 (平成12年卒)	リエゾン精神医学	日本精神神経学会専門医 精神保健指定医

2. 活動報告

原則的に、入院中外来を主体に診療を行なっております。又、緩和ケア外来でも診療を行なっております。その他にも、火曜日午後は緩和ケア回診・木曜午前は認知症・せん妄回診に参加しております。それらの他職種とのチーム活動を通して、普段から患者様の心身両面の治療が円滑に行なわれることを目指しています。

3. 診療実績

入院中外来 234 件

緩和ケア関連での介入件数 74 件

認知症・せん妄回診での介入件数 261 件

*緩和ケア関連・入院中外来では重複あり

平成 28 年度入院中外来・緩和ケア関連での介入患者 疾病分類

器質性精神障害(認知症・せん妄除く)	31
認知症	22
せん妄	163
精神作用物質に関連した障害	27
統合失調症及びその類縁疾患	4
気分障害	13
神経症性障害・ストレス関連	21
睡眠障害	10
摂食障害	3
発達障害	2
その他	7
合計	303



◆麻酔科

1. スタッフ

職名	氏名	出身校名(卒業年度)	専門分野	資格
部長	茅島 顕治	産業医科大学 (平成4年卒)	麻酔	日本麻酔科学会指導医・専門医 厚生労働省認定麻酔科標榜医 日本周術期経食道心エコー認定試験合格 臨床研修指導医
医師	村島 浩二	産業医科大学 (平成6年卒)	麻酔	日本麻酔科学会指導医・専門医 日本周術期経食道心エコー認定試験合格 日本睡眠学会認定医
医師	芳野 博臣	産業医科大学 (平成11年卒)	麻酔	日本麻酔科学会指導医・専門医 臨床研修指導医 日本周術期経食道心エコー認定試験合格
医師	今井 敬子	鹿児島大学 (平成20年卒)	麻酔	厚生労働省認定麻酔科標榜医 日本麻酔科学会専門医 日本周術期経食道心エコー認定試験合格
医師	水山 勇人	産業医科大学 (平成20年卒)	麻酔	麻酔科専門医 集中治療専門医 日本周術期経食道心エコー認定試験合格 PTEeXAM
医師	武末 美幸	宮崎大学 (平成24年卒)	麻酔	日本麻酔科学会認定医 日本周術期経食道心エコー認定試験合格
医師	土井 拓	熊本大学 (平成24年卒)	麻酔	麻酔科標榜医・認定医
レジデント	山 嵯 遼	産業医科大学 (平成25年卒)	麻酔	麻酔科標榜医・認定医
レジデント	大野 綾	九州歯科大学 (平成28年卒)		

2. 活動報告

麻酔スーパーバイザー（茅島3／週・村島2／週）、医療安全管理委員会委員、医療の質向上委員会委員、倫理委員会委員、手術室運営委員会副委員長、医療ガス管理委員会委員、集中治療運営委員会委員、ICT 委員、診療材料購買委員会委員、中心静脈カテーテル認定委員会委員など。

3. 診療実績

2015.1月－12月 4244 症例の麻酔管理。ペインクリニックなし。

診療部門の概況**◆緩和ケア科****1. スタッフ****2. 活動報告****緩和ケア科の取り組み**

当院緩和ケア科は今から 10 年ほど前緩和ケア病棟開設をきっかけに設立されました。痛みをはじめとするいろいろな苦痛に苦しむ担癌患者さんに対して、その苦痛を軽減してその人らしく過ごせるようにしてあげたいという思いで努めてきました。前任者の退職に伴い、担当者不在のため半年ほど休止する事態となりましたが、2014 年 10 月 1 日私が着任して再開いたしました。

緩和ケア科の活動は、症状緩和治療、緩和ケア教育、対外的活動など多岐にわたっています。症状緩和治療は、緩和ケア病棟での専門的な症状緩和治療、緩和ケアチームによる他科の入院患者さんの症状緩和治療、緩和ケア外来での緩和ケア病棟を希望する患者さんの入棟審査と外来患者さんに対する症状緩和治療などを行っています。身体症状緩和は私今村が担当し、精神症状に関しては精神科天津医師が担当しています。また緩和ケア病棟では研修 2 年目の医師に協力していただき月替わりで症状緩和治療を一緒に行っています。

緩和ケア教育では緩和ケア研修会の開催と研修医教育を行っています。緩和ケア研修会はこれまで 1 年に一回 10 年間にわたり途切れることなく開催してきました。今年度も 2017 年 2 月に第 10 回緩和ケア研修会を開催し、院内院外のがんに関わる多くの医師の方々に研修いただき、緩和ケア治療の普及に努めました。研修医教育では、研修 2 年目の医師に月替わりで約 1 か月間緩和ケア病棟での症状緩和治療を経験していただいています。

対外的活動としては、他院の緩和ケア研修会へ緩和ケア研修会開催企画責任者（第 5 回製鉄記念八幡病院緩和ケア研修会）やファシリテーター（第 3 回小倉医療センター緩和ケア研修会、第 1 回九州労災病院緩和ケア研修会）として協力を行っています。また、福岡県のがん診療連携協議会の中の教育部会で、福岡県認定緩和ケア研修会の内容の改訂や実施計画に協力しました。緩和ケア部会では福岡県として一体的な緩和ケア治療の推進のもと、地域連携バスの作成やそれぞれの緩和ケアチーム間でのピアレビューなどに参加しました。他にも、がん診療連携の会や研究会をとおして地域の関連病院や先生方に緩和ケア治療の普及に取り組みました。なかでも症状緩和治療について主な取り組みについて紹介します。

緩和ケア病棟の活動

2016 年度は 12 床の病棟に対して 1 か月に 9 名から 16 名の患者さんが入院し合計で 137 名の患者さんが入院しました。一方一月当たり 9 名から 16 名の患者さんが退院し計 135 名の患者さんが退院しました。病棟の性質上、退院患者さんはそのほとんどが死亡退院でしたが、2016 年度はできるだけ症状が安定すれば自宅退院や転院を進めてきたため、11 名の患者さんが、7 名は自宅退院し、3 名は転院、1 名は転棟することができました。在院日数は 8 - 20 日の患者さんが全体の 38% と最も多く、30 日以内が 3/4、60 日以内が 9 割を占めていて、入院期間が 3 か月を超えた患者さんはいませんでした。患者さんの年齢層では 60 代から 70 歳代の患者さんが半分以上を占めていました。紹介元の科では腫瘍内科が最も多いものの、婦人科、呼吸器内科、消化器内科、乳腺外科、消化器内科、泌尿器科などいろいろな診療科から紹介を受けました。また、前年に引き続き、産業医科大学病院や町上津役診療所など近隣の病院や診療所から 24 名の紹介を受けうち 10 名が入院しました。

緩和ケアチームの活動

これまで年間緩和ケアチームへの依頼が 80 件前後と低調であったため、今年度はチーム活動の可視化を目標に、チームへの依頼手続きを改定して簡素化し、苦痛の拾い上げにも積極的に取り組みました。対象患者さんの病棟に積極的に出向いてのカンファレンスを行い、その病棟でのニーズを繰り返し取るように努めました。結果、依頼件数は 142 件と増加しました。依頼内容をみると、精神的サポートの依頼が増加して最も多くなり、続いて身体症状の依頼、療養の場の支援などが続い



ていました。またチームに精神科医が加わったことで、緩和ケア診療加算が可能となり、423 件を計上しました。

緩和ケア外来の活動

緩和ケア外来では緩和ケア病棟の入棟審査、がんによる苦痛症状の外来でのコントロール、緩和ケア病棟入院までのコントロールなどを行っています。外来より入院までスムーズに移行できるように、地域連携を通して入院した場合の特室の減免処置などを利用したり、電話などでの症状確認を行って、大半の患者さんが数日で、遅くとも 1 週間以内に緩和ケア病棟に入院できるようになりました。

最後に

総合病院に付属した急性期の緩和ケア病棟として、重篤ながん関連症状に悩む患者さんに対して専門的な症状緩和治療を行うとともに、地域の中の緩和ケア病棟として地域医療機関と協調して、緩和ケア治療の普及と実践に努めていきます。

3. 診療実績

診療部門の概況
◆外科・上部消化管外科
1. スタッフ

職名	氏名	出身校名(卒業年度)	専門分野	資格
医長	難波江 俊永	九州大学 (平成4年卒)	上部消化器疾患	日本外科学会専門医・指導医 日本消化器外科学会専門医・指導医 日本消化器内視鏡学会専門医 日本内視鏡外科学会技術認定医 消化器がん外科治療認定医 日本がん治療認定機構暫定教育医
医師	荻野 利達	九州大学 (平成14年卒)	上部消化器疾患	日本外科学会専門医 日本消化器外科学会専門医 日本内視鏡外科学会技術認定医 消化器がん外科治療認定医

2. 活動報告

外科上部消化管グループは、上部消化器がん（胃癌、食道癌）にたいする外科治療を担当しています。

近年、胃癌や食道癌に対する術式では腹腔鏡手術が急速に普及しています。当科では10年以上前より腹腔鏡下胃切除および鏡視下食道がん手術を導入しており、多くの方の手術を担当させていただいています。腹腔鏡下胃切除術はこれまでに900例以上の手術を経験してきました。難波江、荻野の2名で診療を担当させていただいています。

3. 診療実績

胃疾患：

良性疾患：5例（十二指腸潰瘍穿孔または胃潰瘍穿孔：4例、胃潰瘍による通過障害：1例）

腹腔鏡下穿孔部閉鎖：4例、腹腔鏡下胃全摘術：1例

悪性疾患：93例（胃癌：91例、胃GIST：2例）

悪性疾患に対する術式の内訳： 腹腔鏡：91例 / 開腹：2例

開腹手術：臍頭十二指腸切除：1例、胃管の胃癌に対する胃局所切除：1例

腹腔鏡手術：幽門側胃切除：45例、胃全摘：26例、残胃全摘：1例

噴門側胃切除：1例、バイパス手術：6例、局所切除：2例

食道疾患：

悪性疾患：12例（食道癌：12例）

鏡視下食道亜全摘＋胃管再建：9例

鏡視下食道切除＋回腸－結腸再建：1例

開胸食道亜全摘＋胃管再建：1例



◆外科・下部消化管外科

1. スタッフ

職名	氏名	出身校名(卒業年度)	専門分野	資格
医師	梁井 公輔	九州大学 (平成 11 年卒)	下部消化管	日本外科学会専門医・指導医 日本消化器外科学会専門医・指導医 日本内視鏡外科学会技術認定医 消化器がん外科治療認定医 がん治療認定医 医学博士
医師	村上 聡一郎	佐賀大学 (平成 14 年卒)	下部消化管、乳腺	日本外科学会専門医 日本乳癌学会乳腺専門医 検診マンモグラフィ読影認定医 日本消化器外科学会専門医・指導医 消化器がん外科治療認定医 日本内視鏡外科学会技術認定医
医師	林 晃史	九州大学 (平成 12 年卒)	上部・下部消化管	日本外科学会専門医 日本消化器外科学会専門医 消化器がん外科治療認定医 がん治療認定医 医学博士
医師	柳 親茂	山口大学 (平成 17 年卒)	上部・下部消化管	日本外科学会専門医 がん治療認定医
医師	木村 英世	九州大学 (平成 19 年卒)	肝胆膵、上部・下部消化管	日本外科学会専門医 医学博士
医師	西村 志帆	大分大学 (平成 24 年卒)	上部・下部消化管、乳腺	

2. 活動報告

下部消化管グループでは主に大腸癌(結腸癌・直腸癌)の手術を担当しています。また、腸閉塞や腹膜炎、血流障害による腸管の壊死などの緊急手術を要する疾患についてもできる限り迅速な対応ができるよう体制を整えています。

大腸癌手術症例が年間 160～200 例あり、その他緊急手術や良性の大腸疾患、炎症性腸疾患の手術などを合わせると年間 300 例前後の大腸に関連する手術を行っています。2016 年の下部消化管関連疾患に対する手術総数は 290 例でした。

当院では、以前から積極的に腹腔鏡下大腸癌の手術を行っており、大腸癌手術の 8～9 割を腹腔鏡下に行っています。腹腔鏡下の大腸癌手術を導入した 2006 年から症例を積み重ね、現在では、九州でも有数の腹腔鏡下大腸癌手術症例数を数える施設の一つとなっています。

3. 診療実績

下部消化管疾患：

下部消化管悪性腫瘍手術：164 例(結腸・虫垂 111 例、直腸(肛門管含む)：53 例)

術式の内訳： 腹腔鏡手術：138 例 開腹：26 例

腹腔鏡手術： 結腸癌：91 例、直腸癌：47 例

開腹手術： 結腸癌：20 例、直腸癌：6 例

悪性腫瘍以外の手術：126 例

主な内訳： 腸閉塞手術：40 例、大腸穿孔：7 例など

診療部門の概況
◆外科・肝胆膵外科
1. スタッフ

職名	氏名	出身校名(卒業年度)	専門分野	資格
医長	川本 雅彦	九州大学 (平成6年卒)	肝胆膵外科 消化器外科 消化器内視鏡 (ERCP)	日本外科学会専門医・指導医 日本消化器外科学会専門医・指導医 日本肝胆膵外科学会高度技能指導医 日本内視鏡外科学会技術認定医 日本胆道学会認定指導医 (内視鏡、経皮経肝、癌外科、胆石) 消化器がん外科治療認定医 日本がん治療認定機構がん治療認定医 日本がん治療認定機構暫定教育医 難病指定医 医学博士
医師	山田 大輔	九州大学 (平成10年卒)	肝胆膵外科 消化器外科 消化器内視鏡 (ERCP)	日本外科学会専門医 日本消化器外科学会専門医 日本内視鏡外科学会技術認定医 日本がん治療認定機構がん治療認定医 医学博士
医師	木村 英世	九州大学 (平成19年卒)	肝胆膵外科 消化器外科 消化器内視鏡 (ERCP)	日本外科学会専門医 医学博士

2. 活動報告

肝胆膵外科部門では胆のう結石症、胆のうポリープ、胆管結石症などの良性疾患、肝癌（原発性肝癌、転移性肝癌）、胆道癌（胆のう癌、胆管癌、十二指腸乳頭部癌）、膵癌等の悪性疾患に対する内視鏡治療および手術を担当しています。初診時に閉塞性黄疸で当科を受診いただいた場合、そこから内視鏡的手技を駆使しつつ診断・減黄（黄疸を改善させる処置）から治療（手術）までを一貫して行います。当部門の特徴として、拡大手術をはじめとする開腹手術と、高難度鏡視下手術を同一のチームで行っているのが大きな特徴です。肝胆膵外科領域の腹腔鏡手術は危険性が社会問題となっている昨今ですが、今後は安全性を第一に当領域の腹腔鏡手術の資質向上に向けて努力すると共に、今春より当チームに所属している木村医師の同資格取得に向けて準備を行っています。

3. 診療実績

胆道良性疾患：142 例

胆嚢摘出 142（鏡視下 127 例、開腹移行 3 例、開腹 9 例、開腹胆管空腸 1 例、総胆管拡張症 2 例）

※併施は含まず

肝切除：37 例（HCC/IHCC 18 例、転移性肝癌 8 例、胆道癌 5 例）

部分切除 19 例（完全腹腔鏡下 6 例）

右葉切除（拡大含む） 2 例

左葉切除（拡大含む） 8 例（腹腔鏡補助下 1 例）

区域切除 1 例（外側区 + 亜全胃温存膵頭十二指腸切除）

亜区域切除 2 例（S8）

肝床部切除 3 例



※特殊例:

肝葉切除・胆道再建 3 例 (胆管癌: 右 1、左 2)

左三区、動脈・門脈切除 1 例 (胆道癌)

88 歳 HCC に対する完全鏡視下肝切除

動脈再建 2 例

膵・胆道切除 21 例 (膵癌・膵 IPMN 15、SPN 1、胆管癌 1、乳頭部癌 1、十二指腸癌 1)

尾側膵切除 5 例 (鏡視下 1 例)

膵頭十二指腸切除術 13 例 (門脈合併切除 2 例、肝動脈再建 1 例)

DP-CAR 1 例

肝外胆管切除・胆道再建 2 例 (総胆管拡張症)

診療部門の概況
◆外科・呼吸器外科
1. スタッフ

職名	氏名	出身校名(卒業年度)	専門分野	資格
副院長	内山 明彦	九州大学 (昭和60年卒)	呼吸器外科 (肺がん、縦隔疾患)	外科専門医・指導医、呼吸器外科専門医、消化器外科認定医、がん治療認定機構がん治療認定医、医学博士
医長	中村 勝也	佐賀大学 (平成7年卒)	呼吸器外科 (肺がん、縦隔疾患)	外科専門医・指導医、乳癌認定医、がん治療認定機構がん治療認定医、医学博士

2. 活動報告

当院の呼吸器外科は、呼吸器外科医 2 名(内山明彦、中村勝也)を中心に、外科後期修練医 1 名を加え、呼吸器内科、放射線科、病理と連携を密にした、グループ診療体制をとっています。

呼吸器外科疾患の患者さんについて、呼吸器部門合同カンファレンス(毎週火曜日)、および呼吸器外科病棟カンファレンス(毎週木曜日)を行い、治療方針を決めるようにしています。

すべての呼吸器外科疾患の患者さんは、呼吸器外科医が主体に担当し、手術および術後管理を行います。病棟は、6 階南病棟です。

呼吸器外科手術では、全例に胸腔鏡を用い、主にステージ I の肺癌手術においては、創 6cm 以下の胸腔鏡下手術を行っています。2015 年の胸腔鏡下肺癌手術は 84 例で、全体の 88% に適用しています。また従来から組織の凝固、止血にソフト凝固を用いており、出血量の少なく、安全性を高めた手術が可能になっています。

3. 診療実績

2016 年の呼吸器外科手術例数は、159 例(原発性肺癌 87 例)でした。すべての手術に胸腔鏡を用いましたが、完全胸腔鏡下手術は、135 例(原発性肺癌手術 71 例)です。原発性肺癌手術の内訳は、葉切除 62 例、区域切除 1 例、肺摘除 1 例、部分切除 21 例でした。原発性肺がん手術における術後合併症発生率は、18.4 % でした。

最近 3 年間における疾患別手術例数

	2014 年	2015 年	2016 年
原発性肺癌	95	91	87
転移性肺癌	17	23	11
縦隔腫瘍	6	9	5
気胸	24	19	24
炎症性肺疾患	8	2	3
膿胸	1	6	10
重症筋無力症	0	0	0
胸膜腫瘍	0	2	1
その他	14	24	18
合計	165	176	159



最近3年間における術式別手術例数

	2014 年	2015 年	2016 年
肺切除	122	97	87
葉切除	86	75	62
二葉切除	3	2	3
肺摘除	2	0	1
区域切除	5	2	1
部分切除	26	18	21
縦隔腫瘍切除	6	3	5
胸腺摘出	0	4	0
胸膜肺全摘	0	2	0
肺剥皮、胸郭形成	0	0	1
その他	37	43	66
合計	165	176	159

2016 年の原発性肺癌手術症例の病理病期

病理病期	症例数	率 (%)
IA	48	55.2
IB	20	23.0
IIA	6	6.9
IIB	5	5.7
IIIA	7	8.0
IIIB	0	0
IV	1	1.2

診療部門の概況**◆外科・乳腺部門****1. スタッフ**

職名	氏名	出身校名(卒業年度)	専門分野	資格
医長	梅田 修洋	九州大学 (平成3年卒)	乳腺疾患	日本外科学会専門医 日本乳癌学会専門医 日本癌治療認定医機構癌治療認定医 検診マンモグラフィー読影認定医 日本乳房オンコプラスチックサージャリー学 会乳房再建用エキスパンダー/インプラント実 施医
医師	村上 聡一郎	佐賀大学 (平成14年卒)	上部消化器疾患 乳腺疾患	日本外科学会専門医 日本消化器外科学会専門医 消化器がん外科治療認定医 日本乳癌学会専門医 日本内視鏡外科学会技術認定医
医師	田中 晴生	熊本大学 (平成12年卒)	乳腺疾患	検診マンモグラフィー読影認定医

2. 活動報告

乳腺グループでは主に乳癌の手術を担当しています。

3. 診療実績

乳腺疾患:

原発乳癌手術 172 例



◆外科・小児外科

1. スタッフ

職名	氏名	出身校名(卒業年度)	専門分野	資格
副院長 診療部長	上村 哲郎	九州大学 (昭和62年卒)	小児外科、一般外科	日本外科学会専門医
医師	和田 桃子	鳥取大学 (平成19年卒)	小児外科	日本外科学会専門医

2. 活動報告

小児外科部門では、主として15歳までのお子さまの外科治療を担当しています。小児外科とはいったいどの範囲の病気を扱う科なのか、という質問をよく受けます。大人の一般外科の領域は現在、細分化され呼吸器・消化管・肝胆膵・その他の腹腔内臓器や皮膚軟部組織などを扱うわけですが、これらの臓器の小児の外科的な病気を治療の対象とするのが小児外科です。そのため、脳神経外科・眼科・耳鼻咽喉科・心臓血管外科・整形外科の病気は対象とはなりません。こどもはおとなに比べてからだがいさばかりでなく、主要臓器が発育の途中にあり未完成かつ未成熟ですし、加えて先天的な奇形や胎生期遺残を伴っている場合があります。そのため、こどもの特質を熟知した上での手術や治療が必要です。また、より専門的な外科系各部門・小児科とお子さまの間に立ち、小児の外科診療の窓口的な役割も担っています。

3. 診療実績

過去5年間の手術例数、手術内訳を表に示します。

手術例数

	2016年度		2015年度		2014年度		2013年度		2012年度	
全	192		166		194		186		193	
男	122	64%	108	65%	121	62%	100	54%	115	60%
女	70	36%	58	35%	73	38%	86	46%	78	40%
新生児	24	13%	14	8%	12	6%	18	10%	15	8%
乳児	35	18%	32	19%	55	28%	40	22%	44	23%
幼児	59	31%	60	36%	75	39%	74	40%	74	38%
学童以上	33	17%	60	36%	52	27%	54	29%	60	31%
鏡視下手術	90	47%	77	46%	102	53%	96	52%	91	47%

手術内訳

	2016年度		2015年度		2014年度		2013年度		2012年度	
鼠径ヘルニア	51	鼠径ヘルニア	58	鼠径ヘルニア	76	鼠径ヘルニア	74	鼠径ヘルニア	66	
停留精巣	17	尿管遺残	13	尿管遺残	17	停留精巣	17	虫垂炎	29	
虫垂炎	15	停留精巣	10	尿管遺残	14	尿管遺残	16	尿管遺残	16	
尿管遺残	12	臍ヘルニア	9	臍ヘルニア	13	虫垂炎	14	停留精巣	12	
良性腫瘍摘出	8							臍ヘルニア	9	
臍ヘルニア	7	漏斗胸	6	漏斗胸	10	鎖肛	9	イレウス	7	
先天性腸閉鎖	6	先天性腸閉鎖	4	食道閉鎖	6	漏斗胸	4	食道閉鎖	5	
その他	76	その他	59	その他	46	その他	43	その他	49	
計	192	計	166	計	194	計	186	計	193	

診療部門の概況
◆整形外科
1. スタッフ

職名	氏名	出身校名(卒業年度)	専門分野	資格
診療部長	土屋 邦喜	九州大学 (昭和61年卒)	脊椎・脊髄外科、骨粗鬆症、 リウマチ、透析脊椎疾患	脊椎・脊髄外科指導医、脊椎内視鏡下手術・ 技術認定医(2種:後方手技、3種経皮的内視 鏡)、整形外科専門医、リウマチ医、脊椎・脊髄 病医、リウマチ財団登録医、リウマチ専門医、日 本骨粗鬆症学会認定医
医師	中村 哲郎	高根大学 (平成12年卒)	整形外科一般、手の外科、 股関節疾患	整形外科専門医
医師	矢野 英寿	九州大学 (平成13年卒)	整形外科一般、膝関節疾患	整形外科専門医
医師	宮崎 幸政	鹿児島大学 (平成13年卒)	整形外科一般、脊椎疾患	整形外科専門医、脊椎・脊髄病医
医師	岩崎 賢優	広島大学 (平成14年卒)	外傷、関節疾患	日本整形外科学会整形外科専門医
医師	進 悟史	熊本大学 (平成19年卒)	整形外科一般	日本整形外科学会整形外科専門医
医師	坂本 和也	藤田保健衛生大学 (平成21年)	整形外科一般	
医師	中川 剛	福岡大学 (平成21年)	外傷一般	日本整形外科学会整形外科専門医
レジデント	山本 典子	九州大学 (平成25年卒)	外傷、基礎疾患	
レジデント	大山 龍之介	岐阜大学 (平成26年卒)		

2. 活動報告

腫瘍性疾患を除き整形外科全般に対する診療を行っている。2016年の整形外科手術症例は805例であった。

脊椎領域では2014年より導入したPEDの適応拡大が行われており2016年より頸椎に対する適応を開始した。全脊椎手術の約40%が内視鏡で行われており、固定術においても可能な症例にはMISt(最小侵襲脊椎安定術)を施行し、多くの術式において患者への負担低減、入院日数の短縮が考慮されている。

関節領域においても可能な場合は関節温存術(骨切り術)の適応を図り、脊椎、関節の両領域で残存する生体機能、支持組織の温存、利用を意識した体系で手術を行っている。

また手術方法、成績の学会発表やワークショップ等での指導、啓発活動も積極的に行っており、近隣病院との連携構築、情報交換のためネットワーク研修会を年間3-4回主催し本年で第50回となる。

3. 診療実績(平成28年)

手術総数	752例
大腿骨頸部骨折手術	121例
脊椎手術	174例
うち内視鏡手術	81例
股関節手術	152例
うちTHA	105例
骨切り	12例
膝関節手術	69例
うちTKA	34例
肩関節手術	4例



◆心臓血管外科

1. スタッフ

職名	氏名	出身校名(卒業年度)	専門分野	資格
診療部長	徳永 滋彦	長崎大学 (昭和63年)	心臓外科一般	心臓血管外科専門医 日本心臓血管外科学会評議員 心臓血管外科専門医認定機構基幹施設修練責任者 心臓血管外科修練指導者 心臓血管外科国際会員 日本冠動脈外科学会評議員 日本胸部外科学会認定医・指導医 日本胸部外科学会教育施設協議会幹事 日本胸部外科学会九州地方会評議員 日本循環器学会循環器専門医 日本人工臓器学会理事 日本人工臓器学会評議員 日本外科学会認定医・専門医・指導医 腹部ステントグラフト実施医 米国ECFMG Certificate (Permanent) Evaluating Examination of Canada 合格 日本Advanced Heart&Vascular Surgery/ OPCAB研究会幹事 医学博士
医長 (小児・ICU担当)	落合 由恵	東京慈恵会医科大学 (平成2年)	心臓外科一般先天性心臓病	心臓血管外科専門医 日本心臓血管外科学会評議員 日本外科学会専門医 日本胸部外科学会評議員 日本小児循環器学会評議員 日本胸部外科学会九州地方会評議員 医学博士
医師	久原 学	九州大学 (昭和61年)	心臓外科一般	日本胸部外科学会認定医 日本外科学会認定医・専門医
医師	恩塚 龍士	九州大学 (平成10年)	心臓外科一般	心臓血管外科専門医 日本外科学会認定医・専門医 腹部ステントグラフト実施医 医学博士
医師	城尾 邦彦	九州大学 (平成15年)	心臓外科一般	日本外科学会専門医
医師	幾島 栄悟	産業医科大学 (平成23年)	心臓外科一般	
レジデント	佐野 由佳	藤田保健衛生大学 (平成26年)	心臓外科一般	

2. 活動報告

当院の心臓血管外科では、昭和 35 年に低体温併用による直視下肺動脈弁交連切開術、昭和 36 年に人工心肺を用いて 22 才女子の心房中隔欠損閉鎖術を行ったという古い歴史があります。これは九州大学よりも先駆けて実施されており、当時としては、まさにチーム努力の結晶の偉業であったと思います。

当院心臓血管外科は、人工心臓、心移植を除く小児から成人まで全ての心臓血管疾患の外科治療を行っているというのが特色であります。2016 年は先天性心疾患手術 129 例、後天性心臓血管手術 158 例、計 287 例の心臓大血管手術の手術を行いました。

また本年度からは当院の豊富な経験を元に情報を発信するように心掛け、学会や研究会での発表や論文執筆などの学術的活動にも力を入れました。平成 28 年度は学会研究会にて 16 の発表と 12 の座長、また 6 編の論文や著書執筆(邦文 3 編、英文 3 編)を行いました。

施設の実力とは単純に治療の技術のみならず、病床管理や全体の対応を含めた総合力をもって初めて施設の実力となる

診療部門の概況

と思っております。手術で良好な成績を残すのは勿論ですが、手術のやりっ放しではなく丁寧な術後管理により早期の退院を目指し、退院後も循環器内科との連携による術後フォローアップを行います。また緊急症例に対しても 24 時間体制での対応を今後とも続け、地域の中核病院として皆さんに信頼される循環器治療を提供できるよう努力を重ねて参ります。

3. 診療実績

2016 年 1 月より 12 月末までの一年間の手術症例集計結果をご報告いたします。

2016 年は先天性心疾患手術 129 例、後天性心臓血管手術 158 例、計 287 例の心臓大血管手術の手術を行いました。

小児心臓手術では少子化の影響のためか手術症例が 2015 年の 163 例から 129 例へ減少しております。しかし複雑心血管異常に対する手術を数多く行ったにもかかわらず手術死亡、在院死亡ともに皆無であり、満足のいく手術成績であったと思います。先天性心疾患を有する成人例（成人先天性疾患手術）は 5 例ありましたがいずれも良好な結果であり、今後症例数の増加が見込まれます。成人と先天性の心臓手術双方を行う当院の強みを発揮できる分野であると思います。

成人心臓手術において、虚血性心疾患症例手術は全国的に年々減少の一途を辿っていますが、当院では昨年の 30 例から 44 例へ増加しています。また弁膜症手術は 2014 年 24 例、2015 年 38 例から 2016 年 45 例へと症例数を増やすことが出来ました。なかでもループテクニックを取り入れた僧帽弁形成術の導入、人工心肺陰圧吸引脱血法導入による低侵襲（小切開）心臓手術の開始が 2016 年の特徴になると思います。大動脈疾患手術は 2015 年の 82 例から 64 例に減少していますが、ステントグラフト治療率は 32.9% から 53.1% へと増加しています。

成人手術疾患構成は昨年と大きく変わり、2015 年は虚血性 19.2%、弁膜症 24.4%、大血管 52.6% と大血管手術が成人症例の半数以上を占めていましたが、2016 年は虚血性 27.2%、弁膜症 28.5%、大血管 40.5% と虚血性および弁膜症症例の増加により疾患比率の適正化傾向を見ることができました。

287 例中、手術死亡（30 日以内）が 3 例（1.05%）、在院死亡 6 例（2.1%：手術死亡含む）でありました。手術死亡の 3 例は成人例であり、重症肝硬変（成人心房中隔欠損症および三尖弁へ左不全症、22 日目）、重症真菌感染症（ペースメーカーリード抜去術、9 日目）、腹部大動脈破裂症例（2 日目）でありいずれも術前状態が極めて不良で手術より治療方針決定に議論のある症例でした。在院死亡 3 例は、人工弁感染症例（脳出血、肺炎、腎不全、170 日目）、重症大動脈弁狭窄、虚血性心筋症の透析症例（呼吸不全、55 日目）、腹部大動脈破裂症例（誤嚥性肺炎、36 日目）とこれもいずれも重症例であり救命ができませんでした。



◆脳神経外科

1. スタッフ

職名	氏名	出身校名(卒業年度)	専門分野	資格
医師	伊野波 論	鳥取大学 (平成7年)	脳血管障害 頭部外傷	脳神経外科専門医、脳卒中学会専門医
医師	外間 政朗	九州大学 (H14年)	脳腫瘍 脳血管障害	脳神経外科専門医
医師	白水 寛理	長崎大学 (H23年)	脳神経外科全般	

2. 活動報告

2015 年度の取り組み

- ①閉塞性脳血管障害：現在、急性期脳梗塞に対する血栓溶解療法（tPA 治療）の効果は確立していますが、tPA 投与は発症後 4.5 時間以内という時間制限があるため治療可能な症例は限られています。少しでも多くの患者さんに tPA 治療を受けていただく機会を増やすため、2015 年度より受付時に脳疾患疑い患者さんを抽出し受診から CT 検査までの時間短縮を目標とした TQM 活動を行いました。その結果、救急部、放射線部、脳神経外科、脳神経内科の連携も良くなり tPA 治療症例数は増えています。
- また、適応は限られますが、前年度から取り組んでいる drip and ship（tPA 投与後、または tPA 投与適応外の患者を脳血管内治療専門医常駐病院への搬送）は製鉄記念病院と連携し良好な治療経過が得られている患者さんもおり脳卒中治療の質の維持に努めています。
- ②脳腫瘍：2014 年度より特殊な光を照射することで腫瘍を可視化する 5 ALA の導入、腫瘍摘出腔への抗癌剤留置用ペレット錠の使用が可能となり、腫瘍摘出率の向上、再発予防効果は向上していると思われます。今後も新たな治療機器、治療方法を積極的に取り入れ、治療生成績の向上に努めます。
- ③救急患者の受け入れは救急部の協力があり 24 時間受け入れを行っています。手術日でも救急患者や電話での受診問い合わせなどで脳疾患が疑われる場合は診察可能な時は診療を受け付けています。

3. 診療実績

診療統計（平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月）

外来患者数	2,560 名（初診 177 名、再診 2,383 名）（平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月）
入院患者数	344 名
平均在科日数	14.1 日

病歴統計（平成 28 年 1 月～平成 28 年 12 月）、疾病分類表による分類

頭蓋内腫瘍摘出術	21 例	慢性硬膜下血腫洗浄・除去術（穿頭）	1 例
頭蓋骨腫瘍摘出術	2 例	〃 穿孔洗浄術	29 例
脳動脈瘤頸部クリッピング	15 例	減圧開頭術	11 例
脳動脈瘤流入血管クリッピング	1 例	水頭症手術（シャント手術）	11 例
動脈血栓内膜摘出術	7 例	穿頭脳室ドレナージ術	7 例
頭蓋内血腫除去術（開頭脳内）	8 例	脳血管内手術	2 例
硬膜下	2 例	頭蓋骨形成手術（頭蓋骨のみ）	7 例
硬膜外	1 例	〃（硬膜形成伴う）	5 例

診療部門の概況
◆産婦人科
1. スタッフ

職名	氏名	出身校名(卒業年度)	専門分野	資格
診療部長	中原 博正	九州大学 (昭和55年)	周産期医療 超音波診断	産科婦人科学会専門医 周産期学会暫定指導医
医長 (婦人科担当)	衛藤 貴子	九州大学 (平成2年)	婦人科腫瘍	日本産婦人科学会産婦人科専門医・指導医 日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医・暫定指導医 日本臨床細胞学会細胞診専門医・教育研修指導医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
医師	川上 剛史	福岡大学 (平成11年)	周産期医療 胎児診断	産科婦人科学会専門医 周産期学会母体胎児専門医
医師	東條 伸平	九州大学 (平成17年)	婦人科腫瘍 腹腔鏡手術	産科婦人科学会専門医
医師	桑原 正裕	福岡大学(平成19年 卒)	周産期医療、腹腔鏡手術	日本産婦人科学会産婦人科専門医
医師	尾崎 美華	鹿児島大学(平成20年 卒)	周産期医療	日本産婦人科学会産婦人科専門医 新生児医学会新生児蘇生法「専門」コース ALSO JAPAN プロバイダー
医師	魚住 彩沙	神戸大学 (平成23年卒)	産婦人科一般	
医師	嘉村 駿佑	久留米大学 (平成23年卒)	産婦人科一般	
レジデント	高山 彩	鹿児島大学 (平成24年卒)		

2. 活動報告

臨床診療に関しては周産期医療、婦人科腫瘍の診療および産婦人科救急を3本の柱として診療にあたっている。産婦人科医療の中で、もっとも労力と時間を要する分野で、また、地域の医療機関との連携が重要になってきています。

周産期医療に関しては、川上医師を中心に地域周産期センターとして早産や合併症妊娠など高度な周産期管理を要する症例に対応しています。特に、NICU、心臓外科、小児外科の充実を背景に、児の先天性疾患の、診断 管理と治療を行っています。県内の周産期センターのみならず他県からの症例も受け入れています。

婦人科の悪性腫瘍の診療に関しては、手術療法、放射線治療、化学療法を駆使して、診療に当たっています。小川医長を中心に、病理部門、放射線科、外科、泌尿器科、腫瘍内科などと連携して、個々の症例に最善の診療を行えるように努力しています。良性腫瘍に関しては、東條医師を中心に、腹腔鏡手術を平成26年度より本格的に開始し、症例数も順調に伸びてきています。ほかの医師への技術習得のためのトレーニングも始まりました。悪性腫瘍への展開も準備をはじめました。

産婦人科救急に関しては、2—3次救急を中心に診療にあたっています。当直医1名と待機医を常時配備して、緊急手術を30分以内に行えるように取り組んでいます。しかし、昨年度よりスタッフが減少して、個々のDrへの負担増が問題となってきています。

慢性的な産婦人科医師不足に対処するため取り組んできた、産婦人科医の勧誘と教育は順調に成果を挙げてきています。本年度の初期研修医採用試験では、3名の産婦人科医がマッチングしました。残念ながら1名は国家試験に不合格となりましたが、平成28年度より2名の研修がスタートしました。また、初期研修2年目のDrが、平成28年度より産婦人科医として後期研修を開始しています。



3. 診療実績

1) 周産期統計

総分娩件数：382 例—単胎 358 例、双胎 24 例—

分娩様式：経陰分娩 204 例、帝王切開 178 例（帝王切開率 46.6%）

母体合併症 202 例、母体搬送受け入れ件数 62 例

総出産児数 406 例 うち胎児異常症例 38 例、極低出生体重児 38 例

2) 婦人科手術

総手術件数 512 件—悪性疾患 59 件、良性および前癌病変 516 件—

(1) 悪性疾患の手術

子宮がん	27 例
卵巣がん	17 例

(2) 良性および前癌病変の手術

腹式単純子宮全摘術	145 件
筋腫核出術	11 件
開腹卵巣手術	62 件
腹腔鏡下手術	142 件
子宮内膜搔爬	46 件
レーザー蒸散術	27 件
円錐切除術	62 件
子宮鏡下手術	32 件

診療部門の概況
◆皮膚科
1. スタッフ

職名	氏名	出身校名(卒業年度)	専門分野	資格
医師	廣正 佳奈	大阪医科大学 (2006年卒)	皮膚アレルギー疾患 皮膚科学全般	日本皮膚科学会認定 皮膚科専門医
レジデント	瀬戸山 絢子 (2016年1月～)	産業医科大学 (2013年卒)	皮膚科学一般	

2. 活動報告

月曜から金曜の午前中は外来診療を、午後は外来処置や手術を中心に診療を行っています。

水曜の午後は皮膚・排泄ケア認定看護師、病棟看護師と共に院内の褥瘡回診を行っています。

保険外診療としては尋常性ざ瘡に対するケミカルピーリング、巻き爪に対するワイヤー矯正を行っています。

3. 診療実績 (平成 27 年度実績)

局所麻酔手術件数(生検含む)	323
入院延患者数	66
外来延患者数	6330
外来新規患者数	612

平成 28 年度入院患者疾病分類

病名	人数
湿疹・皮膚炎	0
蕁麻疹・痒疹	1
紅斑・紅皮症	1
中毒疹・薬疹	10
血管炎・紫斑	4
その他の脈管疾患	13
膠原病および類縁疾患	0
物理・化学的障害	0
水疱症・膿疱症	0
角化症	0
代謝異常症	0
付属器疾患	0
皮膚良性腫瘍	3
皮膚悪性腫瘍	3
細菌性皮膚疾患	11
ウイルス性皮膚疾患	20
真菌症	0
昆虫・原虫などによる皮膚疾患	0



◆眼科

1. スタッフ

職名	氏名	出身校名(卒業年度)	専門分野	資格
診療部長	藤澤 公彦	九州大学 (昭和61年卒)	緑内障、網膜硝子体 加齢黄斑変性症、角膜移植	日本眼科学会専門医、PDT認定医、 ボトックス治療資格
医師	武田 憲治	高知大学 (平成9年卒)	糖尿病網膜症、白内障	日本眼科学会専門医、PDT認定医、 ボトックス治療資格
医師	荒川 聡	帝京大学 (平成16年卒)	網膜剥離、白内障、 加齢黄斑変性	医学博士、ボトックス治療資格
医師	福本 嘉一	佐賀大学 (平成21年卒)	眼科一般、白内障	ボトックス治療資格
医師	海津 美穂	佐賀大学 (平成22年卒)	白内障	
レジデント	芳賀 聡	山口大学 (平成24年卒)		
レジデント	下川 翔太郎	広島大学 (平成26年卒)		

2. 活動報告

はじめに

手術件数の多さと多彩さ、それに占める網膜・硝子体手術の割合が多いことは大きな特徴です。手術件数もここ3年間は1200件を超えています。火曜・木曜の終日2列並列での中央手術室の使用に加えて、眼科外来に隣接して外来手術室を作ってもらったことが1つの要因ではないかと考えています。

手術の内容も、網膜・硝子体、白内障、緑内障、角膜移植、眼瞼形成、涙道手術、斜視、外傷などあらゆる分野で行っています。急患手術の件数も週平均2件の割合です。

開業医の先生方や他の総合病院からご紹介いただいた患者を必ずお引き受けし、必要があればその日のうちに急患手術を行うという基本方針に変わりはありません。

また、手術ばかりではなく、内科的治療が必要な疾患に関しても病診連携を密にとっています。そのひとつが、加齢黄斑変性にたいする北九州市全体での連携治療の取り組みです。北九州黄斑疾患研究会という組織を立ち上げ、北九州市の全眼科施設の8割以上に参加していただいています。パスとマニュアルを使って、治療施設と紹介元の間で途切れなく、質の高い治療を目指しています。

疾患ごとの治療法

網膜硝子体疾患

糖尿病網膜症、網膜静脈閉塞症、裂孔原性網膜剥離、増殖硝子体網膜症、黄斑疾患（黄斑円孔、黄斑上膜、硝子体黄斑牽引症候群など）、眼外傷（穿孔性眼外傷など）の網膜硝子体疾患のなかで手術治療の対象となるものに対し、硝子体手術、網膜復位術（強膜内陥術）を行っています。スモールゲージシステムや新しい光学観察系の使用、様々な手術アジュバントを使い安全かつ手術時間の短縮がはかれています。

緑内障

点眼治療により十分な眼圧下降が得られない例や視野障害進行例には、積極的に緑内障手術（線維柱帯切除術、線維柱帯切開術、隅角癒着解離術など）を行っています。特殊デバイスを用いたシャント手術、特殊なYAGレーザーを使った選択的隅角形成術も行っています。

診療部門の概況

私たちの線維柱帯切除術の目標は、抗緑内障薬を一切使わずに眼圧を 12mmHg 以下にコントロールするというラインにあります。

加齢黄斑変性

抗血管新生薬の硝子体内投与を外来手術室を使って数多く行っています。光線力学療法 (PDT) の併用も行っており、前述の北九州病診連携の中核治療施設として北九州の眼科医一丸となって頑張っています。

白内障

今後は外来日帰り手術の件数が増えると思われます。保険適応外の多焦点眼内レンズも取り扱っています。

角膜移植

現状では日本アイバンクを通じての国内からの移植片提供は十分とはいえません。私たちは国外からの輸入角膜を中心に DSAEK などの角膜パーツ移植を行っています。また、国内からの移植片の提供を増やすために、病院内で亡くなった方全員にコーディネーターを通じて献眼をお願いする RRS というシステムを稼働させています。

外眼部疾患・眼腫瘍

内反症、翼状片、結膜弛緩症、眼瞼下垂などに対する手術に加え、専門医の少ない眼瞼・眼窩腫瘍の分野に対しては、九州大学から専門医を招いて診断・治療を行っています。鼻涙管閉塞に対しては、シリコンチューブ挿入術（涙道内視鏡）や涙のう鼻腔ふん合術（鼻内法・鼻外法）を行い、眼瞼痙攣、片側顔面痙攣に対しては、ボトックス治療を行っています。

未熟児・斜視

進行した未熟児網膜症に対し、マルチカラーレーザーによる光凝固治療を行っています。また、内斜視あるいは外斜視に対し、斜視手術を行っています。

3. 診療実績

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
網膜硝子体手術	380	322	341	287
緑内障手術（観血）	57	76	93	129
緑内障レーザー手術	28	30	59	48
光線力学療法 (PDT)	11	38	42	14
角膜移植術	5	6	6	6
抗 VEGF 薬硝子体注射	469	524	554	397
外来白内障手術	87	118	141	87



◆耳鼻咽喉科・頭頸部外科・形成外科

1. スタッフ

職名	氏名	卒業年度	専門分野	資格
部長	小池 浩次	平成4年	鼻副鼻腔手術	耳鼻咽喉科専門医・指導医
医長	松尾 美央子	平成10年	頭頸部がん治療	耳鼻咽喉科専門医・指導医 頭頸部がん専門医 がん治療認定医
医員	西嶋 利光	平成20年	耳鼻咽喉科全般	

2. 活動報告

- ・手術と頭頸部がんの入院治療をメインに診療しています。耳鼻咽喉科の一般的な手術はもちろんですが、北九州でも数少ない頭頸部がん治療専門医研修指定病院で、再建手術を含めた集学的治療を行っているのが特徴です。
- ・外来は月水木金曜日の午前中に予約制で行っています。
- ・手術は月火水木金曜日に行っています。
- ・外来カンファレンスは月曜日の午後、病棟カンファレンスと頭頸部がん治療カンファレンスは木曜日の午後におこなわれます。
- ・形成外科外来を九州大学病院の形成外科医に依頼し火曜日の午前に予約制で行い、手術も行っています。

3. 診療実績

- ・平成 28 年度の入院患者は 529 名で、入院での手術件数は 414 例でした。
- ・その手術の症例の主な内訳は
 - 口蓋扁桃摘出術・アデノイド切除術 64 例
 - 内視鏡下鼻副鼻腔手術 67 例
 - ラリngoマイクロサージャリー 28 例
 - 咽頭悪性腫瘍摘出術 7 例
 - 喉頭悪性腫瘍摘出術 8 例
 - 口腔悪性腫瘍摘出術 9 例
 - 唾液腺悪性腫瘍摘出術 4 例
 - 甲状腺悪性腫瘍摘出術 12 例
 - 頸部郭清術 48 例 でした。

診療部門の概況
◆泌尿器科
1. スタッフ

職名	氏名	出身校名(卒業年度)	専門分野	資格
診療部長	原野 正彦	高知医科大学 (平成5年)	泌尿器癌、泌尿器手術	泌尿器科学会専門医・指導医
医師	筒井 顕郎	九州大学 (平成14年)	泌尿器癌、泌尿器手術	泌尿器科学会専門医・指導医
医師	安達 拓未	九州大学 (平成17年卒)		日本泌尿器科学会泌尿器科専門医
医師	待鳥 亜沙子	山口大学 (平成23年卒)		
レジデント	辻田 次郎	高知大学 (平成26年卒)		

2. 活動報告

当科は九州大学泌尿器科から派遣された5名のスタッフによる診療体制をとっています。迅速かつ的確な診断をモットーに、患者様にわかりやすいように、治療方針の説明はパンフレットなどを用いて行っています。

2015年8月からは、最新のロボット手術支援装置である“da Vinci Xi”を用いた、限局性前立腺癌に対するロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘術を開始し、2016年11月までに117名の方に行いました。また、2016年4月からは、“腎癌に対するロボット支援腎部分切除術”も開始し、11月までに21例の同手術を行いました。よって、9月からは福岡県下では3施設目になる施設基準を満たした施設（保険適応として手術できる）になりました。

前立腺癌手術後の連携パスも2014年8月から開始しております。泌尿器専門医はもちろんのこと、紹介していただいた泌尿器科専門外の医師との診療連携も円滑に行える体制をとっております。当院は、腎癌、前立腺癌、膀胱癌、腎盂尿管癌などの泌尿器癌手術、腎尿管結石に対する細径尿管鏡を用いたレーザー碎石術では、DPCデータによると、福岡県内でも手術症例数の多い施設となっております。

3. 手術実績(2016年)

副腎摘除術(副腎腫瘍)		尿路変向術		尿失禁手術(TVT/TOT)	1
腹腔鏡手術	5	回腸導管造設術	4	精巣固定術	9
開腹手術	1	代用膀胱造設術	0	VUR防止術	0
腎摘除術(腎癌等)		尿管皮膚瘻	3	後腹膜腫瘍	
腹腔鏡手術	19	根治的前立腺摘除術(前立腺癌)		開腹術	4
開腹手術	2	開腹術	0	腹腔鏡手術	3
自家腎移植	0	ロボット手術	104	前立腺生検	224
腎部分切除術(腎癌等)		経尿道的前立腺切除術(前立腺肥大)		その他	154
腹腔鏡手術	1	TURP	2		
開腹手術	1	TUEB(核出術)	9	合計	888
腎尿管全摘出術(腎盂尿管癌等)		経皮的結石除去術(腎結石)	2		
腹腔鏡手術	18	経尿道的結石除去術(膀胱・尿管腎結石)	85		
開腹手術	0	体外衝撃波碎石術(腎・尿管結石)	51		
経尿道的膀胱腫瘍切除術(膀胱癌)	143	骨盤臓器脱			
根治的膀胱摘除術(膀胱癌)	7	TVM(メッシュ手術)	4		
膀胱部分切除術(膀胱癌)	2	前壁縫縮	0		



◆内視鏡室

1. スタッフ

職名	氏名	出身校名(卒業年度)	専門分野	資格
医長 (光学医療担当)	堀江 靖洋	九州大学 (昭和61年卒)	画像診断、消化管内視鏡	医学放射線学会放射線診断専門医
診療部長	酒井 賢一郎	自治医科大学 (平成6年卒)	消化器病学(消化管)、 プライマリケア	内科学会総合内科専門医
医長 (消化器担当)	藤澤 聖	九州大学 (平成7年卒)	消化器病学	内科学会認定医、消化器病学会専門医 消化器内視鏡学会専門医
医長 (消化器診療担当)	平賀 聖久	九州大学 (平成元年卒)	消化管	医学放射線学会放射線診断専門医、消化器内 視鏡学会指導医、消化器がん検診学会認定医
医師	上平 幸史	九州大学 (平成10年卒)	消化器(肝・胆・膵)	内科学会認定医、肝臓学会専門医
医師	瀧上 忠史	九州大学 (平成13年卒)	消化器	日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 日本消化器病学会消化器病専門医 日本消化器学会胃腸科専門医 日本内科学会認定内科医 日本内科学会総合内科専門医
医師	池上 幸治	九州大学 (平成18年卒)	消化管	日本消化器病学会消化器病専門医 日本消化管学会胃腸科専門医 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 日本内科学会認定医 日本ヘリコバクター学会H.pylori感染症認定医
レジデント	池田 祥記	福岡大学 (平成26年卒)		

2. 活動報告

内視鏡室では、消化管(食道・胃・十二指腸・小腸の一部(回腸末端)・大腸)、膵・胆道、呼吸器の疾患に対して内視鏡を用いた診断・治療を行っている。

1. 消化管

(1) 診断

- ①内視鏡検査及び生検
- ②特殊光を用いたがんの早期発見の為の検査
- ③超音波を用いた癌の進行度の評価

(2) 治療

- ①癌の切除(ESD、EMR、ポリペクトミー)
- ②静脈瘤治療
- ③消化管出血に対する止血
- ④消化管の狭窄に対する治療(拡張術及びステント挿入)
- ⑤胃瘻造設
- ⑥その他

2. 膵・胆道

(1) 診断

- ①造影検査
- ②超音波を用いた腫瘍の精査

(2) 治療

- ①結石に対する治療
- ②狭窄に対する治療
- ③その他

診療部門の概況
3. 呼吸器
(1) 診断

- ① 気管支鏡+擦過・細胞診・生検
- ② EBUS
- ③ 胸腔鏡

(2) 治療

- ① 異物除去
- ② 塞栓術

3. 診療実績

				平成28年
消化管	診断	上部消化管		3964
		下部消化管		1869
		EUS	(上部消化管)	83
			(下部消化管)	12
		EUS-FNA		7
	治療	ポリペクトミー・EMR	(上部消化管)	7
			(下部消化管)	376
		ESD	(食道)	19
			(胃)	63
			(大腸)	12
		止血術	(上部消化管)	131
			(下部消化管)	59
		EIS		3
		EVL		32
		イレウスチューブ	(上部消化管)	35
			(下部消化管)	10
		バルーン拡張術	(上部消化管)	116
			(下部消化管)	86
	ステント留置術	(上部消化管)	6	
		(下部消化管)	4	
PEG		11		
異物除去		18		
胆・膵		ERCP (診断・治療)	267	
呼吸器	診断	気管支鏡		67
		気管支鏡 (生検・擦過細胞診を含む)		23
		TBLB		155
		超音波気管支鏡 (EBUS-TBNA)		16
		超音波気管支鏡 (EBUS-GS)		52



◆臨床病理検査科

1. スタッフ

職名	氏名	卒業年度	専門分野	資格
診療部長	笹栗 毅和	産業医科大学 (平成元年)	外科病理	日本病理学会認定病理専門医 日本病理学会認定病理専門医研修指導医 日本臨床細胞学会細胞診専門医 日本臨床細胞学会認定細胞診指導医 死体解剖資格
医師	大内 清子	熊本大学 (平成20年)	外科病理	死体解剖資格
常勤臨時医師	牧山 千夏	大分医科大学 (平成14年)	腫瘍内科	日本内科学会総合内科専門医 日本臨床腫瘍学会専門医・指導医・協議委員 日本癌治療認定医機構認定医

2. 活動報告

平成 28 年度の組織診件数は過去最高であった 27 年度よりも減少したが、細胞診は増加した。いずれも近年並といえるが、がん症例割合の増加を実感している。免疫染色件数は継続的に増加している。がん治療における、より特異的、或は個別のともいえる治療選択からのニーズが反映されたものと考えている。診断の質向上へ、さらなる対応が求められている現状である。他院標本件数が増加しているが、中でも泌尿器科、婦人科症例が目立っている。

人手不足は否めないが、院内カンファレンス等には継続して参加できたのではないかとと思われる。基本的には、CPC 毎月、全体がんボードでの病理像提示 年 3 回に加え、婦人科・病理カンファレンス 毎週、呼吸器・病理カンファレンス 毎月、消化器・病理カンファレンス 隔月、内視鏡・病理カンファレンス 隔月である。

人事では、大内が平成 29 年 1 月に育休から復職した。

3. 診療実績

●平成 28 年度 (2016/04/01 ~ 2017/03/31)

組織診	総件数	7799
	術中迅速検査件数	328
	免疫染色件数	2665
	他院標本件数	113
細胞診	総件数	9370
	他院標本件数	67
病理解剖	総件数	14

診療部門の概況**◆心臓リハビリテーション科****1. スタッフ**

職名	氏名	出身校名(卒業年度)	専門分野	資格
医長	折口 秀樹	自治医科大学 1984年	循環器疾患	心臓リハビリテーション認定医 日本心臓リハビリテーション学会理事

2. 活動報告

- 1) 入院心臓リハビリテーション：急性心筋梗塞・狭心症・開心術後・大動脈疾患・慢性心不全・末梢動脈疾患を対象に入院中の心臓リハビリテーションを行っている。退院時の指導をカンファレンスを通じてチームで行っている。
- 2) 外来心臓リハビリテーション：退院後回復期の心臓リハビリテーションを継続。医師・看護師・理学療法士・薬剤師・管理栄養士・臨床検査技師・臨床心理士が包括的な心臓リハビリテーションを提供している。
- 3) 心肺運動負荷試験：運動対応能を評価し、運動処方や日常生活指導に活用している。
- 4) 日本心臓リハビリテーション学会の理事として理事会・運営委員会への参加、認定医・上級指導士制度部会長の役割を果たしている。
- 5) 日本心臓リハビリテーション学会の研修施設として8名の研修生を受け入れ、他施設からの見学も多い。
- 6) 地域心臓リハビリテーションカンファレンス、北九州心臓リハビリテーションセミナー等地域との連携を図っている。

3. 診療実績

心臓リハビリテーションは新規患者が748名で、慢性心不全が46%、開心術後が27%、急性心筋梗塞が16%であった。入院患者が年間に8627件、外来患者が2613件であり、入院患者の高齢化もあり、入院患者が増加傾向である。心肺運動負荷試験は年間に250名前後の件数を行っている。学会での発表は日本心臓リハビリテーション学会、日本心臓病学会、日本循環器学会で行い、研究論文も発表している。



◆健康診断部

1. スタッフ

職名	氏名	卒業年度	専門分野	資格
診療部長	宮田 健二	鹿児島大学 (平成6年卒)	一般内科学 循環器内科学	日本内科学会総合内科専門医 日本循環器学会専門医 心臓リハビリテーション指導士 日本心血管インターベンション治療学会専門医 関連10学会認定腹部ステントグラフト実施医 AHA-BLS.ACLSインストラクター
医師	鬼塚 健	山口大学 (平成17年卒)	循環器内科	日本内科学会認定医 日本循環器学会専門医

2. 活動報告

健康診断部は、設立時より生活習慣病の予防や疾病の早期発見に努めてきました。

皆様の健康状態を把握し、早期治療や生活習慣の改善に役立てていただくことを目標に活動しています。

3. 診療実績

2016 年度 健康診断部 実績

全国健康保険協会生活習慣病予防健診	3037
健康診断	781
企業一般健診	70
日帰りドック	543
宿泊ドック	74
脳ドック	203
肺ドック	31
大腸ドック	21
血管ドック	58
北九州市 乳がん検診	1151
計	5969



平成 28 年度

診療協力部門の概況

Japan Community Health care Organization JCHO



独立行政法人 地域医療機能推進機構 九州病院

診療協力部門の概況
◆看護部
1. スタッフ (4月1日現在)

職名	氏名	認定・専門・資格	職名	氏名	認定・専門・資格
看護部長	元 嶋 文 恵		看護師	山 口 弘 恵	皮膚・排泄ケアCN 専従
副看護部長	木 本 妙 子		看護師	森 本 麗 華	感染管理CN 専従
副看護部長	永 野 美 智 代		看護師	中 島 愛 子	入退院センター
看護師長	二 見 美 喜 子	教育専従		前 田 まりあ	
看護師長	丹 生 谷 洋 子	ベッドコントロール		川 村 幸 恵	
看護師長	松 本 文 子	統轄RM	任期付事務員	藤 浪 瑞 香	看護部
→5/1看護師へ		→患者相談窓口			→9/1 医事課へ
副看護部長	松 隈 眞 紀 子	患者相談窓口		→派遣事務員採用 石橋真莉子	
→5/1看護師長		→統轄RM		伊藤富美恵	入退院センター
副看護部長	有 村 博 江	患者相談窓口		藤本しずか	看護部 (感染、ICU)
		入退院センター兼務			

- ①医療安全管理室：統括リスクマネージャーの健康状態の関係で5月1日付、昇任、人事異動を実施、入退院センター副看護部長を患者相談窓口のと兼務のまま対応した
- ②感染管理室：感染管理認定看護師2名専従で配置していたが、副看護部長がH27年2月1日より研究休職のため、認定看護師1名で対応した
- ③診療報酬改定に伴い、5月1日よりNICU経験のある看護師を医療支援部へ異動した
- ④その他
 - ・昇任 (5月1日付)：看護師長 松隈眞紀子 副看護部長 末永まゆみ
 - ・研究休職取得：副看護部長 堀江恭子 (H27.2～H29.3) 副看護部長 山田明子 (H28.8～H29.3)
 - ・4月1日より非常勤歯科衛生士 (0.8時間勤務) 採用、看護部所属とて組織横断的に活動した
 - ・平成29年3月31日付 副看護部長 永野美智代 出向 湯布院病院 看護部長へ
 - ・平成29年3月31日付 看護師長定年退職者：医療支援部 是永 緑 看護部 丹生谷洋子

2. 活動報告

- ・今年度の看護部の主な取り組みとして、看護職員夜間12対1配置加算取得のため、夜間専従派遣看護師を導入。7月より算定開始。また、認知症ケア加算1の算定も開始した。
- ・今年度より開始された副看護部長登用試験では15名が受験し9名が名簿登載された。
- ・看護師長のユニフォーム変更の準備 (平成29年6月予定) を行った。
- ・派遣業者の入札制度が開始され、次年度の派遣看護補助者、メッセージャーの確保が困難となり、業務担当副看護部長を中心に業務調整を行った。
- ・4月16日熊本地震発生、指示に従いDMAT、JMAT、JCHOの災害支援チームを派遣したが、登録者が救急外来、ICUに集中しており勤務調整が苦慮した。

【教育について】

昨年度、認定看護師課程を修了した2名が資格試験に合格し、認定看護師は12名24名となった。また、救急看護認定看護師教育課程に1名が合格 (日本赤十字九州国際看護大学、次年度受講予定)。皮膚排泄ケア認定看護師1名が、日本看護協会主催の特定行為研修5区分の研修を終了した。

認定看護師課程実習生によるUSB紛失があり、実習時の患者情報管理について総務企画課により院内基準を作成、各



実習校へ周知した

【看護師の採用について】

平成28年度(平成29年4月採用予定)より、看護師の採用は九州地区事務所での一括募集となった。そのため、採用活動は、業者が行う就職説明会(地区事務所主催を含む)と学校側が行う説明会への参加とし、各施設への個別訪問は中止とした。

EPA1名は、准看護師資格を取得し(看護師国家試験は不合格)帰国。当院での支援は終了した。

離職率の推移

看護師	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
離職率	11.9%	11.9%	11.0%	11.1%
新採用者離職率	10.0%	14.0%	5.5%	6.4%
年度途中退職人数		29人	26人	18人

3. 今後の展望・課題

今後、災害拠点病院として役割を果たしていくためには、DMAT 他災害支援チーム派遣に伴うリリーフ体制の構築が必要である。JCHO 規程による労働時間155時間(4週8休)遵守のための業務改善に伴い、働きやすさ、働きがいの向上のため、まずは自分たちの意識改革(発想を変える)が重要と考える。今年度も想定外の中途退職者が多く、計画的な人員配置ができなかった。次年度も安定した人材確保はおおきな課題である

【課題】

看護の質：①必要と思われる研修、学会参加の誘導：看護部

②教育方法の見直し：看護部教育委員会

③インシデント事例の丁寧な振り返り

病院経営への参画：①診療報酬改定への迅速な対応

②リリーフ体制の構築

③備品、設備の管理

診療協力部門の概況**◆医療安全管理部****1. スタッフ**

職名	氏名	職名	氏名
医療安全管理部長 (副院長)	上村 哲郎	総務企画課長	神崎 啓慈
医療安全管理室長 統括リスクマネジャー	松隈 真紀子	副看護部長	木本 妙子
内科医長	一木 康則	副看護師長	有村 博江
主任薬剤師	吉国 健司	相談窓口担当 (看護師)	松本 文子

2. 活動報告

平成 28 年度医療安全管理部の重点目標は①危険手技の安全な実施、②基本的安全対策の確実な実行であった。

1) リスクマネジメント部会活動

定例活動は、多職種が 4 チームに分かれて活動した。

(1) 患者誤認防止チーム

事務部門でのカルテ作成時に患者氏名間違い・生年月日間違いのインシデントが続けて発生した。時間内・外の事務員の患者検索方法が異なっている事が調査で分かった。事務部門スタッフが同じ方法で患者確認ができるようカルテ作成時患者確認方法の周知を行い、事務部門スタッフ向けの患者誤認防止の研修会を施行した。

(2) 中心静脈カテーテル挿入指針見直しチーム

JCHO 九州病院 CVC 挿入指針の見直しを行った。CVC 認定医制度について知らない医療スタッフもいたためポスターで周知した。CVC 研修会を施行し、医師 20 名が参加した。

(3) 誤薬防止チーム

高濃度 KCL を末梢点滴から投与したインシデントが発生した。ハイリスク薬の周知度についてラウンドし調査を行った。KCL 投与上の注意点を知らない医療スタッフへはポスターで周知した。近隣施設で薬品保管庫の鍵紛失事件が発生したため、当院でも鍵の管理強化と薬剤カートの施錠徹底の啓発を行った。

(4) 肺血栓塞栓症予防チーム

肺血栓塞栓症予防処置指示書の見直しを行った。各科医師とリスク因子項目の再検討を行い、各科のリスク因子と一般のリスク因子の合計点で予防策が決定される新指示書を作成した。また、重度の血行障害・うっ血性心不全・皮膚炎への弾性ストッキングやフットポンプの使用は禁忌であることを周知した。

2) 院内共同ラウンド**(1) 医薬品安全管理ラウンド (1 回 / 2 ヶ月)****(2) RST ラウンド (2 回 / 月)****3) 医療安全管理部連絡会議・患者相談窓口カンファレンス**

医療安全管理部メンバー(7名)で 1 回 / 週 火曜日に開催している。インシデント・アクシデント事例について対策を検討。患者相談窓口の相談内容についての対応を協議した。また、リスクマネジメント部会の検討項目についても協議した。



診療協力部門の概況

4) 教育研修会

【医療安全職員全体研修会】

(1) 患者誤認防止対策について

開催日：平成 28 年 9 月 26 日 参加者 1137 名 職員参加率 100%

(2) 医療安全推進大会

開催日：平成 29 年 3 月 16 日 参加者 1051 名 職員参加率 97.4%

(参加率 100%になるまで DVD 集合研修継続中)

【医療安全研修会】

(1) CVC 研修会

開催日：平成 28 年 12 月 1 日 参加者 24 名

(2) コンフリクトマネジメント研修会

開催日：平成 29 年 1 月 30 日 参加者 93 名

5) 医療事故該当性チェックシートシステムの導入

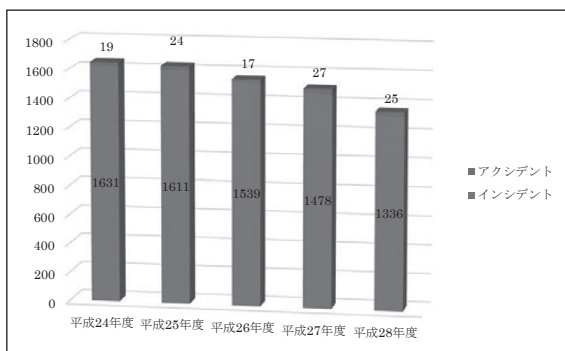
医師が死亡診断書・死産証書を記載する前に、医療事故該当性チェックシートを記入することで、自身で医療事故該当性の有無を判別できるシステムを導入した。記入したチェックシートはデータとして集積され、統括 RM が即時で確認できる。また、院内すべての死産・死亡事例を把握し、医療安全管理部長・院長へ報告する仕組みを構築した。

6) 入院リスクアセスメントシートの電子カルテ入力開始

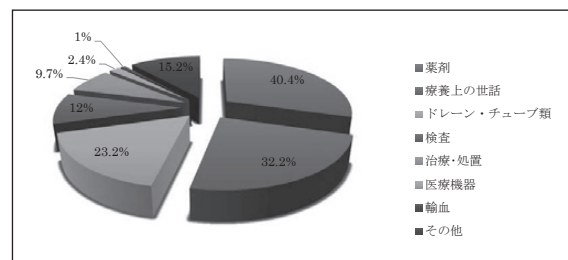
全ての入院患者に対して、入院リスクアセスメントシートを用いて転倒予防策・チューブ自己抜去予防策の計画立案を行っている。今までは紙ベースで予防策の計画立案を行っていたが、電子カルテ内でアセスメント・計画・立案が行えるようにした。

3. 業務実績

(1) 年度別アクシデント・インシデント件数



(2) 平成 28 年度 内容別



(3) 患者相談窓口件数

来室（面談含）	39
電話	41
合計	80



診療協力部門の概況

(4) 緊急放送件数 総数 41 件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成 28 年度	2	4	6	5	4	1	2	6	3	3	3	2	41

(5) 薬剤アナフィラキシー報告件数 総数 34 件

薬剤	件数	詳細
抗がん剤	30	エルプラット(12) ドセタキセル(6) ハーセプチン(4) シスプラチン(2) その他(6)
輸血	1	血小板
抗生剤・抗菌剤	3	セファゾリン (2) セフメタゾール (1)

(6) DVT・PE 報告件数 総数 55 件

	件数
DVT	52
PE	30



◆感染管理室

1. スタッフ

職名	氏名	認定・専門・資格	職名	氏名	認定・専門・資格
感染管理室長(内科部長)	小川 亮介	ICD	主任薬剤師	桑村 恒夫	感染制御専門薬剤師
整形外科部長	土屋 邦喜		臨床検査主任技師	芳賀 由美	
副看護部長	永野 美智代		事務主任	青谷 浩	
看護師	森本 麗華	感染管理認定看護師	事務主任	石井 潤	

2. 活動報告

【目標】

- 1) 標準予防策、感染経路別予防策の徹底により感染伝播リスクを最小化する
院内感染発生時、迅速に対応しアウトブレイクを最小限に抑える
- 2) 全体研修会を複数回開催し、職員の参加率向上を目指す
- 3) ICT による定期的な院内ラウンドにより、感染対策の質改善につなげる

【活動内容】

- 1) 耐性菌が検出された患者への対応

(1) CRE

概要：3名の患者から CRE 検出を認め、うち2例は IPM 耐性、MEPM 耐性であった（耐性遺伝子はそれぞれ NDM 型と CTX-M3 型、IMP 型）。対策と並行し環境調査やスクリーニングを行ったが、他患者に CRE 検出は認めなかった。

対策

- ・ 厳重な接触感染対策の実施
- ・ スクリーニング・環境調査（CRE 検出なし）
- ・ 保健所報告

(2) VRE

概要：3名の患者から VRE 検出を認めた。対策と並行し、スクリーニングを実施したが、他患者に VRE 検出は認めなかった。

対策

- ・ 厳重な接触感染対策の実施
- ・ スクリーニング実施（VRE 検出なし）
- ・ 保健所報告

- 2) 感染症への対応

(1) インフルエンザ（部署：5 南病棟・6 北病棟）

概要：2 部署でアウトブレイクが発生した。昨年より早めに介入したため、患者及びスタッフの発症者は減少した。

対策

診療協力部門の概況

- ・ 個室隔離、飛沫予防策実施
- ・ 入院制限、転入・転棟の制限
- ・ 接触者への予防投与
- ・ 家族以外の面会制限、リハビリの制限
- ・ 保健所・JCHO 本部及び地区事務所へ報告

(2) 結核 (5 北病棟、6 北病棟)

概要：入院患者から喀痰抗酸菌塗抹または培養陽性例が 9 名発生、そのうち 5 名の発生に対して接触者健診を実施した。同室者の検診対象者には、文書を作成し郵送を行った。

対策

- ・ 陰圧個室へ隔離、空気予防策実施
- ・ 感染のリスクを評価した濃厚接触者のリストアップ
- ・ 接触者健診実施

3) 職員研修

全員が参加できるように、同じテーマで複数の日 (計 7 日)、時間帯 (計 25 回) で研修会のスケジュールを設定した。

- ・ 耐性菌の対策：参加者 1,115 名 (参加率 100%)
- ・ 血液体液曝露予防と曝露後対応：参加者 1,021 名 (参加率 100%)
- ・ 標準予防策：参加者 778 名 (参加率 69.3%)

4) ICT ラウンド

週に 1 回、多職種で構成されたチームで、院内ラウンドを行い衛生環境や標準予防策の徹底状況などの確認を行った。指摘された問題点は、現場の職員と協議し改善に繋げた。

- ・ ラウンド部署：病棟 月 2 回、その他の部署 月 1 回
- ・ ラウンド回数：計 49 回実施 (実施時間 49 時間)

5) 地域連携

(1) KRICT カンファレンス年 5 回実施・当院連携加算 2 施設 9 施設

(当院職員 延べ参加人数 30 名、実施時間 10 時間)

(2) 相互ラウンド実施 (連携施設：済生会八幡総合病院 当院参加人数 5 名 実施時間 4 時間)

(3) 感染管理情報共有シート

当院で検出された耐性菌情報を転院先へ確実に情報提供を行うため、感染管理情報共有シートを転院時に記載している。

【今後の展望】

- ・ CRE や VRE などの耐性菌が市中に蔓延していることを鑑み、常に耐性菌の注意が必要である。また、今年度は、インフルエンザの対策を強化したことにより、臨床現場から有症状者の報告をリアルタイムに得ることができ、ICT の早期介入ができた。職員の危機意識を高めるため、地域の発生状況や、感染対策の啓発を迅速に全職員へ周知することが重要である。そのため、流行を見据えた事前の準備を行っていく。



3. 業務実績

(1) 環境ラウンド実績

- ・実施回数：計 48 回（全部署毎月 1 回ラウンド、病棟計 14 部署毎月 2 回ラウンド）
- ・延べ参加者数：214 名、各回平均参加者数：4.5 人
- ・4 職種平均参加率：83.5%、多職種含む平均参加率：65%

職種ごとの参加率

職種	参加率 (%)	職種	参加率 (%)
医師	50	薬剤師	92
看護師	96	検査技師	96
その他 (放射線技師、臨床工学技師、事務など)		60	

環境ラウンドポイント評価

全部署共通

ラウンド項目		前期	後期
1	手指衛生	83.9	83.9
2	包交車の整備	91.7	95.6
3	正しいマスクの着用率	71.4	69.6
4	医療廃棄物の分別	92.6	94
5	滅菌物の管理	85.7	84.5
6	救急カート	88.6	92.0

全部署共通

ラウンド項目		前期	後期
1	注射作成台・洗浄室	91	96
2	汚物室	86.9	96
3	セイフティボックス	95.2	88.1
4	SPD 棚の整理	93	100
5	薬品冷蔵庫	93	91.1
6	浴室・SW 室	93.8	97.8

(2) 血培陽性ミーティング

(延べ 1,055 名の陽性者：計 41 回実施)

延べ参加者数 (人)	1 回あたり参加者数 (人)	新規血培陽性者 (人)	最も多い検出菌種類、数
143	3.5	475	CNS (138)

(3) 研修会実績

①職員全体研修

	開催日	テーマ	参加者 (参加率)
1	2016 年 6 月～7 月	耐性菌の対策	1,115 名 (100%)
2	2016 年 9 月～10 月	血液体液曝露予防と曝露後対応	1,021 名 (100%)
3	2016 年 6 月～8 月	標準予防策 (手指衛生・防護具着脱)	778 名 (69.3%)
4	2016 年 1 月 13 日	結核の対策	48 名

②部門別研修

23 回実施：延べ参加人数 635 名

診療協力部門の概況

(4) サーベイランス

①耐性菌(新規検出数 / 延べ入院患者数× 1000)

菌の種類	検出率	前年度検出率	菌の種類	検出率	前年度検出率
MRSA	0.62	0.63	ESBL 産生菌	0.36	0.39

②手術部位感染 (SSI) (手術部位感染発生率=手術部位感染 / 手術件数× 100)

	SSI 発生率 (%)	JANIS (2015.1-6) (%)
直腸	15.2	12.0
結腸	15.8	14.7

③中心ライン関連血流感染(感染率=血流感染 / 延べ入院患者数× 1000)

血流感染件数	感染率	JHAIS (2009-2014)
13	1.09	2.5

(5) 院外活動

①講演

7/8 KRICT 合同カンファレンス講演(小川・芳賀・桑村・森本)

②講義ファシリテーター

6/6 院内感染対策研修会(森本)

7/9 感染症対策指導者養成研修会(森本)

12/9 健康教室(松山・三ノ丸・森本)

3/21 西部地区医療安全研修会(三ノ丸・森本)

③学会参加

5/19.20 日本感染管理ネットワーク学会学術集会

6/4.5 ひびき薬剤耐性菌シンポジウム(小川・芳賀・森本)

1/20 ~ 22 日本臨床微生物学会(芳賀)

2/24.25 日本環境感染学会(芳賀・三ノ丸・森本)

④研修会参会

5/25 メディカルスタッフのための感染対策セミナー・(年 4 回参加 森本)

9/8 JANIS サーベイランス説明会(小川・三ノ丸)

11/6 厚労省主催新型インフルエンザの診療と対策に関する研修会(森本)

1/12.13 厚労省主催院内感染対策講習会(小川)

⑤臨地実習

1/12 ~ 2/8 国際医療福祉大学・感染管理認定看護師教育課程実習指導(松山・三ノ丸・森本)



診療協力部門の概況

◆入退院センター

1. スタッフ

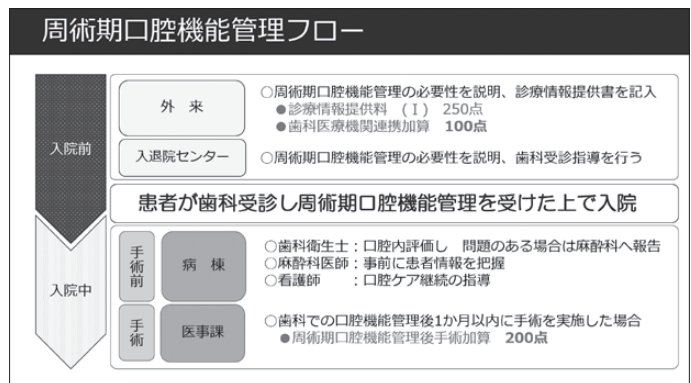
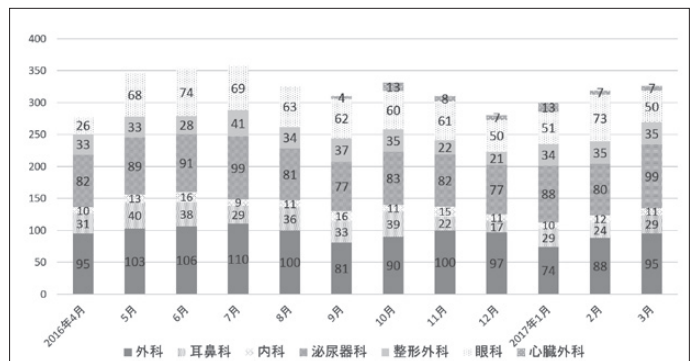
職名	氏名	認定・専門・資格	職名	人数	認定・専門・資格
センター長	水島 明		看護師	4名	
副センター長	木本 妙子		クラーク	1名	
副看護師長	有村 博江				

2. 活動報告

入退院センターは設立後3年経過し、今年度は新たに眼科・心臓外科の利用が開始となり、外科系診療科予定入院患者の8割(全診療科の5割)の方が利用することとなった。

【看護部門】

看護部門では手術オリエンテーションの質向上に取り組んでいる。昨年度より手術前の口腔内ケア指導を行ってきたが、周術期の口腔機能管理が更に充実するよう、本年度は、医科歯科との連携、入院後の口腔ケアの継続に必要な仕組みの構築、周術期口腔機能管理に関連する診療報酬の算定に向けて取り組んだ。診療科医師との協力体制を整え、近隣の医科歯科への啓発活動を行った。患者への入院前歯科受診指導を強化し、入院後は歯科衛生士が口腔ケアを継続、必要時麻酔科へ情報提供するという体制を構築でき、周術期口腔機能管理加算の算定が可能となった。



【薬剤部】

薬剤部は手術など観血的治療予定の患者が入院前に服用している内服薬を確認し、医師の休薬指示をチェックした上で、休薬指導を行っている。今年度の介入件数は1834件、うち48件の休薬漏れを発見、21件の中止期間訂正を行った。

持参薬チェック	1834
中止薬説明	618
中止薬指示漏れ発見	48
中止期間訂正	21

【栄養管理室】

食物アレルギーがある場合、または食べられない食物がある場合は、栄養士が詳しく聞き取り、入院時より安全な食事が提供できるようにしている。入退院を繰り返す患者の情報を蓄積、有効活用することで、事前介入業務の効率化に取り組んでいる。

対象件数	234
介入件数	159
介入なし・電話連絡のみ	39
前回と同じため電話対応のみ	36



診療協力部門の概況

3. 今後の展望・課題

- 1) 入退院センター利用数を外科系全体（全診療科の 6 割）に拡大する。
- 2) 周術期口腔機能管理の対象患者を拡大する。
- 3) 標準化した手術オリエンテーションにより業務の効率化が図れているか検証する。



◆集中治療室

1. スタッフ

職名	氏名	認定・専門・資格	職名	人数	認定・専門・資格
看護師長	松浦 洋子		看護師	39名	
副看護師長	細川 知子		看護助手	1名	
副看護師長	鳴海 亜紀				
看護師	竹林 洋子	集中ケア認定看護師			

看護師人数：看護師長、副看護師長を除く

2. 活動報告

<病床管理>

ICU16床・回復室3床での運用が定着した。

ICUの延べ入室患者数は4,234名(前年比+68名)病床稼働率は73.4%であった。

算定率は前年度同様であった。

回復室の入室患者数は1,776名で、回復室に1泊した患者数は9名であった。

ICU入室患者の科別内訳は、多い順に心臓外科・内科・小児・外科・脳外科であった。

新入院・転入は前年度と同様であった。

看護必要度・重症度の算定が改訂されたが平均取得率87.8%で算定基準の70%は超えていた。

<教育>

ICU経験3年未満の看護師が45%を占めるため、3年未満の看護師を教育的に指導できる体制づくりに取り組んだが、重症疾患患者、緊急手術等が多い期間があり、指導者の確保ができず計画通りには進まなかった。

TQM活動・RSTチームの活動を通して、スタッフ全員が研究に取り組むことができた。

RSTチームは、2演題を学会で発表することができた。

ICU入室の長期化が予測される症例は、医師・看護師・薬剤師・栄養士・リハビリ技師・MSW等のメンバーでのチームカンファが実施できるようになった。

3. 今後の展望・課題

1) 看護の質の向上と安全の確保

- ①教育体制の見直しと学習方法の検討を行い、全体のレベルアップを図る。
- ②電子カルテの活用を推進し、安全な運用の定着化を行う。
- ③看護研究・院外発表を支援する。

2) 安全で安心な療養環境の提供

- ①接遇面の改善
- ②業務時間変更に伴い業務内容を検討し業務改善を行う。
- ③インシデント事例のアセスメントを強化し、インシデントを軽減する
- ④TQM活動・5S活動の継続

3) 病院経営への積極的な参画

- ①適切な病床運用の継続
- ②急患受け入れ態勢の整備・看護師の配置と柔軟なリリーフ体制の構築
- ③物品の破損、紛失による費用の削減

診療協力部門の概況**◆ NICU 病棟****1. スタッフ**

職名	氏名	認定・専門・資格	職名	人数	認定・専門・資格
看護師長	麻生 眞智子		看護師	32名	
副看護師長	三ノ丸 理江	感染管理認定看護師	看護助手	1名	
副看護師長					
助産師	3名				

2. 活動報告

H28 年度は、入院患者数 216 名 退院患者数 13 名 (死亡 2 件)、24 時入院患者数 5,475 名
稼働率 100.2% 平均在院日数 47.8 日であった。

1) 入院患者：院内出生が 111 名、外来受診後入院が 4 名であった。院外からの転院は、県内が 94 名 (市内 90 名)、
県外 11 名であった。

疾患別では、超低出生体重児 12 名、極低出生体重児 6 名、低出生体重児 80 名、心疾患 32 名、その他 116 名であった。

2) 治療、処置：呼吸器使用患者、1 日平均 7.6 名であった。

手術 (外科、心臓外科、脳外科) 47 件、心臓カテーテル 18 件

3) 看護：

(1) 出生前訪問： 新生児集中治療室に入院の可能性がある両親に対して、不安軽減のためを産科病棟、外来と
協力して出生前訪問を実施した。依頼のあった患者は、ほぼ全員実施することができた。

(2) 授乳、搾乳指導：直接授乳ができるようになった患者、母親に対して授乳指導を継続して行っている。母乳や
搾乳に対して不安が強い母親には、助産師 1 名が相談・指導を行っている。(月 2 回活動日
を設定している。)

(3) 感染防止： 新規 MRSA 患者の発生を抑えるため、環境整備と手指消毒の徹底に努めた。

環境整備は、朝引継ぎ後 5S タイムとして実施し定着できている。

手指消毒に関しては、病棟内の感染チームが、手指消毒薬の使用量のチェックを行い、ベス
トプラクティスに沿った洗浄、消毒を指導している。

新規 MRSA の発生は、13 件で昨年度より減少した

(4) 人材育成： 県内外から様々な疾患を持った患者が入院してくる。入院のほとんどが出生直後の緊急入院
であり、医師の治療のもと看護師も、迅速かつきめ細やかなケアが要求される。そのため
には専門的な知識・技術を身につける必要があり、毎月 1～2 回の学習会を開催し知識・技術
の向上に努めた。

3. 今後の展望・課題

- ・授乳・搾乳指導に関しては、助産師 2 名が 2 年目となったため助産師 3 名での相談・指導ができるよう体制を整え充
実を図って行きたい。
- ・インシデント発生が増加したため、安全対策の強化を図っていく。
- ・感染防止は、引き続き活動を継続し新規 MRSA 発生件数を減少させる。
- ・H30 年度に完全 PNS 導入ができるよう活動を進めていく。



◆ 4 階北病棟

1. スタッフ

職名	氏名	認定・専門・資格	職名	人数	認定・専門・資格
看護師長	松木 香奈枝		看護師	43名	
副看護師長	大畑 桂子		看護補助者	4名	保育士1名
副看護師長	大谷 真由美				クラーク1名
					看護助手2名
					(内1名は調乳専従)

2. 活動報告

1) 在宅支援・地域連携の強化

レスパイト目的の入院患者の在宅物品を病棟で毎回準備していたが、外来・SPDと連携を図ることで事前に注文してキシヤで準備して、入院時に受け取るシステムを構築した。急患入院の際はうまくいかなかったり、まだ問題点は残るので、今後も外来との連携を継続していく。

2) 看護システム PNS (パートナーシップ・ナーシング・システム) の導入

今年度の目標に、PNSを試験導入とトライアルの実施をあげ、4北でも取り入れていくことを宣言した。スタッフには、業務改善をすすめながらパートナーシップマインドのDVDを視聴してもらったり、2月ペア(チーム)を意識するように働きかけ、3月から緩やかPNSを開始した。相互に声をかけ、助け合う風土ができてきたので次年度も継続して取り組んでいく。

3) 人材育成

- ・実習指導者講習会5日間をスタッフ1名(渡部)が受講して、臨床指導者となった。
中川、福田も次期臨床指導者として教育に携わるようにした。
- ・一般病床とGCUの協力体制強化のため、GCUスタッフ1名を一般に異動し教育を行った。
GCUが落ち着いている時期は、一般に応援に行くようにした。
- ・第30回日本小児ストーマ・排泄・創傷管理研究会に古賀潤が参加して、ストーマ・創傷ケアについての知識とストーマサイトマーキングの技術を習得した。

4) ワークライフバランス

産前休暇2名 育児休暇後の職場復帰2名：夜勤回数、業務割当て等に配慮した。
一般小児病棟とGCUの応援体制を築くために、2年目看護師3名(一般)にGCU研修各3日間を実施した。

3. 今後の展望・課題

1) 安全で質の高い看護の提供

- ・看護システムPNS(パートナーシップ・ナーシング・システム)の熟成
：パートナーシップマインドの浸透、情報交換や報告を適切に行う



診療協力部門の概況

問題のフィードバックをしながら PNS を計画的に進めていく

学生実習の支援についての見直し

- ・記録の充実
 - ・インシデント・急変事例の振り返りとアセスメント強化
 - ・院内感染対策と環境整備の徹底
 - ・接遇の強化
- 2) 地域連携の強化：在宅支援、レスパイト入院のスムーズな受け入れ、TQM 活動
 - 3) 人材育成と自己啓発・自己研鑽
 - 4) 業務改善と業務の効率化促進：無駄な業務の見直し、医師との連携、5S 活動
 - 5) 魅力ある職場づくり：協力体制の強化、超過勤務の削減、フィッシュ活動推進



◆4階南病棟

1. スタッフ

職名	氏名	認定・専門・資格	職名	人数	認定・専門・資格
看護師長	村瀬 恭子		看護師	7名	
副看護師長	外園 文代		看護助手	2名	
副看護師長	早田 真由美				
助産師	18名				

2. 活動報告

平成 27 年度は、看護職員の看護師割合の増加のため、助産師と看護師の業務の分担の決定が課題であった。保健師助産師看護師法に基づく業務の分担を行ったが、年度の途中でも看護師割合が増加（助産師 3 名と看護師 1 名の産前休暇と助産師 1 名、看護師 2 名の育児休暇ご復帰）する事もあり、看護師の業務の拡大を行う必要があった。また、看護補助者の途中退職、病欠など看護補助者の定着が困難であった。

前年度の人員不足より業務制限を行っていた化学療法患者の日曜日定期入院を再開し、他病棟への応援は行えるようになった。しかし、外来助産師相談、母子分離患者の支援（新生児病棟・4階北病棟 GCU・5階南病棟での授乳指導）、乳房外来ができる助産師が退職したこと、増員された看護師の指導を優先したため、外来助産師相談等の業務の再開は出来なかった。

紹介患者を極力断らず受け入れたが、分娩件数は前年度より減少した。化学療法患者、放射線療法患者共に、前年度より増加したが、入院患者数が減少し、病床利用率が低下していたため、問題なく受入れることできた。また、他科の入院患者数数も前年度より 100 名増加したが、看護師の増員により容易になった。

事故防止対策の実施を強化し、インシデント件数は減少したが、アクシデントが 1 件した。

業務実績

	平成 27 年度	平成 26 年度
分娩件数	406	496
正常経膈分娩	76	102
異常経膈分娩	141	152
予定帝王切開	115	120
緊急帝王切開	74	119
双胎（再掲）	18	33
品胎（再掲）	0	0
出生数	417	522
死産数	10	8
母体搬送数	40	50
産科 手術件数	228	401
婦人科 手術件数	329	364
化学療法（延べ人数）	556	520
放射線療法（延べ人数）	691	540
一日平均患者数	34.2	31.5
平均在院日数	7.5	7.6
病床稼働率	83.4	83.1
インシデント件数	48	65
アクシデント件数	1	0



診療協力部門の概況

3. 今後の展望・課題

1. 病床管理

- 1) 婦人科化学療法患者の期日指定の入院を推進
- 2) 病床利用率の向上

2. 看護の質向上

- 1) 助産師外来・母子分離患者・乳房外来の支援の再開の検討
- 2) 助産技術・乳房管理の学習推進
- 3) 新人助産師・看護師の教育の充実

3. 医療安全の推進

- 1) 転倒・転落防止
- 2) 安全な薬剤管理

4. 人材育成

- 1) 新人助産師の自立支援
- 2) 学生指導の充実



◆ 5 階北病棟

1. スタッフ

職名	氏名	認定・専門・資格	職名	人数	認定・専門・資格
看護師長	山田 弥生		看護師	25名	
副看護師長	櫻井 栄子	慢性心不全認定看護師	看護助手	1名	
副看護師長	山田 明子	糖尿病認定看護師			
副看護師長	高木 めぐみ				

看護師人数：看護師長、副看護師長を除く

2. 活動報告

1) 病床管理

HCUの病床は4床で、変更なく運用した。昨年から引き続き心不全の患者を主体に入室させ、今年度もHCU加算者は、80%以上を継続して確保することができた。

心不全の患者は、急性期を脱した場合、転院先が見つかりにくく自宅に帰ることが多い。

その為、自己管理が不十分であったり、十分に社会的支援サポートができていないまま退院するケースがあり、入退院を繰り返す。

今年度は、心不全チームを形成し退院前カンファレンスを充実させ自宅退院を推進した。

2) 安全管理

レベルⅢbのアクシデントが1件（転倒して骨折）発生した。

また、レベルⅢaのインシデントが4件発生した。転倒して縫合・バスキャス自己抜去・胃ろうの自己抜去・尿留置カテーテル挿入による尿道損傷である。

病棟内で振り返りを行い、危機意識の確認と対策の強化を行った。

3) 看護の質の向上

① 5S 活動の充実

日々の看護の導線を考えた物品配置やSPD棚の整理を行った。病棟内がすっきりとして業務しやすい環境になった。今後も継続して5S活動に取り組んでいきたい。

② PNS 看護方式の導入

平成29年2月より「ゆるやかPNS」まずはペアから始めようと開始した。2人で行動することで、確認行為はもちろん、1連の看護行為を2人が責任をもって実施することでより患者の安全が確保できたと感じている。今後は、更に業務改善も並行して行い、更なるPNSの定着に努めていきたい。

③ 心不全カンファの充実

多職種と担当看護師・医師を含めた心不全カンファが定着してきた。今後は、学習会も取り入れ、スタッフの知識を深め充実したカンファにしていきたい。

3. 今後の展望・課題

1) 安全な療養環境の提供

インシデントの減少。アクシデントの発生0。



診療協力部門の概況

2) 看護の質の向上

- ① PNS 看護方式の定着と業務改善
- ② OJT による新人・現任教育の充実
- ③ 地域連携の強化

3) スペシャリストの育成

- ① 心臓リハビリテーション担当員の増員・心リハ指導士の増員
- ② 糖尿病教育入院指導看護師の増員



◆5階南病棟

1. スタッフ

職名	氏名	認定・専門・資格	職名	人数	認定・専門・資格
看護師長	白石 由紀		看護師	28名	
副看護師長	松岡 絵美子		看護助手	2名	
副看護師長	古賀 和代				

看護師人数：看護師長、副看護師長を除く

2. 活動報告

平成 27 年 8 月末より前立腺摘出術に対してロボット支援手術が導入され、術後の離床は大変早くなった。また、術前からの早期リハビリの介入に伴い、胸部・腹部ステント留置挿入術の離床も早くなり、術後 ICU で 1 日術後管理をした後、直接一般病床へ入床することも多くなった。これらの早期離床に伴い、術後患者の HCU 算定は難しくなり HCU 利用率は年間平均 61.4% と低かった。その分、一般病床の医療・看護必要度の基準を満たす患者数は増加し、年間平均 17.25% となった。

今年度も看護必要度指導者研修に、看護師長、副看護師長を含む 4 名が参加し、必要度取得に求められる記録の指導と、スタッフへの個別的な指導を行った。

また、安全で質の高いチーム医療を目指し、人材育成の長期計画として心臓リハビリテーション、ストーマサイトマーキングができる看護師、患者急変時対応に備え、ICLS インストラクターを育成中である。

今年度は副看護師長 1 名が小児ストーマケア研修を終了。ICLS インストラクター養成コースを 1 名が受講し来年度インストラクターをして活躍する予定である。

3. 今後の展望・課題

1. 人材育成：病棟及び各科の特徴に応じ、ラダーに沿った人材育成を計画的に実施。

(ウロストーマ、心臓リハビリテーション、CAPD、小児循環器等)

2. 看護の質向上と安全の確保：

1) 入院時の退院支援スクリーニングの徹底と早期介入（地域包括ケアシステムの理解）

2) 看護アセスメント能力の向上と記録の充実（看護が見える記録）

3) 各科指導・オリエンテーションの充実

4) 研修会参加率の向上（感染、医療安全）

3. 魅力ある職場づくり

1) 5S 活動推進（安全で働きやすい職場づくり）

2) 業務改善（無駄な業務を省く。決めたことは継続する。スタッフ間のリリーフ体制）

3) フィッシュ活動

4. 効果的な病床運用来年度は診療報酬改訂に伴い、重症度・医療・看護必要度の算定方法も変わり、基準を満たす患者割合の要件も 25% へ引き上げられる。術後患者と重症者等の評価を確実にいき、HCU・一般病床の効果的な運用を行う。

診療協力部門の概況**◆ 6 階北病棟****1. スタッフ**

職名	氏名	認定・専門・資格	職名	人数	認定・専門・資格
看護師長	久保 由美子		看護師	26名	
副看護師長	大隈 直子		看護助手	2名	
副看護師長	濱田 康子				
保健師	名				

看護師人数：看護師長、副看護師長を除く

2. 活動報告

平成 28 年度は、前年度の呼吸器内科部長が一年で異動し、新しい呼吸器内科部長が赴任した。呼吸器内科病棟として、肺がんの治療においては新薬の導入や外来化学療法への更なる移行推進、呼吸器疾患全般の急性期治療を充実させることとなった。そのため、新薬の知識や看護に関する学習を行い、スムーズに治療が進むようクリティカルパスの作成を行った。また、呼吸器疾患以外の患者を受け入れることもあり、特殊な処置や未経験の看護技術については学習会を行ったり、マニュアルを作成して取り組んだ。

救急患者をスムーズに受け入れることが出来るように退院・転院支援をさらに推進し病床管理を行った。平均在院日数は平成 26 年度 18.8 日、27 年度 17.1 日、28 年度は 12.5 日と短縮され、医師やMSWと協力し取り組んできた成果と言える。しかし、中核となる看護師が 2 名異動、3 名が産前・産後休暇を取得したため呼吸器看護の経験が少ない看護師で業務を行うことになり看護力の低下が懸念された。平成 27 年度より気管支鏡検査を一泊入院としたことや化学療法の入院期間がさらに短縮してきたこと、加えて看護師人数減少により、病棟看護業務は多忙を極めた。6 北病棟では、朝の引継ぎ後の時間を活用してミニ学習会を実施し知識技術の向上に努め、医師や薬剤師等他職種との連携を強化しチームとして協力して業務を遂行することが出来た。

アクシデントは転倒による骨折が 1 件発生したが、スタッフ全員で事例を振り返り問題点や対策を共有することが出来た。インシデント発生時には、内容を振り返り共有し知識不足に対する学習を行っている。若手看護師が多いため危険予知・回避能力をさらに高めていけるよう教育が必要である。

平成 29 年 2 月にはインフルエンザのアウトブレイクが発生した。約 10 日間新規入院患者の受け入れが出来なかったが、ICT とともに早期に対応し他病棟の協力も得て、終息することが出来た。

3. 今後の展望・課題

- 1) 呼吸器内科病棟として、患者個々の疾患と生活を考え専門性の高い看護を提供する。
 - (1) カンファレンスで情報を共有し他職種で協働する
 - (2) インフォームドコンセントに同席することで患者や家族の思いに寄り添い、担当看護師の役割を果たす
 - (3) 高齢者・認知症患者・呼吸器疾患患者の生活の質を落とさない看護実践を行う
呼吸筋ストレッチ体操、誤嚥防止指導、口腔ケアの充実
 - (4) OJT、Off-JT による学習の継続
 - (5) 自己研鑽に努め、キャリアアップのため院外研修会参加など計画的に学習する
- 2) 業務改善を継続し安全・安心な療養環境の提供に努めるとともにWLBを充実させる



診療協力部門の概況

- (1) マニュアルの遵守による安全管理
 - (2) 感染対策の継続
 - (3) 夜勤時間変更に伴う業務内容の検討、業務改善の推進
 - (4) 働きやすい職場づくり及び看護師の定着促進
- 3) 病院経営への積極的な参画
- (1) ハイケアユニット病床の適切な運用に努める
 - (2) 退院・転院支援の更なる促進

診療協力部門の概況**◆ 6 階南病棟****1. スタッフ**

職名	氏名	認定・専門・資格	職名	人数	認定・専門・資格
看護師長	松山 美佐紀	感染管理	看護師	33名	
副看護師長	平石 絵里子	摂食嚥下障害看護	看護助手	3名	
副看護師長	大坪 さおり				
看護師	白石 志穂	脳卒中リハビリテーション看護			

看護師人数：看護師長、副看護師長を除く

2. 活動報告**1) 病床管理****【平成 28 年度実績】**

延べ患者数 13,452 名 前年度比 - 994 名 新入院患者数 1,382 名 前年度比 - 110 名

病床稼働率 86.4% 前年度比 - 6.3% 平均在院日数 11.1 日 前年度比 ± 0 日

該当診療科の入院患者数は減少傾向であるが、内科の入院患者数は増加 (3,049 名 前年度比+1,089 名) している。

【外科】

延べ患者数 5,220 名 (38.8%) 前年度比 - 2,557 名 (- 15%)

外科の入院患者数はかなり減少した。要因として外科の中で在院日数の長い胃がん手術の患者の受け入れがなくなったことと、食道がん術後の患者の経過が順調であったことが考えられる。反面、高齢者・認知症・脳血管疾患既往の患者の手術も多く、地域連携が必要な症例も増加している。また、乳がん患者についてはパンフレットの改訂を行った。

【神経内科・脳外科】

神経内科延べ患者数 3,655 名 (27.2%) 前年度比 + 880 名 (+ 8%)

脳外科延べ患者数 1,358 名 (10.1%) 前年度比 - 256 名 (- 1%)

平成 27 年 2 月以降、脳梗塞の入院は曜日などによっては脳外科が担当することになっているため、正確な人数は把握できないが神経内科の患者は増加傾向であるといえる。

脳梗塞患者の大半は転院となるが、入院時から患者・家族への働きかけが行われておりスムーズに転院調整が来ている。

【HCU・救急室】

平成 28 年度 HCU 算定率 56.1% (前年度比 - 17.8%)

平成 28 年度 救急室 (603 号一般病床 3 床) 年間入室者数 393 名 (前年度比 - 110 名)

6 南病棟は HCU8 床を有している。今年度から、胃がん患者の術後入室がなくなり、また HCU の算定要件の変更の影響もあり該当診療科以外、特に循環器内科の患者の入室が増加している。多様な患者の状態に対応できるように学習会を実施、情報の共有をするよう指導した。

2) 看護システム PNS (パートナーシップ・ナーシング・システム) に向けて準備を開始

PNS についてスタッフへ学習会を行い平成 28 年度末から PNS を導入するための準備としてペアで看護を行なう体制に変更した。



3. 今後の展望・課題

- 1) 外科疾患患者の高齢化が進んでいる。認知症、独居世帯なども多く入院後早期からの退院支援や地域連携の強化が課題である。
- 2) 該当診療科以外の入院患者の割合が増加している。HCU入室後に該当診療科に転出できず一般病棟に受け入れることも多い。該当診療科以外の患者は重症例も多く、退院に向けての調整が遅れる傾向にある。治療方針とともに退院後の方向性など主治医に早期に働きかける必要がある
- 3) 平成 28 年度末からペアで看護を実施し導入に向けて準備を始めた。次年度は本格的な PNS の導入を計画している。業務改善を含め、患者、家族にとって安全な療養環境の整備に努めると共にスタッフにとっても働きやすい職場環境を整えていく。

診療協力部門の概況**◆ 7 階北病棟****1. スタッフ**

職名	氏名	認定・専門・資格	職名	人数	認定・専門・資格
看護師長	後藤 芳子		看護師	28名	
副看護師長	大藏 敦子		看護助手	1名	
副看護師長	倉元 宏美		クラーク	1名	
副看護師長	倉元 宏美	がん化学療法 看護認定看護師			

看護師人数：看護師長、副看護師長を除く

2. 活動報告

平成 28 年度も診療科、病床数の変更はなく、血液内科 25 床、腫瘍内科 24 床の計 49 床で運用した。病床管理では医師、医療支援部等と連携し、療養が必要な患者は転院、緩和ケアが必要な患者は緩和病棟へ転棟できるように早期から関わり、当病棟で治療を受けるべき患者ができるだけ入院できるようにベッドコントロールを行った。移植患者は年間 19 例で免疫力低下、易感染状態の患者が多かったが、環境清掃、標準予防策の徹底を行い特に問題なく経過した。安全管理ではハイリスク薬に関するインシデントの減少を目標に挙げ、達成することができた。教育面では移植看護のレベルアップのため、移植看護に関するラダーを作成、使用した。

病棟外活動としては移植後フォローアップ外来の充実を図るために要件（同種幹細胞移植後フォローアップ外来のための看護師研修受講）を満たすスタッフが 4 名となり、フォローアップ外来患者さんの情報共有と QOL 向上に向けた患者教育に力を注ぐことができた。

3. 今後の展望・課題

1) 病床管理

移植件数や治験への参加が増加し、在院日数の延長が懸念されるため、医師と協力し、早期退院に向けた取り組みを行う。

2) 移植看護の充実

移植患者の増加に伴い移植看護の更なるレベルアップを図る。移植看護のラダーを活用、修正していく。

3) 感染管理

院内感染等を起こさないよう標準予防策、オムツ交換手技の遵守など、スタッフ教育を継続する。

4) 安全管理

3B 以上の事例が起こらないよう、病棟のリスクマネージャーを中心に警鐘事例の分析、対策を周知していく。抗がん剤などのハイリスク薬の取り扱いを慎重に、ダブルチェック機能の精度を上げていく。

5) 魅力ある職場づくり

離職率を下げるため、PNS を定着させ業務負担の軽減や、看護の満足度向上を図る



◆ 7 階南病棟

1. スタッフ

職名	氏名	認定・専門・資格	職名	人数	認定・専門・資格
看護師長	池田 浩子		看護師	28名	
副看護師長	福原 香織		看護助手	3名	
副看護師長	稲田 妙子				

看護師人数：看護師長、副看護師長を除く

2. 活動報告

昨年度と入院患者数は変化なく推移している。その中、大腸の手術患者数は平年を上回ったが、入院期間は12日を下回る月もあり、消化器外科以外の急患患者を多く受け入れた。また、年々高齢者の急患患者が増加し、合併症を持った患者が多く、重症、煩雑化した。昨年度より、手術後ICU観察室を介さず、病棟に帰室することが決定し業務を行ってきたが、大きな問題なく病棟運営できている。

高齢者ストーマ造設患者は増加し、ストーマ教育と退院後の支援を考えていくことは必須となった。それを受け今年度は、外来看護師と病棟看護師の連携と、情報交換のために皮膚排泄ケア認定看護師を中心に、医師を含めたカンファレンスを定期的に行う事にした。また、退院後訪問の実施を、担当のケアマネージャーと情報交換を行いながら1例ではあるが行うことができた。術前から術後、また、退院してからの患者情報交換を行うことで、ストーマ教育に関する問題点の明確化が図れ、問題点の改善へとつなげる事が出来つつあると考える。また、その活動を行うことにより、ストーマ教育のスキルアップと看護師自身のモチベーションアップにつながっている。

3. 今後の展望・課題

- 1) 安全に急患患者を受け入れるための体制づくり
- 2) ストーマ造設患者の退院後を見据えた教育とバックアップ体制の構築
- 3) 周手術期を安全に療養できる環境と体制の整備

診療協力部門の概況**◆ 8 階北病棟****1. スタッフ**

職名	氏名	認定・専門・資格	職名	人数	認定・専門・資格
看護師長	宮原 寛子		看護師	29名	
副看護師長	村上 千枝子		看護助手	3名	
副看護師長	小林 淳子				

看護師人数：看護師長、副看護師長を除く

2. 活動報告

病床数は、一般病床 45 床、HCU 病床 4 床で、担当科診療科は消化器内科と脳神経外科で昨年と同様である。

平成 28 年度の取組み

1) 看護の質の向上

- ①入院直後から患者背景、病状に合わせた退院支援を展開するよう医師、担当看護師、医療支援部退院調整看護師と共にカンファレンスを行い取り組んだ。
- ②認知症・せん妄症状への対応困難事例は、認知症回診で積極的に相談し、支援体制整えるよう努力した。
*人材育成のため、在宅療養支援研修 1 名、認知症看護研修 2 名が受講し、それぞれが部署内で伝達講習会を行った。
- ③日本クリニカルパス学会学術集会にてポスター発表：
入院当日の内視鏡的逆行性膵胆管造影（ERCP）クリニカルパス
- ④ TQM 活動報告：「夜間の排泄ケアを改善」オムツとパットの機能について提案した。

2) 安全で安心な療養環境の提供

安全環境の推進活動（5S、ICT ラウンド、リスクラウンド）と部署内の各委員の啓発活動により、インフルエンザ、MRSA、ESBL など報告はあったが感染はなかった。

3. 今後の展望・課題**1) 看護の質の向上**

入院直後から家族背景、生活背景を捉えた退院支援が行えるよう患者、家族、スタッフ間のコミュニケーションを活発にし、情報を共有していく。

2) がん終末期の家族支援、本人の意志決定支援や在宅支援を担当看護師を中心に看護展開し、スタッフ間で情報共有する。**3) スタッフのワークライフバランス支援**



◆8階南病棟

1. スタッフ

職名	氏名	認定・専門・資格	職名	人数	認定・専門・資格
看護師長	武富 須磨子		看護師	28名	
副看護師長	須田 幸子		看護助手	4名	
副看護師長	片山 朋子				

看護師人数：看護師長、副看護師長を除く

2. 活動報告

1) 病床管理

①在院日数が昨年より短縮することができることを目標とした。

- ・大腿骨頸部骨折の入院当日 OP を働きかけ、在院日数は 21 日→20 日に減少したが、OP 後感染で長期入院が必要となった患者が増加しているため、大幅に減少する事ができなかった。
- ・褥瘡発生は入院期間が延長するため、褥瘡発生率を昨年より減少させることを目標としていた。高齢者で皮膚が脆弱な患者が多く、シーネ装着中の褥瘡発生もあり発生率 1.1 と減少することができなかった

2) 安全管理

①内服のインシデントの減少、ハイリスク薬のインシデントをなくすことを目標とした。

指差し呼称を徹底するよう指導したが、インシデント 14→24 件。ハイリスク薬のインシデント 5→10 件に増加した。

②転倒・転落のインシデントが昨年より減少することを目標とした。

前年度シャワー室で転倒した事例があったため、自立してケアを行なう基準を作成したが、33→37 件と増加した。

3) 患者満足度の向上

①接遇の向上

接遇カンファレンスの実施やポスター掲示などを行い、チェックリストで評価を行い前期よりも後期に上昇することができた。

②PNS の導入

院内のワーキンググループで学習会を行い、病棟での学習会を行ったが、まだ導入できず、平成 29 年 5 月から一部開始する予定。

4) 5S 活動の充実

病室の環境整備を行うことを中心に活動を行い、発表病棟に選出されることができた。

3. 今後の展望・課題

1) 看護の質の向上

①労働時間 155 時間の遵守：業務基準の見直し。



診療協力部門の概況

② PNS の導入。

② 病棟学習会の充実

② 接遇の向上

2) 安全な療養環境の提供

① 内服薬のインシデントの減少できる。

② 転倒、転落のインシデントが減少できる。

③ 褥瘡発生が減少できる。



◆ 9 階北病棟

1. スタッフ (平成 29 年 3 月現在)

職名	氏名	認定・専門・資格	職名	人数	認定・専門・資格
看護師長	本 田 久 美	看護教員養成課程修了	看護師	29名	
副看護師長	森 本 享 子		看護助手	3名	
副看護師長	村 上 美 代 子				

2. 活動報告

1) 病床管理

患者の動向として、眼科は白内障の手術を外来へ移行する方針になった。白内障単独の手術件数は減少傾向であるが近隣の施設が眼科診療を閉鎖しているため、網膜剥離や硝子体の手術件数は増加した。患者の高齢化や既往疾患の重症化が顕著になっているため、患者の全身状態に配慮しながら自宅退院に向けて家族を含めた援助を行った。

2) 看護システム PNS (パートナーシップ・ナーシング・システム) の定着

平成 26 年度末から PNS を試験導入し、スタッフの意見・患者への対応を確認しながら、業務を調整した。パートナーシップマインドについての教育を継続しながら、眼科・耳鼻科の業務を中心に改善し、平日のインシデントに繋がった。

3) 頭頸部がん患者看護の充実

平成 27 年度より、全スタッフが患者の在宅支援や予後に関する不安などを含めた援助を責任を持って継続的に行えるように教育した。頭頸部がんの患者の入院は増加傾向であり、入退院を繰り返す患者が増えている。患者の不安の軽減や病期に合わせた介入が行えるよう、2 週間以上の入院患者は、プライマリー制の看護介入に努めた。

3. 今後の展望・課題

1) 安全な療養環境の提供

看護システム PNS (パートナーシップ・ナーシング・システム) の熟成

- ・パートナーシップマインドを育む
- ・補完業務の確立
- ・休日日勤・夜勤の PNS 導入
- ・プライマリーケアの充実：2 週間以上の入院患者 (耳鼻科・皮膚科・眼科) の看護
- ・PNS 見学メンバーの受け入れ

2) 地域連携の強化：退院調整、退院前訪問、退院後訪問 (同行) の推進

3) 人材の定着・人材の育成と自己研鑽

- ・教育体制の見直しとラダー別課題の習得
- ・現任教育と新規採用者の教育体制の確立 (定期的な指導者会の開催)
- ・中途退職者を出さない工夫

4) 就業規則の周知

- ・労働時間 155 時間 / 4 週の遵守
- ・業務基準の見直しと修正

診療協力部門の概況
◆がんセンター（9階南病棟（緩和ケア病棟）、緩和ケア外来、外来化学療法室、放射線治療室、がんサポートチーム）
1. スタッフ

職名	氏名	認定・専門・資格	職名	氏名	認定・専門・資格
看護師長	尾野 肖子		看護師	三好 典子	緩和ケア認定看護師
副看護師長	松澤 子美	助産師	看護師	宮原 留美	がん放射線療法認定看護師
副看護師長	友田 恭子	がん化学療法認定看護師	看護師	近藤 恵子	がん看護専門看護師
副看護師長	進藤 美舟	緩和ケア認定看護師	看護師	22名	
			看護助手	1名	

【緩和ケア病棟】
2. 活動報告
1) 病床稼働

病床数は12床。病床稼働率は76%だった。(図1) 特室(21,600円)は24%、和室(12,960円)は63%、洋室(無償)は87%。(図2) 今年度、在宅で緩和ケアを行っている患者が緩和ケア病棟に緊急入院した場合に、15日を限度として「緊急入院初期加算(200点/日)」が新設された。この条件に該当する患者については特室を減免で使用できることが、がん診療推進委員会で決定された。

2) 入院患者

総入院患者数は135名だった。上記緊急入院初期加算を取得したのは4件だった。院外患者の受入れは10名だった。(図3)

3) 退院患者

総退院患者数は135名だった。そのうち死亡退院は124名、症状緩和が図れて自宅退院できたのは7名、転院は4名だった。(図3)

4) 在院日数

1週間以内が19%。8日～30日以内が56%。91日以上はいなかった。症状が安定した時に退院・転院の調整を行ったことによる。(図4)



診療協力部門の概況

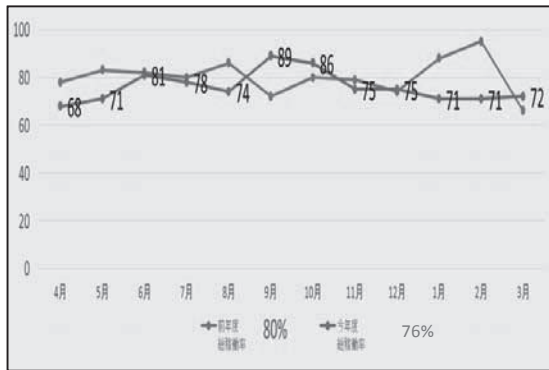


図1

%	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度
特室 21,600円	0	0	30	13	23	77	19	40	48	0	0	41	24	39
和室 12,960円	48	53	69	72	71	87	81	80	61	51	45	35	63	71
洋室 無償	85	87	92	88	81	91	97	78	83	87	90	88	87	90

図2

平成28年度入退院数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入院総数	16	9	15	10	14	9	9	14	9	10	8	12	135
院内転入	7	4	10	9	8	7	8	9	6	6	5	8	87
院内定期	4	3	3	1	2	1		2	1	3	3	1	24
院外転院	2		1		1				1	1		1	7
院外定期		1			1	1							3
持参 急患									1	1		2	4
一瞬 急患	3	1	1		2		1	2					10
退院総数	14	10	14	13	12	10	9	16	9	9	10	9	135
死亡	13	10	12	11	11	9	9	16	9	7	9	8	124
自宅	1		1	1	1	1				2			7
転院			1	1							1	1	4

図3

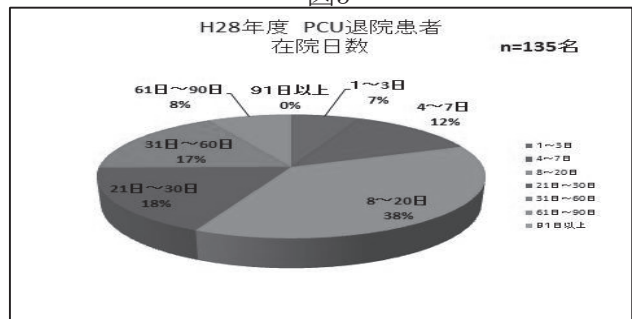


図4

3. 今後の展望・課題

入院患者数は前年度より多かったが病床稼働率は前年度より下回った。在院日数1週間以内の患者が多かったことが要因と考える。適切な時期に受け入れるために入棟目的の受診時期を考え、主科に啓蒙していくことが課題である。また、緩和ケア病棟に、症状調整と在宅への移行支援の役割が求められてきたことをふまえ、地域に貢献できる病棟としてできることを明確にしていく必要がある。まずは次年度は看護師が在宅緩和ケアの実際を知るために、地域の医療者と交流しながら退院前後訪問を行うことを推進していく。

診療協力部門の概況

【緩和ケア外来】

2. 活動報告

1) 緩和ケア外来患者数

緩和ケア外来は、新患、継続患者、緩和ケア病棟入棟検討患者の総数 283 名に対応した。(図 1)

症状緩和を目的に、緩和ケア外来で検査や輸液を行うことが多くなっている。

2016 年 5 月より、常勤の精神科医師が配置されたことで、身体、精神的側面からの専門的症状緩和が可能になった。また、緩和ケア外来加算の取得が可能となり、165 件取得した。

2) 緩和ケア病棟待機日数

緩和ケア外来患者の中で、緩和ケア病棟に入院した患者は 139 名だった。緩和ケア病棟と外来で細かく患者の情報共有を行いながら入棟時期を決定し、直接緩和ケア病棟に入院した患者は 34% だった。一般病棟で待機した患者の 56% が 1 週間以内に入棟している。一般病棟で待機しながら永眠した患者は 9 名だった。(図 2) 一般病棟で待機中の患者については、適切な緩和ケアを受けることでできるよう、がんサポートチームに情報提供し、介入を依頼するなどの工夫を行った。

3) 院外受診患者

院外からは、24 件の受診依頼があった。そのうち 10 件は入棟し、2 名は外来フォロー継続中である。(図 3)

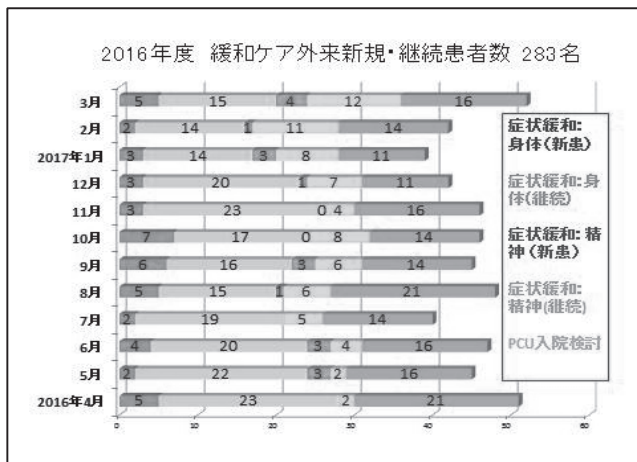


図1

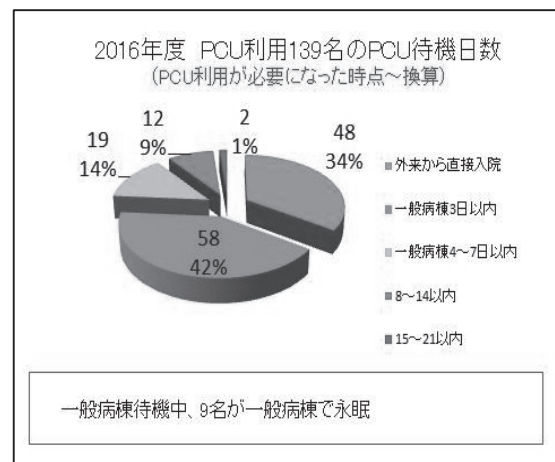


図2

平成28年度 院外紹介医療機関	九州がんセンター	2件	町上津役診療所	2件
	大平メディアカル	2件	産業医大	3件
	市立八幡病院	1件	遠賀病院	1件
	北九州市立医療センター	1件	小倉記念病院	2件
	中間市立病院	1件	コールメディカル	1件
	九州大学病院	1件	青葉台病院	1件
	新小倉病院	1件	市立八幡病院	1件
	新日鐵八幡記念病院	1件	鹿児島医療センター	1件
	芦屋中央病院	1件	新水巻病院	1件

図3



3. 今後の展望・課題

緩和ケア外来は、入棟目的の受診だけでなく、症状緩和としての機能が発達してきた。そのため、外来の処置件数が増え、重症度が増している。人的資源の少ない緩和ケア外来での患者の安全性を確保するためにも一般外来と連携を図り、主科が症状緩和を充実させていけるようサポートしていくことが課題である。

院外からのアクセスの中に、BSC 方針となったため、紹介元のフォローは打ち切られた状態で緩和受診を依頼されるケースがある。緊急時など 1 名の緩和ケア医師だけで対応できず、当院主科がない患者の対応について苦慮する場面が多々あった。地域がん診療連携拠点病院としての緩和ケア外来のあり方について、方針を定めていくことが課題である。

診療協力部門の概況

【外来化学療法室】

2. 活動報告

1) 外来化学療法件数

外来化学療法件数は年々増加しており、2016年度は年間5537件、月平均461件だった。(図1)

科別で増加したのは内科:3808件。胃・膵臓・胆道系の治療レジメンが増えていることによる。泌尿器科:87件。がん免疫療法「オプジーボ:一般名ニボルマブ」が肺がん、腎細胞がんに適用されたことも影響した。前年度より担当した小児科のレミケード投与も14件と増加した。減少したのは外科:1386件。(図2)

2) 臓器別治療

乳がん(26%)、大腸がん(26%)が多い。膵臓が10%となっており、化学療法により延命が図れるようになってきたことを示している。

3) 有害事象の予防

過敏症発症は22件と増加したが、「血管炎、ポートトラブル、血管外漏出、悪心嘔吐、バイタル性Nの変化」は減少した。前年度CVポートトラブルが多かったため、血液逆流がない時の対応手順を作成した効果があったと考えている。

(図3) その他、有害事象の予防のために以下を行った。

(1) オキサリプラチン投与中の血管痛予防

ホットバックおよびアニメックによる輸液ルートの加温、自宅での温罌法の指導

(2) ドセタキセルHFS予防の四肢末梢冷罌法の実施、スキンケア指導

(3) 分子標的薬などによるHFS対策:スキンケア指導

(4) エリブリン、メソトレキサート、5FUボーラス投与の口腔粘膜障害予防のクライオセラピー

(5) 過敏症対策手順作成

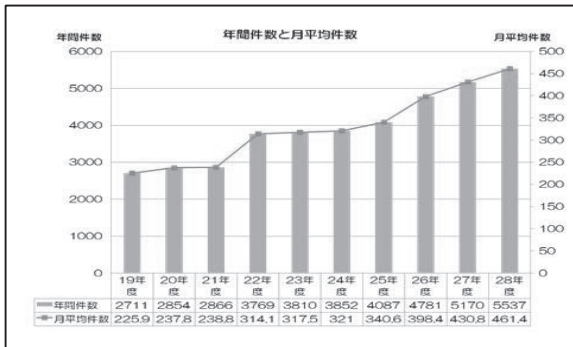


図1

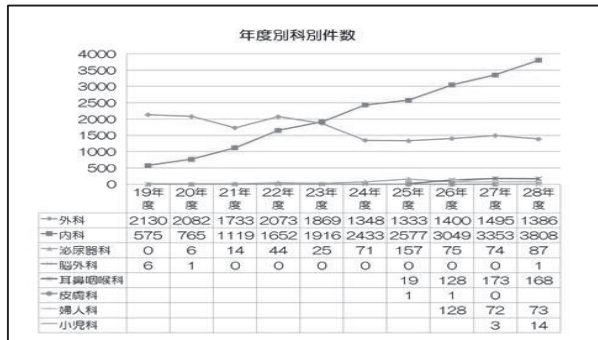


図2

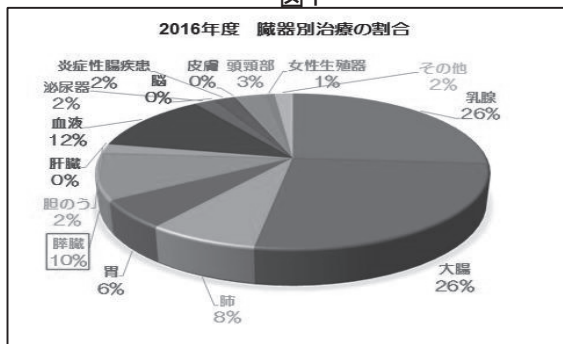


図3

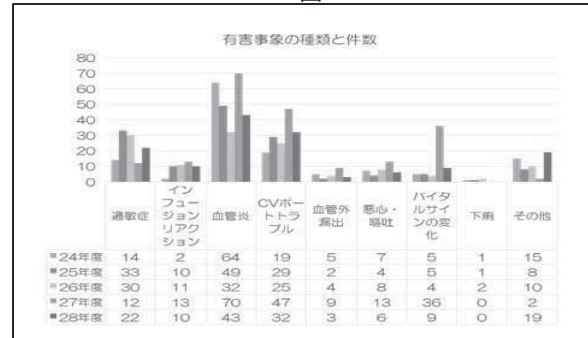


図4



4) スタッフへの指導

- (1) 1年目看護師へのがん化学療法に関する指導：研修会および外来化学療法室での見学実施
 - (2) CVポート抜針指導
- ・研修会実施による集団実技教育：研修医および看護師へ実施
 - ・病棟依頼での実技教育：8北病棟看護師

3. 今後の展望・課題

外来化学療法件数の増加に対して、業務量に合わせた流動的な人員配置を行うことを目標に、がんセンター内での1ヶ月単位の長期交換研修を実施した。日進月歩する化学療法に対応していくために、適宜学習会やカンファレンスを行っているが、がんセンター看護師全員でのぞむようにしていく必要がある。さらに増加すると予測される化学療法件数に対して、今後は安全性と効率性を追求して業務改善に努めていくことが課題である。

診療協力部門の概況

【がんサポートチーム】

2. 活動報告

1) 緩和ケア診療加算取得 (400 点)

今年度より精神科医が常勤となり、緩和ケア診療加算算定条件を満たしたため、5月より算定開始した。

3月までの延べ新患数 142 名に対して、緩和ケア診療加算 423 件 を取得した。(1 名の患者に約 3 回介入した。)(図1)

2) がんサポートチーム依頼内容

がんサポートチーム発足当初は、身体症状緩和の依頼が多かったが、次第に減少し、精神ケアや緩和ケア病棟への移行支援の依頼が増えてきたことが特徴である。(図2) 身体症状緩和依頼の減少については、マニュアルの整備が出来てきたことが要因としてあげられる。依頼内容の変化については、在院日数が短縮されていることが背景にある。短期間の関わりなので精神的支援が難しいことや次の療養の場を決定することが求められている状況が影響している。意思決定支援で介入開始した患者を終末期までサポートする中で、緩和ケア病棟への移行支援も依頼されることが多かった。

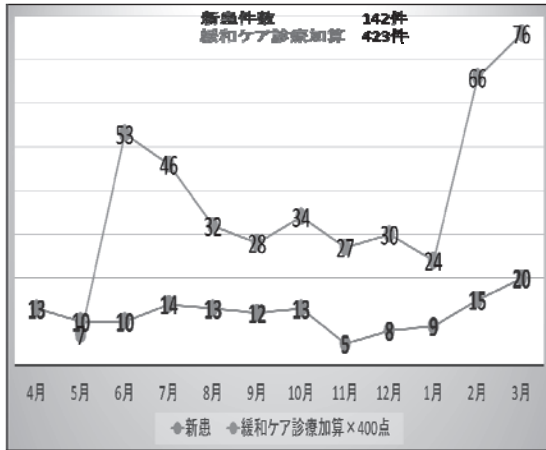


図1

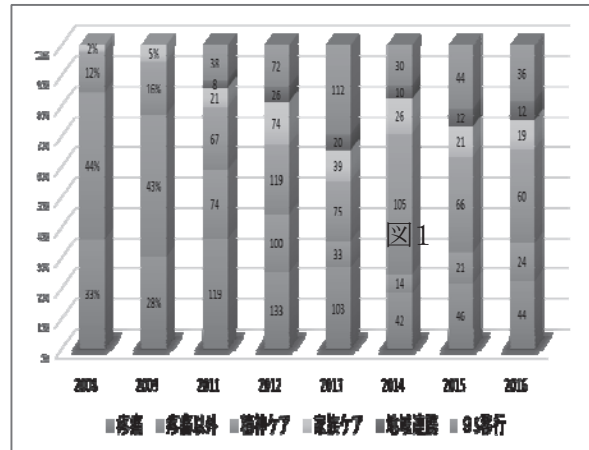


図2

3) 緩和ケア教育活動

- (1) 制吐剤使用時にアカシジア症状が多いことをデジタルサイネージを使用して注意喚起した。
- (2) 緩和ケア研修会運営 2017年2月25日 26日

4) リソースの整備

- (1) 症状緩和マニュアルの修正を行った
- (2) 苦痛スクリーニングシステムの電子化を行った

3. 今後の展望・課題

「緩和ケア病棟への移行支援」の依頼が多く、地域連携の依頼が少ないのは、医療者が厳しい状態に入ってから緩和ケア病棟への移行を提示しており、療養の場の選択をする機会を作っていない傾向を示している。早い段階から意思決定支援に取り組み、必要な患者に在宅支援や地域の医療機関につなげる援助を行っていくことが今後の大きな課題と考えている。意思決定支援に大きく関与することで、依頼件数、緩和ケア診療加算取得件数を増加させていくことを次年度の目標とする。



◆外来

1. スタッフ

職名	氏名	認定・専門・資格	職名	人数	認定・専門・資格
看護師長	武下 宣子		看護師	37.6名	
副看護師長	富田 美砂		看護助手	6名	
副看護師長	井上 道代		委託看護補助者	24名	
副看護師長	裏門 文				
看護師	巢山 直子	皮膚排泄ケア認定看護師			
看護師	平方 多美子	小児救急認定看護師			

看護師人数：看護師長、副看護師長を除く

2. 活動報告

1) 在宅療養への支援

在宅療養中の患者に苦痛スクリーニングシートを活用できるように活動した。病棟との連携で一部の部署のみシートを使用するようになった。

2) 電話件数の多い内科外来での電話処理に関して業務改善を行う

予約変更の電話処理担当者を決めた（月 43 件対応）。又各診察室の電話をクラークが使用するようにした。交換手への苦情日数は 3 日／月から 1.6 日／月に減少した。

3) 安全で組織的なリンパ浮腫外来の運用

同意書と対応フローシートは完成した。医師の算定要件が満たされなかったため実施できていない。

4) 紙カルテ廃止へスムーズな移行

スムーズに紙カルテ廃止できるように、関係部署と話あい運用マニュアルを作成したその都度問題解決に向け活動した。

5) 在院時間短縮

生理検査室と協働で TQM 活動を通して対策実施し、検査受付から報告書を渡すまでの時間が、40 分から 23 分になり 17 分短縮した。

3. 今後の展望・課題

1) 内科外来業務を見直し、安全に内科外来業務が実践できるように改善する。

2) 在宅療養患者への支援

(1) 病棟と患者情報共有方法を構築し、連携を深め、患者が安心した在宅療養が行える。

(2) 在宅で使用する衛星材料や医療材料を SPD システムに導入し、適切な管理ができる。

3) 紙カルテ廃止後の外来業務の調整と手順の見直しを行う。

診療協力部門の概況
◆透析室
1. スタッフ

職名	氏名	認定・専門・資格	職名	人数	認定・専門・資格
副看護師長	日高 ひとみ		看護師	5名	
			委託看護補助者	1名	

看護師人数：副看護師長を除く

2. 活動報告

- 1) 「高齢化した維持透析患者の、個々の問題点を抽出し、安全な透析治療を行うことができる」を目標に援助を行ってきた。昨年作成した高齢・独居・認知症患者のアセスメントフローの見直しを行い、必要な介入を行えるようにした。
- 2) 透析患者カンファレンス、インシデントカンファレンス、災害時の緊急離脱訓練を深め、医師、看護師、ME が連携した透析業務が行えるようにした。
- 3) 透析室勤務者が引継ぎ用紙に共有する情報を把握しやすくし、病棟との連携を深めるために、透析室引継ぎ用紙を見直した。
- 4) CAPD 外来を構築し、在宅療養が安心して送れるようにケアを行った。

月別透析総数													合計	平均
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
平成 28 年度														
入院(急患透析)	203(6)	208(11)	169(6)	190(5)	182(7)	174(9)	163(7)	193(7)	189(4)	178(6)	146(4)	152(4)	2147(76)	178.9(6.3)
外来	201	181	200	201	203	197	196	191	180	173	168	176	2267	188.9
合計	404	389	369	391	385	371	359	384	369	351	314	328	4414	367.8
平成 27 年度														
入院(急患透析)	155(8)	191(14)	148(7)	173(11)	131(5)	156(8)	218(8)	148(2)	207(11)	174(12)	164(7)	201(8)	2066(101)	172.0
外来	212	220	206	211	200	174	202	187	213	230	202	210	2467	206.0
合計	367	411	354	384	331	330	420	335	420	404	366	411	4533	378.0

3. 今後の展望・課題

- 1) 入院透析患者の情報共有方法を構築し病棟との連携を深めて、安全な透析治療が行える。
- 2) 自己血採血の新システムを構築し、外来職員協力を得て安全に実施できる。
- 3) CAPD 外来の新システムを構築し、内科外来での診療から透析室での診療へとスムーズに移行できる。



◆特殊外来

1. スタッフ

職名	氏名	認定・専門・資格	職名	人数	認定・専門・資格
看護師長	古賀 美砂紀	集中ケア認定看護師	看護師	37名(派遣含)	
副看護師長	村上 貴子	救急看護認定看護師	看護助手	3名(派遣含む)	
副看護師長	後藤 貴子				
看護師	野寄 真紀	救急看護認定看護師			

看護師人数：看護師長、副看護師長を除く

2. 活動報告

【救急センター】

平成 28 年度救急外来受診者総数 18,310 名(前年度比-1,283 名)減少したが、救急車搬入台数は 5,527 台(前年度比+213 台)と増加した。入院患者数は 3,211 名であり前年度と著変なかった。当院での治療対象ではないが、疼痛に伴う体動困難、社会的理由等により、帰宅困難な患者が増加傾向にある。平成 28 年度、療養目的等で他院へ転送した患者が 133 名(前年度比+37 名)となり、医療支援部に協力を仰いだ。

4 月 14 日に発生した熊本地震では、看護師 2 名が医師・多職種と共に 4 月 14～16 日の 3 日間、DMAT として派遣され現地での救護活動を行った。また JCHO 本部からの要請により 4 月 23～25 日、医療班として派遣され、保健予防活動を行った。当院は災害拠点病院であり突然の災害に対応できるよう、3 月 12 日災害レベル 1 を想定して訓練を実施した。

【内視鏡室】

平成 28 年度内視鏡検査検査件数は 7,844 件(前年度比-182 件)であったが、治療・処置件数は 1,923 件(前年度比+73 件)と増加した。その中で今年度より ESD(内視鏡的粘膜剥離術)を受ける患者の術前訪問を開始したことで、医師や消化器内科病棟と連携が図れ、術前術後の患者の不安軽減に努めることができた。

前年度より臨床工学技士と協働で検査介助・医療機器管理を行っている。時間外、救急外来での緊急内視鏡の際、宅直看護師呼び出しの間、当直の臨床工学技士が準備することでスムーズに検査開始できるようになった。今年度新たに内視鏡透視室での準備も当直者が行えるようになり、時間外の ERCP・イレウスチューブ挿入等にも迅速に対応できるようになった。

【画像診断センター】

今年度、CT1 室に CT 撮影装置 320 列が導入され、心臓 CT・TAVI 等の特殊検査件数が増加した。これに伴い、情報の共有化と検査が安全かつ迅速に行えるよう、診療放射線技師と合同で学習会を開催した。

3. 今後の展望・課題

1) 特殊外来 3 部署間の連携強化

救急外来・内視鏡室・画像診断センターと各々部署の特殊性・専門性が高く、部署間の応援体制が確保できていない。次年度は各部署での応援業務内容の明確化、ローテーション体制を検討していきたい。

2) 災害対策

熊本地震での DMAT 医療班活動をもとに災害マニュアル・備品等の見直し・検討を行う。救急外来での災害ミーティング・訓練を継続して行う。

3) 接点業務の見直し

内視鏡は臨床工学技士と、画像診断センターは診療放射線技師と接点業務を見直し、業務の安全化・効率化を図る。

診療協力部門の概況

◆放射線治療室

2. 活動報告

1) 放射線治療総件数

放射線治療件数は 9,990 件であり、前年度より 303 件増加した。別館の件数が増加している。(図 1)

2) 主科との連携

放射線治療の有害事象がおこった場合、必要に応じて各科外来主治医、看護師へ状況を報告し、継続した治療看護が行えるように努めている。連携が必要になる症例は、月平均 5 件だった。今年度は、G3 の強い皮膚炎をおこした患者が 3 名いた。根治目的治療であれば多少強い皮膚炎がおこっても治療を休止せず最後まで継続することが多い。皮膚排泄ケア認定看護師に相談しながら主科の看護師と共にケアを行った。予防的スキンケア、観察強化の必要性が高まっている。

3) 重症者への対応

安静が保てない脳転移患者 2 名に、ミタゾラムでの鎮静下治療を実施した。また、ICD 挿入中患者に全身照射を 1 日 2 回実施した。急変に備えて、主治医、ME、がんセンター応援看護師配置のもと行うなど、環境を整えた。今年度、来室した患者の移動手段は、車椅子は 1088 件、ストレッチャーは 152 件、ベッドは 21 件であった。輸液中は 477 件、持続化学療法中は 40 件、酸素使用中は 86 件だった。また、骨転移や病変部の疼痛、術後痛などで治療姿勢保持が困難な患者には、治療前に病棟へ鎮痛薬使用依頼の連絡を入れている。その件数は前年度 185 件に対して今年度は 275 件だった。重症患者については、待ち時間なく、安楽に治療実施できるよう技師や病棟看護師と連携を図っている。また、治療室は他部門から遠いため、重症者については治療時に必ず看護師が付き添うなど安全面にも注意した。

4) 治療機械関連トラブル時の対応

本館で 4 回、別館で 7 回治療機械トラブルが発生した。目に見えない放射線治療であるからこそ、トラブル発生時はまず治療中患者の側に行き不安軽減の声かけが必要となる。治療を待っている患者に状況や見通しの説明、外来患者で一旦帰宅となる際は駐車場サービス券の手配、来院前の患者には電話連絡し自宅待機の説明、復旧時の連絡を行った。復旧に時間がかかり治療時間が遅くなる場合は入院患者の治療時間の調整も行った。

【リニアック】															
	本館					別館					合計				
	外来	入院	小計	新患数	門数	外来	入院	小計	新患数	門数	外来	入院	件数	新患数	門数
2011年度	5189	3621	8810	310	16529						5189	3621	8810	310	16529
2012年度	4353	4015	8368	305	15991						4353	4015	8368	305	15991
2013年度	4252	3274	7528	248	16418	280	404	684	35	1959	4532	3678	8210	283	18375
2014年度	3086	1857	4943	173	11823	1420	2057	3477	145	9861	4506	3914	8420	318	21884
2015年度	2533	1028	3561	120	9065	2598	3528	6126	249	17728	5131	4556	9687	369	26793
2016年度	2981	1010	3991	157	10406	2813	3180	8999	228	18296	5794	4190	9990	384	28702

【密封小線源】										【計画CT】				【特殊治療】			
	外来	入院	合計	新患		本館			合計		定位		TBI				
						本館	別館	合計			人数	件数	人数	件数			
2014	20	35	55	14	2014	180	189	369	2014	12	54	7	18				
2015	35	47	82	23	2015	125	288	413	2015	24	101	13	28				
2016	12	38	50	11	2016	184	262	446	2016	36	163	8	22				

図1

3. 今後の展望・課題

次年度は、放射線治療室を本館から別館に移行していく構想がある。治療場所が統一されることで医療者の動線もまとまり、集中して患者サービスを行える機会となると考える。新しい治療機器の知識を習得し、看護に活かしていくこと、患者動線の手順を明確化し安全に配慮することなどが求められる。治療機器のトラブルは今後も発生する可能性があり、対応手順をマニュアル化し、クランクも実践できるようにしていく。



◆がん看護外来

2. 活動報告

1) 患者数

2015 年度からの継続患者 65 名、2016 年度新患 78 名、計 143 名に対応した。そのうち緩和ケア科につないだ患者は 94 名、治療サポート等で主治医チームの下でサポートした患者は 49 名だった。

2) 外来看護業務の支援

- ・外来の問診や検査、入院引き継ぎの支援
- ・電話相談：3～4 件／日（患者、外部医療機関）
- ・外来化学療法室応援：2～3 時間／日

3) 管理料算定

がん性疼痛緩和指導料取得向上に向けて、算定に関する学習会を 11 月に外来看護師向けに実施した。結果、緩和ケア科以外はほとんど取得できていなかった管理料が、年間 280 件取得できた。

その他、がん看護外来で、がん患者指導管理料 1 (500 点) 80 件、がん患者指導管理料 2 (200 点) 78 件、通院精神療法 (30 分未満：330 点) 165 件、(30 分以上：400 点) 35 件取得した。

がん性疼痛緩和指導料1 (200点)について													
・ がん性疼痛緩和指導料1: 緩和ケア科は、外来緩和ケア管理料: 165件へ移行													
・ がん性疼痛緩和指導料(1以外): 49件 → 緩和: 3件、耳鼻科外: 4件													
診療科別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	280件
緩和ケア科	18	7	1	1		2							29
内科		1		2			3	9	31	27	34	42	149
外科						3	4	4	5	7	3	5	31
耳鼻科	7	5	5	6	4	3	7	7	7	7	5	2	65
産婦人科										1			1
泌尿器科										1	2	2	5
脳神経外科													0
救急科													0

図1

3. 今後の展望・課題

引き続き、がん性疼痛指導管理料取得向上に向けて、一般外来とシステム構築に取り組む。また、算定に対応した記録が来ているかも確認していく。

外来がん患者在宅連携指導料 (500 点) についても、緩和ケア科以外の科の取得がすすんでいないことも課題であり、アプローチしていく。

診療協力部門の概況
◆手術室
1. スタッフ

職名	氏名	認定・専門・資格	職名	氏名	認定・専門・資格
看護師長	白石 明子		看護師	山崎 加奈子	手術看護認定看護師
副看護師長	川原 さおり	手術看護認定看護師		人数	
副看護師長	和田 裕子		看護師	44名	
副看護師長	松本 勝恵		看護助手	1名	
副看護師長	末永 まゆみ	H28.5.1			

看護師人数：看護師長、副看護師長を除く

2. 活動報告

H28 年度の手術室稼働件数は、7,959 件だった。その内、急患は 1,219 件で急患率は 15.3%であった。手術件数は平成 27 年度より、7 件増加した。予定と急患の内訳は、予定手術は 116 件の増加で急患件数は 109 件減少だった。

総数は増加しているが、整形外科・外科は H 27 年度より各 119 件減少しており、眼科の増加が 293 件と大きかったために、総数的には H 27 年度とあまり変わらない結果となった。

症例減少の原因としては、定例手術の予定で麻酔科医、手術室看護師共に手一杯の状態となり、急患の受け入れを日勤帯止めたりしたためである。

H 27 年度に導入したダヴィンチによるロボット手術は、H 28 年 4 月より前立腺摘出に加え腎部分切除も始まり、順調に症例を延ばしていった。

安全に関しては、手術室で発生したインシデントは、医師・看護師合わせて 80 件だった。

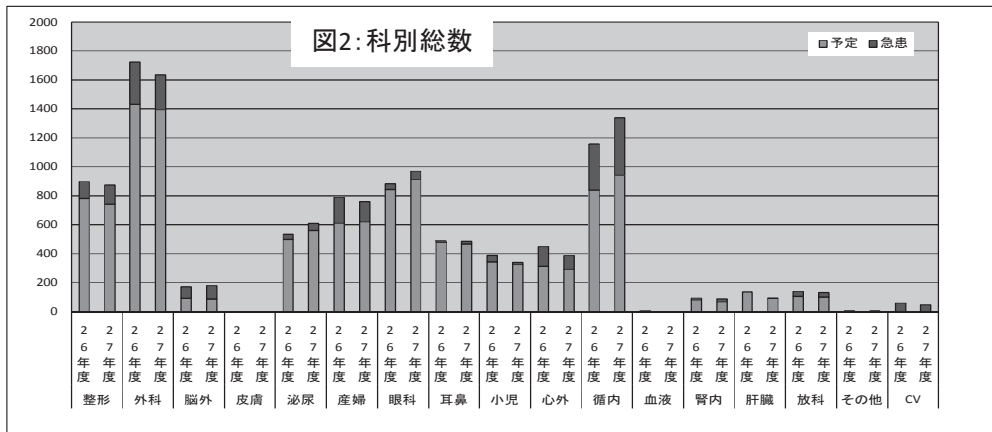
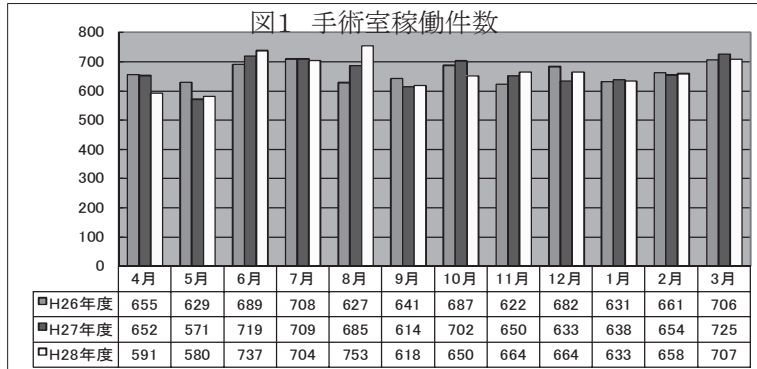
インシデントが発生した際には、レベルに関係なく重大事故に繋がる恐れがあると思われる場合は、検討会を積極的に行った。また、医師・看護師共に関わるインシデント発生時には合同検討会を行った。H 27 年度看護師によるレベル 3 b は 2 件発生したが、H 28 年度は 0 件であった。

効率に関しては、夜勤時間を 45 分短くするために、看護助手に依頼する手術器械組みやりネン組みの方法を変更し、1 例ずつ伝票に手書きしていたものを症例別の予め印刷した伝票を作成した。これにより、伝票を書く手間が省け、誰でもセット組の依頼ができるようになった。



診療協力部門の概況

業務実績



3. 今後の展望・課題

診療協力部門の概況

◆薬剤部

1. スタッフ

職名	氏名	認定・専門・資格
薬剤部長	末松 文博	日本医療薬学会指導薬剤師、日本医療薬学会認定薬剤師 日本在宅薬学会エヴァンジェリスト、認定医療メディエーターB 公認スポーツファーマシスト、初級システムアドミニストレーター 薬学博士
主任薬剤師	小倉 秀美	栄養サポートチーム専門療法士、日本在宅薬学会エヴァンジェリスト 福岡県DMAT"
主任薬剤師	桑村 恒夫	日本医療薬学会認定薬剤師、感染制御専門薬剤師 がん薬物療法認定薬剤師
主任薬剤師	吉国 健司	心臓リハビリテーション上級指導士 心臓リハビリテーション指導士 がん薬物療法認定薬剤師、認定医療メディエーターB
主任薬剤師	野村 公子	栄養サポートチーム専門療法士 日本糖尿病療養指導士
主任薬剤師	居塚 しのぶ	緩和薬物療法認定薬剤師
主任薬剤師	大西 利彦	日本臨床薬理学会認定CRC
薬剤師	藤村 弥生	栄養サポートチーム専門療法士 漢方・生薬認定薬剤師
薬剤師	矢川 結香	栄養サポートチーム専門療法士 日本糖尿病療養指導士
薬剤師	大園 真奈美	
薬剤師	松本 恵	腎臓病薬物療法認定薬剤師
薬剤師	川久保 充章	日本糖尿病療養指導士
薬剤師	釘原 瑤子	栄養サポートチーム専門療法士
薬剤師	舩永 絵理子	栄養サポートチーム専門療法士
薬剤師	宮本 愛子	心臓リハビリテーション指導士
薬剤師	山澤 結季	小児薬物療法認定薬剤師
薬剤師	杉原 徹哉	
薬剤師	上原 奈緒	感染制御認定薬剤師
薬剤師	白石 史遠	
薬剤師	秋吉 尚雄	
薬剤師	小笠 裕斗	
薬剤師	鋏塚 圭子	心臓リハビリテーション指導士
薬剤師	松尾 直樹	
薬剤師	有吉 美幸	
薬剤師	西村 直朗	
薬剤師	阿部 名月	
薬剤師	上津 沙織	がん薬物療法認定薬剤師



診療協力部門の概況

薬剤師	神宮司 華子	
薬剤師	石田 佳菜	
薬剤師	池田 しほ	
薬剤師	長谷川 真理子	
薬剤師	宮崎 美穂	
調剤助手	大坪 祐子	
調剤助手	金本 一枝	
調剤助手	吉仲 志津香	
調剤助手	高橋 くみ子	
調剤助手	高木 唯	

【基本方針】

1. 医療チームの一員として、高度な薬学知識を活用し、医薬品の適正使用を促進すると共に医療安全に寄与します
2. 患者さんとのより良いコミュニケーションをとおして、満足し信頼していただけるよう努力します。
3. 医療の充実・発展のために日々研鑽し、将来の医療を担う薬剤師を育成します。
4. 適正な医薬品管理を行うことで、健全な病院経営に貢献します。

2. 活動報告

【処方箋枚数】

一般処方箋枚数	外来	7,386	院外処方箋枚数	71,255
	入院	142,140	(発行率) %	90.6
	合計	149,526	薬剤情報提供料	
注射処方箋枚数	外来	40,910		
	入院	277,979		
	合計	318,889		
疑義照会后処方 変更件数	院外処方	2,098		
	入院処方	1,003		
	注射処方	1,149		
	合計	4,250		
	(変更率) %	0.86		

*変更率：(疑義照会による処方変更枚数÷総処方せん枚数)×100

【病棟薬剤業務】

薬剤管理指導	指導患者数	15,422	麻薬管理指導加算	181
	総指導回数	23,737	退院時指導加算	2,762
	算定件数	17,790		
病棟薬剤業務実施加算算定件数		25,540		
入院患者持参薬鑑別件数		9,529		
プレアポイド件数		317		

**診療協力部門の概況****【注射薬混合業務】**

無菌製剤処理科 (中心静脈)	混合件数	2,504
	算定件数	1,800
無菌製剤処理科 (抗癌剤)	混合件数	14,463
	算定件数	9,613
一般薬の混合、分取件数		14,371

【製剤業務】

一般製剤件数	外 来	10
	入 院	251
	合 計	261
無菌製剤件数	外 来	165
	入 院	104
	合 計	269
製剤払出件数	外 来	7,105
	入 院	12,988
	合 計	20,093

【医薬品情報管理業務】

外来患者持参薬鑑別件数	2,611	業務時間(時間)	196.38
その他の問い合わせ件数	1,565		
治験業務(プロトコール)	4		

【入退院センター業務】

指 導 患 者 数	1,870
錠 剤 鑑 別 件 数	1,760

【がん服薬指導】

がん患者指導管理料3算定件数	166
----------------	-----

【薬学生実務実習】

福 岡 大 学	4	第 一 薬 科 大 学	1
崇 城 大 学	1	立 命 館 大 学	1
神 戸 薬 科 大 学	1		

3. 業務実績



診療協力部門の概況

◆放射線室

1. スタッフ

職名	氏名	認定・専門・資格	職名	氏名	認定・専門・資格
技師長	末 弘 正 人	磁気共鳴(MR)専門技術者 Ai認定診療放射線技師 放射線機器管理士 放射線管理士	副技師長	安 川 浩 介	放射線治療専門放射線技師 放射線治療品質管理士 放射線機器管理士 放射線管理士
主任技師	白 石 政 弘	臨床実習指導教員 放射線機器管理士 放射線管理士	主任技師	井 上 英 一	放射線管理士
主任技師	川 崎 直 正	X線CT認定技師 肺がんCT検診認定技師 Ai認定診療放射線技師 マンモグラフィ撮影認定技師 胃がん検診専門技師 放射線機器管理士 放射線管理士	主任技師	前 原 裕 一	第1種放射線取扱主任者 放射線治療専門放射線技師 放射線治療品質管理士 マンモグラフィ撮影認定技師 医用画像情報精度管理士 放射線機器管理士 放射線管理士
主任技師	石 田 真 由 美	第1種放射線取扱主任者 放射線治療専門放射線技師 マンモグラフィ撮影認定技師 臨床実習指導教員 放射線機器管理士 放射線管理士	主任技師	甲 斐 瑞 之	医療情報技師 マンモグラフィ撮影認定技師 第1種放射線取扱主任者試験合格 医用画像情報精度管理士 放射線機器管理士 放射線管理士
技師	井 上 友 紀	胃がん検診専門技師 マンモグラフィ撮影認定技師	技師	日 野 祥 悟	胃がん検診専門技師 医療画像情報精度管理士 放射線機器管理士 放射線管理士 磁気共鳴 (MR) 専門技術者
技師	荒 木 裕	放射線機器管理士 医用画像情報精度管理士	技師	武 原 エ ミ	マンモグラフィ撮影認定技師
技師	石 原 太 基	肺がんCT検診認定技師 放射線管理士 放射線機器管理士	技師	元 岡 秀 昭	マンモグラフィ撮影認定技師 第1種放射線取扱主任者試験合格 X線CT認定技師
技師	中 田 勇 気	放射線管理士 放射線機器管理士 マンモグラフィ撮影認定技師	技師	伊 藤 洋 平	
技師	本 村 賢 大 朗	第1種放射線取扱主任者試験合格 医学物理士	技師	横 田 陵	X線CT認定技師
技師	鈴 木 洋 平	胃がん検診専門技師	技師	岡 本 典 彦	
技師	有 吉 真 弓	マンモグラフィ撮影認定技師	技師	大 西 到	
技師	山 内 大 雅	第1種放射線取扱主任者試験合格	技師	高 島 祥 史	第1種放射線取扱主任者試験合格
技師	福 田 洋 介	放射線管理士 放射線機器管理士	技師	前 之 園 康 太	胃がん検診専門技師
技師	太 田 康 平		技師	江 口 慎 一 郎	
技師	坂 本 眞 理	マンモグラフィ撮影認定技師 第1種放射線取扱主任者試験合格	技師	境 杏 美	マンモグラフィ撮影認定技師
技師	野 田 大 貴	第1種放射線取扱主任者試験合格	技師	小 屋 松 育 子	第1種放射線取扱主任者試験合格 マンモグラフィ撮影認定技師
技師	秀 島 菜 月	第1種放射線取扱主任者試験合格	技師	三 谷 篤 志	第1種放射線取扱主任者試験合格
技師	中 村 豊	第1種作業環境測定士 講習終了			

注) 技師長：診療放射線技師長 副技師長：副診療放射線技師長 主任技師：主任診療放射線技師 技師：診療放射線技師

診療協力部門の概況

放射線室のスタッフは、診療放射線技師 35 名(別表:1)、常勤療養介助員 1 名、非常勤療養介助員 1 名の 37 名である。組織体制は診療放射線技師長 1 名、副診療放射線技師長 1 名、主任診療放射線技師 6 名を配置し、診療業務における安全管理、機器管理の責任分担とした。診療業務を安全に且つスムーズに行えるように一般診療放射線技師を必要人員配置した。また、各部署における教育や技術取得のため定期的にローテーションを実施した。診療放射線技師の使命でもある検査技術の向上、安全性確保等々に加え放射線室全体としてのスキルアップを図るべく、診療放射線技師 29 名が総数 75 の国家資格や各学会認定資格を取得している。

2. 活動報告

●平成 28 年度機器整備関連

平成 16 年 5 月の病院移転時に導入した東芝社製リニアック装置 Primus が設置後 12 年経過し経年劣化等が激しく、また患者データや治療パラメータを管理する治療計画照合装置、治療計画 CT 装置のメーカー保証が終了し長期継続使用が見込めないため機器を更新することとなった。

平成 27 年度より装置の購入は地域医療機能推進機構、国立病院機構および労働者健康安全機構の 3 機構による共同購入方針が示され、リニアック装置の更新は共同入札により購入することが決定された。導入装置(バリアン社製リニアック装置 True Beam ST x) は搬入から設置まで、関連部署の協力を得て計画通り行った。導入装置の特徴は、① 4、6、8、10MV の 4 エネルギー②腫瘍部分だけを照射し、近接する危険臓器の照射をできる限り減らすことが可能な 2.5mmMLC(マルチリーフコリメータ)③患者負担軽減、呼吸性移動体策に有用な短時間での照射が行える FFF(フラットニング・フィルターフリー)の高線量率モード④ 6 軸方向からの位置補正が可能な寝台⑤腫瘍位置や体位を確認できる画像誘導放射線治療(IGRT) など臨床的に有益な機能を搭載している。

●学会・研修会発表など

日本放射線技師学術大会、JCHO 地域医療総合医学会、研修会、セミナー等において発表、講演を行った。

●放射線室勉強会・研修会の実施

当院の放射線技師を講師とする勉強会を 21 回、外部講師による研修会を 9 回の計 30 回行った。

●臨床実習生 : 純真学園大学 放射線技術科学科 2 名

学生施設見学 : 純真学園大学(1 名)、藤田保健衛生大学(1 名)

●委員会活動、及び、院内活動に参加



診療協力部門の概況

3. 業務実績

	撮影	病棟 術中	透視	CT	MR	血管系	RI	治療	骨密度
H28/04	5,286	1,400	202	2,065	535	145	125	732	38
H28/05	5,504	1,553	387	2,218	524	158	131	787	43
H28/06	6,038	1,649	454	2,218	633	200	161	1,136	35
H28/07	5,784	1,631	435	2,183	618	153	122	827	39
H28/08	5,982	1,804	476	2,187	631	168	121	954	38
H28/09	5,837	1,667	437	2,105	559	145	123	769	26
H28/10	5,925	1,561	397	2,307	541	152	129	813	23
H28/11	5,828	1,690	424	2,188	560	161	125	1,020	27
H28/12	5,768	1,744	309	2,165	547	171	125	786	32
H29/01	5,776	1,858	340	2,173	553	161	124	667	22
H29/02	5,391	1,610	286	2,084	535	154	140	714	37
H29/03	6,049	1,764	306	2,280	616	175	139	837	36

診療協力部門の概況
◆中央検査室
1. スタッフ

職名	氏名	認定・専門・資格	職名	氏名	認定・専門・資格
臨床検査技師長	奥 蘭 学	臨床検査技師	臨床検査技師	安 高 亮	臨床検査技師
主任臨床検査技師	松 田 裕 代	臨床検査技師	臨床検査技師	大 塚 明 子	臨床検査技師
主任臨床検査技師	嶋 田 薫	臨床検査技師	臨床検査技師	玉 城 真 太	臨床検査技師
主任臨床検査技師	芳 賀 由 美	臨床検査技師	臨床検査技師	福 光 梓	臨床検査技師
主任臨床検査技師	新 宅 博 美	臨床検査技師	臨床検査技師	西 村 沙 織	衛生検査技師
主任臨床検査技師	坂 本 悦 子	臨床検査技師	臨床検査技師	草 野 一 樹	臨床検査技師
主任臨床検査技師	秋 光 起 久 子	臨床検査技師	臨床検査技師	安 部 拓 也	臨床検査技師
主任臨床検査技師	豊 嶋 憲 子	臨床検査技師	臨床検査技師	梶 原 博 司	臨床検査技師
臨床検査技師	村 田 眞 知 子	臨床検査技師	臨床検査技師	田 中 沙 知	臨床検査技師
臨床検査技師	吉 岩 千 里	臨床検査技師	臨床検査技師	平 山 絵 梨 佳	臨床検査技師
臨床検査技師	荒 井 俊 一	臨床検査技師	臨床検査技師	谷 口 知 治	臨床検査技師
臨床検査技師	古 野 和 美	臨床検査技師	臨床検査技師	西 田 駿 佑	臨床検査技師
臨床検査技師	奥 田 知 世	臨床検査技師	臨床検査技師	小 島 智 聡	臨床検査技師
臨床検査技師	岡 田 昭 彦	臨床検査技師	臨床検査技師	宇 佐 美 有 紗	臨床検査技師
臨床検査技師	中 村 英 樹	臨床検査技師	臨床検査技師	谷 口 絵 里 香	臨床検査技師
臨床検査技師	稲 葉 美 紀	臨床検査技師	臨床検査技師	宗 麻 衣	臨床検査技師
臨床検査技師	中 村 由 希 子	臨床検査技師	臨床検査技師	廣 永 道 隆	臨床検査技師
臨床検査技師	立 岩 友 美	臨床検査技師	臨床検査技師	石 田 優 衣	臨床検査技師
臨床検査技師	小 川 明 希	臨床検査技師	臨床検査技師	長 房 蓮	臨床検査技師
臨床検査技師	畚 野 陽 子	臨床検査技師	衛生検査技師	坂 本 真 弓	衛生検査技師
臨床検査技師	西 山 純 司	臨床検査技師	非常勤臨床検査技師	作 間 賢 治	臨床検査技師
臨床検査技師	黒 川 佳 代	臨床検査技師	非常勤看護師	吉 水 昌 恵	看護師
臨床検査技師	田 中 え り	臨床検査技師	非常勤看護師	甲 斐 和 代	看護師
臨床検査技師	坂 本 彩	臨床検査技師	特定非常勤	酒 谷 幸 雄	写真技師
臨床検査技師	飯 塚 伸 一 郎	臨床検査技師	任期付事務員	近 藤 小 雪	



2. 活動報告

検査の迅速性向上

外来検査で臨床的に大きな問題となる事例はなかった。

検体TAT調査継続（遅くなった検体の原因分析）

検体検査システムにTAT監視モニター導入

173件調査 約52分（採血から報告まで）約42分（到着確認から報告まで）

外来・病棟化学療法患者の迅速対応

TQM活動；エコー検査での待ち時間の短縮

新規導入；アルコール濃度、p アミラーゼ

人材育成、院外活動

学会発表 8題発表

精度管理の充実

内部、外部精度管理、機器管理、定期点検

外部精度管理 日本医師会96.3点、九州福岡県98.9点、日臨技99.1点

3. 業務実績

生化学検査；	1,572,823 項目	前年度比 (102.4%)
免疫検査；	243,263 項目	前年度比 (102.4%)
血液検査；	340,410 項目	前年度比 (101.1%)
一般検査；	63,220 項目	前年度比 (99.9%)
採 血；	53,321 件	前年度比 (101.0%)
細菌検査；	55,752 項目	前年度比 (104.3%)
病理検査；	21,594 項目	前年度比 (97.8%)
生理検査；	62,217 項目	前年度比 (100.2%)

診療協力部門の概況

◆臨床工学室

1. スタッフ

	職名	氏名	認定・資格
1	臨床工学技士長	濱本 英治	臨床検査技師、体外循環技術認定士
2	臨床工学主任技士	谷 政範	透析技術認定士
3	臨床工学主任技士	松本 一志	体外循環技術認定士
4	臨床工学技士	松村 考志	呼吸療法認定士、第2種ME技術者
5	臨床工学技士	村田 龍平	体外循環技術認定士
6	臨床工学技士	長富 有樹	第1種ME技術者
7	臨床工学技士	原 拓渡	呼吸療法認定士、第2種ME技術者
8	臨床工学技士	川原 未伎	第2種ME技術者
9	臨床工学技士	新北 知世	第2種ME技術者
10	臨床工学技士	森澤 尚平	第2種ME技術者
11	臨床工学技士	入江 潤	第2種ME技術者
12	臨床工学技士	宮崎 秀明	第2種ME技術者
13	臨床工学技士	安部 茂樹	透析技術認定士、第2種ME技術者
14	臨床工学技士	加来 佳訓	透析技術認定士、第2種ME技術者
15	臨床工学技士	堤 千尋	第2種ME技術者
16	助手	末松 千恵	
17	助手	黒木 千賀子	

基本方針

・安全、安心な医療機器を提供し「愛と信頼そして納得」の医療に貢献する

業務実績

1 臨床支援業務

(1) 手術室業務 (2) 透析室業務 (3) 集中治療室、(4) 心臓カテーテル室業務 (5) ペースメーカー業務 (6) 内視鏡業務 (7) 病棟使用機器の管理 (6) 土曜休祝日の心臓手術宅直制 (7) 当直制

2 医療機器管理業務

(1) 中央化医療機材、ドクターカー搭載機器の保守管理 (2) 医療機材の保守管理に対する指導・教育 (3) 安全管理：院内へ持ち込む全医療機器の安全性の確認（持ち込み機器登録制）(4) 医療機材に関し、計画的・統一的整備の立案、専門知識を生かした購入・選定への提言。(5) 医療機材の搬送及び回収 (6) 医療機材の消毒、洗浄、清掃



診療協力部門の概況

チーム医療：RST、ICT、

院内活動： 5S 活動 「書類がヤベンジャーズ」

TQM 活動「無駄鳴りゼロを目指します」

■実習生受け入れ数

学校名	広島国際大学	純真学園大学	博多メディカル専門学校
2016 年度	3	5	2

■臨床工学室件数 年報

【心臓血管外科】		【眼 科】	
冠動脈手術 (On pu mp)	9	立会い件数手術室	1141
冠動脈手術 (Off pu mp)	32	立会い件数外来	81
後天性 On pump	56	【整形外科】	
胸部大動脈手術	20	自己血回収装置	40
腹部大動脈 (Off pu mp)	8	SEP	1
先天性 (Off pu mp)	22	MEP	31
先天性 (On pu mp)	100	【泌尿器科】	
ステントグラフト (EVER)	18	ロボット手術	66
ステントグラフト (TEVER)	10	【脳神経外科】	
心筋保護液供給装置	174	SEP	14
自己血回収装置	203	MEP	14
MEP	1	ABR	0
IABP	49	EEG	0
PCPS	9	【婦人科】	
時間外呼出件数	7	自己血回収装置	3
休日急患呼出件数	12	【PM】	
【血液浄化】		デバイスチェック	1535
透析人数 (AM)	4428	新規植え込み手術	75
透析人数 (PM)	6	交換手術	34
ICU 透析件数	131	MRI 立ち合い	15
CHDF	588	電気メス立ち合い	71
エンドトキシン吸着	4	【内視鏡】	
血漿交換	9	絶縁チェック数	7084
白血球除去療法	21	絶縁チェック不良数	25
腹水濾過濃縮再静注	36	レンズチェック数	1726
末梢血幹細胞採取	14	レンズチェック不良数	5

今後の展望・課題

臨床工学技士が、外来内視鏡業務、不整脈治療に参入するシステムが出来ました。次のはペースメーカー埋め込み・交換手術時の機械出し業務への参入を考えています。これからも医師と共に安心安全な医療に取り組みます。

診療協力部門の概況
◆栄養管理室
1. スタッフ

職名	氏名	認定・専門・資格	職名	氏名	認定・専門・資格
副栄養管理室長	三輪真紀子	日本糖尿病療養指導士 北九州糖尿病療養指導士	調理師(任期付き)	椎木一成	
主任栄養士	原裕子	栄養サポートチーム専門療法士 北九州糖尿病療養指導士	調理師(派遣)	住本修一	
管理栄養士	大庭久美		調理師(派遣)	白倉広	
〃	村田亜弥		調理師(派遣)	岩谷清治	
〃	橋本沙和	栄養サポートチーム専門療法士 北九州糖尿病療養指導士	調理師(派遣)	西村祐次郎	
〃	中崎彩香	北九州糖尿病療養指導士	調理師(派遣)	廣澤学	
〃	伊藤麻美	北九州糖尿病療養指導士	調理師(派遣)	坂元千貞子	
〃	川地尚子		調理師(派遣)	倉光千尋	
〃	福山千穂		調理師(派遣)	丸本強人	
調理主任	中島浩		調理師(派遣)	近藤美紀	
調理師	三樹敬二		調理員(任期付き)	本田好重	
〃	園田一雄		調理員(任期付き)	諫元ゆかり	
〃	瀬戸弘市		調理員(派遣)	柳田志津子	
〃	岡誠一		調理員	小山恵美	
〃	世良栄作				
〃	横溝真太郎				
〃	最所俊啓				
〃	最所俊啓				

業務実績

- (1) 一般食・特別治療食合わせて 160 種類の食事を準備。
行事食、月2回担当調理師が献立作成から携わる箱膳の提供
- (2) 栄養管理の実施
栄養管理計画書の作成・実施
病棟栄養カンファレンス

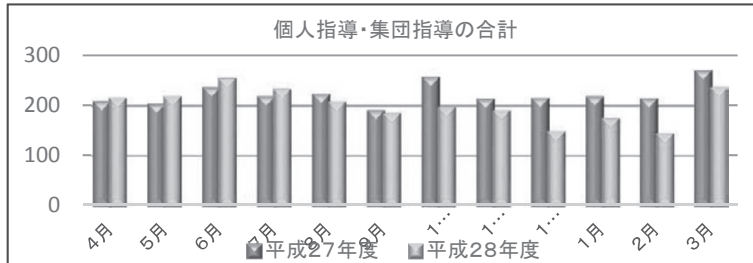


(3) 栄養指導の指導の実施

個人指導：糖尿病・心疾患・腎疾患などあらゆる疾患に対応

集団指導：糖尿病基礎講座・心臓リハビリテーション・マザークラス

調理教室：糖尿病、腎臓・腎症、減塩



合計件数

平成27年度 2641件

平成28年度 2376件

(4) チーム医療

NST・心臓リハビリ・糖尿病教育入院・RST回診・緩和ケア回診・誤嚥対策部会・褥瘡対策部会

(5) 実習生・研修生受け入れ

学生実習：大学7名、短期大学1名、専門学校1名

NST研修生(実地修練のための研修)：他院より6名(管理栄養士1名、看護師3名、薬剤師2名)

診療協力部門の概況

◆リハビリテーション室

1. スタッフ

PT (理学療法士) : 21名 OT (作業療法士) : 5名 ST (言語聴覚士) : 3名

職名	氏名	認定・専門・資格	職名	氏名	認定・専門・資格
リハ士長	林 秀俊		PT	津崎 裕司	
副士長	高永 康弘		PT	小笠原 聡美	
主任PT	中野 政弘		PT	和田 あゆみ	
PT	佐藤 憲明	呼吸・循環認定理学療法士	PT	溝上 拓也	
PT	木村 悠人		PT	坂本 明穂	
PT	十時 浩二	代謝認定理学療法士	PT	松永 翔太	
PT	豊田 笑子		OT	吉村 友理恵	
PT	桃島 寛子		OT	岐部 千佳子	
PT	古門 功大		OT	渡辺 勇樹	
PT	星木 宏之		OT	帯田 有希菜	
PT	井上 智之		OT	廣田 早織	
PT	有吉 雄司		主任ST	杉本 光徳	
PT	小若女 純		ST	吉岡 幹人	
PT	熊谷 季美絵		ST	山田 美里	
PT	野中 香里				

その他の資格取得者数

※心臓リハビリテーション指導士:8名 呼吸療法認定士:6名 糖尿病療養指導士:3名

栄養サポートチーム専門療法士:2名 がんのリハビリテーション研修者:14名 介護支援専門員:3名

2. 活動報告

(1) 臨床

- ①各病棟で行うリハビリカンファレンスや各診療科回診を活用し、入院患者におけるリハビリ実施率の向上と在院日数短縮に取り組んだ。
- ②過去に取り組んだTQM活動(①カルテ・添書記録時間短縮、②退院前カンファレンスの参加率向上、③摂食機能療法の記録漏れを無くす)を見直し、新たな対策を立案すると共にマニュアルの改訂を行った。

(2) 教育・研修

- ①入職後3年以内のスタッフに対し、新人教育プログラムを継続して実施した。
- ②今年度も整形外科ネットワークや地域心臓リハビリテーションカンファレンス、連携病院との合同症例検討会を定期開催し、地域連携の促進をはかった。
- ③多数の病院や教育機関から研修生や実習生を受け入れ、リハビリテーションに関する知識・技術の伝達を行った。

(3) 研究

- ①日本理学療法士学会や日本心臓リハビリテーション学会に演題登録発表を行うなど学術活動にも力を入れた。



3. 業務実績

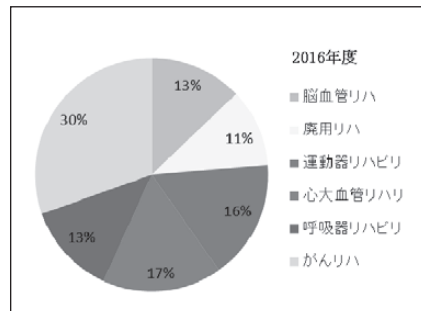
(1) 診療業務

- ①脳血管疾患等リハビリテーション (I) ②運動器リハビリテーション (I)
 ③心大血管疾患リハビリテーション (I) ④呼吸器リハビリテーション (I)
 ⑤がん患者リハビリテーション

(2) リハビリテーション室件数

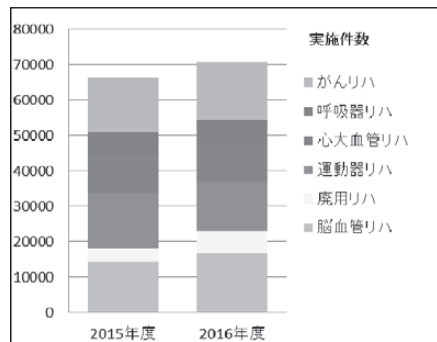
①リハビリ処方数 (疾患内訳)

年 度	2015年度	2016年度
脳血管リハ	578	583
廃用リハ	399	490
運動器リハ	829	750
心大血管リハ	765	750
呼吸器リハ	580	579
がんリハ	1194	1379
合計	4345	4531



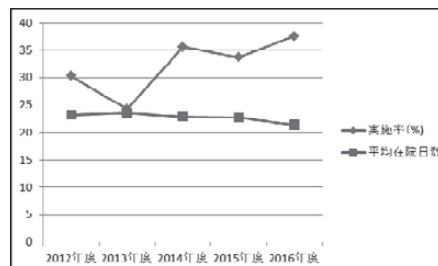
②延べリハビリ実施件数 (単位数)

年 度	2015年度	2016年度
脳血管リハ	14230 (21774)	16668 (23235)
廃用リハ	3945 (5100)	6304 (7879)
運動器リハ	15635 (28070)	13779 (22683)
心大血管リハ	10561 (19071)	11331 (20572)
呼吸器リハ	6681 (8590)	6350 (7835)
がんリハ	15165 (18843)	16430 (20464)
合計	66217 (101448)	70862 (102668)



③リハビリ実施率とリハビリ患者平均入院日数

年 度	2015年度	2016年度
リハビリ実施率 (%)	33.7	37.5
平均在院日数	22.7	21.4



(3) 実習生・研修生受け入れ件数

年 度	2015年度	2016年度
実習生 (長期実習)	15名 (5)	8名 (6)
心臓リハビリ研修生	11名	10名

(4) 研修会開催回数

- ・整形外科ネットワーク研修会：3回
- ・地域心臓リハビリテーションカンファレンス：4回
- ・合同症例検討会 (浅木病院・正和なみき病院、等)：3回

診療協力部門の概況
◆医療情報部
1. スタッフ

職名	氏名	認定・専門・資格	職名	氏名	認定・専門・資格
部長	伊藤 浩司	基本情報技術者 ITパスポート 統計士 総合内科専門医 内科認定医 内科指導医 循環器専門医 超音波専門医 超音波指導医 高血圧専門医 高血圧指導医			
一般職員	村井 真臣	情報システム	一般職員	石下 洸	情報システム
一般職員	山脇 敏恵	診療情報管理士 医療情報技師 院内がん登録実務者 中級課程修了 ITパスポート	一般職員	奥野 愛子	診療情報管理士 院内がん登録実務者 初級課程修了 メディカルクラーク
一般職員	尾茂田 幸子	診療情報管理士 院内がん登録実務者 初級課程修了			

2. 活動報告

医療情報部の主な業務活動内容は、

- ①医療情報システム関連業務（システムの維持管理業務・システム更新作業）
- ②診療録管理業務
- ③がん登録業務
- ④図書管理業務

である。

①医療情報システム関連業務（村井、石下）

- ・情報システム安定稼働のためのサーバー監視等による早期異常発見と障害発生対応業務。
- ・次期情報システムへの更新に向けた活動。
システムベンダー、各部門との打ち合わせを踏まえた仕様書作成作業等。
2017年1月 医療情報システム更新。
- ・各部署における機器端末の保守・整備作業。
- ・新入職員への電子カルテ操作研修業務。

②診療録管理業務（尾茂田、奥野、山脇）

- ・退院サマリ確認作業（病名コードとDPC対応、転帰、主治医登録等の記載内容の確認）
- ・退院サマリ作成率向上のためのサマリ作成督促、各診療科サマリ作成率資料作成
- ・カルテ監査（診療会議等にて、監査結果をフィードバック）
- ・統計データ提出
- ・文書の電子化促進



③がん登録関連業務（山脇）

- ・院内がん登録
ケースファインディングからデータ登録、予後調査、提出
- ・地域がん登録（全国がん登録）への提出／協力
- ・統計、生存率
- ・地域がん診療連携拠点病院としての活動

④図書管理業務（尾茂田、山脇）

- ・雑誌／書籍の発注／登録／貸出／返却／督促
- ・室外保管書籍管理
- ・文献相互貸借（複写申込／受付）
- ・Uptodate、メディカルオンライン、今日の診療、電子ジャーナル管理
- ・中国四国九州医学図書室ネットワークへの参加

3. 業務実績

①医療情報システム関連

上記活動内容について、病院医療情報システムの安定稼働に努めた。
医療情報システム委員会事務局として円滑な委員会運営に貢献した。
合わせて、2017年1月に電子カルテシステム更新を行った。

②診療録管理業務

上記活動内容について、適切に業務を遂行した。
診療録管理業務により、サマリ作成率・質の向上に寄与した。
2016年度退院2週間以内サマリ作成率 97.0%
診療録管理委員会事務局として委員会の円滑な運営に貢献した。
電子カルテシステム更新に伴い、文書の電子化促進を行った。

③がん登録業務

上記活動内容について、適切に業務を遂行した。
地域がん診療連携拠点病院としてがん登録集計を行い、各種統計・予後調査を行った。
2015年 院内がん登録症例 2,050件

④図書管理業務

上記活動内容について、適切に業務を遂行した。
医療スタッフの学習環境整備に貢献した。
2016年購読 和雑誌 56誌 洋雑誌 69誌 + サイエンスダイレクト (700誌以上)
2016年度購入書籍等 8冊 業務用他約106冊
2016年 文献複写 申込 517件 受付 90件
図書部会事務局として部会の円滑な運営に貢献した。

診療協力部門の概況

◆医療支援部 (地域連携室、福祉相談室)

1. スタッフ

職名	氏名	認定・専門・資格	職名	氏名	認定・専門・資格
部長 (副院長兼任)	水島 明		MSW	峯 修平	社会福祉士 精神福祉士
看護師長・室長	是永 緑	緩和ケア養成研修修了 認定がん専門相談員	MSW	木村 円	社会福祉士 認定がん専門相談員
副看護師長	高田 由美子	認定がん専門相談員	MSW	3名	社会福祉士(3名) 精神福祉士(1名)
副看護師長	谷口 由美子	医療メディエーター	事務員	曾我 美穂子	
看護師	3名		任期付事務員	1名	
			臨時事務員	1名	
			派遣事務員	7名	

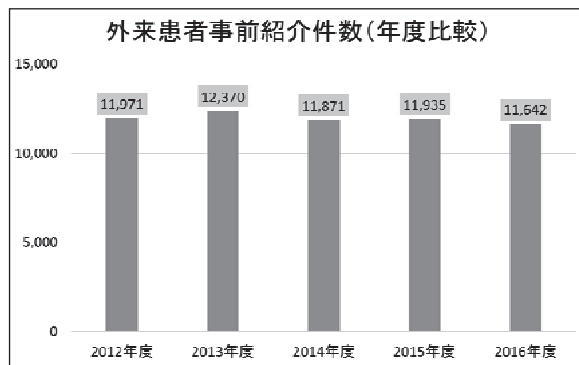
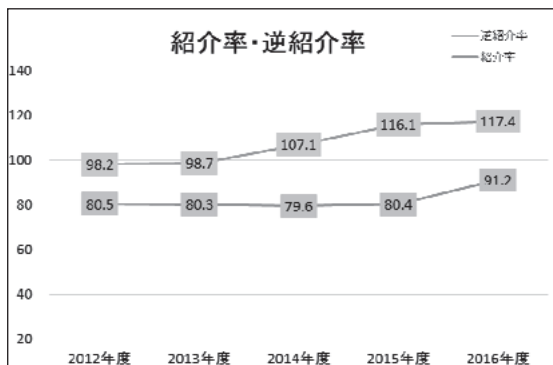
2. 活動報告

医療支援部 (地域連携室、福祉相談室) は、地域包括ケアの推進を目指し、院内外の関係者と密に連携を深めている。平成 28 年度は、診療報酬改定に伴い、退院支援システムの変更を実施し、早期からの患者サポート体制の実現を目指した。又、引き続き地域包括ケアへの理解を深めるように、院内職員や地域住民への教育を主導的に計画し実施した。

具体的には①退院支援システムの変更と関連部門との調整、②地域包括ケア推進室の定例開催とメンバーの追加、③地域包括ケアシステムについて、行政担当者、在宅医療・在宅介護サービス関係者、院内専門職による研修会開催、④地域リーダー会議への参加、⑤電子情報のネットワーク調整、⑥在宅医療、在宅療養サービス関係者とのカンファレンスの実施、⑦口腔ケア回診の始動の調整や地域との医科歯科連携並びに医科歯科連携協議会の開催、⑧退院前・退院後患者訪問の実施、⑨薬薬連携、看看連携の促進など多くの事業に取り組んだ。

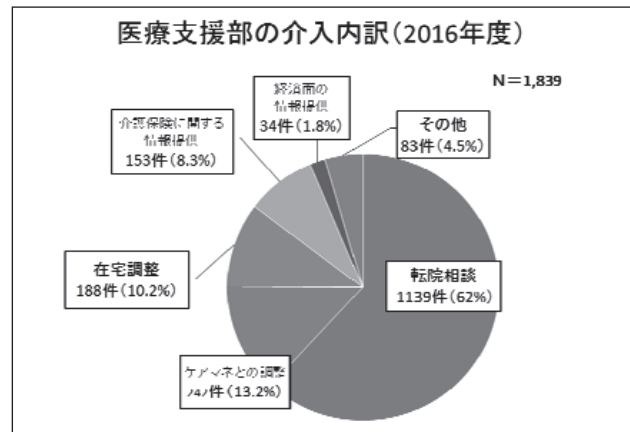
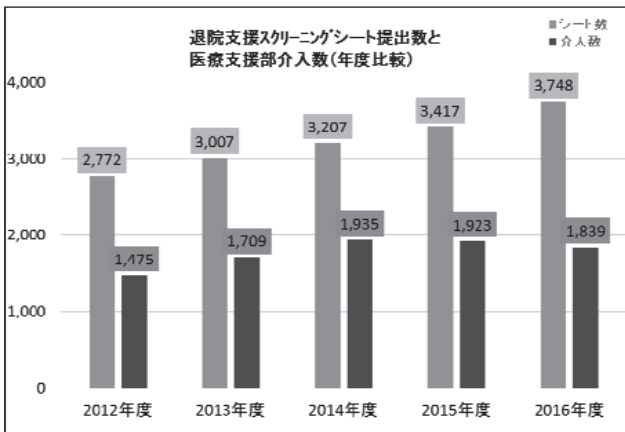
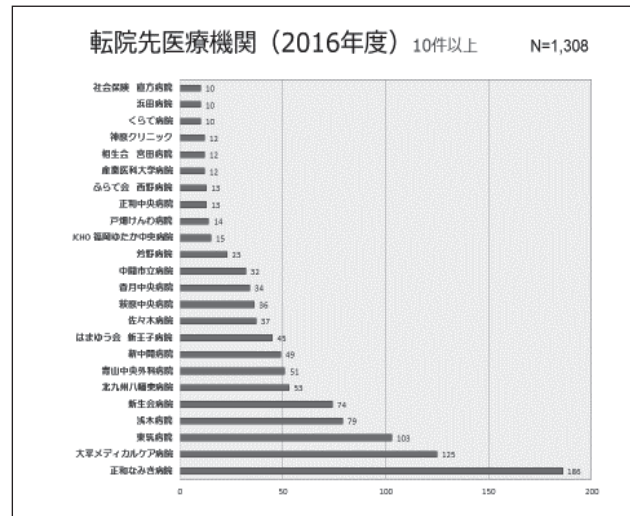
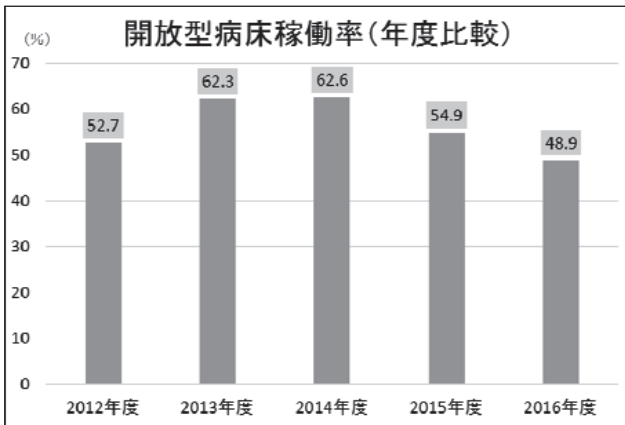
地域医療支援病院として、登録医からの事前紹介件数 11,642 件と減少したが、救急患者との総計により、紹介率 91.2%、逆紹介率 117.4% (地域医療支援病院計算式) であった。退院調整において、医療支援部の介入件数は、1,839 件であったが、転院は 1,139 件 (62%)、介護保険情報提供やケアマネジャーとの調整の計は 583 件 (31.7%) であり、重症の救急患者の増加に伴い、転院件数の比率増加がみられた。又、在宅復帰率は 88.9% であった。診療報酬改定に伴う、退院調整システムの変更に関して、地域包括ケアという広い視点で業務改善を積極的に行った。

3. 業務実績





診療協力部門の概況



種類	件数	
大腿骨近位部骨折	95	
脳卒中	111	
急性心筋梗塞(AMI)	85	
眼科(AMD)	2	
5大がん	胃がん	0
	大腸がん	4
	肺がん	22
	乳がん	5
	肝がん	0
その他のがん	前立腺がん	50

医科歯科連携(入院患者 八幡歯科医師会) 新規18件、総回診70回							
動揺歯	2	齲歯	2	歯周病	1	咀嚼困難	1
義歯調整	6	抜歯	2	顎骨壊死	1	舌の潰瘍	3
医科歯科連携(周術期情報提供による患者紹介) 166件							
八幡西区	90	中間市	23	八幡東区	16	若松区	8
直方市	8	遠賀郡	3	小倉北区	5	戸畑区	4
鞍手郡	2	その他	7				

診療協力部門の概況
◆がん相談支援センター
1. スタッフ

職名	氏名	認定・専門・資格	職名	氏名	認定・専門・資格
看護師長 兼任	是 永 緑	緩和ケア養成研修修了 相談員基礎研修3修了 認定がん相談専門員	副看護師長 専従	高田 由美子	相談員基礎研修3修了 認定がん相談専門員
MSW 専従	木 村 円	相談員基礎研修3修了 認定がん相談専門員	看護師 兼任	1名	
MSW 兼任	2名				

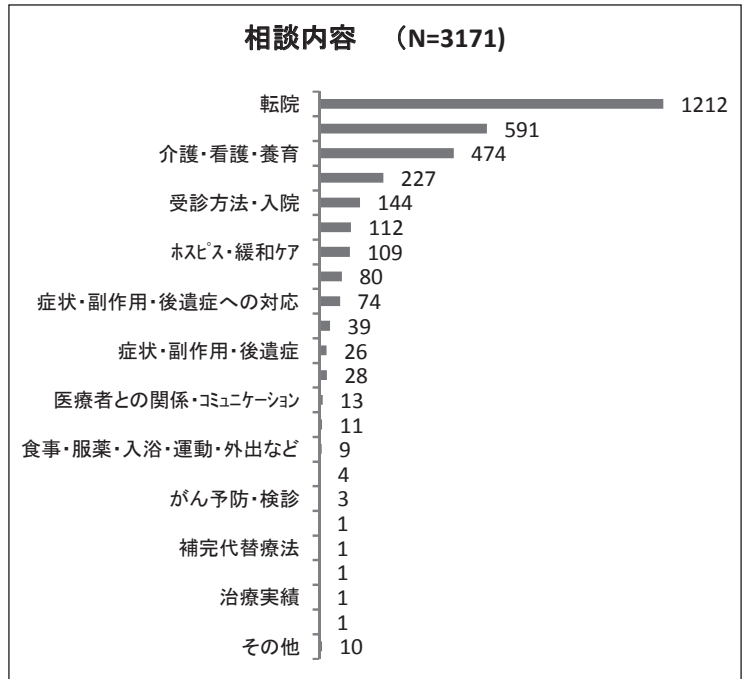
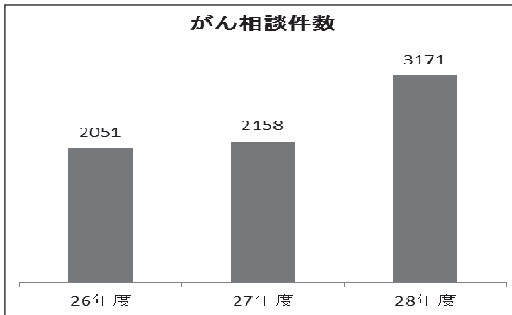
2. 活動報告

- 1) がん相談支援センターでは、がんに関する正しい情報の提供と、がんの治療から療養生活全般の相談に対応している。電話や面談でのがん相談から、退院支援を含む療養に関する相談支援など対応件数は増え続け、今年度は3,000件を超える相談に対応した。地域との連携においては、がん地域連携クリティカルパスを運用し少しずつ件数を伸ばしている。ピアサポートとしては、2ヶ月に1回、「がん患者さんと家族のためのサロン」を開催し患者さんやご家族の語りの場を提供している。様々な職種や認定看護師などから講義だけでなくメイクや口腔ケアの実践など日常生活に即した興味のある内容で開催している。
- 2) 昨年度、国立がん研究センター認定がん専門相談員資格を3名が取得し、今年度は「国立がん研究センター認定がん相談支援センター」に承認され質の高いがん相談対応が求められる。教育活動として、県内のがん診療連携拠点病院の相談員の育成と資質の向上、地域の医療機関におけるがん相談対応に関する知識や技術の向上のための研修会を継続して実施している。
- 3) 福岡県内のがん相談支援センターは、各ブロック単位および県単位で定期的に会議を開き情報交換や連携を強化している。九州・沖縄でも年に1回、地域相談支援フォーラムを開催し県境を越えた情報交換とネットワーク作りに取り組んでおり、今年は沖縄県で開催された。
- 4) がん相談支援センターの認知度向上のための広報活動として、院外では福岡県すこやかフェスタやフォーラムなどのイベントに参加し会場出張がん相談を行った。院内では、掲示板やプラズマディスプレイ、デジタルサイネージにて研修会やサロンなど、様々ながん関連の情報発信を行った。



診療協力部門の概況

3. 業務実績



セカンドオピニオン		実績
		13件
内訳	盲腸がん	1
	肺上葉結節	2
	中咽頭がん	1
	喉頭がん	1
	悪性リンパ腫	1
	骨髄異型性症候群	1
	大腸がん	1
	肝臓がん	1
	膵臓がん	2
	子宮がん	1
	粘膜表皮がん	1

がん地域連携クリティカルパス		
	運用件数	連携医療機関数
胃がん	0	0
大腸がん	4	3
肺がん	22	13
乳がん	5	5
肝がん	0	0
前立腺がん	50	9
計	81	30

がん患者と家族のためのサロン			
	テーマ	担当	参加人数
5/23	がんと生活・仕事	がん相談支援センター	2
7/25	苦痛スクリーニングとトータルケア	緩和ケア認定看護師	2
9/26	骨髄移植の話	がん化学療法看護認定看護師	9
11/28	がんの治療と口腔ケア	摂食嚥下看護認定看護師 歯科衛生士	2
1/23	スキンケアとメイク	スヴェンソン	3
3/27	がんの治療と食事の工夫	栄養部	8

診療協力部門の概況
◆臨床心理室
1. スタッフ

職名	氏名	認定・専門・資格	職名	氏名	認定・専門・資格
室長	高橋 保彦		心理療法士	瀬川 明美	
心理療法士	國廣 尚子		〃	轟木 彩	

2. 活動報告

- 心理療法 : カウンセリング、遊戯療法など
- 心理検査 : 発達検査（知能検査など）、性格検査、認知機能検査（MMSEなど）
- リエゾン : 他職種スタッフと連携しての間接的サポート（カンファレンス参加など）
- 地域連携 : 関係機関との情報共有および環境調整
- 職員メンタルヘルス : メンタルヘルスケア相談室の業務（相談、スクリーニング、研修）

3. 業務実績

外来	840
入院	293

新患	182
再来	951

心理面接	
本人のみ	425
家族同席	499
家族のみ	110
関係者	5
心理検査	99

職員メンタルヘルス面接

新規	72 (うち年間定例※ 50)
継続	159

※年間定例：スクリーニングのため看護師 1 年目に全員面接

小児科(NICU 含む)	764
内科	
循環器	49
血液・腫瘍	139
呼吸器	19
内分泌代謝	48
消化器	3
産婦人科	
産科	3
婦人科	31
心臓外科	12
外科	6
整形外科	11
神経内科	8
泌尿器科	2
皮膚科	2
耳鼻科	13
精神科	21
緩和ケア科	2

平成 28 年度
委 員 会

Japan Community Health care Organization JCHO



独立行政法人 地域医療機能推進機構 九州病院

委員会組織図

◆平成 27 年度委員会・部会等組織

		区分	上部組織 (委員会)	下部組織 (部会等)
幹部会議	管理会議	法定	療養管理委員会	栄養・NST 部会
				褥創対策部会
				誤嚥対策部会
				高齢者支援・認知症ケア部会
				呼吸管理 (RST) 部会
			医療安全管理委員会	リスクマネジメント部会
			安全衛生委員会	
			設備管理委員会	放射線安全部会
				医療ガス安全管理部会
				エネルギー使用合理化部会
				防災・施設部会
				廃棄物管理部会
			院内感染対策委員会	ICT 部会
				感染防止対策連携部会
			薬事委員会	レジメン審査部会
			情報セキュリティ委員会	
			輸血療法委員会	
			診療録管理委員会	診療録監査部会
				電子カルテ部会
				説明・同意書検討部会
			臨床検査管理・運営委員会	臨床検査適正化委員会
				放射線治療品質管理部会
			医療器材管理委員会	医療機器管理部会
				中央材料室運営部会
				診療材料購買部会
			棚卸実施委員会	
			地域医療連携推進委員会	電子情報連携部会
			保険診療対策委員会	DPC 部会
				査定対策部会
			がん診療連絡委員会	がん治療部会 (がん治療部会)
				がん地域連携部会
				がん診療推進教育部会
がん患者等ケア検討部会				
がん登録部会				
移植委員会				
倫理委員会	治験審査 (医薬品・医療機器) 委員会			
	倫理 (臨床研究審査) 部会			
契約審査委員会				
脳死判定委員会				



委員会組織図

	区分	上部組織 (委員会)	下部組織 (部会等)		
幹部会議	管理会議	客員部長・医長認定委員会			
		集中治療室等運営委員会			
		手術室運営委員会	SSI 対策部会		
		診療情報提供委員会			
		広報委員会			
		業務	業務運営委員会		外来・救急運営部会
					病棟運営部会
					内視鏡室運営部会
					透析室運営部会
					画像センター運営部会
					入退院センター部会
		業務調整委員会	医療事務作業補助者 (DS) 部会		
		改善活動連絡委員会		クリティカルパス部会	
				TQM 推進部会	
			5S 推進部会		
	医療情報システム委員会	電子カルテ対策部会			
	教育	教育研修委員会		臨床研修管理委員会	
				臨床研修指導者部会	
				職員研修・人権教育部会	
				図書部会	
				救急蘇生講習会 (BLS) 運営部会	
				教育実習センター運営部会	
				EPA 関連研修部会	
	特別	幹部会議・ミーティング	企画室部会		
医療の質向上委員会		臨床指標収集部会			
病院ボランティア委員会					
部課長会議	部課長会議				
診療会議	診療会議				
時限	ロボット・鏡視下手術委員会				
	救急救命センター指定対策委員会				

委員会活動

◆法定関係

○療養管理委員会

構 成 人 員	委 員 長		折口秀樹 (内科医長)
	副 委 員 長		藤澤 聖 (内科医長)・三輪真紀子 (副栄養管理室長) 廣正佳奈 (皮膚科医師)
	メン バー	診 療 部	内山明彦 (副院長)・中村哲郎 (リハビリテーション科医長) 田村恭久 (内科医師)・山本明史 (神経内科部長) 川上 覚 (内科医師)・中村勝也 (外科医長)
		看 護 部	永野美智代 (副看護部長)・武富須磨子 (看護師長) 古賀美砂紀 (看護師長)・山口弘恵 (看護師) 倉本佳代子 (看護師)
		診療協力部門	小倉秀美 (主任薬剤師)・杉本光徳 (主任言語聴覚士長) 原 裕子 (主任栄養士)
		事 務 部 他	古田 彰 (経理課長)・医事課長 (島田正行)
会 議			年 4 回開催
活 動 内 容			<p>6月2日</p> <p>議題1 各部会からの報告 褥瘡対策部会・誤嚥対策部会・高齢者支援部会 栄養・NST 部会・呼吸管理 (RST) 部会</p> <p>議題2 栄養管理実施件数、栄養指導件数報告</p> <p>議題3 新メンバーの紹介</p> <p>9月1日</p> <p>議題1 各部会からの報告 褥瘡対策部会・誤嚥対策部会・高齢者支援部会 栄養・NST 部会・呼吸管理 (RST) 部会</p> <p>議題2 栄養部嗜好調査結果報告</p> <p>議題3 その他</p> <p>12月1日</p> <p>議題1 各部会からの報告 褥瘡対策部会・誤嚥対策部会・高齢者支援部会 栄養・NST 部会・呼吸管理 (RST) 部会</p> <p>議題2 その他</p> <p>3月2日</p> <p>議題1 各部会からの報告 褥瘡対策部会・誤嚥対策部会・高齢者支援部会 栄養・NST 部会・呼吸管理 (RST) 部会</p> <p>議題2 経腸栄養剤の粘度調整食品 REF-P1 と併用 できる経腸栄養剤の紹介と今後の対応について</p>



◆法定関係

○療養管理委員会 - 栄養・NST 部会

構 成 人 員		チェアマン	藤澤 聖 (内科医長)	
		副チェアマン	三輪真紀子 (副栄養管理室長)	
		オブザーバー	折口秀樹 (内科医長)	
	メ ン バ ー	診 療 部	酒井賢一郎 (総合診療部部長)・村上聡一郎 (外科医師) 足立雅弘 (内科医長)	
		看 護 部	永野美智代 (副看護部長)・武富須磨子 (看護師長) 白石由紀 (看護師長)・山田明子 (副看護部長) 鳴海亜紀 (副看護部長)・和田真由美 (看護師)	
診療協力部門		小倉秀美 (主任薬剤師)・杉本光徳 (主任言語聴覚士長) 稲葉美紀 (臨床検査技師)・橋本沙和 (栄養士)		
事 務 部 他				
	会 議	開催なし		
	活 動 内 容	<活動内容> 週 1 回の回診 研修会の開催 週 1 回のミーティング 研修生の受け入れ		

委員会活動

◆法定関係

○療養管理委員会 - 褥瘡対策部会

構 成 人 員	部 会 長	廣正佳奈 (皮膚科医師)	
	副 部 会 長	山口弘恵 (看護師)	
	オブザーバー	内山明彦 (副院長)	
	メン バー	診 療 部	
		看 護 部	永野美智代 (副看護部長)・池田浩子 (看護師長) 池田佳子 (看護師)
診療協力部門		林 秀俊 (リハビリテーション士長)・原 裕子 (主任栄養士) 舩永絵里子 (薬剤師)・松村考志 (臨床工学技士)	
事 務 部 他		島田正行 (医事課長)・海野聡美 (総務企画課) 阿部早織 (医事課)	
会 議		年 4 回開催	
活 動 内 容		<p>5月25日</p> <p>議題1 褥瘡発生状況・ハイリスク算定状況報告</p> <p>議題2 褥瘡推定発生率</p> <p>議題3 その他</p> <p>議題4 次回開催予定日</p> <p>8月31日</p> <p>議題1 褥瘡発生状況・ハイリスク算定状況報告</p> <p>議題2 ES・IPC の選択とケア選択のための フローチャート</p> <p>議題3 チーム医療ワーキング</p> <p>議題4 次回開催予定日</p> <p>11月30日</p> <p>議題1 褥瘡発生状況・ハイリスク算定状況報告</p> <p>議題2 その他</p> <p>議題3 次回開催予定日</p> <p>2月22日</p> <p>議題1 褥瘡発生状況・ハイリスク算定状況報告</p> <p>議題2 その他</p> <p>議題3 次回開催予定日</p>	



◆法定関係

○療養管理委員会 - 誤嚥対策部会

構 成 人 員	部 会 長	中村勝也 (外科医長)	
	副 部 会 長	松尾美央子 (耳鼻咽喉科医師)・川上 覚 (内科医師) 杉本光徳 (主任言語聴覚士長)	
	メン バ ー	診 療 部	
		看 護 部	本田久美 (看護師長)・村上美代子 (副看護師長) 平石絵里子 (副看護師長)
		診療協力部門	三輪真紀子 (副栄養管理室長)
	事 務 部 他		
会 議		年 1 回開催	
活 動 内 容		<p>6月23日</p> <p>議題1 九州病院と地域連携している病院との 嚥下調整食の勉強会開催</p> <p>議題2 九州病院の食事状況を転院先の病院が 把握できていない場合の対策</p>	

委員会活動

◆法定関係

○療養管理委員会 - 高齢者支援部会

構 成 人 員	部 会 長	折口秀樹 (内科医長)	
	副 部 会 長	中村哲郎 (リハビリテーション科医長)・倉本佳代子 (看護師)	
	メン バー	診 療 部	土屋邦喜 (整形外科部長)・足立雅弘 (内科医長) 山本明史 (神経内科部長)・荻野利達 (外科医師)
		看 護 部	永野美智代 (副看護部長)・宮原寛子 (看護師長) 是永 緑 (看護師長)・高木めぐみ (副看護部長) 濱田康子 (副看護師長)
		診療協力部門	藤村弥生 (薬剤師)・峯 修平 (医療社会事業専門員)
事 務 部 他	山本 勇 (総務企画課)・大塚のり子 (医事課)		
会 議		年 4 回開催	
活 動 内 容		<p>4月27日</p> <p>議題1 27年度活動報告</p> <p>議題2 今年度年間目標 計画について</p> <p>議題3 その他</p> <p>9月8日</p> <p>議題1 28年度活動報告</p> <p>議題2 認知症医療ワーキングについて</p> <p>議題3 院内での認知症研修会について</p> <p>議題4 その他</p> <p>12月15日</p> <p>議題1 認知症患者回診についての報告</p> <p>議題2 地域研修の報告</p> <p>議題3 認知症ケア加算 1</p> <p>議題4 認知症ケア加算 2 対象研修について報告</p> <p>議題5 院内見学 (認知症カンファレンス等)</p> <p>議題6 来年度の研修について</p> <p>議題7 総合評価加算の算定状況について</p> <p>3月16日</p> <p>議題1 28年度活動報告</p> <p>議題2 地域研修について</p> <p>議題3 来年度の予定について</p> <p>議題4 認知症・せん妄回診状況カンファレンスの 今後の運営について</p>	



◆法定関係

○療養管理委員会 - 呼吸管理 (RST) 部会

構 成 人 員	部 会 長		村島浩二 (麻酔科医師)
	副 部 会 長		古賀美砂紀 (看護師長)・松村考志 (臨床工学技士)
	メン バー	診 療 部	茅島顕治 (麻酔科部長)・川本雅彦 (外科医長) 大内 洋 (内科医長)・井上勝博 (内科医師) 山本順子 (小児科医長)・横田千恵 (小児科医師) 芳野博臣 (麻酔科医師)
		看 護 部	松浦洋子 (看護師長)・久保由美子 (看護師長)
		診療協力部門	佐藤憲明 (理学療法士)・三輪真紀子 (副栄養管理室長)
		事 務 部 他	多賀谷由紀子 (医事課)
会 議			開催なし
活 動 内 容			<活動内容> 人工呼吸器稼動状況の把握 院内ラウンド 集中治療室等運営委員会で報告 学習会の開催

委員会活動

◆法定関係

○安全衛生委員会

構 成 人 員	委員 長	副院長 山本英雄	
	副 委 員 長	総務企画課長 神崎啓慈	
	メン バ ー	診 療 部	高橋保彦, 中原博正, 一木康則, 宮田健二 多治見 司(オブザーバー), 内山明彦(オブザーバー)
		看 護 部	永野美智代, 武下宣子, 森本麗華
		診療協力部門	末弘正人, 西山純司, 居塚しのぶ, 田中隆一, 谷 政範, 中島 浩
事 務 部 他	常盤欣宏, 瀬川明美, 笠 千恵子, 松村亜夜, 古海政浩		
会 議		月 1 回 (第 4 金曜日)	
活 動 内 容		<p>平成 28 年度安全衛生委員会の活動</p> <p>1. (1) 定期健康診断の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定業務従事者健診 H28. 7.11 ~ 8.31 受診者数 987 名 (受診率 100%) ・定期健診 H28.11.28 ~ H29. 2.28 受診者数 1,036 名 (受診率 100%) <p>(2) 雇用時健康診断の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月採用者 H28.4.4 ~ H28.4.20 121 名 (受診率 100%) ・5月以降の採用者は随時実施 <p>2. 院内感染、血液曝露等の事故防止</p> <p>(1) 血液・体液曝露事例報告による検討 (平成 28 年度 38 件)</p> <p>(2) 職員のウイルス抗体価の把握とワクチン接種の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HBワクチン接種 1回目 5/9,5/10,5/11 接種者数 153 名 (接種率 68%) 2回目 6/6,6/7,6/8 接種者数 31 名 (接種率 97%) 3回目 接種者数 31 名 (接種率 98.6%) ・インフルエンザワクチン集団接種 11/8,11/9,11/10 接種者数 1,024 名 (接種率 92.6%) <p>(3) 産業医による職場巡視</p> <p>4. メンタルヘルスを含む健康管理の推進</p> <p>(1) メンタルヘルス相談室報告による検討</p> <p>(2) ハートメールボックス報告による検討</p> <p>(3) ストレスチェックの実施 H28.9.30 ~ 10.7 対象者 923 名 調査票提出者 913 名 (提出率 99%)</p> <p>5. 労働時間の把握・管理</p> <p>(1) 時間外労働時間</p>	



◆法定関係

○院内感染対策委員会

構 成 人 員	委員 長	内科医長 小川 亮介	
	副 委 員 長	整形外科診療部長 土屋邦喜, 小児科医長 山本順子, 内科医長 大内 洋, 副看護師長 堀江恭子	
	メン バー	診 療 部	副院長 上村哲郎, 外科医長 梅田修洋, 心臓血管外科部長 徳永滋彦, 泌尿器科部長 原野正彦, 内科医師 川上 寛, 麻酔科医師 平賀紀行, 院長 多治見 司(オブザーバ), 副院長 水島 明(オブザーバ), 副院長 内山明彦(オブザーバ), 副院長 山本英雄(オブザーバ)
		看 護 部	看護部長 元嶋文恵, 副看護部長 永野美智代, 看護師長 是永 緑, 看護師長 後藤芳子, 看護師長 松山美佐紀, 看護師長 丹生谷洋子, 看護師長 麻生真智子, 副看護師長 松隈真紀子, 副看護師長 川原さおり, 看護師 森本麗華
		診療協力部門	薬剤部長 末松文博, 主任薬剤師 桑村恒夫, 副診療放射線技師長 安川浩介, 臨床検査技師長 奥蘭 学, 臨床工学室技士長 濱本英治, 臨床検査技師 廣永道隆, 主任臨床検査技師 芳賀由美, 主任理学療法士 中野政弘, 副栄養管理室長 三輪真紀子
事 務 部 他	事務部長 三島俊彦, 総務企画課長 神崎啓慈, 経理課長 古田 彰, 医事課長 鳥田正行, 一般職員 青谷 浩, 九州美装株式会社 秋本 正(院外部会員) 九州地区事務所 崎野有美(院外委員)		
会 議		月 1 回(第 3 水曜日)	
活 動 内 容		<p>○院内感染対策委員会の活動目標</p> <p>【院内感染の防止とその対策を推進し安全な医療体制を構築する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・耐性菌の発生状況に関すること ・保健所への届出に関すること ・感染防止のための巡視、点検、改善に関すること ・職員教育に関すること ・感染症発生時の対応に関すること ・近隣施設や北九州感染制御チーム(KRICT)との連携に関すること ・その他院内感染対策の推進に関すること <p>○院内感染対策委員会の活動実績</p> <p>4月20日</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 定例報告 <ol style="list-style-type: none"> ①耐性菌報告 ②抗菌薬の使用状況 ③感染症の届出 ④血液・体液曝露事例 2. CRE 対応 3. 2015 年度の活動報告と 2016 年度活動計画 4. 2016 年度診療報酬改定に伴う ICT 環境ラウンド <p>5月18日</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 定例報告(4月の①～④含む) 2. 結核対応 3. 2016 年度診療報酬改定に伴う ICT 環境ラウンド変更点 4. 2016 年度感染対策全体研修会開催案内 <p>6月15日</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 定例報告(4月の①～④含む) 2. VRE 対応 3. 第 1 回感染対策全体研修会開催案内 4. KRICT カンファレンス開催について 5. ゴージャードイスベンサー導入に向けて 	



委員会活動

活 動 内 容

7月20日

1. 定例報告 (4月の①～④含む)
2. CDトキシン検査変更について
3. 第1回感染対策全体研修会開催報告
4. 職員の流行性ウイルス疾患ワクチン接種について

8月17日

1. 定例報告 (4月の①～④含む)
2. 結核接触者健診について
3. 第2回感染対策全体研修会開催案内
4. JANIS-QIP 新規プロジェクト参加について

9月21日

1. 定例報告 (4月の①～④含む)
2. 結核発生対応
3. 第1回感染対策全体研修会結果報告・第2回開催案内
4. 地域連携カンファレンスの開催について
5. 院内感染対策指針について

10月19日

1. 定例報告 (4月の①～④含む)
2. 結核発生対応
3. 第1回感染対策全体研修会欠席者に対する追加研修報告
4. 第2回感染対策全体研修会結果報告
5. 医療監査に向けて

11月16日

1. 定例報告 (4月の①～④含む)
2. 第2回感染対策全体研修会結果報告
3. 医療監査結果報告
4. 相互ラウンド結果報告

12月21日

1. 定例報告 (4月の①～④含む)
2. 結核対応
3. 第2回感染対策全体研修会結果報告
4. 新型インフルエンザについて
5. 感染管理認定看護師教育課程臨地実習の案内

1月18日

1. 定例報告 (4月の①～④含む)
2. インフルエンザ発生状況
3. 角化型疥癬対応
4. 結核対応
5. KRICT カンファレンス開催のお知らせ

2月15日

1. 定例報告 (4月の①～④含む)
2. インフルエンザアウトブレイク対応報告
3. ウォーターレス導入に向けて
4. KRICT カンファレンス開催報告

3月15日

1. 定例報告 (4月の①～④含む)
2. インフルエンザ発生状況



◆法定関係

○院内感染対策委員会 - ICT (Infection control team: 感染制御チーム) 部会

構 成 人 員	部 会 長	整形外科診療部長 土屋邦喜	
	副 委 員 長	内科医師 川上 覚, 外科医長 梅田修洋, 小児科医長 山本順子, 副看護師長 堀江恭子, 副看護師長 川原さおり	
	メン バ ー	診 療 部	麻酔科診療部長 茅島顕治, 内科医長 大内 洋, 整形外科医長 中村哲郎, 外科医師 梁井公輔, 心臓血管外科医師 恩塚龍士, 産婦人科医師 川上剛史, 泌尿器科医師 筒井顕郎, 心臓血管外科医師 城尾邦彦, 副院長 上村哲郎 (オブザーバ), 内科医長 小川亮介 (オブザーバ)
		看 護 部	副看護部長 永野美智代, 副看護師長 松隈真紀子, 副看護師長 三ノ丸理江, 看護師 森本 麗華, 看護師長 松山美佐紀 (オブザーバ)
		診療協力部門	主任薬剤師 桑村恒夫, 薬剤師 上原奈緒, 薬剤師 杉原徹哉, 副診療放射線技師長 安川浩介, 主任臨床検査技師 芳賀由美, 主任臨床検査技師 嶋田 薫, 主任栄養士 原 裕子, 臨床工学技士 松村考志, 理学療法士 津崎裕司, 臨床検査技師 廣永道隆 (オブザーバ)
事 務 部 他	総務企画課長 神崎啓慈, 一般職員 青谷 浩, 一般職員 上村香奈子, 九州美装株式会社 秋本 正 (院外部会員)		
会 議		月 1 回 (第 2 水曜日)	
活 動 内 容		<p>○ ICT 部会の活動目標</p> <p>【院内感染の防止とその対策を推進し安全な医療体制を構築する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・耐性菌の発生状況に関すること ・保健所への届出に関すること ・感染防止のための巡視、点検、改善に関すること ・職員教育に関すること ・感染症発生時の対応に関すること ・近隣施設や北九州感染制御チーム (KRICT) との連携に関すること ・その他院内感染対策の推進に関すること <p>○ ICT 部会の活動実績</p> <p>4月13日</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 定例報告 <ol style="list-style-type: none"> ①耐性菌報告 ②抗菌薬投与報告 <ul style="list-style-type: none"> ・抗 MRSA 投与患者 ・長期投与患者 ③感染症届出 ④血液・体液曝露事例 ⑤環境ラウンド 2. CRE 対応 3. 2015 年度の活動実績と 2016 年度活動計画案 4. 2016 年度診療報酬改定に伴う ICT 環境ラウンド <p>5月11日</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 定例報告 (4月の①～⑤含む) 2. 結核対応 3. 2016 年度診療報酬改定に伴う ICT 環境ラウンド変更点 4. 2016 年度感染対策全体研修会開催案内 <p>6月8日</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 定例報告 (4月の①～⑤含む) 2. VRE 対応 3. 第 1 回感染対策全体研修会開催案内 4. KRICT カンファレンス開催案内 5. ゴージョーディスプレイ導入に向けて 6. ミニレクチャー「標準予防策」 	



委員会活動

活 動 内 容

- 7月13日
1. 定例報告 (4月の①～⑤含む)
 2. CDトキシン検査変更について
 3. 第1回感染対策研修会開催報告
 4. 職員の流行性ウイルス疾患ワクチン接種について
- 8月10日
1. 定例報告
 2. 結核接触者健診について
 3. ジカウイルス感染症について
 4. 第2回感染対策全体研修会開催案内
 5. JANIS-QIP 新規プロジェクト参加について
- 9月14日
1. 定例報告 (4月の①～⑤含む)
 2. 結核発生対応
 3. 第1回感染対策全体研修会結果報告・第2回開催案内
 4. 院内感染対策指針について
 5. 地域連携カンファレンスのお知らせ
 6. 救急カート内の物品変更について
- 10月12日
1. 定例報告 (4月の①～⑤含む)
 2. 結核発生対応
 3. 第1回感染対策全体研修会欠席者に対する追加研修会報告
 4. 第2回感染対策全体研修会結果報告
 5. 医療監査に向けて
- 11月9日
1. 定例報告 (4月の①～⑤含む)
 2. 第2回感染対策全体研修会結果報告
 3. 医療監査結果報告
 4. 相互ラウンド結果報告
- 12月14日
1. 定例報告 (4月の①～⑤含む)
 2. 結核対応
 3. 第2回感染対策全体研修会結果報告
 4. 感染管理認定看護師教育課程臨地実習の案内
- 1月11日
1. 定例報告 (4月の①～⑤含む)
 2. インフルエンザ発生状況
 3. 角化型疥癬対応
 4. 結核対応
 5. 結核に関する研修会の案内
 6. KRICT カンファレンス開催案内
- 2月8日
1. 定例報告 (4月の①～⑤含む)
 2. インフルエンザアウトブレイク対応報告
 3. ウォーターレス導入に向けて
- 3月8日
1. 定例報告 (4月の①～⑤含む)
 2. インフルエンザ発生状況



◆法定関係

○薬事委員会

構 成 人 員	委員 長	山本英雄 (副院長)	
	副 委 員 長	内山明彦 (副院長)、末松文博 (薬剤部長)	
	メン バー	診 療 部	中原博正 (産婦人科)、高橋保彦 (小児科)、大内 洋 (内科)、 毛利正博 (内科)、山本明史 (神経内科)、藤澤 聖 (内科)、 牟田 毅 (内科)、梅田修洋 (外科)、中村哲郎 (整形外科)、原野正彦 (泌尿器科)
		看 護 部	元嶋文恵 (看護部長)、武下宣子 (外来)、宮原寛子 (8 北病棟)
		診療協力部門	奥 蘭 学 (中央検査室)、小倉秀美 (薬剤部)
事 務 部 他	島田正行 (医事課)、古田 彰 (経理課)		
会 議		1 回 / 月 開催 (毎月第 3 金曜日) 8 時 00 分～	
活 動 内 容		<p>平成 28 年 5 月 20 日 (金)、6 月 17 日 (金)、7 月 15 日 (金)、 9 月 16 日 (金)、10 月 21 日 (金)、11 月 18 日 (金)、12 月 16 日 (金)、 平成 28 年 1 月 20 日 (金)、2 月 17 日 (金)、3 月 7 日 (金)</p> <p>【医薬品を科学的・倫理的に使用し、適正に管理すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医薬品の新規採用に関すること ・医薬品の採用取消に関すること ・院内医薬品集などの作成に関すること ・その他薬事に関すること <p>5 月： 1 品目の正式採用</p> <p>6 月： 3 品目の正式採用、2 品目の採用取消 スポロトリコーシス確定診断「スポロトリキン反応液抗原」購入承認</p> <p>7 月： 4 品目の正式採用、2 品目の採用取消</p> <p>9 月： 2 品目の正式採用、1 品目の採用取消 採用医薬品の見直し手順説明提案 日本医薬品集の院内配置部署について承認 免疫グロブリン製剤医療保険上の取り扱いについて</p> <p>10 月： 1 品目の正式採用、1 品目の採用取消 採用医薬品の見直し提示 (8 品目の採用取消候補医薬品 検査値付き処方せんの発行について</p> <p>11 月： 4 品目の正式採用、2 品目の採用取消 採用医薬品の見直し承認 (8 品目の採用取消候補医薬品) メソトレキセート錠尋常性乾癬に対する適応外治療に対する承認 ダビガトラン特異的中和剤「プリズバインド静注液」限定採用の承認</p> <p>12 月： 3 品目の正式採用、2 品目の採用取消</p> <p>1 月： 5 品目の正式採用、1 品目の採用取消</p> <p>2 月： 2 品目の正式採用、2 品目の採用取消 院外処方せんにおける疑義照会簡素化プロトコルの件</p> <p>3 月： 3 品目の正式採用 高額な限定採用医薬品申請におけるチェックリストについて</p>	

委員会活動

◆法定関係

○レジメン審査部会

構 成 人 員	部 会 長		内山明彦 (副院長)
	副 部 会 長		牟田 毅 (内科)
	メ ン バ ー	診 療 部	衛藤貴子 (産婦人科)、牧山明資 (内科)、山本英雄 (内科, オブザーバー)
		看 護 部	友田恭子 (外来化学療法室)
事 務 局		桑村恒夫 (薬剤部)	
会 議			年2～3回程度 (不定期)
活 動 内 容			<p>平成28年7月14日 (木)、3月30日 (木)</p> <p>【がん化学療法の治療計画(レジメン)を科学的根拠に基づき審査し、組織的に統括、管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 院内で行われるがん化学療法の治療計画 (レジメン) を科学的根拠に基づき、実施可能か否かの審査 ・ 登録済がん化学療法レジメンの改訂時の変更の承認 ・ 登録済がん化学療法レジメンの管理 ・ その他がん化学療法レジメンの申請、承認、登録、管理に関すること <p>平成28年7月14日： 血液内科 (1)、呼吸器内科 (1)、耳鼻科 (1)、腫瘍内科 (6)、婦人科 (2) のレジメンが審査された。 各レジメンの薬剤が、該当疾患に保険適応上問題ないこと、エビデンスとなる論文・資料が審査され、提出された11レジメンすべてが承認された。</p> <p>平成29年3月30日： 呼吸器内科 (2)、血液内科 (1)、耳鼻科 (3)、腫瘍内科 (3)、婦人科 (2)、泌尿器科 (1)、乳腺外科 (1) のレジメンが審査された。 各レジメンの薬剤が、該当疾患にエビデンスとなる論文・資料が審査され、提出された13のレジメンすべてが承認された。</p>



◆法定関係

○輸血療法部会

構 成 人 員	委員 長		青木健一
	副 委 員 長		徳永滋彦
	メン バ ー	診 療 部	多治見 司 内山明彦 中原博正 茅島顕治 山本順子 土屋邦喜 川本雅彦 原野正彦 小川亮介
		看 護 部	木本妙子 白石明子 松隈眞紀子 後藤芳子 日高ひとみ
		診療協力部門	末松文博 谷 政範 奥 蘭 学 松田裕代 新宅博美
事 務 部 他		島田正行	
会 議			1回 / 2 か月開催 (第 1 水曜日 8 時～)
活 動 内 容			<p>平成 28 年 4 月 6 日 (水) 6 月 1 日 (水) 9 月 7 日 (水) 10 月 7 日 (水) 12 月 7 日 (水) 2 月 8 日 (水)</p> <p>[定例報告] 診療科別血液使用状況 (2 か月毎) 廃棄単位数と廃棄金額 (2 か月毎) アルブミン使用状況 (2 か月毎) 自己血採血報告 (2 か月毎)</p> <p>6 月 平成 27 年度診療科別血液使用状況、アルブミン使用状況、 廃棄血、輸血関連指標、査定、副作用報告</p> <p>9 月 電子カルテ更新に伴う輸血後感染症チェック機能について 洗浄血小板供給について ゼロ度輸血 インシデント報告 免疫グロブリンの医療保険上の取扱いについて</p> <p>10 月 輸血後感染症チェック機能について 輸血同意書の電子化について</p> <p>12 月 アルブミン使用中止について 電子カルテ停止時の対応について</p> <p>2 月 福岡県輸血合同委員会報告 電子カルテ更新後の問題点について</p>

委員会活動

◆法定関係

○診療録管理委員会

構 成 人 員	部 会 長		山本英雄 (副院長)
	副 部 会 長		伊藤浩司 (医療情報部)
	メ ン バ ー	診 療 部	土屋邦喜 (整形外科)・川本雅彦 (外科)・牟田毅 (内科) 酒井賢一郎 (総合診療部)・中原博正 (産婦人科) 高橋保彦 (小児科)・毛利正博 (循環器科)・小池浩次 (耳鼻咽喉科) オブザーバー [OB]: 水島明 (副院長)・内山明彦 (副院長)
		看 護 部	二見美喜子 (看護部長室)・松隈真紀子 (看護部長室)・是永緑 (医療支援部)
事 務 部 他		三島俊彦 (事務部長)・神崎啓慈 (総務企画課長) 古田彰 (経理課長)・島田正行 (医事課長) 尾茂田幸子・奥野愛子・山脇敏恵 / (医療情報部)	
会 議			1 回 /3 か月 開催 (第 4 木曜日) 8 時～
活 動 内 容			<p>2016 年 5 月 26 日・6 月 23 日・7 月 28 日・9 月 29 日・10 月 27 日・11 月 24 日 2017 年 1 月 26 日・2 月 23 日・3 月 25 日</p> <p>【診療録管理に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・診療情報及び診療録の管理、運用に関すること ・診療情報の分析、評価に関すること ・診療情報に係る提言に関すること ・診療録の監査に関すること ・その他「診療録」にかかる、委員会が決定した業務 <p>5 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子カルテ更新に伴う今後の文書等の流れについて <p>6 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文書カルテ更新に伴う定型文書化について <p>7 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明同意書について ・移行期間中のカルテ搬送期間設定について ・過去分の退院サマリのスキャンについて ・血液ガスデータの電子的運用について ・外来カルテの保管期間について ・仮想端末の時間のずれについて <p>9 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子カルテ更新において文書の進捗状況報告について ・退院サマリ担当医名複数表示について ・PET 画像のこについて



活 動 内 容	<p>10 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前月の確認事項について ・外来カルテの保管期間変更について ・入院カルテのインデックスについて ・ヒストリーマップの項目について ・記事タイトルについて ・電子カルテ記事画面の操作者の背景色について ・患者基本アイコンの色について <p>11 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「外来カルテの保管期間変更」「入院カルテインデックス」の結果と今後の作業予定報告 ・「記事タイトル」や「ヒストリーマップ」の決定 ・持参薬の指示について ・同意書の取り扱いについて <p>1 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・治験の同意書の保管場所について ・治験の同意書の保管場所について ID リンクの項目追加について ・スキャンする文書の種類について <p>2 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子カルテ更新後からの診療録に関する運用上の問題について ・スキャンの現状と今後の見通しについて
---------	---

委員会活動

◆法定関係

○診療録監査部会

構 成 人 員	部 会 長	高橋保彦 (小児科)	
	副 部 会 長	毛利正博 (循環器内科) ・二見美喜子 (看護部長室)	
	メン バー	診 療 部	川本雅彦 (外科) ・小池浩次 (耳鼻科) ・大内洋 (内科) 山本英雄 (副院長 / オブザーバー)
		看 護 部	村瀬恭子 (4 南) ・是永緑 (医療支援部) ・松隈真紀子 (看護部長室) 白石由紀 (5 南) ・松木香奈枝 (5 南) ・久保由美子 (6 北) 片山朋子 (副看護師長)
		診療協力部門	野村公子 (薬剤部) ・高永康弘 (リハビリ)
事 務 部 他	島田正行 (医事課長) ・尾茂田幸子 ・奥野愛子 / (医療情報部)		
会 議		原則的に、毎月第 4 火曜日カルテ監査を行う	
活 動 内 容		<p>・監査後の結果は診療会議等でフィードバックを行う</p> <p>(監査日程)</p> <p>平成 28 年 5 月 24 日・・・12 名参加 (25 冊)</p> <p>平成 28 年 6 月 28 日・・・10 名参加 (20 冊)</p> <p>平成 28 年 7 月 26 日・・・11 名参加 (23 冊)</p> <p>平成 28 年 8 月 23 日・・・10 名参加 (21 冊)</p> <p>平成 28 年 9 月 27 日・・・12 名参加 (22 冊)</p> <p>平成 28 年 10 月 25 日・・・ 7 名参加 (14 冊)</p> <p>平成 28 年 11 月 22 日・・・ 7 名参加 (14 冊)</p> <p>平成 29 年 1 月 24 日・・・ 7 名参加 (14 冊)</p> <p>平成 29 年 2 月 28 日・・・ 7 名参加 (14 冊)</p> <p>平成 29 年 3 月 28 日・・・ 7 名参加 (14 冊)</p>	



◆法定関係

○臨床検査管理・運営委員会

構 成 人 員	委 員 長		副院長 水島 明
	副 委 員 長		笹栗毅和
	メン バ ー	診 療 部	内山明彦、徳永滋彦、牟田 毅、一木康則 酒井賢一郎、高橋保彦、牧角健司
		看 護 部	永野美智子、古賀美砂紀
		診療協力部門	末広正人、奥蘭 学、廣永道隆、嶋田 薫、田中隆一
事 務 部 他		古田 章、島田正行	
会 議			年 1 回 (9 月 20 日)
活 動 内 容			<p>1. 検査 (検体・病理・生理・細菌) 部会提案事項</p> <p>①検体検査基準値の変更 電子カルテの更新に伴い、現基準値を福岡県医師会共通基準範囲の採用を提案。 事前に一覧をメールを送信し検討してもらう。</p> <p>②臨床検査報告書の発行中止について 外来カルテの巡回廃止に伴い超音波検査のペーパーレス化を検討。→ TQM 活動の超音波検査待ち時間短縮するとリンクして調査を行う。</p> <p>③新規検査項目 救急部の要望から、アルコール血中濃度を迅速検査(24時間対応)に追加した。(9月より) 救急部の要望から、pアミラーゼ血中濃度を迅速検査 (24 時間対応) に追加することを検討。近隣の救命救急を行っている病院を調査。ほとんどの病院が導入しており、採算は合わないが、追加することに決定。 それに伴い、アミラーゼの基質も対応できるものと変更する予定。</p> <p>④福岡ゆたか中央病院との臨床検査技師派遣 (併任) を実施。</p> <p>⑤検査単位の変更 髄液細胞数 1/3 表示を実数表示とする。(検査側で計算して入力)</p> <p>2. コバス 6000 (C501) について 6 月 9 日検証 RF、ASL に基準値変更など臨床の了解が必要だが、他の項目は良好 シクロ、タクロ検査試薬の購入申請 相見積もり準備 オンラインに 1 ヶ月が必要 正式開始は 8 月 2 日 (月) で動線調査は 10 月実施予定とする。</p> <p>休憩時間の拡大に伴う半日休の取扱いについて (45 分から 1 時間へ) 休憩時間の拡大に伴う夜勤の取扱いについて ブルダウンから夜勤入り、夜勤明けを選択 夜勤入り 勤務時間 16:00 ~ 24:30 休憩時間 21:00 ~ 21:45 時間数 7:45 夜勤明け 勤務時間 0:30 ~ 9:00 休憩時間 5:00 ~ 5:45 時間数 7:45</p> <p>・入札 (外注検査、検査試薬) について</p>

委員会活動

◆法定関係

○臨床検査適正化委員会

構 成 人 員	委員 長	笹栗毅和	
	副 委 員 長	一木康則、奥 菌 学	
	メン バ ー	診 療 部	梁井公輔、落合由恵、小川亮介、高橋保彦
		看 護 部	永野美智代、武下宣子
		診療協力部門	廣永道隆、嶋田 薫、田中隆一、松田裕代
事 務 部 他		古田 彰、島田正行	
会 議		年 2 回 (5 月 18 日、11 月 16 日)	
活 動 内 容		<p>平成 28 年度第一回 (5 月 18 日)</p> <ol style="list-style-type: none"> 件数 (平成 27 年度) 2,393,061 件 (前年度比 102.1%) 前年度とほぼ同様 超勤 (平成 27 年度) 4,036 時間 (前年度比 86.9%) 前年度に比べ全般的に減少 外部精度管理 (平成 27 年度) ほぼ順調 日本医師会・・・97.0% 日臨技・・・99.6% 福岡県医師会 (九州精度)・・・98.9% 内部精度管理 大きな問題はなかった。 人事 田中えり技師 産休・育児休暇 3 年変更 臨床検査項目導入及び廃止について p-アミラーゼの緊急、24 時間検査に追加 各部屋の状況 特に大きな問題はなかった。 実習・病院見学 5/7 から 7/21 美萩野専門学校 原口あいか その他 中央検査室は、順調に業務が行われている。 <p>平成 28 年度第二回 (11 月 16 日)</p> <ol style="list-style-type: none"> 件数 (4 月から 10 月) 1,405,831 件 (前年度比 103.3%) 前年度とほぼ同様 超勤 (4 月から 10 月) 2,628 時間 (前年度比 102.7%) 前年度とほぼ同様 外部精度管理 ほぼ順調 日臨技・・・99.1% 福岡県医師会 (九州精度)・・・9 月実施 日本医師会・・・10 月実施 内部精度管理 大きな問題はなかった。 人事 岡田昭彦技師・・・福岡ゆたか病院に併任 臨床検査項目導入及び廃止について 電子カルテの更新に伴い、現基準値を福岡県医師会共通基準範囲の採用を提案。 各部屋の状況 特に大きな問題はなかった。 実習・病院見学 救急隊の見学を引き受けた。 その他 中央検査室は、順調に業務が行われている。 	



◆法定関係

○医療機材管理委員会

構 成 人 員	委員 長	内山明彦 (副院長)	
	副 委 員 長	毛利正博 (循環器科部長)・土屋邦喜 (整形外科部長)・木本妙子 (副看護部長)	
	メン バー	診 療 部	山本英雄 (副院長)・徳永滋彦 (心臓血管外科部長)・難波江俊永 (外科医長) 中原博正 (産婦人科部長)・原野正彦 (泌尿器科部長)・茅島顕治 (麻酔科部長) 藤澤公彦 (眼科部長)・堀江靖洋 (放射線科医長)
		看 護 部	元嶋文恵 (看護部長)
		診療協力部門	末松文博 (薬剤部長)・末弘正人 (診療放射線技師長) 奥園 学 (臨床検査技師長)・濱本英治 (臨床工学技士長)
事 務 部 他	三島俊彦 (事務部長)・神崎啓慈 (総務企画課長) 古田 彰 (経理課長)・島田正行 (医事課長)・常盤欣宏 (契約係長)		
会 議		随時開催	
活 動 内 容		医療機材管理委員会、医療機器管理部会、診療材料購買部会は同時開催。必要時に開催される。	

委員会活動

◆法定関係

○医療機材管理委員会 - 医療機器管理部会

構 成 人 員	委 員 長		内山明彦 (副院長)
	副 委 員 長		濱本英治 (臨床工学技士長)・松本一志 (主任臨床工学技士)
	メン バ ー	診 療 部	難波江俊永 (外科部長)・田村恭久 (内科医員)
		看 護 部	木本妙子 (副看護部長)・松浦洋子 (看護師長)・松隈眞紀子 (副看護師長)
		診療協力部門	末弘正人 (診療放射線技師長)・奥園 学 (臨床検査技師長)
事 務 部 他		古海政浩 (総務企画課主任技能職員)・山田ちから (経理課)・常盤欣宏 (契約係長)	
会 議			医療器材管理委員会と同時開催
活 動 内 容			<p>医療機材の保守管理に対する指導・教育を主とする部会である。</p> <p>定例活動</p> <p>①中央化医療機材、ドクターカー搭載機器の保守管理 定期点検、一年点検の計画を策定し保守管理を行う。</p> <p>②医療機材の保守管理に対する指導・教育 職員 (他職種) に対して必要に応じた、使用機器、新規購入機器に関する指導教育を行う。 集中治療室特殊機器説明会 (PCPS、IABP、CHDF) 人工呼吸器説明会、輸液・シリンジ・経腸栄養ポンプは、4月新人医師、5月新人看護師に対し研修会を行う。</p> <p>③安全管理：院内へ持ち込む全医療機器の安全性の確認 (205 件) 院内に持ち込まれる機器の把握と安全性と使用方法の確認を行い医療事故防止に努める。また、院内で使用している機器の点検記録の確認及びメーカーによる点検の実施確認を行う。</p> <p>④医療機材に関し、計画的・統一的整備の立案、専門知識を生かした購入・選定への提言。 機器購入窓口を一本化し、経理課と連携を取り機器整備を進める。</p>



◆法定関係

○医療機材管理委員会 - 中央材料室運営部会

構 成 人 員	委員 長		丹生谷洋子 (看護師長)
	副 委 員 長		堀江恭子 (副看護師長)
	メン バ ー	診 療 部	内山明彦 (副院長)・山本英雄 (副院長)・土屋邦喜 (整形外科部長) 梁井公輔 (外科医師)・藤澤公彦 (眼科部長)・小池浩次 (耳鼻咽喉科部長)
		看 護 部	木本妙子 (副看護部長)・和田裕子 (副看護師長)・森本麗華 (看護師)
		診療協力部門	末弘正人 (診療放射線技師長)・奥蘭 学 (臨床検査技師長) 濱本英治 (臨床工学技士長)
事 務 部 他		古田 彰 (経理課長)・小永吉悦子 (外部委員)・山田ちから (経理課)	
会 議			随時開催
活 動 内 容			1. 開催実績なし

委員会活動

◆法定関係

○医療機材管理委員会 - 診療材料購買部会

構成 人員	委員長	内山明彦 (副院長)	
	副委員長	古田 彰 (経理課長)	
	メンバー	診療部	水島 明 (副院長)・川本雅彦 (外科部長)・土屋邦喜 (整形外科部長) 毛利正博 (循環器部長)・藤澤公彦 (眼科部長)・高橋保彦 (小児科部長) 原野正彦 (泌尿器部長)・茅島顕治 (麻酔科部長)・田村恭久 (内科医員)
		看護部	木本妙子 (副看護部長)・白石明子 (看護師長)・松隈真紀子 (看護師長)
		診療協力部門	末松文博 (薬剤部長)・末弘正人 (放射線技師長) 奥蘭 学 (臨床検査技師長)・濱本英治 (臨床工学技士長)
事務部他	三島俊彦 (事務部長)・島田正行 (医事課長)・常盤欣宏 (契約係長) 中村祐己 (医事課)・山田ちから (経理課)		
会議		毎月第3火曜日	
活動内容		<p>開催日 平成 28 年 4 月 19 日・6 月 21 日・7 月 19 日・8 月 24 日・ 9 月 20 日・11 月 15 日・12 月 20 日・1 月 17 日・2 月 21 日</p> <p>1. 新規診療材料採用協議を行う。 採用件数 75 件 (内限定採用 28 件)</p>	



◆医療安全関係(例)

○棚卸実施委員会

構 成 人 員	委 員 長		多治見 司(院長)
	副 委 員 長		
	メ ン バ ー	診 療 部	
		看 護 部	木本妙子(副看護部長)
		診療協力部門	末松文博(薬剤部長)・三輪真紀子(副栄養管理室長) 安川浩介(診療放射線副技師長) 奥園 学(臨床検査技師長)
	事 務 部 他	三島俊彦(事務部長)・古田 彰(経理課長) 常盤欣宏(契約係長)・宮本芳裕(施設管理係員)	
会 議			随時開催
活 動 内 容			<p>1. 目的</p> <p>実地棚卸の実施に関して必要な事項を定め、実地棚卸の円滑な遂行を図り、棚卸資産の管理の適正を図ることを目的とする。</p> <p>2. 開催</p> <p>・平成 29 年 3 月 22 日</p>

委員会活動

◆法定関係

○地域医療連携推進委員会

構 成 人 員	委員 長	水島 明 (副院長)	
	副 委 員 長	是永 緑 (医療支援部長)・林 秀俊 (ハビリテーション士長)	
	オブザーバー	多治見 司 (院長)	
	メン バー	診 療 部	内山明彦 (副院長)・山本英雄 (副院長)・上村哲郎 (副院長) 土屋邦喜 (整形外科診療部長)・原野正彦 (泌尿器科診療部長) 中原博正 (産婦人科診療部長)・高橋保彦 (小児科診療部長) 山本明史 (神経内科診療部長)・川本雅彦 (外科医長)・折口秀樹 (内科医長) 出雲明彦 (総合診療部医長)・伊野波論 (脳神経外科医師)
		看 護 部	元嶋文恵 (看護部長)・永野美智代 (副看護部長)・二見美喜子 (看護師長) 武下宜子 (看護師長)・宮原寛子 (看護師長)・高田由美子 (副看護師長) 谷口由美子 (副看護師長)
診療協力部門		末松文博 (薬剤部長)・末弘正人 (診療放射線技師長)・奥 蘭 学 (臨床検査技師長) 三輪真紀子 (副栄養管理室長)・峯 修平 (医療社会事業専門員)	
事 務 部 他		三島俊彦 (事務部長)・神崎啓慈 (医事課長)・古田 彰 (経理課長) 橋本裕次 (総務企画課長)・島田正行 (医事課長)・中村省三 (経理係長) 池田 隆 (総務係長)・伊地知法 (医事課入院係長)・曾我美穂子 (医療支援部事務員)	
会 議		年 / 3 回 開催 17 : 30 ~	
活 動 内 容		<p>第 1 回 平成 28 年 11 月 28 日 (火)、第 2 回 平成 28 年 12 月 7 日 (水) 第 3 回 平成 29 年 3 月 13 日 (金)</p> <p>【定例報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登録医数と地域性 ・紹介率、逆紹介率 ・事前紹介件数 ・転院件数、転院先医療機関 ・開放型病床稼働率 ・地域連携クリティカルパス ・退院支援スクリーニングシート提出数 / 医療支援部介入数と内訳 ・救急センター当日転送患者数 ・医科歯科連携 ・在宅復帰率 <p>【その他の報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケア推進室活動報告 ・ICT ネットワーク事業 / きしのうらネットについて ・連携誌「連携のかけ橋」の発行回数と内容 ・FAX での文章発送と経過報告について ・地域医療研修参加者数報告とプログラムについて ・ネットワークフォーラム開催報告 ・がん診療連携会開催報告 <p>【検討事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きしのうらネット閲覧項目追加に関する審議 ・医療機関マスタへ調剤薬局登録に関する審議 	



◆法定関係

○保険診療対策委員会 - DPC 部会

構 成 人 員	委員 長	山本英雄	
	副 委 員 長	島田正行	
	メン バー	診 療 部	多治見 司(オブザーバー)、内山明彦(オブザーバー) 元嶋文恵(オブザーバー)、土屋邦喜、梅田修洋、伊野波諭 一木康則、中原博正、藤澤公彦、小池浩次、高橋保彦
		看 護 部	木本妙子
		診療協力部門	末松文博、末弘正人、奥蘭 学
事 務 部 他	三島俊彦、古田 彰、伊地知法、家根 茂、大塚のり子、中村朋代 大塚陽子(オブザーバー)、山田貴代加(オブザーバー)、藤浪瑞香(オブザーバー)		
会 議		DPC 部会 年 4 回開催	
活 動 内 容		<p>標準的な診断及び治療方法の周知を徹底し、適切な診断を含めた診断群分類の決定(コーディング)を行う体制を確保し、診療内容の標準化及び健全経営の向上に寄与する。</p> <p>部会は次に掲げる事項を所掌する。</p> <p>①適切な診断を含めた診断群分類の決定に関すること。 ②標準的な診断及び治療方法に関すること。 ③診療内容の標準化に関すること。 ④ DPC 分析による健全経営の向上に関すること。</p> <p>平成 28 年度は 7 月・12 月・2 月・3 月に開催した。 上記内容に基づき、院内のコーディング事例に関する検討や DPC データを使用した分析内容を報告した。</p>	

委員会活動

◆法定関係

○査定検討会

構 成 人 員	委 員 長		内山明彦
	副 委 員 長		島田医事課長
	メン バ ー	診 療 部	山本英雄・上村哲郎・土屋邦喜・牟田 毅 中原正博・小池浩次・高橋保彦
		看 護 部	元嶋文恵
		診療協力部門	
事 務 部 他		古田経理課長、医事課：伊地知課長補佐、各病棟入院係 医事課：ニチイ外来各担当者等	
会 議			毎月、最終水曜日に開催
活 動 内 容			<p>毎月、副院長を交え査定の状況を報告し、査定が減少する対策を講じるため、検討会を実施しています。</p> <p>毎月支払基金・国保連合会から通知される減点連絡書により、査定状況表・査定項目集計表等を医事課職員が月当番で作成し、それを元に査定検討会で討議しています。</p> <p>入院係は各担当診療科、外来係は診療区分ごとの担当グループに分かれ、各査定の理由、再審査、対策等を各診療科部長と相談し、検討会で発表します。この会議では、診療科医師が再審査しない判断を、副院長から再審査をするように指示があったり、注意事項を今後の査定対策として、業務に生かすように行っています。</p>



◆法定関係

○がん治療部会

構 成 人 員	委員 長	内山明彦	
	副 委 員 長	牟田 毅・渥美和重・尾野肖子・近藤恵子	
	メン バー	診 療 部	一木康則・中村勝也・梅田修洋・川本雅彦・小川亮介 原野正彦・衛藤貴子・小池浩次・笹栗毅和・牧山明資
		看 護 部	友田恭子・宮原留美
		診療協力部門	桑村恒夫
	事 務 部 他	石田真由美	
会 議		年 1 回開催	
活 動 内 容		<p>がん診療および腫瘍カンファレンスの充実と、がん診療に附帯する関係業務の円滑な運営を図ることを目的とし、がん治療（手術・化学療法・放射線治療など）に関すること、腫瘍カンファレンス（カンサーボード）に関すること、その他「がん」にかかる部会が決定した業務について掌握する。</p> <p>第 1 回 開催日：平成 28 年 6 月 29 日（金）8：00～8：30 電子カルテ更新時にレジメンシステム導入を行うかについて</p> <p>カンサーボード</p> <p>第 22 回 平成 28 年 7 月 6 日 ・血液、腫瘍 未分化癌や悪性リンパ腫と鑑別を要した副鼻腔腫瘍の一例 ・乳腺 呼吸不全にて救急搬送された進行乳癌の一例</p> <p>第 23 回 平成 28 年 11 月 2 日 ・肝胆膵 膵扁平上皮癌の一例 ・泌尿器 多発腎癌に対して腎部分切除を行った症例</p> <p>第 24 回 平成 29 年 3 月 1 日 ・下部消化管 Lynch 症候群（HNPCC）が疑われた小腸癌の一例</p>	

委員会活動

◆法定関係

○治験審査委員会

構 成 人 員	委員 長	山本英雄 (副院長)	
	副 委 員 長	末松文博 (薬剤部長)	
	メン バ ー	診 療 部	内山明彦 (副院長)・高橋保彦 (小児科)・毛利正博 (循環器科) 笹栗毅和 (臨床病理検査)・難波江俊永 (外科)・立石貴久 (神経内科) 原田大志 (呼吸器内科)
		看 護 部	元嶋文恵 (看護部長)
		診療協力部門	奥 菌 学 (検査技師長)
事 務 部 他	三島俊彦 (事務部長)・古田 彰 (経理課課長)・島田正行 (総務企画課課長) 垣内龍介・尾倉洋文・正文文久 (外部委員)		
会 議		毎月開催 (1回/月) 平成27年5月以降毎月開催	
活 動 内 容		<p>開催日</p> <p>平成27年：5月19日 (木)、6月20日 (月)、7月19日 (火)、8月22日 (月)、 9月20日 (火)、10月17日 (月) 11月21日 (月)、12月19日 (月)</p> <p>平成28年：1月16日 (月)、2月20日 (月)、3月21日 (火)</p> <p>5月 ・治験実施計画書等の変更承認願 5件 ・重篤な有害事象に関する報告 1件 ・新たな安全性情報に関する報告 3件 ・治験関係報告 4件</p> <p>6月 ・新規治験審査 2件 ・治験実施計画書等の変更承認願 2件 ・重篤な有害事象に関する報告 2件 ・新たな安全性情報に関する報告 5件 ・治験関係報告 3件</p> <p>7月 ・治験実施計画書等の変更承認願 1件 ・重篤な有害事象に関する報告 2件 ・新たな安全性情報に関する報告 3件 ・治験関係報告 2件</p> <p>8月 ・治験実施計画書等の変更承認願 2件 ・重篤な有害事象に関する報告 1件 ・新たな安全性情報に関する報告 6件 ・治験関係報告 3件</p> <p>9月 ・治験実施計画書等の変更承認願 2件 ・新たな安全性情報に関する報告 5件 ・治験関係報告 1件</p>	



委員会活動

活 動 内 容

10月	・新規治験審査	1件
	・治験実施計画書等の変更承認願	1件
	・重篤な有害事象に関する報告	1件
	・新たな安全性情報に関する報告	4件
	・治験関係報告	2件
11月	・新規治験審査	1件
	・重篤な有害事象に関する報告	1件
	・新たな安全性情報に関する報告	7件
	・治験関係報告	3件
12月	・治験実施計画書等の変更承認願	1件
	・新たな安全性情報に関する報告	6件
	・治験関係報告	2件
1月	・新規治験審査	3件
	・治験実施計画書等の変更承認願	1件
	・重篤な有害事象に関する報告	1件
	・新たな安全性情報に関する報告	8件
	・治験関係報告	1件
2月	・新規治験審査	3件
	・治験実施計画書等の変更承認願	6件
	・重篤な有害事象に関する報告	2件
	・新たな安全性情報に関する報告	9件
	・治験関係報告	5件
3月	・継続審査	13件
	・治験実施計画書等の変更承認願	5件
	・重篤な有害事象に関する報告	1件
	・新たな安全性情報に関する報告	12件
	・治験関係報告	10件

委員会活動

◆法定関係

○契約審査委員会

構 成 人 員	委 員 長		三島俊彦 (事務部長)						
	副 委 員 長								
	メン バ ー	診 療 部	内山明彦 (副院長)・山本英雄 (副院長)・土屋邦吉 (整形外科部長)						
		看 護 部	木本妙子 (副看護部長)						
		診療協力部門	末弘正人 (診療放射線技師長)・濱本英治 (臨床工学技士長)						
事 務 部 他		島田正行 (医事課長)・古田 彰 (経理課長)・常盤欣宏 (契約係長)							
会 議			随時開催						
活 動 内 容			<p>1. 開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 28 年 5 月 31 日 ・平成 28 年 7 月 20 日 ・平成 28 年 9 月 13 日 ・平成 29 年 1 月 17 日 <p>2. 審議対象</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、予定価格が 1000 万円以上の一般競争入札又は指名競争による契約 2、契約事務取扱細則第 16 条第 1 項に規定する契約 (公募型企画競争) 3、予定価格が契約事務取扱細則第 27 条第 1 号から第 6 号までに規定する金額を超える随意契約 4、その他経理責任者が必要と認めた契約 5、四半期毎に取引業者別の支払額 <p>3. 平成 28 年度 実績</p> <p>(1) 件数</p> <table border="0"> <tr> <td>一般競争入札</td> <td>188 件</td> </tr> <tr> <td>随意契約</td> <td>76 件</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>264 件</td> </tr> </table>	一般競争入札	188 件	随意契約	76 件	合計	264 件
一般競争入札	188 件								
随意契約	76 件								
合計	264 件								



◆業務関係

○集中治療室等運営委員会

構 成 人 員	委員 長		内山明彦
	副 委 員 長		落合由恵、毛利正博、松浦洋子
	メン バ ー	診 療 部	徳永滋彦、伊野波 諭、田村恭久、山本明史、高橋保彦、 山本順子、茅島顕治、大内 洋
		看 護 部	木本妙子、松隈真紀子、古賀美砂紀、松山美佐紀、麻生真智子、 白石明子、細川知子
		診療協力部門	末弘正人、濱本英治、松村孝志、小倉秀美
事 務 部 他		三島俊彦、池田 隆、神崎啓慈	
会 議			毎月第 2 木曜日 8:00～8:30 大会議室にて実施
活 動 内 容			<ol style="list-style-type: none"> 1. 8月を除く 11 回、ICU・NICU・GCU・6S 救急室・HCU における定例報告とインシデント報告 2. ME による人工呼吸器管理報告 3. 関連部署における検討事項が発生した場合、委員長の判断により議題として検討

委員会活動

◆業務関係

○手術室運営委員会

構 成 人 員	委 員 長		内山明彦 (副病院長)
	副 委 員 長		茅島顕治 (麻酔科)・白石明子 (手術室)
	メン バー	診 療 部	水島 明 (副病院長)・山本英雄 (副病院長)・上村哲郎 (副病院長) 川本雅彦 (外科)・難波江俊永 (外科)・伊野波 論 (脳神経外科)・一木康則 (内科) 毛利正博 (循環器科)・原野正彦 (泌尿器科)・宗内 淳 (小児科)・中原博正 (産婦人科) 藤澤公彦 (眼科)・篠崎賢治 (放射線科)・小池浩次 (耳鼻咽喉科)
		看 護 部	木本妙子 (看護部)・松隈真紀子 (医療安全室) 松浦洋子 (集中治療室)・川原さおり (手術室)
		診療協力部門	末弘正人 (放射線室)・奥蘭 学 (中央検査室)・居塚しのぶ (薬剤部) 濱本英治 (臨床工学室)・松本一志 (臨床工学室)
事 務 部 他		三島俊彦 (事務局長)・島田正行 (医事課)・古田 彰 (経理課) 山本 勇 (総務企画課)・常磐欣宏 (経理課)・藤田美咲 (医事課)	
会 議			1 回 / 月 開催 (毎月第 2 火曜日) 8:00 ~
活 動 内 容			<p>平成 28 年 4 月 12 日、5 月 10 日、6 月 14 日、7 月 8 日、9 月 13 日、10 月 11 日、 11 月 8 日、12 月 3 日、平成 29 年 1 月 10 日、2 月 14 日、3 月 14 日</p> <p>【定例報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手術症例数、急患症例数、時間外搬入症例数、麻酔別症例数 ・手術室回復室利用状況 ・インシデント報告 ・バリエーション報告 ・医療材料損失物品 <p>4 月： 定例報告 (3 月分、平成 27 年度年間報告) 医師の更衣室使用状況の報告とお願い</p> <p>5 月： 定例報告 (4 月分) 医師個別の要望への今後の対応</p> <p>6 月： 定例報告 (5 月分) 心筋保護液 (ミオテクター) 導入について 標本室での針の始末についての注意喚起</p> <p>7 月： 定例報告 (6 月) 心筋保護液 (ミオテクター) 作成の運用について</p> <p>9 月： 定例報告 (7 月・8 月分) 帝王切開で出生後、手術 (腹壁破裂・髄膜瘤など) をする児の カルテ運用変更について</p> <p>10 月： 定例報告 (9 月分、平成 28 年度上半期報告)</p> <p>11 月： 定例報告 (10 月分)</p> <p>12 月： 定例報告 (11 月分) 電子カルテ更新に伴う手術システム停止の周知</p> <p>1 月： 定例報告 (12 月分) 年末年始休暇中の報告</p> <p>2 月： 定例報告 (1 月分) ウォーターレス手洗い導入の方針</p> <p>3 月： 定例報告 (2 月分) 新手術システム導入後の問題点 ウォーターレス手洗い導入の進捗状況報告</p>



◆業務関係

○広報委員会

構 成 人 員	委員 長	小児科診療部長	高橋 保彦	
	副委員 長	副院長 リハビリテーション室 医療支援部	山本 英雄 林 秀俊 是永 緑	
	メン バー	診 療 部	外科 外科 内科 総合診療部	梅田 修洋 川本 雅彦 折口 秀樹 酒井 賢一郎
		看 護 部	副看護部長	永野 美智代
		診療協力部門	薬剤部 放射線室 医療支援部 栄養管理室 中央検査室	吉国 健司 甲斐 瑞之 峯 修平 三輪 真紀子 酒谷 幸雄
事 務 部 他		総務企画課 経理課 院長(オブザーバー) 副院長(オブザーバー) 総務企画課(事務局)	家根 茂 古田 彰 多治見 司 水島 明 海野 聡美	
会 議		1 回 / 年		
活 動 内 容		<p>1. 「病院ホームページ」 現在管轄 総務 家根 酒谷さんより</p> <ul style="list-style-type: none"> ●新着情報は更新日付でソートされるので、開催日で更新している。 ●日付のないもので常時上位に掲載希望があればご連絡を。 ●新着情報エリアもファイル数を見て拡張縮小している。 ●トピックスは現時点で新着情報のようにソートできない。 家根さんに並べ替え可能かどうか確認中。 <p>2. 「診療案内誌」 現在管轄 総務 海野</p> <ul style="list-style-type: none"> ●毎年とのことなので、要領はわかっているが、HP の内容確認が確定できていない等、診療案内誌の作成時診療科への案内を徹底していただきたい。 ●発行部数は 2,000 部から 1,800 部に変更する。 ●メディカルネットワークフォーラム時に配布 <p>3. 「メディカルナウ」 現在管轄 総務 海野</p> <ul style="list-style-type: none"> ●外向けの広報誌なので、ダヴィンチや放射線治療のアピールを行う。 ●認定看護師の順番は看護師で把握している。 <p>4. 「連携の架け橋」 現在管轄 医療支援部</p> <ul style="list-style-type: none"> ●4月と5月号は併せて送付する <p>5. 「風の広場」 現在管轄 リハビリ 林</p> <ul style="list-style-type: none"> ●コストを確認する 		

委員会活動

活 動 内 容

6. 外来待合のプラズマディスプレイ 現在管轄 総務 海野
- 各部署より海野宛てデータの依頼があるが、電子カルテからのアップになる為酒谷さんへデータをデスクネットで送り、電子カルテでデータをいただきアップしている。
7. 電カルトップ画面 現在管轄 酒谷・林・情報部・総務
- 電子カルテ更新で画面をハイビジョンサイズに変更したので情報量を増やせるようになり、画面右下に研修会・講習会等のお知らせ欄を作成。
 - 右下にはトピックスなど、画像。動画を配置できるようにした。
8. デジタルサイネージ(院内広報) 現在管轄 総務 運用は酒谷(写真室)、林(リハ)
- 制限なし、無制限、一応無制限、指示あるまで、長期、などの指定があるが新鮮味？にかける。
 - 内容が同じでもスライドは変更した方が見てもらえるのでは？
 - 契約については家根さんに確認してもらう。
9. 「ホスピタルギャラリー」 現在管轄 写真室 酒谷
- 2016 年 3 月 看護部 4 部署 5 南・7 北・4 北・ICU
- 2016 年 5 月 看護部 3 部署 4 南・9 南・9 北
- 2016 年 7 月 看護部 3 部署 5 北・NICU・特殊外来
- 2016 年 10 月 チーム医療 心リハ・NST
- 2017 年 1 月 チーム医療 入退院センター
- 2017 年 3 月 チーム医療 医療安全管理部・ICT
10. 「JCHO 九州病院 平成 28 年度年報」 現在管轄 総務 海野
- 平成 28 年の診療案内誌を元に作成予定
- その他
- フリーイラストに対して、著作権の問題があった。悪質なネットもあるので勝手に使用しない。



◆業務関係

○外来救急運営部会

構 成 人 員	委員 長	山本英雄 (副院長)	
	副 委 員 長	出雲明彦 (医長)、梁井公輔 (医師) 高橋保彦 (診療部長)、武下宣子 (看護師長)	
	メン バ ー	診 療 部	水島 明、内山明彦、上村哲郎、土屋邦喜、伊野波 諭、平賀聖久 牟田 毅、毛利正博、山本明史、一木康則、菊池 幹
		看 護 部	木本妙子、丹生谷洋子、松浦洋子、古賀美砂紀 松山美佐紀、是永 緑、松隈真紀子
		診療協力部門	末松文博 (薬剤部)、末弘正人 (放射線室)、奥 蘭 学 (中央検査室) 松村考志 (臨床工学室) 小倉秀美 (薬剤部)
事 務 部 他	古田 彰 (経理課)、島田正行 (医事課)、伊地知 法 (医事課) 山本 勇 (総務企画課)、藤田美咲 (医事課)、下町浩樹、小野明美 (外来)		
会 議			
活 動 内 容		<p>【目的】 業務改善の推進を通じて独立行政法人 地域医療機能推進機構 九州病院運営の効率化と職員の意欲向上を図り、もって患者等サービスの向上に資することを目的。 外来および救急にかかわるさまざまな問題を討議、解決し、診療における業務の円滑化、健全経営の向上を図る。</p> <p>【組織】 診療部門：副院長、診療科部長、診療各科職員 診療協力部門：薬剤部・放射線室・臨床工学室・中央検査室・医療支援部</p> <p>看護部：看護部に所属する職員 事務局：総務企画課・経理課・医事課 外来救急運営部会は上記にあげる部門の職員をもって構成する。</p> <p>【28年度の活動目標】 1) 外来・救急の普遍的問題を討議し、当部会内解決できる内容とできない内容を明確にする。 2) 解決できる内容については、速やかに対策を決定し実行する。 3) 解決できない内容については、当部会内の意見を管理会議に提出。</p> <p>【28年度定例会議】 4月20日(水)、5月18日(水)、6月15日(水)、7月20日(水)、9月21日(水) 10月19日(水)、11月16日(水)、12月14日(水)、1月18日(水)、3月15日(水)</p> <p>【28年度活動報告】 総務企画課、救急外来、外来、薬剤部、医療支援部から定例報告を実施。その他に検討事項があれば当部会で検討をする。(以下、検討事項の一部を掲載) ・救急患者に対する電話対応について、連絡経路等、再度内容の確認。特に、内科、小児科、外科外来ではかかりつけ医からの急患や予約外患者の受診相談を各外来主任が持つPHSに直接電話をしていただき検討する体制を作った。医療フォーラムなどでも周知した。 ・外来受診時の代医への変更について、ホームページ掲載文書内容 ・電カル更新時、①外来紙カルテ廃止時の運用確認、②入院後の持参薬の使用に関して周知徹底を図った。 ・救急車の搬入に関して受け入れ医から救急外来への連絡の徹底を行った。</p>	

委員会活動

◆業務関係

○病棟運営部会

構 成 人 員	部 会 長	内山副院長	
	副 部 会 長	山本副院長 木本副看護部長	
	メン バ ー	診 療 部	土屋、中島、落合、石川、牟田、原野、中原 藤澤(公)、小池、高橋、山本(明)、一木、菊池
		看 護 部	丹生谷師長、是永師長 各病棟看護師長 14 名
		診療協力部門	林技師長
事 務 部 他	神埼総務企画課長、古田経理課長 島田医事課長、伊地知課長補佐		
オブザーバー		多治見院長、三島事務部長、元嶋看護部長、永野副看護部長	
会 議			
活 動 内 容		<p>(目 的)</p> <p>地域医療機能推進機構九州病院の入院病床を有効に活用し、診療科別の効率的な配分を行い、健全経営に寄与することを目的とする。</p> <p>部会は次の各号にあげる事項を所掌する。</p> <p>①科別病床配分の再編検討に関すること。</p> <p>②その他病床管理及び運営に関すること。</p> <p>【平成 28 年度開催】</p> <p>平成 29 年 3 月 1 日 8:00～8:30</p> <p>議 題 (1) 病棟の状況と課題</p> <p>(2) その他</p>	



◆業務関係

○内視鏡室運営部会

構 成 人 員	委員 長	藤澤 聖 (内科)	
	副 委 員 長	内山明彦 (副院長)・平賀聖久 (放射線科)	
	メン バ ー	診 療 部	酒井賢一郎 (総合診療部)・川本雅彦 (外科) 難波江俊永 (外科)・上平幸史 (内科)
		看 護 部	木本妙子 (看護部長室)・松隈真紀子 (看護部長室) 古賀美砂紀 (特殊外来)・後藤貴子 (特殊外来)
		診療協力部門	濱本英治 (臨床工学室)・松本一志 (臨床工学室) 長富有樹 (臨床工学室)・矢川結香 (薬剤部)
事 務 部 他		家根 茂 (総務企画課)	
会 議		1 回 / 月開催 (毎月第 1 火曜日)	
活 動 内 容		<p>H28 年度 開催日: 4/5、6/7、7/5、9/6、10/4、12/6、2/7、3/7</p> <p>【定例報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出張内視鏡件数 ・宅直呼出し件数 ・ESD 症例件数・内容 ・時間外開始の予定症例件数・内容 ・鎮静剤使用患者数・内容 ・外来内視鏡患者の待ち時間について ・高周波機器 (VIO) の待ち時間について ・臨床工学技師より機器故障・修理状況 ・バリエーション件数・詳細 <p>【検討・決定・報告事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4 月: 平成 27 年度 まとめ 申請機器の納入時期について ・6 月: ICU・OPR への出張内視鏡の 2 事例報告 ・7 月: 夜間・休日の緊急出張内視鏡時の ME 準備について ・9 月: 外来上部 EUS 時の鎮静剤使用・同意書について ・10 月: 内視鏡規約の改定、内視鏡室台帳作成、 ERCP 同意書の内容検討について ・12 月: 長時間 ESD の報告 ・2 月: 年末年始の急患数・検査内容報告 ・3 月: 今年度の職員健診数報告 来年度の職員健診の運用方法について 	

委員会活動

◆業務関係

○入退院センター部会

構 成 人 員	委員 長		水島 明 (副院長)
	副 委 員 長		木本妙子 (副看護部長)、是永 緑 (看護師長) 末松文博 (薬剤部長)、神崎啓慈 (医事課長)
	メン バ ー	診療部門	毛利正博、川本雅彦、村島浩二
		看護部	武下宣子、平石絵里子、稻田妙子、早田真由美 川原さおり、有村博江、谷田美弓、山崎加奈子
		診療協力部門	居塚しのぶ (薬剤師)、林 秀俊 (リハビリテーション士長) 三輪真紀子 (副栄養管理室長)
事務部 他		家根 茂 (経営企画課)、鳥田正行 (医事課) 石橋寛明 (医事課)	
会 議			隔月第2水曜日 8:00 ~ 8:30
活 動 内 容			<p>【目的】 入退院センターは、入院・手術に関するオリエンテーションを入院前に行うことで患者サービスの向上に努め、オリエンテーション業務の一元化により、業務の効率化を図っている。又、入院前に患者基本情報を収集し、身体的・精神的・社会的リスクを評価、入院中問題となり得る情報を事前に関連部署へ伝達することで、医療安全の向上を目指すとともに、円滑な病床運用を達成することを目的としている。</p> <p>【組織】 入退院センター部会は以下の部門の職員をもって構成する。 診療部門：副院長、診療科部長、診療各科職員 診療協力部門：薬剤部、栄養部、リハビリテーション室、医療支援部 看護部：看護部に所属する職員 事務局：総務企画課、医事課</p> <p>【28年度活動目標】 ・全診療科予定入院患者のうち3分の2以上の利用 ・周術期口腔管理の充実を目的とした地域歯科との連携 ・入退院センター・外来・病棟の役割分担 ・外来カルテ廃止・電子カルテ更新への対応 ・寝衣リースの導入などによる患者サービスの向上</p> <p>【28年度活動報告】 4月から眼科、9月から心臓血管外科の取り扱いを始めた。来年度は、全予定入院患者7割の利用を目標に活動する。 歯科連携を含めた周術期口腔機能管理を8月からスタートさせ、2017年2月までの7カ月で肺・食道疾患での手術予定患者に対して約100件の連携を行った。 設立から3年が経過し、入退院センターと外来・病棟の明確な機能分化ができてきており、外来診療・入院診療ともに現場の負担軽減につながっている認識を得ている。来年度は活動の効果を可視化し、広報できることを目標とする。</p>



◆業務関係

○改善活動連絡委員会 - クリティカルパス部会

構 成 人 員	委員 長	山本英雄 (副院長)	
	副 委 員 長	松山美佐紀 (6 南師長)	
	メン バー	診 療 部	内山明彦 (オブザーバー)、水島 明 (オブザーバー)、梁井公輔、中原博正 山本順子、原野正彦、一木康則、平賀聖久、落合由恵、青木健一、上平幸史 山本明史、渡邊まみ江
		看 護 部	木本妙子、二見美喜子、是永 緑、本田久美、山田弥生、池田浩子、片山朋子 平方多美子、若宮幸恵、山際みゆき、蔵本 潤、浅野真里、福田佳那子、遠藤裕子 安藤幸子、金田朋子、加藤真由美、岡本芽衣子、稲富紗智、樋口恵美、井上千恵美 水橋麻衣子、藤本いずみ、宮原留美
		診療協力部門	林 秀俊、藤村弥生、石田真由美、田中隆一、村田真知子、十時浩二、三輪真紀子
事 務 部 他	大塚のり子、中村朋代、藤浪瑞香		
会 議		1 回 / 月 第 1 月 曜 日 17 時 30 分 ~	
活 動 内 容		<p>【定例会議】 平成 28 年 4 月 4 日 (月), 5 月 2 日 (月), 6 月 6 日 (月), 7 月 4 (月) 9 月 5 日 (月), 10 月 3 日 (火), 11 月 7 日 (月), 12 月 5 日 (月) 平成 29 年 1 月 16 日 (月), 2 月 6 日 (月), 3 月 6 日 (月)</p> <p>【議題】 効率的なパスの検討 4 月 7 南: イレウスパス、8 南: 人工股関節全置換術パス 5 月 平成 28 年度の目標決定 6 月 6 北: 肺癌化学療法 (ランダ + アリムタ + アバスチン) パス、 8 北: 内視鏡的静脈瘤結紮療法パス 7 月 5 北: 糖尿病教育入院パス、ICU: 急性心筋梗塞パス 9 月 5 南: 膀胱腫瘍摘出術パス、8 南: (前方) 人工股関節置換術パス 10 月 4 南: 膣式単純子宮全摘術パス、9 北: 硝子体手術パス 11 月 8 南: 発表練習 12 月 7 南: 腹腔鏡下幽門側胃切除術パス 1 月 6 北: 在宅酸素療法 (HOT 導入) パス、7 北: XELOX 療法パス 2 月 5 南: ロボット支援腹腔鏡下根治的摘除術パス 8 北: タップテストパス、9 北: めまい症パス 3 月 4 南: TC 療法パス、5 北: ベースメーカー植込み術パス</p> <p>【パス大会】 < 演題 > 4 南: 子宮内容除去術・子宮内膜搔爬術パス 5 北: 心房細動 ABL パス 6 北: オブジーボパス 7 北: R-CHOP パス 7 南: 胃切除パス 9 北: 翼状片手術パス</p> <p>< 教育講演 > アウトカムマスターを BOM へ (中央検査室・村田) DPC とパスのつながり (医事課・中村)</p>	

委員会活動

◆業務関係

○改善活動連絡委員会 - TQM推進部会

構 成 人 員	部 会 長	宮田健二 (健診部長)	
	副 部 会 長	後藤芳子 (7北病棟師長)	
	メン バ ー	診 療 部	内山明彦 (オブザーバー)、衛藤貴子、横田千恵、牧角健司、鬼塚 健
		看 護 部	二見美喜子、麻生真智子、細川知子、古賀裕子、早田真由美 山田弥生、有田麻美、白石由紀、古賀和代、今永友美 守田純子、守田知恵、稲田妙子、立花茜、百々加奈子 村上美代子、尾野肖子、白石雅世、村上貴子、平田優香 奥哲代、松隈真紀子
		診療協力部門	吉松朋代、矢川結香、秋吉尚雄、川崎直正、石田真由美 濱本英治、松本一志、芳賀由実、古野和美、坂本悦子 高永康弘、十時浩二、三輪真紀子
事 務 部 他		山本勇、中村朋代	
会 議		1 回 / 月 第 2 月曜日 17 時 30 分～	
活 動 内 容		<p>【目的】 TQM 活動を病院全体の活動として展開し、職員全員の問題解決能力を高め、快適で安全な環境で業務を行うための思考を培い、病院全体の医療の質向上を実現させ、患者サービスの向上に資することを目的とする。</p> <p>【定例会議】 平成 28 年 4 月 11 日 (月), 5 月 9 日 (月), 6 月 13 日 (月), 7 月 11 (月) 9 月 12 日 (月), 10 月 11 日 (火), 11 月 14 日 (月), 12 月 12 日 (月) 平成 29 年 1 月 10 日 (火), 2 月 13 日 (月), 3 月 13 日 (月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 活動内容の進捗状況報告 ・ 活動サークルの補助、教育 ・ 発表大会等の催物の企画・運営 <p>【活動サークル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ICU ・ 4 南病棟 ・ 5 南病棟 ・ 6 北病棟 ・ 7 南病棟 ・ 8 北病棟 ・ 9 北病棟 ・ 特殊外来 ・ 手術室 ・ 入退院センター ・ 医療支援部 ・ 中央検査室、外来 ・ 臨床工学室 ・ 総務企画課 (14 サークル) <p>【第 11 回 TQM キックオフ大会】 平成 28 年 6 月 21 日 (火) 17 時 30 分～ 別館 4 階 講堂</p> <p>【第 11 回 TQM 発表大会】 平成 29 年 1 月 21 日 (土) 9 時 00 分～ 別館 4 階 講堂</p> <ul style="list-style-type: none"> 最優秀賞 入退院センター 「プロフェッショナル～入退院センターの流儀～」 優 秀 賞 臨床工学室 「ムダ鳴り 0 を目指します」 優 秀 賞 特殊外来 「ナースのお仕事!!」 <p>【院外発表大会】 第 10 回 TQM 発表大会成績上位サークルが参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎日本医療マネジメント学会 第 15 回九州・山口連合大会 今年度の参加は見送り。 ◎医療の TQM 推進協議会 第 18 回フォーラム「医療の改善活動」全国大会 (倉敷市芸分館) 特殊外来 「いそげ! CAV (カバ) ちゃん!!」 	



◆業務関係

○改善活動連絡委員会 - 5S推進部会

構 成 人 員	委員 長	水島 明 (副院長)	
	副 委 員 長	久保由美子 (看護部)・安川浩介 (放射線室)	
	メン バー	看 護 部	松木香奈枝・武富須磨子・外園文代・福原香織・松本勝枝・小林淳子
		診療協力部門	古門功大 (リハビリテーション室)・坂本眞弓 (中央検査室)・山澤結季 (薬剤部) 松村孝志 (臨床工学室)・濱本英治 (臨床工学室)
事 務 部 他		家根 茂 (総務企画課)・山田ちから (経理課)	
会 議		1 回 / 月 開催 (毎週第 4 金曜日) 17 時 30 分～	
活 動 内 容		<p>【目的】</p> <p>5S 活動を病院全体の活動として展開し、職員全体の整理・整頓・清掃・清潔・躰の意識を高め、安全で快適な環境で業務を行うための思考を培い、病院全体の医療の質向上を実現させ、患者サービスの向上に資することを目的とする。</p> <p>【定例会議】</p> <p>平成 28 年 4 月 21 日・平成 28 年 5 月 27 日・平成 28 年 6 月 24 日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5S の定義説明 ・本年度のテーマ「環境整備」説明 ・各部署のスローガン発表 ・リサイクルの進め方 (手順) について ・推進員のラウンド報告 ・看護プロジェクト報告 <p>平成 28 年 7 月 22 日・8 月 26 日・9 月 23 日・10 月 28 日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推進員のラウンド報告 ・看護プロジェクト報告 <p>平成 28 年 11 月 25 日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推進員のラウンド報告 ・看護プロジェクト報告 ・発表大会グループ決定 発表大会要項について <p>平成 28 年 12 月 8 日</p> <p>発表大会</p> <p>(最優秀賞→中央検査室 優秀賞→7 北 / 資料支援部 / 4 北)</p> <p>平成 29 年 1 月 27 日・2 月 24 日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大会未発表グループ報告 <p>平成 29 年 3 月 16 日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度に向けて (本年度振り返り) 	

委員会活動

◆業務関係

○医療情報システム委員会

構 成 人 員	委員 長	水島 明 (副院長)	
	副 委 員 長	伊藤浩司 (医療情報部長)	
	メン バ ー	診 療 部	内山明彦 (副院長)、山本英雄 (副院長)、上村哲郎 (副院長)、茅島顕治 (麻酔科)、篠崎賢治 (放射線科)、川本雅彦 (外科)、毛利正博 (循環器科)、宮田健二 (健康診断部)、高橋保彦 (小児科)、難波江俊永 (外科)、一木康則 (内科)、オブザーバー: 多治見司 (院長)
		看 護 部	元嶋文恵 (看護部長室)、永野美智代 (看護部長室)、松山美佐紀 (9階北病棟)、是永 緑 (医療支援部)、片山朋子 (看護部長室)
		医 療 技 術 部	末松文博 (薬剤部)、末広正人 (放射線室)、奥 蘭 学 (中央検査室)、林 秀俊 (リハビリテーション室)、濱本英治 (臨床工学室)、三輪真紀子 (栄養部)、桑村恒夫 (薬剤部)
事 務 部 他		神崎啓慈 (総務企画課)、西田就之 (総務企画課)、古田 彰 (経理課)、島田正行 (医事課)、伊地知法 (医事課)、中村祐己 (医事課)、石橋寛明 (医事課)、オブザーバー: 家根 茂 (総務企画課)、事務局: 村井真臣 (医療情報部)	
会 議		原則として隔月1回の定例会を開催 第4火曜日 8:00~	
活 動 内 容		<p>【地域医療機能推進機構九州病院における最適の医療情報システムを構築し、安定的かつ適切な運用維持に関すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①医療情報システムの検討及び研究に関すること ②医療情報の管理・運用に関すること ③医療情報の適切な運用にかかる職員教育に関すること ④医療情報システムの構築にかかる提言に関すること ⑤個人情報保護に関すること ⑥医療情報システムの危機管理に関すること ⑦医療情報システムの分析に関すること <p>平成28年4月26日 大会議室 電子カルテシステム更新について、電子カルテデスクトップ端末障害対応について、端末追加について、今後の委員会の活動について、次期システムメーカー決定後の感想について</p> <p>平成28年6月28日 講堂 (拡大医療情報システム委員会として開催) 第1回病院情報システム更新定例会 (全体進捗、課題項目報告、導入スケジュール、質疑応答)</p> <p>平成28年7月26日 講堂 (拡大医療情報システム委員会として開催) 第2回病院情報システム更新定例会 (全体進捗、課題項目報告、導入スケジュール、質疑応答) ネットワーク停止ループ障害発生について</p> <p>平成28年8月23日 講堂 (拡大医療情報システム委員会として開催) 第3回病院情報システム更新定例会 (全体進捗、課題項目報告、部門システムワーキング進捗、質疑応答) WINDOWS10へのアップグレードについて</p>	



委員会活動

<p>活 動 内 容</p>	<p>平成28年9月27日 講堂(拡大医療情報システム委員会として開催) 第4回病院情報システム更新定例会(全体進捗、持参薬、操作研修、部門システムワーキング進捗、DWH紹介、質疑応答)デスクネットの切り替え作業について</p> <p>平成28年10月25日 講堂(拡大医療情報システム委員会として開催) 第5回病院情報システム更新定例会(全体進捗、課題項目報告、操作研修、リハーサル、部門システムワーキング進捗、質疑応答)外来カルテについて、WINDOWS10へのアップグレードについて</p> <p>平成28年11月22日 講堂(拡大医療情報システム委員会として開催) 第6回病院情報システム更新定例会(全体進捗、課題項目報告、機能強化項目、NEOCIS利用終了、システム切替時スケジュール、処方・注射オーダーデータ移行、部門システムワーキング進捗、質疑応答)インターネット接続不具合について</p> <p>平成28年12月27日 講堂(拡大医療情報システム委員会として開催) 第7回病院情報システム更新定例会(全体進捗、課題項目報告、切替時スケジュール、端末展開、稼働後立会、部門システムワーキング進捗、質疑応答)インターネット接続不具合について"</p> <p>平成29年1月24日 講堂(拡大医療情報システム委員会として開催) 第8回病院情報システム更新定例会(障害事項報告、課題項目報告、要望事項報告、今後の対応、質疑応答)システム切替時の障害について"</p> <p>平成29年2月28日 大会議室 電子カルテシステム更新後について、Desknet's NEOのバージョンアップについて、電子カルテシステムの定期サーバ再起動について</p> <p>平成29年3月28日 大会議室 システム連絡表について、新しい電子カルテ研修について、indowsVista Microsoftサポート終了について、高精細モニター運用について</p>
----------------	---

委員会活動

◆教育関係

○教育研修委員会 - 臨床研修管理委員会

構 成 人 員	委員 長	酒井賢一郎 (総合診療部診療部長)	
	副 委 員 長	山本英雄 (副院長)	
	メン バ ー	診 療 部	水島 明 (副院長)・内山明彦 (副院長)・高橋保彦 (小児科)・茅島顕治 (麻酔科) 牟田 毅 (内科)・中原博正 (産婦人科)
		看 護 部	二見美喜子 (看護部長室)・是永 緑 (医療支援部)
		診療協力部門	
事 務 部 他	藤岡耕太郎(院外委員)・早川知宏(院外委員)・三好 安(院外委員)・鍵山明弘(院外委員) 三島俊彦(事務部)・西田就之(総務企画課)・國重 顕 (総務企画課)		
会 議		1回/年 開催	
活 動 内 容		<p>平成29年3月8日 (水)</p> <p>【九州病院に勤務する医師の医学並びに医療技術の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「臨床研修要領に関する内規」に関すること ・臨床研修医の募集及び勤務に関すること ・研修カリキュラムの作成と実施に関すること ・その他臨床研修医に関すること ・医学研究の企画運営に関すること ・医学研究の刊行物の編集企画に関すること ・その他医学研究教育に関すること <p>3月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2015 年度採用臨床研修医の研修終了について ・研修終了後の進路について ・研修後評価アンケート結果 ・臨床研修指導医講習会・ワークショップ報告 ・2016 年度採用臨床研修医の研修状況・予定 ・2017 年度採用予定臨床研修医 ・地域医療機能推進機構九州病院医師臨床研修プログラムについて (平成 30 年度実施案) 	



◆教育関係

○教育研修委員会 - 臨床研修指導者部会

構 成 人 員	委員 長	酒井賢一郎 (総合診療部診療部長)	
	副 委 員 長	山本英雄 (副院長)	
	メン バ ー	診 療 部	内山明彦(副院長)・高橋保彦(小児科)・牟田 毅(内科)・一木康則(内科)・梅田修洋(外科) 茅島顕治(麻酔科)・宗内 淳(小児科)・中原博正(産婦人科)・川上剛史(産婦人科)
		看 護 部	二見美喜子(看護部長室)・是永 緑(医療支援部)
		診療協力部門	
事 務 部 他	神崎啓慈(総務企画課)・國重 顕(総務企画課)		
会 議		4回/年	
活 動 内 容		<p>平成28年7月26日(火)、8月9日(火)、8月16日(火)、平成29年3月1日(水)</p> <p>【臨床研修管理委員会の求めに応じて、検討及び企画・立案を行う】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修プログラムの作成に関すること ・研修プログラム相互間の調整に関すること ・研修医の採用、中断、修了の際の評価などの臨床研修の実施の管理に関すること ・研修医の教育・研修の実施に関すること ・その他部会において必要な事項に関すること <p>7月26日: ・平成28年度採用臨床研修医採用試験について</p> <p>8月9日: ・平成28年度臨床研修医のマッチングについて</p> <p>8月16日: 同上</p> <p>3月1日: ・2015年度採用臨床研修医の研修終了について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修終了後の進路について ・研修後評価アンケート結果 ・臨床研修指導医講習会・ワークショップ報告 ・2016年度採用臨床研修医の研修状況・予定 ・2017年度採用予定臨床研修医 ・地域医療機能推進機構九州病院医師臨床研修プログラムについて (平成30年度実施案) 	

委員会活動

◆教育研修関係

○図書部会

構 成 人 員	委員 長	土屋邦喜 (整形外科診療部長)	
	副 委 員 長	伊藤浩司 (医療情報部診療部長)	
	メン バー	診 療 部	水島 明 (副院長)・山田大輔 (外科)・藤澤 聖 (内科)・中原博正 (産婦人科) 高橋保彦 (小児科)・一木康則 (内科)・毛利正博 (循環器科) 小池浩次 (耳鼻咽喉科)・菊池 幹 (総合診療部)
		看 護 部	永野美智代 (看護部長室)・二見美喜子 (看護部長室)・是永 緑 (医療支援部)
		診療協力部門	山脇敏恵 (医療情報部)
事 務 部 他	古田 彰 (経理課)・島田正行 (医事課)・笠 千恵子 (総務企画課)		
会 議		2回 / 年 開催 (定例会・デスクネッツ)・臨時委員会	
活 動 内 容		<p>平成 28 年 9 月 13 日 (火)、平成 29 年 3 月 15 日 (水)</p> <p>【図書室業務、及び附帯する関係業務の円滑な運営を図るため必要な事項を決定する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員用図書室及び患者図書室 (以下図書室等という) の管理、運用に関すること。 ・図書室等の適正な使用・運用の監視、監督業務。 ・図書室等の本類、設置機器類の保守・監督業務。 ・図書類 (冊子及び電子的媒体を含む) の購入にかかる契約、所管業務の監督。 ・その他、図書室等にかかる図書部会が決定した業務。 <p>9 月: 平成 27 年度図書費報告 平成 28 年度図書費について 2017 年 購読雑誌 (叢書) 等について 室外保管図書申込書の事務部長押印欄について 「今日の診療」の契約更新について 「メディカルオンライン」の契約更新について 他施設への文献複写依頼費用について</p> <p>3 月: 2017 年「Up to date」の契約更新について</p>	



◆医療安全関係(例)

○ロボット・鏡視下委員会

構 成 人 員	委員 長	内山明彦(副病院長)	
	副 委 員 長	上村哲郎(副病院長)	
	メン バー	診 療 部	内山明彦(副病院長) 上村哲郎(副病院長) 茅島顕治(麻酔科) 原野正彦(泌尿器科) 梁井公輔・川本雅彦・難波江俊永(外科) 衛藤貴子・東條伸平(婦人科)
		看 護 部	木本妙子・丹生谷洋子(看護部) 白石明子・和田裕子(手術室)
		診療協力部門	濱本英治・松本一志(臨床工学室)
事 務 部 他	古田 彰(経理課)		
会 議		原則として、月1回開催	
活 動 内 容		<p>不定期開催 8:00～</p> <p>2016/6/8(水)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本委員会の主旨・活動内容について 2. 今後の活動内容について <ul style="list-style-type: none"> ・鏡視下手術機器全体の管理(購入、共有、点検など) ・手術適応の確認、遵守(保険収載やガイドラインを参照) ・手術手技の向上、教育 3. 手術手技の向上、教育 <ul style="list-style-type: none"> ・手術手技に関する検討会 4. ロボット(da Vinci)手術について 5. その他 <p>2016/12/16(金)</p> <p>ロボット支援腎部分切除術の症例検討</p>	



委員会活動

平成 28 年度
諸 活 動

Japan Community Health care Organization JCHO



独立行政法人 地域医療機能推進機構 九州病院



諸 活 動

◆メディカルネットワークフォーラム

1. 目 的 地域の医療機関（医師・メディカルスタッフ）との連携を深め地域医療の充実に貢献する

2. 日 時 2016 年 7 月 14 日（木）19：00～21：00

3. 場 所 ホテルクラウンパレス北九州

4. 内 容
- ・ 当院の現状報告
 - 地域連携関連の実績報告
 - 紹介率・逆紹介率（年度比較）
 - 入院患者数・平均在院日数
 - 救急センター 入院患者数
 - 救急車搬送件数（年度比較）
 - 手術件数（年度比較）
 - 外来化学療法件数（年度比較）
 - 開放型病床稼働率（年度比較）
 - 地域連携クリティカルパス
 - さしのうらネット
 - 入退院センター評価
 - 福岡県医師会診療情報ネットワーク（とびうめネット）への参加
 - ・ 新任管理者等の紹介
 - ・ 精神科の診療体制について
 - ・ 当院外科のご紹介
 - ・ ロボット支援手術の現況
 - ・ 看護部の活動について
 - ・ 熊本地震 DMAT 活動報告
 - ・ 情報交換会

5. 参加者（参加人数） 460 名（外部参加者 363 名・院内参加者 97 名）

【外部参加者】 医師…103 名
看護師…80 名
メディカルスタッフ…75 名
連携室関連…105 名

【院内参加者】 医師…38 名
看護師…23 名
メディカルスタッフ…12 名
事務部・医療支援部…24 名



◆健康フェア

1. 目 的 「地域住民の生活に役立つ情報を発信し社会に貢献する」を目的とし、年1回開催

今年度のテーマ：地域包括ケアへの取り組み

～知っておこう 住まい、医療、介護、予防、生活支援の取り組み～

2. 日 時 2016年11月12日（土）10：00～14：00

3. 場 所 JCHO九州病院 別館4階

4. 内 容

・講演会

「地域包括ケアとは、北九州市の取り組み」

：八幡西区役所地域包括支援センター係長 糸井治子

「急性期病院における対応：救急センター」

：JCHO九州病院総合診療部診療部長 酒井賢一郎

「在宅医の立場から」：八幡医師会副会長（在宅医療・介護連携支援センター担当）

ふじもと内科クリニック 院長 藤本裕司

「ケアマネジャーの立場から」

：八幡医師会 介護支援センター管理者 増田久子

「訪問看護の立場から」

：八幡医師会 訪問看護ステーション管理者 白井由里子

「急性期病院の地域連携・退院支援について」

：JCHO九州病院 医療ソーシャルワーカー 峯 修平

「薬剤管理における地域連携について」

：JCHO九州病院 主任薬剤師 小倉秀美

「リハビリテーションにおける地域連携について」

：JCHO九州病院 リハビリテーション士長 林 秀俊

「バランスの取れた食事について」

：JCHO九州病院 副栄養管理室長 三輪真紀子

「看護の目で生活を見直そう」

：JCHO九州病院 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師 白石志穂

・日常生活に役立つミニコーナー

「禁煙コーナー」：医師

「リハビリコーナー」：理学療法士

「栄養コーナー」：管理栄養士

「お薬コーナー」：薬剤師

「連携・福祉コーナー」：MSW

「看護コーナー」：認定看護師

・健康相談

行政担当者、医師、看護師、理学療法士、薬剤師、管理栄養士、MSW

・試食…250食

・展示・・・地域包括ケア関連

5. 参加者（参加人数）

地域住民 128名（男性 28名、女性 100名）



諸 活 動

◆健康教室

1. 目 的 「地域住民の生活に役立つ情報を発信し社会に貢献する」を目的とし、月1回開催
2. 日 時 年9回 11:00～12:00
3. 場 所 JCHO 九州病院 別館4階講堂
4. 内 容

2016年6月28日	腰痛予防について 理学療法士：野中香里	
7月22日	心臓病をもっとよく知ろう 循環器内科診療部長：毛利正博	
7月27日	誤嚥の予防 言語聴覚士：吉岡幹人	
8月18日	一人前の食事について 管理栄養士：橋本沙和	
9月16日	造血細胞移植（骨髄移植など）って何？ドナーって何？ がん化学療法看護認定看護師：倉元宏美	
10月6日	知っておきたい薬の飲み方 主任薬剤師：桑村恒夫	
11月15日	早期発見 認知症予防について 作業療法士：岐部千佳子	
12月9日	知って得する感染予防～あなたとご家族を守るために～ 感染管理認定看護師：松山美佐紀、三ノ丸理江、森本麗華	
2017年1月20日	心不全について～心臓を守るために知っておきたいこと～ 慢性心不全看護認定看護師：櫻井栄子	
2月22日	バランスのよい食事について 管理栄養士：土山麻美	
3月10日	この症状、あなたならどうする？ 救急看護認定看護師：村上貴子	

5. 参加者（参加人数） 地域住民 972人

6月28日 … 108人	11月15日 … 111人
7月22日 … 118人	12月9日 ……63人
7月27日 ……93人	1月20日 ……70人
8月18日 ……89人	2月22日 ……78人
9月16日 ……73人	3月10日 ……78人
10月6日 ……91人	



◆地域包括ケア推進室活動

1. 目的
 1. 地域における関係者との連携の推進
 2. 地域への情報発信の推進
 3. 診療所、病院、行政関係機関、在宅医療・在宅療養支援サービス関係者等との連携の推進
 4. 病院の今後の運営方針の明確化
 5. ICT の活用による業務効率化、情報連携の推進

2. メンバー

室内役職	所属	役職	氏名
地域包括ケア推進室長	医療職	副院長 (医療支援部長兼任)	水島 明
室長補佐	医療支援部 (地域連携室・福祉相談室)	室長	是永 緑
室長補佐代理	医療支援部 (地域連携室)	副看護師長	高田 由美子
企画係長	医療支援部 (福祉相談室)	メディカルソーシャルワーカー	峯 修平
運営係長	総務企画課	総務・厚生係長	家根 茂
室員	看護部	看護部長	
室員	看護部	副看護部長	
室員	看護部	看護師長	
室員	リハビリテーション室	リハビリテーション室士長	
室員	薬剤部	薬剤部長	
室員	薬剤部	主任薬剤師	
室員	栄養管理室	副栄養管理室長	
室員	医療支援部 (地域連携室)	副看護師長	谷口 由美子
室員	医療支援部 (福祉相談室)	メディカルソーシャルワーカー	吉松 朋代
室員	医事課	事務員	
室員 (事務局)	医療支援部 (地域連携室)	事務員	

3. 活動内容

1. 講師による地域包括システムの研究会
 - ・健康フェアで「地域包括ケア」をテーマに院内外講師 10 名の講演を実施 (11/12)
 - ＊詳細は健康フェア報告を参照
2. 院外会議・研修会
 - ・洞南地区地域包括ケア推進会議 1 回 / 月 第 4 週月
 - ・八幡地区多職種連携会議「認知症」8/22、9/5、11/1
 - ・若松区多職種連携会 10/6、2/14
 - ・八幡地区訪問看護ステーション実践報告会 10/19
 - ・八幡在宅医会 11/1
 - ・整形外科ネットワークフォーラム 4 回 / 年
 - ・在宅医療・介護従事者研修会 12/15
 - ・八幡東西区訪問看護メルマガリスト会定例会 12/21
 - ・市民公開講座：安らかな在宅での看取り 2/23
 - ・地域医療介護総合確保基金事業「薬剤連携」3/23
 - ・福岡県「連携室の連携」会 3 回 / 年
 - ・地域医療支援病院連携会 7 病院
3. 院内会議・研修会
 - ・看護研修会「地域包括ケア」地域連携在宅療養支援 9/28、11/30
4. 院内外講師派遣 (地域包括ケア関連)
 - ・九州地区事務所主催 新任副看護師長研修会 7/13
 - ・九州地区事務所主催 在宅療養支援研修会 11/1
 - ・九州地区事務所主催 中堅看護師研修会 10/12
5. 実践での活動
 - ・退院前患者訪問、退院後患者訪問、在宅薬剤訪問指導 調剤薬局との調整
 - ・薬剤処方箋へのデータ記載の周知
6. その他
 - ・認知症支援・介護サポートセンター見学 11/25
 - ・連携医療機関定期訪問事業 20 施設×3 回



平成 28 年度
業 績 目 録

Japan Community Health care Organization JCHO



独立行政法人 地域医療機能推進機構 九州病院

業績目録

◆総合診療部 (講演・学会発表等)

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
児島 啓介、百名 洋平 阿部 巧、菊池 幹 宮田 健二、折口 秀樹 山本 英雄、毛利 正博	反応性関節炎発症 14 年後に診断された高度大動脈弁逆流の一例	第 121 回日本循環器学会九州地方会	2016.12.3	鹿児島
河野 恵理、菊池 幹 田所 知命、宮田 健二 毛利 正博、山本 英雄 折口 秀樹、川村 奈津美 鬼塚 健、百名 洋平 芥野 絵里、多治見 司	永久ペースメーカ植込みを回避できた完全房室ブロックの 1 症例	第 120 回日本循環器学会九州地方会	2016.6.25	大分
森田 彰子、田所 知命 内山 光、久原 学 笹栗 毅和、伊藤 浩司 毛利 正博、山本 英雄	Marfan 症候群において非典型的な臨床・エコー所見を示し、D-dimer 上昇を認めなかった大動脈解離の 1 例	第 120 回日本循環器学会九州地方会	2016.6.25	大分
石原 沙代子、永田 拓也 石北 綾子、百名 洋平 宮田 健二、毛利 正博 山本 英雄	急性大動脈解離に伴う左主幹部急性心筋梗塞の 1 例	第 314 回日本内科学会九州地方会	2016.8.16	宮崎
相良 優佳、百名 洋平 菊池 幹	肺炎による入院中に 2 度にわたる VT/VF を繰り返したペースメーカ患者の 1 症例	第 29 回心臓性急死研究会	2016.12.17	東京
児島 啓介、田所 知命 百名 洋平、毛利 正博 山本 英雄	劇症型 A 群 β 溶血性溶連菌感染症の 1 例	第 315 回日本内科学会九州地方会	2016.11.20	熊本
川床 有香、一木 康則 赤嶺 摩依、川床 慎一郎 飯田 真大、淵上 忠史 上平 幸史、藤澤 聖 酒井 賢一郎	Streptococcus constellatus による肝膿瘍の 1 例	第 313 回日本内科学会九州地方会	2016.5.28	北九州
東島 亘宏、永田 拓也 山本 英雄	敗血症性ショックの熱源精査目的に ^{67}Ga -citrate シンチグラフィを施行し急性巣状細菌性腎炎の診断に至った 1 例	第 313 回日本内科学会九州地方会	2016.5.28	北九州
岩尾 有里子、牟田 毅 平野 元、牧山 明資 青木 健一、小川 亮介	悪性リンパ腫に対する R-EP (O)CH 療法中に遅延性の重症過敏性反応を呈した 1 例	第 313 回日本内科学会九州地方会	2016.5.28	北九州
白石 研一郎	ポスター発表	第 20 回日本救急医学会九州地方会	2016.6.3-4	鹿児島
森麻 里母、一木 康則 上平 幸史、池田 祥記 塩月 一生、池上 幸治 淵上 忠史、藤澤 聖 酒井 賢一郎	壊死性軟部組織感染症の一剖検例	第 45 回福岡肝疾患・感染症治療研究会	2017.2.25	北九州



◆循環器内科 (講演・学会発表等)

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
伊藤 浩司、宮田 健二 毛利 正博	日本人中高年齢検診受診者における習慣的味噌汁 摂取頻度と血圧・心拍数との関連	第 5 回日本臨床高血圧 フォーラム	2016.5.14	東京
伊藤 浩司、福光 梓 秋光 起久子、村田 眞知子 奥田 知代、黒川 佳代 小川 明希、毛利 正博 山本 英雄	Global function index による加齢性心機能変化の 検討	第 89 回日本超音波医学会 学術集会	2016.5.29	京都
Onitsuka K, Mohri M, Ueki Y, Suwa S, Takahashi H, Hokama Y, Tanaka N, Kadokami T, Matoba T, Fukuhara R, Yagi T, Tachibana E, Yonemoto N, Nagao K.	Clinical Characteristics and Short- Term Outcome of Elderly Patients with Cardiovascular Shock: Results from the Shock Registry of the JCS.	Japanese Circulation Society Annual Scientific Meeting	2016.3.18-20	仙台
Mohri M, Ueki Y, Matoba T, Tsujita Y, Yamasaki M, Yonemoto N, Tachibana E, Nagao K.	A Prospective, Multicenter Cohort Study of Patients with Cardiovascular Shock: the Japanese Circulation Society Shock Registry	Japanese Circulation Society Annual Scientific Meeting	2016.3.18-20	仙台
Onitsuka K, Mohri M, Ueki U, Suwa S, Takahashi H, Hokama Y, Tanaka N, Kadokami T, Matoba T, Fukuhara R, Yagi T, Tachibana E, Yonemoto N, Nagao K.	Clinical characteristics and in-hospital mortality of very elderly patients with cardiovascular shock in Japan: the results from Japanese Circulation Society Shock Registry.	The 66th Annual Scientific Session of the American College of Cardiology	2017.3.17-19	Washington, USA
Sonoda S, Ogita M, Matoba T, Mohri M, Tanaka N, Hokama Y, Fukutomi M, Hashiba K, Fukuhara R, Ueki Y, Matsuura H, Suwa S, Tachibana E, Yonemoto Y, Nagao K.	Association between presentation time and short-term mortality in patients with cardiogenic shock complicating acute coronary syndrome: from JCS Shock Registry.	The 66th Annual Scientific Session of the American College of Cardiology	2017.3.17-19	Washington, USA
毛利 正博	高齢者心不全と心臓リハビリテーション(シンポジ ウム)	第 2 回日本心臓リハビリ テーション九州支部地方会	2016.10.29	福岡
児島 啓介、百名 洋平 阿部 巧、菊池 幹 宮田 健二、折口 秀樹 山本 英雄、毛利 正博	反応性関節炎発症 14 年後に診断された高度大動 脈弁逆流の一例	第 121 回日本循環器学会 九州地方会	2016.12.3	鹿児島
田所 知命、毛利 正博 菊池 幹、植田 初江 山本 英雄	長期にわたる軽度～中等度好酸球増加症に合併し た好酸球性心内膜炎の 1 例	第 121 回日本循環器学会 九州地方会	2016.12.3	鹿児島



業績目録

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
櫻井 栄子、毛利 正博	多職種による外来心臓リハビリが再入院予防に効果的であった慢性心不全患者の1例	第20回日本心不全学会学術集会	2016.10.7-9	札幌
Nagata T, Mohri M, Hyakuna Y, Miyata K.	Impact of Congestive Heart Failure and Shock on In-Hospital and One-Year Mortality in Patients With Non-ST-Elevation Acute Coronary Syndrome.	第20回日本心不全学会学術集会	2016.10.7-9	札幌
Tadokoro T, Keshino E, Mohri M.	A case of Acute Myocarditis During Treatment with Anti-PD-1 Antibody Nivolumab in a Melanoma Patient. (ポスター)	第20回日本心不全学会学術集会	2016.10.7-9	札幌
河野 恵理、菊池 幹 田所知命、宮田 健二 毛利 正博、山本 英雄 折口 秀樹、川村 奈津美 鬼塚 健、百名 洋平 芥野 絵里、多治見 司	永久ペースメーカ植込みを回避できた完全房室ブロックの1症例	第120回日本循環器学会九州地方会	2016.6.25	大分
森田 彰子、田所知命 内山 光、久原 学 笹栗 毅和、伊藤 浩司 毛利 正博、山本 英雄	Marfan 症候群において非典型的な臨床・エコー所見を示し、D-dimer 上昇を認めなかった大動脈解離の1例	第120回日本循環器学会九州地方会	2016.6.25	大分
田所知命、芥野 絵里 牧山 明資、鬼塚 健 川村 奈津美、笹栗 毅和 牟田 毅、大島 孝一 山本 英雄、毛利 正博	ニボルマブ(抗ヒト PD-1 モノクローナル抗体)投与中に急性心筋炎を発症した一例	第120回日本循環器学会九州地方会	2016.6.25	大分
永田 拓也、百名 洋平 宮田 健二、毛利 正博	非 ST 上昇型急性冠症候群の短中期予後予想のための GACE スコアの有用性	第25回日本心血管インターベンション治療学会学術集会	2016.7.9	東京
Matoba T, Sakamoto K, Mohri M, Tanaka N, Hokama Y, Fukutomi M, Hashiba K, Fukuhara R, Ueki Y, Suwa S, Matsuura H, Tachibana E, Yonemoto N, Nagao K	Prognostic Impact of Coronary Revascularization in Acute Coronary Syndrome Patients with Cardiogenic Shock - Analysis from the JCS Shock registry.	第25回日本心血管インターベンション治療学会学術集会	2016.7.9	東京
石原 沙夜子、永田 拓也 石北 綾子、百名 洋平 宮田 健二、毛利 正博 山本 英雄	急性大動脈解離に伴う左主幹部急性心筋梗塞の1例	第314回日本内科学会九州地方会	2016.8.16	宮崎
永田 拓也、百名 洋平 宮田 健二、毛利 正博	当院における超高齢者の非 ST 上昇型急性冠症候群の中期予後	第23回日本心血管インターベンション治療学会九州・沖縄地方会	2016.8.19	福岡



業績目録

氏 名	演 題	発表学会名等	発表年月日	会 場
百名 洋平、菊池 幹	1年間診断がつかないまま失神を繰り返すも ILR により数日間で診断できた 1 症例	第 9 回植込みデバイス関連 冬季大会	2017.2.16-18	大 阪
相良 優佳、百名 洋平 菊池 幹	肺炎による入院中に 2 度にわたる VT/VF を繰り返したペースメーカー患者の一症例	第 29 回心臓性急死研究会	2016.12.17	東 京
児島 啓介、田所 知命 百名 洋平、毛利 正博 山本 英雄	劇症型 A 群 β 溶血性溶連菌感染症の 1 例	第 315 回日本内科学会九州 地方会	2016.11.20	熊 本
東島 亘宏、永田 拓也 山本 英雄	敗血症性ショックの熱源精査目的に ^{67}Ga -citrate シンチグラフィーを施行し急性巣状細菌性腎炎の 診断に至った 1 例	第 313 回日本内科学会九州 地方会	2016.5.28	北九州
折口 秀樹	心臓リハビリテーションの使命 － Science & Practice －	第 20 回福岡心臓リハビリ テーション研究会	2016.5.27	福 岡
折口 秀樹	心房細動カテーテルアブレーション治療での抗凝 固療法での管理について	地域における不整脈診療 を考える会	2016.6.28	北九州
折口 秀樹	心臓リハビリテーションでの医療安全	第 22 回日本心臓リハビリ テーション学会	2016.7.16	東 京
折口 秀樹	第 1 回日本心臓リハビリテーション学会九州地方会 概要報告	第 22 回日本心臓リハビリ テーション学会		
折口 秀樹	心不全での心臓リハビリテーションの役割	第 24 回玄海心不全カン ファレンス	2016.8.26	北九州
折口 秀樹	生活習慣病と心血管病	第 168 回北筑カンファレン ス	2016.9.28	北九州
折口 秀樹	運動負荷試験の意義と心臓リハビリテーションへ の応用	第 26 回日本呼吸ケア・リ ハビリテーション学会	2016.10.11	横 浜

業績目録

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
折口 秀樹	心臓リハビリテーションの基礎と実践	田川医師会学術講演会	2016.11.30	田川
折口 秀樹、新垣 真美 安藤 幸子、生田 由希 大島 ゆかり、上田 知穂 鍛塚 圭子、辻郷 裕美 富田 美砂	心房細動カテーテルアブレーション治療クリニカルパスの新規作成	第 17 回日本クリニカルパス学会	2016.11.26	金沢
折口 秀樹	フレイル高齢者の心房細動治療の課題	香月・木屋瀬 生活習慣病フォーラム	2017.2.8	北九州
折口 秀樹	抗凝固療法と心臓リハビリテーション	心臓リハビリテーションセミナー in 遠賀中間	2017.3.9	遠賀
百名 洋平	右冠動脈入口部病変の再狭窄に対し PCI を施行した一例	PCI Expert Meeting in Kitakyushu	2016.9.28	北九州
百名 洋平	失神の 1 年後に植込み型ループレコーダーにて診断しえた徐脈頻脈症候群の一例	北九州失神カンファレンス	2016.11.17	北九州
田所 知命	的確な検査による低侵襲な治療を選択し得た僧帽弁閉鎖不全症の 1 例 (Award 受賞)	北九州循環器懇談会 (小倉)	2017.2.3	北九州

◆循環器内科 (論文等)

氏名	論題	発表雑誌名等	巻号	頁	発表年月日
折口 秀樹	4 心臓リハビリテーションの実践 2-心臓リハビリテーションの実際の手法 5. 栄養・食事指導	心臓リハビリテーションポケットマニュアル		205 - 212	2016.7.20
折口 秀樹	急性心筋梗塞のリハビリテーション、運動療法	今日の治療指針		427 - 429	2017.1.1



業績目録

氏 名	論 題	発表雑誌名等	巻号	頁	発表年月日
折口 秀樹	心臓リハビリテーションの基礎と実践	田川医報	第 134 号	29 - 31	2017.3.1
佐藤 憲明、梶島 寛子 星木 宏之、有吉 有司 津崎 裕司、野中 香里 高永 康弘、毛利 正博 折口 秀樹	高齢慢性心不全サルコペニア患者の身体活動量と健康関連 QOL に対する心臓リハビリテーションの効果	心臓リハビリテーション	第 22 巻 第 1 号	22-26	2016.6.25
佐藤 憲明、折口 秀樹 高永 康弘、毛利 正博	冠動脈疾患患者において日常身体活動量が高比重リポ蛋白コレステロールに及ぼす影響についての検討	心臓リハビリテーション	第 22 巻 第 1 号	51-60	2016.6.25
Ito K, Miyata K, Mohri M, Origuchi H, Yamamoto H.	The effects of the habitual consumption of miso soup on the blood pressure and heart rate of Japanese adults: A cross-sectional study of a health examination.	Intern Med.	56	23-29	2017
Hyakuna Y, Hashimoto T, Mohri M.	Clinical characteristics and in-hospital mortality of very elderly patients hospitalized for acute decompensated heart failure: experience at a single cardiovascular center in Japan.	Acta Cardiologica	71	604-611	2016
Ueki Y, Mohri M, Matoba T, Tsujita Y, Yamasaki M, Tachibana E, Yonemoto N, Nagao K.	Characteristics and Predictors of Mortality in Patients with Cardiovascular Shock in Japan: Results from the Japanese Circulation Society Cardiovascular Shock Registry.	Circ J	80	852-859	2016
Nagata T, Hyakuna Y, Miyata K, Mohri M.	Contemporary practice and outcomes of an elderly cohort of Japanese patients with non-ST-elevation acute coronary syndrome in the era of routine early invasive strategy.	Int J Cardiol			2017 (in press)
Katsuki S, Ito K, Tadokoro T, Sasaguri T, Hisahara M, Mohri M.	Mitral annulus calcification-related calcified amorphous tumour trapped and extended by closing aortic valve.	Eur Heart J Cardiovasc Imaging	17	585	201
Tadokoro T, Keshino E, Makiyama A, Sasaguri T, Ohshima K, Katano H, Mohri M.	Acute lymphocytic myocarditis with anti-PD-1 antibody nivolumab.	Circ Heart Fail	9	e003514	2016
Tadokoro T, Katsuki S, Ito K, Onitsuka K, Nakashima A, Sasaguri T, Miyata K, Yamamoto H, Mohri M.	Inoperable primary ovarian carcinoid led to the progression of carcinoid heart disease from right-sided to both-sided involvement.	Circ Heart Fail	10	e003719	2017

業績目録
◆消化器内科 (講演・学会発表等)

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
川床 有香、一木 康則 赤嶺 摩依、川床 慎一郎 飯田 真大、瀧上 忠史 上平 幸史、藤澤 聖 酒井 賢一郎	Streptococcus constellatus による肝膿瘍の 1 例	第 313 回日本内科学会九州地方会	2016.5.28	北九州
瀧上 忠史、藤澤 聖 飯田 真大、池上 幸治 塩月 一生、池田 祥記 上平 幸史、一木 康則 笹栗 毅和、石川 幹真 相良 亜希子、江崎 幹宏	上行結腸に浸潤した虫垂癌の 1 例	第 101 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会	2016.6.24-25	佐賀
藤澤 聖、瀧上 忠史 池上 幸治、赤嶺 摩依 池田 祥記、塩月 一生 上平 幸史、一木 康則、 笹栗 毅和、江崎 幹宏	化学放射線療法が奏効した食道癌肉腫の 1 例	第 107 回日本消化器病学会九州支部例会	2016.6.24-25	佐賀
藤澤 聖、瀧上 忠史 池上 幸治、池田 祥記 塩月 一生、上平 幸史 一木 康則、笹栗 毅和 江崎 幹宏	疼痛性甲状腺腫大を来したクローン病の 1 例	第 107 回日本消化器病学会九州支部例会	2016.6.24-25	佐賀
赤嶺 摩依、藤澤 聖 笹栗 毅和、川床 慎一郎 飯田 真大、瀧上 忠史 上平 幸史、一木 康則	コレステロール塞栓症 3 例の上部消化管内視鏡像	JDDW2016 (第 92 回日本消化器内視鏡学会総会)	2016.11.3-6	神戸
Akira Kawano, Hirohisa Shigematsu, Koichiro Miki, Yasunori Ichiki, Chie Morita, Kimihiko Yanagita, Kazuhiro Takahashi, Kazufumi Dohmen, Hideyuki Nomura, Hiromi Ishibashi, Shinji Shimoda	Factors that influence the improvement of liver albumin synthesis during interferon-free sofosbuvir-based therapy of chronic hepatitis C virus infection	The American Association for the Study of Liver Diseases(AASLD) The Liver Meeting 2016	2016.11.11-15	Boston, USA
一木 康則、上平 幸史 池田 祥記、塩月 一生 池上 幸治、瀧上 忠史 藤澤 聖	当科における C 型慢性肝炎に対するオムビタスビル、パリタプレビル、リトナビル併用療法の検討	第 108 回日本消化器病学会九州支部例会	2016.11.25-26	熊本
池田 祥記、池上 幸治 塩月 一生、川上 寛 笹栗 毅和、瀧上 忠史 上平 幸史、藤澤 聖 一木 康則、江崎 幹宏	肺腺癌に対するドセタキセル治療中に発症した大腸潰瘍の一例	第 102 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会	2016.11.25-26	熊本
塩月 一生、瀧上 忠史 池田 祥記、池上 幸治 上平 幸史、藤澤 聖 一木 康則	マロリーワイス症候群が原因と考えられた食道壁内血腫の一例	第 108 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会	2016.11.25-26	熊本



業績目録

氏 名	演 題	発表学会名等	発表年月日	会 場
一木 康則、上平 幸史 池田 祥記、池上 幸治 測上 忠史、藤澤 聖	多発性肝嚢胞の一例	第 3 回肝疾患合併症を考 える研究会	2016.4.11	北九州
一木 康則、上平 幸史	当科におけるヴィキラックスの使用経験	C 型肝炎次世代治療研究 会	2016.6.4	福 岡
一木 康則、勝原 俊亮 上平 幸史、池田 祥記 塩月 一生、池上 幸治 測上 忠史、藤澤 聖	摂食障害患者にみられた肝障害	第 455 回北九州肝臓病懇 話会	2016.8.22	北九州
一木 康則、上平 幸史 池田 祥記、塩月 一生 池上 幸治、測上 忠史 藤澤 聖	肝性脳症の一例	第 4 回肝疾患合併症を考 える研究会	2016.9.5	北九州
上平 幸史、一木 康則	溶血発作を合併した急性胆管炎の1例	第 44 回福岡肝疾患・感染 症治療研究会	2016.10.8	福 岡
森麻 里母、一木 康則 上平 幸史、池田 祥記 塩月 一生、池上 幸治 測上 忠史、藤澤 聖 酒井 賢一郎	壊死性軟部組織感染症の一例	第 45 回福岡肝疾患・感染 症治療研究会	2017.2.25	北九州
藤澤 聖	コレステロール塞栓症 3 例の上部消化管内視鏡像	北九州胃腸懇話会	2017.1.11	北九州
梁井 公輔、藤澤 聖	Lynch 症候群 (HNPCC) が疑われた小腸癌の一 例	第 24 回 Cancer Board	2017.3.1	北九州
一木 康則、上平 幸史 池田 祥記、塩月 一生 池上 幸治、測上 忠史 藤澤 聖	粒子線治療を行った当院の肝細胞癌症例の検討	第 19 回北九州肝臓治療研 究会	2017.3.25	北九州
一木 康則	C 型肝炎の最新治療	第 77 回遠賀中間内科医会 学術講演会	2016.5.16	遠 賀

業績目録
◆血液腫瘍内科 (講演・学会発表等)

氏 名	演 題	発表学会名等	発表年月日	会 場
牟田 毅、宮本 敏浩 上村 智彦、佐々木 治 森 毅彦、岩戸 康治 神田 善伸、福田 隆浩 熱田 由子、角南 一貴	自家移植後の再発多発性骨髄腫における再自家移植の生存期間に与える影響：TRUMP を用いた後方視的解析	第 39 回日本造血細胞移植学会	2017.3.3	鳥 根
○坂梨 溪太 1) 牟田 毅 2)、 田村 恭久 2)、 久原 学 3)、 徳永 滋彦 3)	解離性大動脈瘤術後の二次性 TMA	第 315 回日本内科学会九州地方会	2016.11.20	熊 本
○有水 耕平 1)、 牟田 毅 1)、 吉弘 知恭 2)、 迫田 礼子 3)、 山本 明史	一過性脳梁膨大部病変や中枢性塩類喪失症候群を合併した急性自律性感覚性 neuropathy の 1 例	第 315 回日本内科学会九州地方会	2016.11.20	熊 本
○岩尾 有里子 1)、 牟田 毅 2)、 平野 元 2)、 牧山 明資 2)、 青木 健一 2)、 小川 亮介	悪性リンパ腫に対する R-EP(O)CH 療法中に遅延性の重症過敏性反応を呈した 1 例	第 313 回日本内科学会九州地方会	2016.5.28	北九州
○吉弘 知恭 1)、 青木 健一 2)、 牟田 毅 2)、 小川 亮介	臍帯血移植後に播種性サイトメガロウイルス感染症をきたした AML の 1 例	第 313 回日本内科学会九州地方会	2016.5.28	北九州
Obara T, Aoki K, Muta T, Ogawa R	Sequential mogamulizumab following induction chemotherapy for aggressive ATLL	第 78 回日本血液学会学術集会	2016.10.13-15	横 浜
有水 耕平、小原 鉄兵、 青木 健一、平野 元、 牧山 明資、牟田 毅、 小川 亮介	ET から移行し、5-azacytidine が著効した AML の 1 例	第 314 回日本内科学会九州地方会	2016.8.6	宮 崎
平島 惣一 1)、 宮脇 昭彦 1)、 平石 絵里子 2)、 正門 直美 2)、 永野 美智代 2)、 是永 緑 2)、 杉本 光徳 2)、 後藤 芳子 2)、 倉本 宏美 2)、 進藤 美舟 2)、 内山 明彦 2)、 小川 亮介、 原田 孝昭 3)、 大蔵 雅文 3)、 大矢 亮 1) 1) 産業医科大学病院 2) JCHO九州病院 3) 八幡医師会	歯科のない地域がん診療連携拠点病院でのがん患者への口腔サポートチーム活動について	第 54 回日本癌治療学会学術集会	2016.10.20-22	横 浜



業績目録

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
稲富 享子、草場 仁志 高吉 琴絵、牧山 明資、他	進行・再発胃癌に対するオキサリプラチン併用療法の多施設共同観察研究	第 54 回日本癌治療学会学術集会	2016.10.20-22	横浜
佐竹 悠良、宮本 裕士、 谷岡 洋亮、辻 晃仁、 朝山 雅子、白石 猛、 結城 敏志、小高 雅人、 牧山 明資	大腸癌レゴラフェニブ療法の疲労・倦怠感に対する経口ステロイドによる予防の検討	第 54 回日本癌治療学会学術集会	2016.10.20-22	横浜
中野 倫孝、田中 守、 田中 吏佐、牧山 明資、他	TGF-beta は腹水中 CD44 陽性がん細胞の発現を EMT を介して調節する	第 14 回日本臨床腫瘍学会学術集会	2016.7.28-30	神戸
有水 耕平、吉弘 知恭、 平野 元、牧山 千夏、 牧山 明資、牟田 毅	当院における切除不能な進行・再発胃癌に対するラムシルマブ併用化学療法施行症例の検討	第 14 回日本臨床腫瘍学会学術集会	2016.7.28-30	神戸
牧山 千夏、牧山 明資、 有水 耕平、吉弘 知恭、 平野 元、牟田 毅	切除不能進行・再発膀胱癌患者に対する nab-Paclitaxel+Gemcitabine 療法に関する検討	第 14 回日本臨床腫瘍学会学術集会	2016.7.28-30	神戸
田村 真吾、内野 慶太、 魚住 公治、牧山 明資	九州地区における甲状腺癌診療連携プログラム 現状と課題	第 14 回日本臨床腫瘍学会学術集会	2016.7.28-30	神戸
吉弘 知恭、牧山 明資、 有水 耕平、牧山 千夏、 平野 元、牟田 毅	Nivolumab 投与中に心筋炎を発症した脈絡膜悪性黒色腫の一例	第 14 回日本臨床腫瘍学会学術集会	2016.7.28-30	神戸
Miyamoto Y, Yuki S, Shimokawa M, Tanioka H, Tsuji A, Asayama M, Shiraishi T, Kotaka M, Makiyama A, et al.	A randomized, double-blind, placebo-controlled phase II study of prophylactic dexamethasone (dex) therapy for fatigue and malaise due to regorafenib in patient (pts) with metastatic colorectal cancer (mCRC): (KSCC1402/HGCSG1402).	ASCO Annual Meeting	2016.6.3-7	Cicago, U.S.A
Makiyama A, et al.	Trastuzumab beyond first progression in cases of HER2-positive advanced gastric or gastro-esophageal junction cancer: Initial results from KSCC1105, a trastuzumab observational cohort study.	Gastrointestinal Cancers Symposium	2017.1.19-21	San Francisco, U.S.A
Esaki T, Makiyama A, et al.	"T-ACT (WJOG7112G): A randomized phase II study of weekly paclitaxel ± trastuzumab in patients with HER2-positive advanced gastric or gastro-esophageal junction cancer refractory to trastuzumab combined with fluoropyrimidine and platinum.	Gastrointestinal Cancers Symposium	2017.1.19-21	San Francisco, U.S.A

業績目録

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
Sugimoto N, Sakai D, Tamura T, Hara H, Nishina T, Esaki T, Okuda H, Denda T, Tsuda M, Satoh T, Makiyama A, et al.	Randomized phase II study of panitumumab (Pmab) + irinotecan (CPT-11) versus cetuximab (Cmab) + CPT-11 in patients (pts) with KRAS wild-type (WT) metastatic colorectal cancer (mCRC) after fluoropyrimidine (FU), CPT-11, and oxaliplatin (L-OHP) failure: WJOG6510G.	Gastrointestinal Cancers Symposium	2017.1.19-21	San Francisco, U.S.A
Masato Nakamura, Tae Won Kim, Rui-hua Xu, Young Suk Park, Yong Sang Hong, Tao Zhang, Takeshi Kato, Sang Hee Cho, Wei Wang, Hiroshi Matsuoka, Sae-Won Han, Yanhong Deng, Akitaka Makiyama, et al.	A multinational, randomized, phase III trial of XELIRI with or without bevacizumab versus FOLFIRI with or without bevacizumab as second-line therapy for metastatic colorectal cancer: Safety analysis of Asian XELIRI project (AXEPT).	Gastrointestinal Cancers Symposium	2017.1.19-21	San Francisco, U.S.A
Makiyama A, et al.	The impact on survival of CPT-11 as third-line or later treatment in advanced gastric cancer.	ESMO World Congress on Gastrointestinal Cancer	2016.6.29-7.2	Barcelona, Spain
Yuki S, Komatsu Y, Satake H, Miyamoto Y, Tanioka H, Tsuji A, Asayama M, Shiraiishi T, Kotaka M, Makiyama A, et al.	Updated report: A randomized, double-blind, placebo-controlled phase II study of prophylactic dexamethasone (dex) therapy for fatigue and malaise due to regorafenib in patient (pts) with metastatic colorectal cancer (mCRC) :(KSCC1402/HGCSG1402)	ESMO 2016 Congress	2016.10.7-11	Copenhagen, Denmark
牟田 毅	施設報告、CMML-2 の症例報告	第 5 回九州 MDS フォーラム	2016.6.24	福岡
牟田 毅	自家移植後の再発多発性骨髄腫に対する再移植	Myeloma Forum in Fukuoka	2016.12.21	福岡
牟田 毅	特別講演座長	第 2 回腫瘍免疫セミナー	2016.8.17	北九州
牟田 毅	熱性好中球減少症の予防における G-CSF	門司薬剤師会 講演会	2016.6.9	北九州
牟田 毅	多発性骨髄腫の初回導入療法	日本血液学会九州地方会教育講演	2017.3.11	福岡
有水 耕平	本態性血小板血症から AML へ移行し、azacytidine が著効した一例	第 39 回関門血液疾患研究会	2016.5.19	北九州



業績目録

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
牟田 毅	CMML-2 に対する JSCT-Haplo14 RIC の一例	第 39 回 関門血液疾患研究会	2016.5.19	北九州
		第 40 回 関門血液疾患研究会	2016.9.15	北九州
小原 鉄兵	ドナー由来白血病を発症した 1 例	第 41 回 関門血液疾患研究会	2016.11.24	北九州
小川 亮介	家族内に発症した PNH 血球をもつ再生不良性貧血	第 41 回 関門血液疾患研究会	2016.11.24	北九州
小原 鉄兵	AML 後に発症した二次性白血病	第 42 回 関門血液疾患研究会	2017.2.16	北九州
牟田 毅	最新の多発性骨髄腫治療	第 2 回 Team Myeloma Conference	2016.10.21	北九州
小川 亮介	骨髄腫の治療とは	多発性骨髄腫・福岡セミナー 2016～患者・家族・医療者のつどい	2016.11.3	福岡
小川 亮介	がん化学療法に伴う高尿酸血症について	第 6 回 北九州腎と MetS 研究会	2017.3.24	北九州
小川 亮介	急性リンパ性白血病に対する治療戦略(座長)	Fukuoka Hematology Meeting	2017.2.22	福岡
小川 亮介	変わりつつある血液内科治療	病診連携セミナー	2016.6.14	北九州
小川 亮介	重症再生不良性貧血の治療後に診断した PNH 症例	骨髄不全 /PNH を考える会 北九州 / 山口 Expert Meeting	2016.7.1	北九州



業績目録

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
小川 亮介	骨髄異形成症候群 (MDS) の診断と治療	臨床血液検査部門勉強会	2017.2.24	北九州
小原 鉄兵	成人 T 細胞白血病 / リンパ腫 に対する Mogamulizumab の逐次投与	第 431 回金曜会	2016.11.11	北九州
牧山 明資	ディスカッションパート	Gastric Cancer Expert Meeting	2016.5.31	北九州
牧山 明資	ディスカッションパート	Dr.Sobrero Expert Meeting	2016.6.13	福岡
牧山 明資	座長	第 21 回 Annual Conference	2016.7.16	福岡
牧山 明資	開会の挨拶	九州 young oncologists' conference	2016.7.22	久留米
牧山 明資	高齢者のがん治療～化学療法について～	平成 28 年度地域医師のための生涯研修セミナー	2016.8.27	福岡
牧山 明資	パネルディスカッション	サイラムザ記念講演会	2016.10.1	福岡
牧山 明資	パネルディスカッション	北九州消化器がん講演会	2016.10.18	北九州
牧山 明資	新しい免疫チェックポイント阻害剤ニボルマブとは?	第 2 階がん診療連携の会	2016.10.25	北九州
牧山 明資	司会	北九州大腸癌治療勉強会	2016.11.2	北九州



業績目録

氏 名	演 題	発表学会名等	発表年月日	会 場
牧山 明資	胃癌における RAM+PTX 併用療法の実際	第 2 回九州腫瘍内科セミナー	2016.11.5	福 岡
牧山 明資	高齢者胃癌に対する化学療法	Hiroshima Oncology Group of Gastric Cancer	2016.11.11	広 島
牧山 明資	胃癌治療最前線	若手臨床医のための GI オンコロジーマスターセミナー	2016.11.30	つくば
牧山 明資	開会の挨拶	九 州 young oncologists' conference	2016.12.2	長 崎
牧山 明資	「原発出血・出血性素因」「好中球減少症」	YOUNG GI ONCOLOGIST SEMINAR	2017.1.14	東 京
牧山 明資	座長	がん診療連携と在宅医療実践のための勉強会	2017.1.27	北九州
牧山 明資	消化器癌の標準治療	第 13 回日本癌治療学会アップデート教育コース	2017.1.28	福 岡
牧山 明資	座長	北九州大腸癌化学療法研究会	2017.2.3	北九州
牧山 明資	高齢者の化学療法	関西若手腫瘍内科の会	2017.2.10	北九州

業績目録
◆血液腫瘍内科 (論文等)

氏名	論題	発表雑誌名等	巻号	頁	発表年月日
Sugio T, Kato K, Aoki T, Ohta T, Saito N, Yoshida S, Kawano I, Henzan H, Kadowaki M, Takase K, Muta T, Miyawaki K, Yamauchi T, Shima T, Takashima S, Mori Y, Yoshimoto G, Kamezaki K, Takenaka K, Iwasaki H, Ogawa R, Ohno Y, Eto T, Kamimura T, Miyamoto T, Akashi K.	Mogamulizumab Treatment Prior to Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation Induces Severe Acute Graft-versus-Host Disease.	Biol Blood Marrow Transplant	22(9)	1608-14	2016.9
Kawamoto K, Miyoshi H, Yanagida E, Yoshida N, Kiyasu J, Kozai Y, Morikita T, Kato T, Suzushima H, Tamura S, Muta T, Kato K, Eto T, Seki R, Nagafuji K, Sone H, Takizawa J, Seto M, Ohshima K.	Comparison of clinicopathological characteristics between T-cell prolymphocytic leukemia and peripheral T-cell lymphoma, not otherwise specified.	Eur J Haematol		doi: 10.1111/ ejh.12856	2017.1.27
Shima T, Kamezaki K, Higashioka K, Takashima S, Yoshimoto G, Kato K, Muta T, Takenaka K, Iwasaki H, Miyamoto T, Akashi K.	Ascites Retention during Mogamulizumab Treatment in a Patient with Adult T-cell Leukemia/lymphoma.	Intern Med	55(13)	1793-6	2016
Hiyamuta H, Yamada S, Matsukuma Y, Tsuchimoto A, Nakano T, Taniguchi M, Masutani K, Yoshimoto G, Muta T, Akashi K, Kitazono T, Tsuruya K.	Light Chain Deposition Disease in an Older Adult Patient Successfully Treated with Long-term Administration of Bortezomib, Melphalan and Prednisone.	Intern Med	55(10)	1319-25	2016
Minami M, Arita T, Iwasaki H, Muta T, Aoki T, Aoki K, Yamasaki S, Matsushima T, Kato K, Takenaka K, Tanimoto K, Kamimura T, Ogawa R, Akashi K, Miyamoto T.	Comparative analysis of pulmonary hypertension in patients treated with imatinib, nilotinib and dasatinib.	Br J Haematol		doi: 10.1111/ bjh.14608	2017.3.24
Yuki S, Komatsu Y, Satake H, Miyamoto Y, Tanioka H, Tsuji A, Asayama M, Shiraishi T, Kotaka M, Makiyama A, et al.	Updated report: A randomized, double-blind, placebo-controlled phase II study of prophylactic dexamethasone (dex) therapy for fatigue and malaise due to regorafenib in patient (pts) with metastatic colorectal cancer (mCRC) (KSCC1402/HGCSG1402)	Annals of Oncology	27 (6)	149-206	2016
Tadokoro T, Keshino E, Makiyama A, Sasaguri T, Ohshima K, Katano H, Mohri M.	Acute lymphocytic myocarditis with anti-PD-1 antibody nivolumab.	Circ Heart Fail	9	e003514	2016



業績目録

氏 名	論 題	発表雑誌名等	巻号	頁	発表年月日
Arita S, Shirakawa T, Matsushita Y, Shimokawa HK, Hirano G, Makiyama A, Shibata Y, Tamura S, Esaki T, Mitsugi K, Ariyama H, Kusaba H, Akashi K, Baba E	Efficacy and Safety of TAS-102 in Clinical Practice of Salvage Chemotherapy for Metastatic Colorectal Cancer.	Anticancer Res.	36(4)	1959-1966	2016.4
Yoshihiro T, Muta T, Aoki K, Shimamoto S, Tamura Y, Ogawa R.	Efficacy and adverse events of azacitidine in the treatment of hemodialysis patients with high-risk myelodysplastic syndrome. (Japanese)	Rinsho Ketsueki	57(8)	1004-10	2016.8
牟田 毅他	臨床医マニュアル	特発性血小板減少性紫斑病		1605-9	
牟田 毅他	多発性骨髄腫診療 PROGRESS	多発性骨髄腫の治療		30-35	
牧山 明資	高齢者におけるがん薬物療法 up date 1. 高齢者によく見られるがん薬物療法	Geriatric medicine (老年医学)	Vol.54 No.12		2016.12
牧山 明資	Ⅲ. 胃癌特有の病態に応じた治療の選択 4. 高齢者の胃癌	考える胃癌化学療法 - 胃癌化学療法の要点と盲点			
Yoshihiro T, Muta T, Aoki K, Shimamoto S, Tamura Y, Ogawa R.	Efficacy and adverse events of azacitidine in the treatment of hemodialysis patients with high-risk myelodysplastic syndrome. (Japanese)	Rinsho Ketsueki	57(8)	1004-10	2016.8
牧山 明資	高齢者におけるがん薬物療法 up date	Geriatric medicine (老年医学)	Vol.54 No.12		2016.12

業績目録
◆呼吸器内科 (講演・学会発表等)

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
川上 覚、衛藤 大祐、古川 理恵、岡松 佑樹、井上 勝博、河口 知允	局所麻酔下胸腔鏡検査を行い、結核性胸膜炎と確定診断した 13 症例の検討	第 39 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会	2016.6.23	名古屋
今田 悠介、篠崎 聖兒、岡松 佑樹、井上 勝博、川上 覚、大内 洋	肺多発癌の治療後に右脈絡膜転移による眼痛、視力低下を認めた 1 例	第 78 回日本呼吸器学会・日本結核病学会九州支部春季学術講演会	2016.3.11	福岡
岡松 佑樹、今田 悠介、篠崎 聖兒、井上 勝博、川上 覚、大内 洋	胸膜癒着術が奏功した特発性乳糜胸の 1 例	第 78 回日本呼吸器学会・日本結核病学会九州支部春季学術講演会	2016.3.11	福岡

◆呼吸器内科 (論文等)

氏名	論題	発表雑誌名等	巻号	頁	発表年月日
岡松 佑樹、井上 勝博、川上 覚、河口 知允、内山 明彦、笹栗 毅和	原発性肺軟骨肉腫と考えられた 1 例	肺癌	第 56 巻 第 5 号	373-378	2016.10
井上 勝博、岡松 佑樹、大内 清子、川上 覚、河口 知允、大内 洋、大島 司	両肺に癌性リンパ管症を伴い特発性肺繊維症急性増悪との鑑別が生前困難であった 1 例	日本胸部臨床	第 75 巻 11 号	1317-1323	2016.11
井上 勝博、古川 理恵、岡松 佑樹、川上 覚、河口 知允	Mycobacterium fortuitum による気管支病変が疑われた 1 例	気管支学	第 39 巻 2 号	170-175	2017.3



◆内科 (内分泌代謝) (講演・学会発表等)

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
足立 雅広	metirapone の投与にて血糖改善を認めた治療抵抗性糖尿病合併 Cushing 病の一例	第 89 回日本内分泌学会学術集会	2016.4.21.-23	京都
足立 雅広	metirapone の投与にて血糖改善を認めた血糖コントロール不良の Cushing 病の一例	第 59 回日本糖尿病学会年次学術集会	2016.5.19.-23	京都
足立 雅広	SGLT-2 阻害剤にて総 20 単位以上のインスリンを短期間に中止しえた 2 型糖尿病合併高度肥満症の 2 例	第 37 回日本肥満学会	2016.10.7.-8	東京
足立 雅広	睪全摘後、認知機能の低下により血糖管理が困難となった高齢糖尿病患者の 1 例	第 54 回日本糖尿病学会九州地方会	2016.10.14.-15	鹿児島
足立 雅広	著明な骨密度の低下を伴う AGHD 高齢男性患者の 1 例	第 26 回臨床内分泌代謝 Update	2016.11.18.-19	さいたま
足立 雅広	内分泌疾患と糖尿病	第 24 回響の会	2017.2.9	北九州
足立 雅広	日本糖尿病協会療養指導医取得のための講習会 (座長)	第 17 回実地医家のための糖尿病セミナー	2016.7.31	北九州
足立 雅広	座長	八幡地区の糖尿病を考える会	2017.3.22	北九州
足立 雅広	座長	第 6 回腎と METs 研究会	2017.3.24	北九州

業績目録
◆腎臓・透析部門 (講演・学会発表等)

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
菰田 圭佑、植木 研次、 冷牟田 浩人、鳥巢 久美子、 亀崎 健次、升谷 耕介、 岡部 博安、鶴屋 和彦、 北園 孝成	生体腎移植患者に発症した血管内大細胞型 B 細胞リンパ腫の一例	第 46 回日本腎臓学会西部 学術大会	2016.10.14-15	宮 崎
菰田 圭佑、植木 研次、 冷牟田 浩人、鳥巢 久美子、 亀崎 健次、升谷 耕介、 岡部 博安、鶴屋 和彦、 北園 孝成	生体腎移植患者に発症した血管内大細胞型 B 細胞リンパ腫の一例 (ポスター)	第 50 回日本臨床腎移植学 会	2017.2.15-17	神 戸
田村 恭久	真菌性腹膜炎のため PD 中止し HD へ移行後 4 ヶ 月で PD を再開した一例 (ポスター)	第 22 回日本腹膜透析医学 会学術集会・総会	2016.9.24-25	札 幌



◆神経内科 (講演・学会発表等)

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
山本 明史	進行膵癌に伴うトルソー症候群にヘパリン自己注射を導入した1例	第41回日本脳卒中学会総会	2016/4/14	札幌
山本 明史	免疫学的機序が疑われた高齢初発てんかんの3例	第57回日本神経学会学術大会	2016/5/20	神戸
橋本 侑	末梢神経障害とネフローゼ症候群を合併したシェーグレン症候群の一例	第216回日本神経学会九州地方会	2016/12/17	久留米
山本 明史	運動障害、歩行障害を来す内科疾患	第48回整形外科ネットワーク研修会	2016/11/30	北九州
橋本 侑	維持透析中の患者に見られた不随意運動を伴った意識障害の1例～NCSEか中毒か	第28回北九州てんかん懇話会	2016/11/10	北九州
山本 明史	認知症になって困らないために	平成29年度ものわすれ予防事業	2017/2/25	北九州
橋本 侑	電撃的な経過をとったリステリア髄膜炎	北九州神経カンファレンス	2016/6/30	北九州
橋本 侑	パーキンソン病との鑑別に苦慮した多系統萎縮症	北九州神経カンファレンス	2016/6/30	北九州
橋本 侑	経過中に抗GAD抗体陽性糖尿病を発症したGBSの2例	第455回北九州神経カンファレンス	2017/3/23	北九州
橋本 侑	筋症状で発症したオブシーボ関連脳炎	第455回北九州神経カンファレンス	2017/3/23	北九州
山本 明史	神経救急の初療	第1回神経救急勉強会	2016.4.25	北九州



業績目録

氏 名	演 題	発表学会名等	発表年月日	会 場
山本 明史	① 院内発症の脳梗塞の対応について	第 2 回神経救急勉強会	2016.9.26	北九州
山本 明史	② 抗血栓薬の休薬と再開について～抗血栓薬休薬の同意書まで必要か？	第 2 回神経救急勉強会	2016.9.26	北九州
橋本 侑	脳梗塞について	外来看護師対象の勉強会	2016.5.30	北九州



◆小児科 (講演・学会発表等)

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
城尾 正彦	思春期にアドヒアランス不良となった1型糖尿病患者に対する動機付け面接の試み	1型糖尿病研究会	2016.4.8	パークサイドビル
大村 隼也、是松 辰哉、松岡 良平、横田 千恵、山本 順子、高橋 保彦	出生後に大泉門開大から診断に至った鎖骨頭蓋骨異形成の1例	第489回日本小児科学会福岡地方会例会・総会	2016.4.9	福大メディカルホール
長友 雄作、宗内 淳、江上 直樹、白水 優光、渡邊 まみ江、城尾 邦隆、高橋 保彦	QT延長症候群(LQT)の管理における問題点～致死的不整脈を防ぐために～	第489回日本小児科学会福岡地方会例会・総会	2016.4.9	福大メディカルホール
江上 直樹、長友 雄作、白水 優光、渡邊 まみ江、宗内 淳、高橋 保彦、城尾 邦隆	重症大動脈弁狭窄(AS)の低出生体重児の一例	日本小児科学会福岡地方会例会	2016.4.9	福大メディカルホール
森藤 祐次、鎌田 政博、中川 直美、石口 由希子、岡田 清吾、松原 真祐子、岡本 健吾	進行性の冠動脈病変に対し血漿交換療法が奏効した川崎病の2例	第10回広島川崎病研究会	2016.4.23	広島
石口 由希子、鎌田 政博、中川 直美、森藤 祐次、岡田 清吾、松原 真祐子、岡本 健吾	冠動脈瘤を合併した川崎病の長期予後:20年以上経過例の報告	第10回広島川崎病研究会	2016.4.23	広島
押田 康一、宗内 淳、川口 直樹、秋本 竜矢、長友 雄作、渡邊 まみ江、山本 順子、城尾 邦彦、落合 由恵、城尾 邦隆	動脈弁欠損症11例の検討～胎児診断における羊水過多の重要性～	第119回小児科学会	2016.5.13-15	ロイトン札幌 / さっぽろ芸術文化の館
宗内 淳、長友 雄作、渡邊 まみ江、白水 優光、城尾 邦彦、落合 由恵、城尾 邦隆	左→右短絡先天性心疾患における肺血管抵抗と肺血管コンプライアンスの関係	第119回小児科学会	2016.5.13-15	ロイトン札幌 / さっぽろ芸術文化の館
長友 雄作、宗内 淳、白水 優光、渡邊 まみ江、高橋 保彦、城尾 邦隆	川崎病冠動脈病変の退縮におけるインフリキシマブ(IFX)の効果	第119回小児科学会	2016.5.13-15	ロイトン札幌 / さっぽろ芸術文化の館
城尾 正彦	「当科におけるSAP(Sensor Augmented Pump)導入の経験」	日本糖尿病学会	2016.5.19	みやこめっせ
江上 直樹、宗内 淳、白水 優光、長友 雄作、渡邊 まみ江、高橋 保彦、城尾 邦隆、横井 宏佳	川崎病冠動脈病変に対する経カテーテル治療、CABGの成績	第15回九州川崎病研究会	2016.5.28	福大メディカルホール

業績目録

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
大村 隼也、是松 辰哉、松岡 良平、横田 千恵、山本 順子、高橋 保彦	出生後に大泉門開大から診断に至った鎖骨頭蓋骨異形成の一例	第 68 回九州新生児研究会	2016 年 5 月 28 日	萩市
岡田 清吾、鎌田 政博、中川 直美、石口 由希子、森藤 祐次、松原 真祐子、岡本 健吾	心エコーで心房内隔壁をみとめた兄弟例 ～先天性左心耳入口部狭窄と三心房心の発生学的共通性について～	第 52 回日本小児循環器学会総会・学術集会	2016.7.6-8	東京
相良 優佳、江上 直樹、松岡 良平、吉田 卓也、城尾 正彦、鳥袋 渡、米田 哲、高橋 保彦	当科で最近経験した急性巣状細菌性腎炎 9 例	第 490 回日本小児科学会福岡地方会	2016.6.11	福岡
萩尾 泰明、鳥袋 渡、江上 直樹、芳野 三和、城尾 正彦、岡本 友樹、米田 哲、渡邊 まみ江、高橋 保彦、永野 ひとみ、津田 文史朗	腰部皮膚洞に感染を合併した 2 例	第 490 回日本小児科学会福岡地方会	2016.6.11	福岡
秋光 紀久子、福光 梓、黒川 佳代、小川 明希、奥田 知世、村田 真知子、長友 雄作、宗内 淳、伊藤 浩司	当院における小児心臓超音波検査レポートシステム構築及び運用効果	第 41 回日本超音波検査学会学術集会	2016.6.12	仙台国際センター
相良 優佳、江上 直樹、松岡 良平、吉田 卓也、城尾 正彦、鳥袋 渡、米田 哲、高橋 保彦	当科で最近経験した急性巣状細菌性腎炎 9 症例	第 490 回日本小児科学会福岡地方会例会	2016.6.18	福大メディカルホール
萩尾 泰明、鳥袋 渡、江上 直樹、芳野 三和、城尾 正彦、岡本 友樹、米田 哲、渡邊 まみ江、高橋 保彦	Chlamydia trachomatis 肺炎の 1 例	第 490 回日本小児科学会福岡地方会例会	2016.6.18	福大メディカルホール
松岡 良平、江上 直樹、芳野 三和、城尾 正彦、大村 隼也、横田 千恵、山本 順子、高橋 保彦、永野 ひとみ、津田 文史朗	腰部皮膚洞に感染を合併した 2 例	第 490 回日本小児科学会福岡地方会例会	2016.6.18	福大メディカルホール
吉田 卓也	周期性嘔吐症と診断され、加療されていたが、急性膵炎の発症を機に輪状膵・十二指腸狭窄と診断した一例	第 3 回八幡地区病院小児科合同カンファレンス	2016.6.26	産業医科大学
宗内 淳、長友 雄作、渡邊 まみ江、白水 優光、城尾 邦隆	胎児診断のビットホール～染色体異常や多発奇形など児の予後を予測するものをいかに診断するか～	第 52 回日本小児循環器学会学術集会	2016.7.6-8	東京ドームホテル
山崎 啓子、宗内 淳、新原 亮史、坂本 一郎、山村 健一郎、樗木 晶子	先天性心疾患をもつ経産婦の周産期リスクの検討	第 52 回日本小児循環器学会学術集会	2016.7.6-8	東京ドームホテル



業績目録

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
松岡 良平、宗内 淳、 白水 優光、長友 雄作、 城尾 邦彦、落合 由恵、 渡邊 まみ江、城尾 邦隆	最終手術適応外症例に対するカテーテルインター ベンションの役割	第 52 回日本小児循環器学 会学術集会	2016.7.6-8	東京ドーム ホテル
清水 大輔、宗内 淳、 長友 雄作、渡邊 まみ江、 白水 優光、城尾 邦隆、 城尾 邦彦、落合 由恵、 神代 万壽美、楠原 浩一	ファロー四徴症における心内修復術前後の左室機 能の検討～ ventricular-arterial coupling を用いて ～	第 52 回日本小児循環器学 会学術集会	2016.7.6-8	東京ドーム ホテル
白水 優光、宗内 淳、 松岡 良平、押田 康一、 長友 雄作、渡邊 まみ江、 城尾 邦彦、落合 由恵、 城尾 邦隆	Coronary sinus orifice atresia (CSOA) の 2 例	第 52 回日本小児循環器学 会学術集会	2016.7.6-8	東京ドーム ホテル
長友 雄作、宗内 淳、 松岡 良平、清水 大輔、 白水 優光、渡邊 まみ江、 城尾 邦隆	ASO 後頭痛と自律神経機能、左心室・血管カップ リングの関係	第 52 回日本小児循環器学 会学術集会	2016.7.6-8	東京ドーム ホテル
長友 雄作、宗内 淳、 松岡 良平、白水 優光、 渡邊 まみ江、城尾 邦隆	心電図 P 波減高と術後遠隔期心房性不整脈発症と の関連	第 52 回日本小児循環器学 会学術集会	2016.7.6-8	東京ドーム ホテル
宗内 淳、渡邊 まみ江、 山崎 啓子、長友 雄作、 白水 優光、城尾 邦隆	先天性心疾患合併妊産婦の血行動態変化～心室・ 動脈カップリングから考える～	第 52 回日本小児循環器学 会学術集会	2016.7.6-8	東京ドーム ホテル
渡邊 まみ江、宗内 淳、 長友 雄作、白水 優光、 松岡 良平、城尾 邦隆、 城尾 邦彦、落合 由恵	One and a half ventricle repair が担う役割—な ぜ選択されたのか—	第 52 回日本小児循環器学 会学術集会	2016.7.6-8	東京ドーム ホテル
落合 由恵、城尾 邦彦、 内山 光、恩塚 龍士、 久原 学、中島 淳博、 宗内 淳、渡邊 まみ江、 長友 雄作、白水 優光、 城尾 邦隆	左冠動脈肺動脈起始症 (Bland-White-Garland 症 候群) に対する中期遠隔成績の検討	第 52 回日本小児循環器学 会学術集会	2016.7.6-8	東京ドーム ホテル
鳥袋 渡、芳野 三和、 高橋 保彦、久野 敏	IgA 腎症に合併した薬剤性尿管間質性腎炎の 1 例	第 51 回日本小児腎臓病学 会学術集会	2016.7.7	愛知
米田 哲	家族とともに、働く	とちのきセミナー	2016.7.9	東京オリンピッ クセンター
大村 隼也、山本 順子、 横田 千恵、高橋 保彦	舌の線維束攣縮から早期に診断した脊髄性筋萎 縮症 I 型の新生児例	第 52 回日本周産期新生児 医学会	2016.7.16-18	富山市

業績目録

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
横田 千恵、大村 隼也、山本 順子、高橋 保彦、川上 剛史	胎児超音波・MRI 検査により先天性肺リンパ管拡張症が疑われた 1 例	第 52 回日本周産期新生児医学会	2016.7.16-18	富山市
岡田 清吾、宗内 淳、長友 雄作、横田 千恵、山本 順子、大村 隼也、渡邊 まみ江、飯田 千晶、白水 優光、高橋 保彦	Amplatzer Vascular Plug を使用し動脈管開存を治療し得た多臓器不全の一新生児例	第 3 回北九州新生児懇話会学術集会	2016.8.30	北九州市
岡田 清吾、大村 隼也、横田 千恵、宗内 淳、山本 順子、高橋 保彦	Amplatzer Vascular Plug を使用し動脈管開存を治療し得た多臓器不全の一新生児例	第 3 回北九州新生児懇話会学術集会	2016.8.31	北九州市
長友 雄作、宗内 淳、松岡 良平、白水 優光、岡田 清吾、飯田 千晶、渡邊 まみ江、城尾 邦隆	肺高血圧を合併した門脈体循環短絡症に対する治療経験	第 10 回北九州肺高血圧アーベント	2016.9.16	小倉ステーションホテル
吉田 卓也	周期性嘔吐症と診断され、加療されていたが、急性膵炎の発症を機に輪状膵・十二指腸狭窄と診断した一例	第 3 回八幡地区病院小児科合同カンファレンス	2016.9.26	産業医科大学
岡田 清吾、鎌田 政博、中川 直美、石口 由希子、森藤 祐次、松原 真祐子、岡本 健吾、若林 みどり、長谷川 俊史、大賀 正一	血圧コントロールの重要性: 4th line 治療としての血漿交換に抵抗性であったが冠動脈病変の進行が抑制された川崎病症例を経験して	第 36 回日本川崎病学会・学術集会	2016.9.30-10.1	横浜
鈴木 康夫、古田 貴士、岡田 清吾、三宅 晶子、松隈 知恵、東 良紘、楠田 剛、長谷川 俊史、市原 清志、大賀 正一	川崎病における血清ビタミン D 濃度と初回ガンマグロブリン療法反応性について	第 36 回日本川崎病学会・学術集会	2016.9.30-10.1	横浜
黒川 佳代、宗内 淳、長友 雄作、渡邊 まみ江、福光 梓、秋光 起久子、村田 眞知子、奥田 知世、小川 明希、伊藤 浩司	心房中隔欠損症に対するカテーテル閉鎖術前後における左房・左室容積の経時的変化	第 26 回日本超音波医学会九州地方会学術集会	2016.10.2	長崎ブリックホール
宗内 淳、渡邊 まみ江、秋光 起久子、村田 眞知子、奥田 知世、福光 梓、黒川 佳代、小川 明希、伊藤 浩司	先天性心疾患合併妊産婦の心機能評価	第 26 回日本超音波医学会九州地方会学術集会	2016.10.2	長崎ブリックホール
福光 梓、宗内 淳、長友 雄作、渡邊 まみ江、黒川 佳代、小川 明希、奥田 知世、村田 眞知子、秋光 起久子、伊藤 浩司	肥大型心筋症患者の妊娠例を経験して～産褥期の経時的循環変化を心エコーで診る～	第 26 回日本超音波医学会九州地方会学術集会	2016.10.2	長崎ブリックホール
岡田 清吾、宗内 淳、長友 雄作、横田 千恵、山本 順子、大村 隼也、渡邊 まみ江、飯田 千晶、白水 優光、高橋 保彦	Amplatzer Vascular Plug を使用し動脈管開存を治療し得た多臓器不全の一新生児例	第 491 回日本小児科学会福岡地方会	2016.10.8	福大メディカルホール



業績目録

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
是松 辰哉、長友 雄作、 飯田 千晶、白水 優光、 岡田 清吾、宗内 淳、 渡邊 まみ江、高橋 保彦	22 番染色体トリソミーモザイクの 1 例	第 491 回日本小児科学会 福岡地方会例会	2016.10.8	福大メディカル ホール
城尾 正彦	「Sensor Augmented Pump (SAP) 導入開始から 一年が経過して」	日本糖尿病学会九州地方 会	2016.10.14	かごしま県民 交流センター
岡田 清吾、宗内 淳、 長友 雄作、渡邊 まみ江、 飯田 千晶、白水 優光、 松岡 良平、城尾 邦隆	子宮内胎児発育遅延児における肺血管抵抗と肺血 管コンプライアンスの関係	第 36 回日本小児循環動態 研究会学術集会	2016.10.21-22	金沢医科大学
長友 雄作、宗内 淳、 江上 直樹、松岡 良平、 白水 優光、岡田 清吾、 飯田 千晶、渡邊 まみ江、 城尾 邦隆	経皮的動脈弁形成術後の機能的動脈弁逆流 —左室圧容量曲線の推定による考察—	第 36 回日本小児循環動態 研究会学術集会	2016.10.21-22	金沢医科大学
鳥袋 渡、芳野 三和、 高橋 保彦、筒井 顕郎、 此元 竜雄	上部尿路感染症の防止に苦慮した脊髄髄膜瘤の 1 例	第 38 回日本小児腎不全学 会学術集会	2016.10.27	岐阜
高橋 保彦	小児在宅医療の現状と課題の共有	第 11 回八幡薬剤師会学術 研究会開催	2016.10.27	JCHO 九州病院
長友 雄作、宗内 淳、 白水 優光、渡邊 まみ江、 中島 康高、鶴池 清、 森鼻 栄治、山村 健一郎、 高橋 保彦、大賀 正一	Influence of Infliximab Therapy on the Early Regression of Coronary Aneurysm in Patients with Kawasaki Disease	第 36 回日本川崎病学術集 会	2016.10.27-28	ワークピア 横浜
岡田 清吾、宗内 淳、 長友 雄作、渡邊 まみ江、 飯田 千晶、白水 優光、 松岡 良平、城尾 邦隆	出生後に高度房室ブロックおよび二枝ブロックをみ とめた一例	第 29 回九州小児不整脈研 究会	2016.10.29-30	佐賀
岡田 清吾、宗内 淳、 長友 雄作、横田 千恵、 山本 順子、大村 隼也、 渡邊 まみ江、飯田 千晶、 白水 優光、高橋 保彦	Amplatzer Vascular Plug を使用し動脈管開存を 治療し得た多臓器不全の一新生児例	第 58 回広島小児循環器研 究会	2016.11.5	広島
城尾 正彦	「Sensor Augmented Pump (SAP) 導入開始から 一年が経過して」	日本小児内分泌学会	2016.11.16	東京国際 フォーラム
岡田 清吾、宗内 淳、 折口 秀樹、松岡 良平、 長友 雄作、渡邊 まみ江、 飯田 千晶、白水 優光、 城尾 邦隆	右室前壁の幅広い副伝導路により中隔瘤状変化を 生じた WPW 症候群：3 次元マッピング装置を用い たカテーテル焼灼術前後での左室内伝導変化	第 21 回日本小児心電学会 学術集会	2016.11.18-19	ウインクあいち



業績目録

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
松岡 良平、宗内 淳、 長友 雄作、渡邊 まみ江、 白水 優光、飯田 千晶、 岡田 清吾、高橋 保彦	心室細動を合併したウエステルマン肺吸虫症の 1 例	第 21 回日本小児心電学会 学術集会	2016.11.18-19	ウインクあいち
大村 隼也、山本 順子、 横田 千恵、高橋 保彦、 和田 桃子、上村 哲郎	絞扼性イレウスを疑い緊急手術をおこなった新生 児腸間膜裂孔ヘルニアの 1 例	第 69 回九州新生児研究会	2016.11.26	由布市
高橋 保彦	福岡における小児在宅医療について	第 1 回九州小児在宅医療 支援研究会	2016.11.27	熊本大学 医学部
横田 千恵、山本 順子、 大村 隼也、高橋 保彦	頭部 MRI および髄液検査により神経皮膚黒色症 が疑われた先天性色素性母斑の 1 例	第 61 回日本新生児生育医 学会	2016.12.1-3	大阪市
大村 隼也、山本 順子、 横田 千恵、高橋 保彦	15 トリソミーモザイクの 1 例	第 61 回日本新生児生育医 学会	2016.12.1-3	大阪市
Nagatomo Y, Muneuchi J, Matsuoka R, Shimizu D, Shirozu H, Okada S, Iida C, Watanabe M, Origuchi H, Joo K	The relationship between the temporal de- crease of P wave amplitude and the occurrence of atrial arrhythmia late after the repair of con- genital heart disease	第 121 回日本循環器学会 九州地方会	2016.12.3	鹿児島
江上 直樹	気管開窓術の適応と術式の検討	第 492 回日本小児科学会 福岡地方会	2016.12.10	九大医学部 百年記念講堂
松岡 良平、宗内 淳、 長友 雄作、渡邊 まみ江、 白水 優光、飯田 千晶、 岡田 清吾、高橋 保彦	心室細急性心不全で発症したウエステルマン肺吸 虫症の 1 例	第 492 回日本小児科学会 福岡地方会	2016.12.10	九大医学部 百年記念講堂
飯田 千晶、宗内 淳、 長友 雄作、渡邊 まみ江、 是松 辰哉、江上 直樹、 萩尾 泰明、松岡 良平、 白水 優光、岡田 清吾、 大村 隼也、城尾 正彦、 鳥袋 渡、横田 千恵、 米田 哲、山本 順子、 高橋 保彦、和田 桃子、 上村 哲郎	当院における Trisomy18 (T18) 症例に対する治療 内容・経過の変遷	第 492 回日本小児科学会 福岡地方会	2016.12.10	九大医学部 百年記念講堂
黒川 佳代、宗内 淳、 長友 雄作、渡邊 まみ江、 福光 梓、秋光 起久子、 村田 真知子、奥田 知世、 小川 明希、伊藤 浩司	経皮的心房中隔欠損閉鎖遠隔期における心房細動 発症と左房容積増加			



◆小児科 (論文等)

氏 名	論 題	発表雑誌名等	巻号	頁	発表年月日
米田 哲、下野 昌幸、 芳野 三和、高橋 保彦	West 症候群を発症した上衣下巨細胞星細胞腫合併の結節性硬化症の一例～てんかん治療の選択について～	脳と発達	48	439-442	2016
Muneuchi J, Nagatomo Y, Watanabe M, Joo K, Onzuka T, Ochiai Y, Joo K	Relationship between pulmonary arterial resistance and compliance among patients with pulmonary arterial hypertension and congenital heart disease	J Thorac Cardio- vasc Surg	152 (2)		2016 Aug
宗内 淳、渡邊 まみ江、 長友 雄作、落合 由恵、 城尾 邦彦、折口 秀樹、 城尾 邦隆	Fontan 術後の運動中の周期性呼吸変動 日本成人先天性心疾患学会雑誌	第 5 巻	第 2 号	17～23	2016 年
宗内 淳、寺師 英子、 倉岡 彩子、竹中 聡、 杉谷 雄一郎、長友 雄作、 渡邊 まみ江、城尾 邦隆	小児特発性肺動脈性肺高血圧症 17 例の治療経過と予後	日本小児科学会雑誌	120 (8)	1206	2016
Ochiai Y, Joo K, Onzuka T, Nakashima A, Nagatomo Y, Watanabe M, Muneuchi J	Resection of Kommerell diverticulum after the arterial switch for TGA with bilateral PDAs and right aortic arch. Ann Thorac Surg.	doi:10.1016/ j.athoracsur. 2016.02.067.	102 (4)	e321-e323	2016 Oct
Nagatomo Y, Muneuchi J, Watanabe M, Joo K, Ochiai Y	Bilateral coronary-pulmonary artery fistulas in pulmonary atresia with ventricular septal defect.	Int Heart J. 2016(in press)			
Okada S, Azuma Y, Suzuki Y, Yamada H, Wakabayashi- Takahara M, Korenaga Y, Akase H, Hasegawa S, Ohga S	Adjunct cyclosporine therapy for refractory Kawasaki disease in a very young infant.	Pediatr Int	58 (4)	295-8	2016
Okada S, Ishiguchi Y, Moritoh Y, Shohi M, Nakagawa N, Okamoto K, Kamada M	Siblings with idiopathic left atrial appendage ostial stenosis and cor triatriatum.	Echocardiography	33 (7)	1098-1100	2016
Okada S, Kamada M, Nakagawa N, Ishiguchi Y, Moritoh Y, Shohi M, Okamoto K, Hasegawa S, Ohga S	Intractable back pain after the coil embolization of giant veno-venous collaterals in a patient with Fontan circulation.	Int Heart J. 2016(in press)			
Iida Y, Hasegawa S, Korenaga Y, Okada S, Suzuki Y, Hirano R, Ohga S	Immunoglobulin-resistant Kawasaki disease associated with human parvovirus B19 infection	Pediatr Neonatol. 2016 (in press)			



業績目録

氏名	論題	発表雑誌名等	巻号	頁	発表年月日
Yamada H, Ohta H, Hasegawa S, Azuma Y, Hasegawa M, Kadoya R, Ohbuchi N, Ohnishi Y, Okada S, Hoshide M, Ohga S	Two infants with tuberculid associated with Kawasaki disease.	Hum Vaccin Im- munother	19	1-5	2016
岡田 清吾、鎌田 政博、 中川 直美、石口 由希子、 森藤 祐次、松原 真祐子、 岡本 健吾、若林 みどり、 長谷川 俊史、大賀 正一	血漿交換療法にガンマグロブリン大量療法を 追加し、冠動脈病変の進行抑制が得られた 股関節炎合併川崎病の1例—血圧コントロ ールの有用性について—	Prog Med	36	883-7	2016



◆放射線科 (講演・学会発表等)

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
JCHO九州病院 放射線科 平賀 聖久 画像診断センター 前之園 康太、山内 大雅、 岡本 典彦、鈴木 洋平、 日野 祥悟、井上 友紀、 川崎 直正	Helicobacter pylori 抗体値からみた胃X線所見の 検討	第 55 回日本消化器がん検 診学会総会	平成 28 年 6月 10、11 日	鹿児島市
JCHO九州病院 放射線科 小田原 裕子、 篠崎 賢治、牧角 健司、 井上 公代、笠井 尚史、 水島 明 小児科 大村 隼也、 高橋 保彦	鎖骨頭蓋骨異形成の 1 例	第 183 回日本医学放射線 学会九州地方会	平成 28 年 6月 18-19 日	宮崎市
JCHO九州病院 放射線科 笠井 尚史、 篠崎 賢治、牧角 健司、 井上 公代、平賀 聖久 堀江 靖洋、渥美 和重、 小田原 裕子、水島 明 耳鼻科 松尾 美央子、 病理 笹栗 毅和	上咽頭アミロイドーシスの 1 例	第 183 回日本医学放射線 学会九州地方会	平成 28 年 6月 18-19 日	宮崎市
JCHO九州病院 放射線科 平賀 聖久、 篠崎 賢治 画像診断センター 川崎 直正	当院における大腸CT検査の運用	第1回九州大腸CT研究会	平成 28 年 7月 16 日	福岡市
JCHO九州病院 放射線科 平賀 聖久	十二指腸へ脱出する胃病変	北九州胃腸懇話会9月度例 会	平成 28 年 9月 14 日	北九州市
JCHO九州病院 放射線科 平賀 聖久、 笠井 尚史、小田原 裕子、 渥美 和重、井上 公代、 篠崎 賢治、牧角 健司、 堀江 靖洋、水島 明、 外科 荻野 利達、 難波江 俊永 臨床病理検査科 笹栗 毅和 野田消化器内科クリニック 野田 哲文 西日本産業衛生会 北九州 産業衛生診療所 平山 久美、櫻井 剛	Helicobacter pylori 除菌から4年7ヶ月後に発見さ れた早期胃癌の1例	第 46 回日本消化器がん検 診学会九州地方会	平成 28 年 10月 1日	長崎市
JCHO九州病院 放射線科 平賀 聖久	知らないと損をする！-胃がんの予防と対策-	八幡健診プラザ開設記念 講演会	平成 28 年 12月 4日	北九州市
JCHO九州病院 放射線科 平賀 聖久	胃がん検診 NOW	第 86 回消化管画像診断研 究会	平成 29 年 1月 25 日	北九州市



業績目録

氏 名	演 題	発表学会名等	発表年月日	会 場
JCHO九州病院 放射線科 平賀 聖久	精検症例の検討	第 66 回北九州検診放射線 技師勉強会	平成 29 年 2 月 24 日	北九州市

◆放射線科 (論文等)

氏 名	論 題	発表雑誌名等	巻号	頁	発表年月日
甲斐 聖広、平賀 聖久、 笹栗 毅和	胃粘膜にランタンの沈着を認めた 1 例	Gastroenterological Endoscopy	59 巻 2 号	203-204	平成 29 年 2 月



業績目録

◆麻酔科 (講演・学会発表等)

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
緒方 裕一、武末 美幸、 内田 貴之、茅島 顕治	レミフェンタニル併用プロポフォール導入における 気管挿管前後の血圧変動に関与する因子の検討	日本麻酔科学会第 63 回	2016.5.26	福岡市
梶田 美香、武末 美幸、 平賀 紀行、茅島 顕治	当院 10 年間における術後肺血栓塞栓症の診療科 別発生状況と発生因子解析：症例対照研究	日本麻酔科学会第 63 回	2016.5.26	福岡市
熊倉 美佳、茅島 顕治	本邦女性患者での左用二腔気管支チューブ挿入困 難症例：5 年間の後ろ向き検討	日本麻酔科学会第 63 回	2016.5.27	福岡市
茅島 顕治、土井 拓、 今井 敬子、武末 美幸、 菅 友里、市来 亜由美、 山崎 遼、平賀 紀行、 久野 綾子、芳野 弘臣、 村島 浩二	小児用カフ付き気管チューブと喉頭解剖	福岡小児麻酔カンファレン ス	2016.7.30	福岡市
山崎 遼、茅島 顕治、 武末 美幸、土井 拓、 市来 亜由美、亀谷 彩花、 今井 敬子、村島 浩二、 芳野 博臣	2 歳未満の小児におけるカフ付き気管チューブの使 用経験	福岡小児麻酔カンファレン ス	2017.2.11	福岡市

◆麻酔科 (論文等)

氏名	論題	発表雑誌名等	巻号	頁	発表年月日
Kayashima K, Fukui R, Imai K, Murashima K	Ultrasonographic images of internal jugular vein duplication.	Anesthesiology	2016 (4)	124:958	
高橋 良宏、村 島浩二、 茅島 顕治	i-gel 挿入補助法としての嗅ぐ姿勢と回転アプ ローチ	麻酔	2016 (4)	64:330-335	
武末 美幸、茅島 顕治、 村島 浩二、芳野 博臣、 今井 敬子、平賀 紀行、 熊倉 美佳、山崎 遼、 梶田 美香	当院 3 年間の小児扁桃摘出術後の覚醒時間 に影響する因子の検討	臨床麻酔	2016 (5)	40:798	
茅島 顕治	内頸静脈穿刺時の超音波装置による甲状頸 動脈分枝動脈走行の確認	日本集中医療医学 会誌 (2016.1.4 投稿、 2016.1.9 掲載決定)	2016	23:599-600	



業績目録

氏 名	論 題	発表雑誌名等	巻号	頁	発表年月日
林 哲也、茅島 顕治、 大倉 暖、川崎 貴士	免疫グロブリン A 欠損症を伴う重症貧血患者 で未洗浄赤血球を輸血した一症例			65: 1051-1053	2016.(10)
Sato M, Takesue M, Kayashima K	Difficult 32-Fr double-lumen tube intubation in a small Japanese woman with narrow transverse width of the cricoid cartilage.	A&A Case Reports	7 (7)	150-151	
茅島 顕治	4 モニタリング ⑦超音波エコーの応用	エビデンスで読み解 く小児麻酔 川名 信、蔵谷 紀文 編 克誠堂出版			2016.11.15 発行
茅島 顕治、土井 拓、 今井 敬子、武末 美幸、 菅 友里、市来 亜由美、 山崎 遼、平賀 紀行、 久野 綾子、芳野 博臣、 村島幸治	小児用カフ付き気管チューブと喉頭解剖	臨床麻酔	2016 (10)	40: 1575-1576	
⑩ Kayashima K, Yamasaki, R	Ultrasonographically Identifying the Thyrocerical Trunk and Vertebral Artery in Adults.	Turkish J Anesth Reanim	2016	44:275	
⑪ Horishita R, Kayashima K	Failed Mask Ventilation because of Air Leakage around the Orbit in a Patient with a History of Radical Maxillofacial Surgery with Orbital Exenteration: A Case Report	Turkish J Anesth Reanim	2016 (12)	44: 317-319	
武末 美幸、茅島 顕治	脳虚血発症高リスク症例での脳局所酸素飽和 度モニターおよび体外式連続心拍出量測定器 を用いた循環管理	麻酔	2017 (2)	66: 157-159	
Kayashima K	Evidence of the safety of axillary vein catheterization in newborns	Kuwait Medical Journal	2017 (3)	49(1): 76 - 77	



◆外科（講演・学会発表等）

氏 名	演 題	発表学会名等	発表年月日	会 場
荻野 利達、難波江 俊永、江口 大樹、村上 聡一郎、石川 幹真	胃癌、結腸直腸癌に対する腹腔鏡同時切除例の検討	第 116 回外科学会	2016/4/14-4/16	大 阪
村上 聡一郎、難波江 俊永、江口 大樹、荻野 利達、内山 明彦	肥満が腹腔鏡下胃手術の短期予後に及ぼす影響の検討	第 116 回外科学会	2016/4/14-4/16	大 阪
梁井 公輔	術後 QOL 向上を目指したクローン病に対する Reduced port surgery	第 116 回外科学会	2016/4/14-4/16	大 阪
中村 勝也、内山 明彦	当院における肺癌術後気管支断端瘻の検討	第 33 回日本呼吸器外科学会	2016/5/12-5/13	京 都
内山 明彦、中村 勝也	術中肺血管損傷のリスクを軽減する胸腔鏡下肺癌手術	第 33 回日本呼吸器外科学会	2016/5/12-5/13	京 都
和田 桃子、上村 哲郎	胆汁性嘔吐をきたした肥厚性幽門狭窄症の 1 例	第 53 回九州小児外科学会	2016/5/13	長 崎
中村 勝也、内山 明彦	当院における肺癌外科治療	第 7 回 JCHO 九州病院 腫瘍セミナー	2016/5/18	小 倉
中村 勝也、内山 明彦	自然血気胸の 1 手術例	第 12 回北九州内視鏡手術手技研究会	2016/5/20	小 倉
Toshinaga Nabae, Ideno Noboru, Soichiro Murakami, Daiki Eguchi, Toshitatu Ogino, Akihiko Uchiyama	Long-term results of laparoscopic gastrectomy for gastric cancer	DDW	2016/5/21-5/24	Sandiego
上村 哲郎、和田 桃子、中村 勝也	横隔膜ヘルニアならびに開心術後の漏斗胸に対する Nuss 法の 1 例, The Nuss procedure for pectus excavatum after diaphragmatic hernia repair and open heart surgery	第 53 回日本小児外科学会	2016/5/24-5/26	福 岡
和田 桃子、上村 哲郎	遠位十二指腸重複症の 1 乳児例, A case of distal duodenal duplication in an infant	第 53 回日本小児外科学会	2016/5/24-5/26	福 岡

業績目録

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
村上 聡一郎	当院における乳腺原発神経内分泌癌の検討	第 24 回日本乳癌学会総会	2016/6/16-6/18	東京
田中 晴生	当科における鏡視下ハイブリッド乳癌手術の現況 - 新規施設への導入の工夫と実践の Knock & Pitfalls -	第 24 回日本乳癌学会総会	2016/6/16-6/18	東京
石川 幹真	乳癌との鑑別が困難であった myoepithelial hyperplasia の一例	第 24 回日本乳癌学会総会	2016/6/16-6/18	東京
相良 亜希子	血腫形成により急速に増大し、潰瘍形成をきたした嚢胞内乳癌の一例	第 24 回日本乳癌学会総会	2016/6/16-6/18	東京
梅田 修洋	経内頸静脈留置後 8 か月経過して生じた中心静脈カテーテル断裂の 1 例	第 24 回日本乳癌学会総会	2016/6/16-6/18	東京
難波江 俊永、荻野 利達、村上 聡一郎、江口 大樹	短期・長期予後からみた胃癌に対する腹腔鏡下手術の位置づけ	第 101 回消化器病学会九州支部例会	2016/6/24-6/25	佐賀
村上 聡一郎、難波江 俊永、荻野 利達、内山 明彦	Knotless barbed suture を用いた上部消化管潰瘍穿孔症例に対する腹腔鏡下手術	第 101 回消化器病学会九州支部例会	2016/6/24-6/25	佐賀
難波江 俊永、荻野 利達、村上 聡一郎、目井 孝典、内山 明彦	腹腔鏡下胃切除の短期・長期予後からみたこれからの腹腔鏡下胃癌手術	福岡内視鏡外科研究会	2016/6/30	福岡
難波江 俊永、荻野 利達、村上 聡一郎、江口 大樹	右鎖骨下動脈起始異常を伴う食道癌の 1 例	第 70 回日本食道学会	2016/7/4-7/6	東京
中村 勝也、三好 圭*、西村 志帆、山田 裕、小山 虹輝、目井 孝典、木村 英世、和田 桃子、柳 親茂、荻野 利達、村上 聡一郎、田中 晴生、梁井 公輔、山田 大輔、川本 雅、出雲 明彦、難波江 俊永、梅田 修洋、上村 哲郎、内山 明彦	左下葉切除後の難治性肺癆に対して EWS が奏功した 1 例	第 6 回福岡胸部外科疾患研究会	2016/7/9	福岡



業績目録

氏 名	演 題	発表学会名等	発表年月日	会 場
難波江 俊永、萩野 利達、村上 聡一郎、江口 大樹	腹腔鏡下胃全摘・脾摘症例の検討	第 71 回日本消化器外科学会総会	2016/7/14-7/16	徳 島
一宮 脩、江口 大樹、難波江 俊永、中村 勝也、川本 雅彦、出雲 明彦、梅田 修洋、石川 幹真、上村 哲郎、内山 明彦	腸閉塞をきたした閉鎖孔ヘルニア 15 症例の検討	第 71 回日本消化器外科学会総会	2016/7/14-7/16	徳 島
相良 亜希子、村上 聡一郎、難波江 俊永、江口 大樹、萩野 利達、川本 雅彦、梅田 修洋、石川 幹真、内山明彦	Knotless barbed suture を用いた上部消化管潰瘍穿孔症例に対する腹腔鏡下手術	第 71 回日本消化器外科学会総会	2016/7/14-7/16	徳 島
Hitomi Kawaji, Soichiro Murakami, Toshinaga Nabae, Satomi Date, Shu Ichimiya, Shiho Nishimuta, Akiko Sagara, Daiki Eguchi, Toshitatsu Ogino, Yoshihiko Sadakari, o Tanaka, Katsuya Nakamura, Akihiko Izumo, Masahiko Kawamoto, Shuyo Umeda, Mikimasa Ishikawa, Akihiko Uchiyama	当院における残胃癌に対する腹腔鏡下残胃全摘術の検討	第 71 回日本消化器外科学会総会	2016/7/14-7/16	徳 島
村上 聡一郎、難波江 俊永、江口 大樹、萩野 利達、内山 明彦	腹腔鏡下胃全摘術の消化管再建におけるトラブルシューティング	第 71 回日本消化器外科学会総会	2016/7/14-7/16	徳 島
萩野 利達	原発虫垂癌の検討	第 71 回日本消化器外科学会総会	2016/7/14-7/16	徳 島
中村 勝也、木村 英世、和田 桃子、柳 親茂、萩野 利達、村上 聡一郎、田中 晴生、梁井 公輔、山田 大輔、川本 雅彦、出雲 明彦、難波江 俊永、梅田 修洋、上村 哲郎、笹栗 毅和*、内山 明彦	胸壁に発症した筋肉内血管腫の 1 例	第 49 回日本胸部外科学会九州地方会総会	2016/7/21-7/22	鹿児島
上村 哲郎、和田 桃子、中村 勝也	非典型的胸部変形に対する Nuss 法の応用	第 5 回日本小児診療多職種研究会	2016/7/30-7/31	横 浜



氏 名	演 題	発表学会名等	発表年月日	会 場
和田 桃子、上村 哲郎	LPEC 中に遭遇した卵黄血管遺残の 1 例	第 45 回九州小児外科研究会	2016/8/27	福 岡
上村 哲郎、和田 桃子	14G 留置針を用いた腹腔鏡下幽門筋切開術の 1 例	第 26 回九州内視鏡下外科手術研究会	2016/9/3	福 岡
中村 勝也、目井 孝典、西村 志帆、岡松 祐樹 1、川上 覚 1、大内 洋 1、笹栗 毅和 2、内山 明彦	咳嗽を契機に発見された末梢型肺腺癌の 1 例	第 53 回黒崎呼吸器カンファレンス	2016/9/8	福 岡
西村 志帆、村上 聡一郎、難波江 俊永、坂梨 溪太、和田 桃子、柳 親茂、荻野 利達、貞苺 良彦、田中 晴生、中村 勝也、川本 雅彦、出雲 明彦、梅田 修洋、上村 哲郎、内山 明彦	食道胃接合部に発生した悪性黒色腫の 1 例	第 119 回北九州外科	2016/9/9	小 倉
中村 勝也	胸部外科手術後疼痛における薬物療法について	第 119 回北九州外科	2016/9/9	小 倉
山田 大輔、木村 英世、川本 雅彦 1)、笹栗 毅和 2)、堤 宏介 3)、安井 隆晴 4)	化学療法が著効した局所進行胆嚢腺扁平上皮癌の 1 切除例	第 52 回胆道学会	2016/9/29-9/30	横 浜
中村 勝也	肺がん地域連携クリティカルパス運用の実際	第 2 回 JCHO 九州病院 がん診療連携の会	2016/10/25	小 倉
和田 桃子、上村 哲郎、中村 勝也	Nuss 術後に腕神経叢麻痺を来した 1 例	第 16 回 Nuss 法漏斗胸手術手技研究会	2016/11/4	徳之島
西村 志帆、村上 聡一郎、難波江 俊永、小山 虹輝、山田 裕、目井 孝典、木村 英世、柳 親茂、荻野 利達、梁井 公輔、山田 大輔、川本 雅彦、梅田 修洋、内山 明彦	食道胃接合部悪性黒色腫の 1 例	第 78 回日本臨床外科学会総会	2016/11/24-11/26	東 京
小山 虹輝、村上 聡一郎、柳 親茂、梁井 公輔、川本 雅彦、梅田 修洋、難波江 俊永、上村 哲郎、内山 明彦	膀胱ろう形成を伴った巨大盲腸癌に対して術前全身化学療法の後に根治切除しえた 1 例	第 78 回日本臨床外科学会総会	2016/11/24-11/26	東 京



氏 名	演 題	発表学会名等	発表年月日	会 場
堤 親範、和田 桃子、 江上 直樹、高橋 保彦、 上村 哲郎	睪炎を繰り返した非拡張型膵胆管合流異常症の一 例	第 493 回日本小児科学会 福岡地方定例会	2017/2/4	久留米
木村 英世、川本 雅彦、 山田 大輔、小山 虹輝、 山田 裕、西村 志帆、 目井 孝典、柳 親茂、 村上 聡一郎、荻野 利達、 田中 晴生、梁井 公輔、 中村 勝也、出雲 明彦、 難波江 俊永、梅田 修洋、 上村 哲郎、内山 明彦	中央二区域切除の 3 例	第 96 回北九州肝腫瘍研究 会	2017/2/9	小 倉
中村 勝也、西村 志帆、 山田 裕、小山 虹輝、 目井 孝典、木村 英世、 和田 桃子、柳 親茂、 荻野 利達、村上 聡一郎、 田中 晴生、梁井 公輔、 山田 大輔、川本 雅彦、 出雲 明彦、難波江 俊永、 梅田 修洋、上村 哲郎、 川上 寛*、吉田 聖**、 内山 明彦	有癭性アスペルギルス膿胸に対し、遊離大網充填・ 胸郭形成術を施行した 1 例	第 37 回北九州胸部疾患研 究会	2017/2/21	
中村勝也、内山明彦	小型肺癌の外科治療	第6回 黒崎呼吸器カンファ レンス	2017/3/2	

◆上部消化管外科 (講演・学会発表等)

氏 名	演 題	発表学会名等	発表年月日	会 場
村上 聡一郎、難波江 俊永、江口 大樹、荻野 利達、内山 明彦	肥満が腹腔鏡下胃手術の短期予後に及ぼす影響の検討	第 116 回日本外科学会総会	2016/4/14 ~ 4/16	大阪国際会議場他
荻野 利達、難波江 俊永、江口 大樹、村上 聡一郎、石川 幹真、内山 明彦	胃癌、結腸直腸癌に対する腹腔鏡同時切除例の検討	第 116 回日本外科学会総会	2016/4/14 ~ 4/16	大阪国際会議場他
Toshinaga Nabae, Noboru, Ideno, Soichiro Murakami, Daiki Eguchi, Toshitatu Ogino, Akihiko Uchiyama	Long and short term consequences of laparoscopic gastrectomy for gastric cancer	DDW2016	2016/5/21 ~ 5/24	San Diego, USA
村上 聡一郎、難波江 俊永、相良 亜希子、荻野 利達、江口 大樹、川本 雅彦、梅田 修洋、石川 幹真、内山 明彦	Knotless barbed suture を用いた上部消化管潰瘍穿孔症例に対する腹腔鏡下手術	第 107 回日本消化器病学会九州支部例会	2016/6/24 ~ 6/25	ホテルグランデはがくれ(佐賀)
難波江 俊永、目井 孝典、荻野 利達、内山 明彦	短期・長期予後からみた胃癌に対する腹腔鏡下手術の位置づけ	第 107 回日本消化器病学会九州支部例会	2016/6/24 ~ 6/25	ホテルグランデはがくれ(佐賀)
難波江 俊永、荻野 利達、村上 聡一郎、目井 孝典、内山 明彦	腹腔鏡下胃切除の短期・長期予後からみたこれからの腹腔鏡下胃癌手術	福岡内視鏡外科研究会	2016 年 6 月 30 日	西鉄グランドホテル (福岡)
難波江 俊永、荻野 利達、村上 聡一郎、江口 大樹、内山 明彦	右鎖骨下動脈起始異常を伴う食道癌の 1 例	第 70 回日本食道学会総会	2016/7/4 ~ 7/6	ザプリンスパークタワー東京
一宮 脩、江口 大樹、難波江 俊永、中村 勝也、川本 雅彦、出雲 明彦、梅田 修洋、石川 幹真、上村 哲郎、内山 明彦	腸閉塞をきたした閉鎖孔ヘルニア 15 症例の検討	第 71 回日本消化器外科学会総会	2016/7/14 ~ 7/16	アスティーとくしま(徳島) 他
川地 暉、村上 聡一郎、難波江 俊永、荻野 利達、内山 明彦	当院における残胃癌に対する腹腔鏡下残胃全摘術の検討	第 71 回日本消化器外科学会総会	2016/7/14 ~ 7/16	アスティーとくしま(徳島) 他
相良 亜希子、村上 聡一郎、難波江 俊永、荻野 利達、川本 雅彦、梅田 修洋、石川 幹真	Knotless barbed suture を用いた上部消化管穿孔に対する腹腔鏡下穿孔部閉鎖の検討	第 71 回日本消化器外科学会総会	2016/7/14 ~ 7/16	アスティーとくしま(徳島) 他
村上 聡一郎、難波江 俊永、荻野 利達、江口 大樹、内山 明彦	腹腔鏡下胃全摘術の消化管再建におけるトラブルシューティング	第 71 回日本消化器外科学会総会	2016/7/14 ~ 7/16	アスティーとくしま(徳島) 他



氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
難波江 俊永、荻野 利達、 村上 聡一郎、江口 大樹、 井手野 昇、内山 明彦	腹腔鏡下胃全摘・脾摘症例の検討	第 71 回日本消化器外科学 会総会	2016/7/14 ~ 7/16	アスティーとく しま(徳島) 他
西村 志帆、村上 聡一郎、 難波江 俊永、荻野 利達、 石川 幹真、内山 明彦	食道胃接合部に発生した 悪性黒色腫の一例	北九州外科学会	2016 年 9 月 2 日	北九州商工貿 易会館(小倉)
西村 志帆、村上 聡一郎、 小山 虹輝、山田 裕、 目井 孝典、木村 英世、 柳 親茂、荻野 利達、 梁井 公輔、山田 大輔、 川本 雅彦、難波江 俊永、 梅田 修洋、内山 明彦	食道胃接合部悪性黒色腫の 1 例	第 78 回日本臨床外科学会 総会	2016/11/24 ~ 11/26	グランドプリン ス新高輪(東 京)
荻野 利達、難波江 俊永、 村上 聡一郎、内山 明彦	リンパ節転移陽性症例における腹腔鏡下幽門側胃 切除(LADG)の検討	第 29 回日本内視鏡外科学 会総会	2016/12/8 ~ 12/15	パシフィコ横浜 (神奈川)
目井 孝典、難波江 俊永、 荻野 利達、村上 聡一郎、 内山 明彦	当院における腹腔鏡下胃全摘術の検討	第 29 回日本内視鏡外科学 会総会	2016/12/8 ~ 12/15	パシフィコ横浜 (神奈川)
Toshinaga Nabae, Toshitatu Ogino, Akihiko Uchiyama	Operative Results of Laparoscopic Gastrectomy for Gastric Cancer	第 89 回日本胃癌学会総会	2017/3/8 ~ 3/10	広島国際会議 場(広島)

◆上部消化管外科(論文等)

氏名	論題	発表雑誌名等	巻号	頁	発表年月日
新川 智彦、難波江 俊永、 内山 明彦 ほか、	巨大後腹膜血腫による閉塞性黄疸の 1 例	臨床と研究	93	685-688	2016
村上 聡一郎、難波江 俊永	腹部手術既往例に対する腹腔鏡下胃全摘術 の検討	臨床と研究	93	1492 ~ 1494	2016

業績目録
◆下部消化管外科 (講演・学会発表等)

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
梁井 公輔、真鍋 達也、 永吉 絹子、永井 俊太郎、 植木 隆、大塚 隆生、 永井 英司、中村 雅史	術後 QOL 向上を目指したクローン病に対する Reduced port surgery	第 116 回外科学会定期学 術集会	2016/4/14- 4/16	大阪
村上 聡一郎、石川 幹真、 川地 暉、難波江 俊永、 内山 明彦、笹栗 毅和	腹腔鏡下に整復および腫瘍切除を行い得た盲腸脂 肪腫を先進部とする成人腸重積症の一例	臨牀と研究		

◆下部消化管外科 (論文等)

氏名	論題	発表雑誌名等	巻号	頁	発表年月日
村上 聡一郎、石川 幹真、 川地 暉、難波江 俊永、 内山 明彦、笹栗 毅和	腹腔鏡下に整復および腫瘍切除を行い得た盲 腸脂肪腫を先進部とする成人腸重積症の一例	臨牀と研究	93 巻 11 号		2016.11



◆呼吸器外科(講演)

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
中村 勝也	術前放射線化学療法を施行した肺門部扁平上皮癌の1例	第21回院内がんサーボード	2016/3/2	当院大講堂
中村 勝也、内山 明彦	当院における肺癌術後気管支断端瘻の検討	第33回日本呼吸器外科学会	2016/5/12-5/13	京都
内山 明彦、中村 勝也	術中肺血管損傷のリスクを軽減する胸腔鏡下肺癌手術	第33回日本呼吸器外科学会	2016/5/12-5/13	京都
中村 勝也、内山 明彦	当院における肺癌外科治療	第7回JCHO九州病院腫瘍セミナー	2016/5/18	小倉
中村 勝也、内山 明彦	自然血気胸の1手術例	第12回北九州内視鏡手術手技研究会	2016/5/20	小倉
中村 勝也、三好 圭*、西村 志帆、山田 裕、小山 虹輝、目井 孝典、木村 英世、和田 桃子、柳 親茂、萩野 利達、村上 聡一郎、田中 晴生、梁井 公輔、山田 大輔、川本 雅、出雲 明彦、難波江 俊永、梅田 修洋、上村 哲郎、内山 明彦	左下葉切除後の難治性肺癆に対してEWSが奏功した1例	第6回福岡胸部外科疾患研究会	2016/7/9	福岡
中村 勝也、木村 英世、和田 桃子、柳 親茂、萩野 利達、村上 聡一郎、田中 晴生、梁井 公輔、山田 大輔、川本 雅彦、出雲 明彦、難波江 俊永、梅田 修洋、上村 哲郎、笹栗 毅和*、内山 明彦	胸壁に発症した筋肉内血管腫の1例	第49回日本胸部外科学会九州地方会総会	2016/7/21-7/22	鹿児島
中村 勝也、目井 孝典、西村 志帆、岡松 祐樹 1、川上 寛 1、大内 洋 1、笹栗 毅和 2、内山 明彦	咳嗽を契機に発見された末梢型肺腺癌の1例	第53回黒崎呼吸器カンファレンス	2016/9/8	福岡
中村 勝也	胸部外科手術後疼痛における薬物療法について	第119回北九州外科	2016/9/9	小倉

業績目録

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
中村 勝也	肺がん地域連携クリティカルパス運用の実際	第 2 回 JCHO 九州病院 が ん診療連携の会	2016/10/25	小 倉
中村 勝也、西村 志帆、 山田 裕、小山 虹輝、 目井 孝典、木村 英世、 和田 桃子、柳 親茂、 荻野 利達、村上 聡一郎、 田中 晴生、梁井 公輔、 山田 大輔、川本 雅彦、 出雲 明彦、難波江 俊永、 梅田 修洋、上村 哲郎、 川上 覚*、吉田 聖**、 内山 明彦	有癭性アスペルギルス膿胸に対し、遊離大網充填・胸 郭形成術を施行した 1 例	第 37 回北九州胸部疾患研 究会	2017/2/21	
中村 勝也、内山 明彦	小型肺癌の外科治療	第 6 回 黒崎呼吸器カン ファレンス	2017/3/2	

◆呼吸器外科 (論文)

氏名	論 題	発表雑誌名等	巻号	頁	発表年月日
内山 明彦	原発性肺軟骨肉腫と考えられた 1 例	肺癌	56 (5)	373-378	2016/5
内山 明彦	Palsy of the recurrent laryngeal nerves in association with an ultrasonic activated devis during thoracoscopic esophagectomy with three-field lymphadenectomy.	Esophagus	13	351-360	2016/6
中村 勝也	The effects of anesthetic agents on pupillary function during general anesthesia using the automated infrared quantitative pupillometer.	J Clin Monit Comput.	31 (2)	9839-9843	2016/2
内山 明彦	Survival outcomes of 220 consecutive patients with three-staged thoracoscopic esophagectomy.	Dis Esophagus	29 (8)	1090-1099	2016/11
中村 勝也	Future view of safe, painless and curative video assisted thoracoscopic surgery for lung cancer.	Video-assist Thorac Surg	1 (6)	1-3	2016/8



◆小児外科 (講演・学会発表等)

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
和田 桃子、上村 哲郎	胆汁性嘔吐をきたした肥厚性幽門狭窄症の 1 例	第 53 回九州小児外科学会	2016/5/13	長崎
上村 哲郎、和田 桃子、 中村 勝也	横隔膜ヘルニアならびに開心術後の漏斗胸に対する Nuss 法の 1 例	第 53 回日本小児外科学会	2016/5/24-26	福岡
和田 桃子、上村 哲郎	遠位十二指腸重複症の 1 乳児例	第 53 回日本小児外科学会	2016/5/24-26	福岡
中村 勝也、三好 圭、 西村 志帆、山田 裕、 小山 虹輝、目井 孝典、 木村 英世、和田 桃子、 柳 親茂、萩野 利達、 村上 聡一郎、田中 晴生、 梁井 公輔、山田 大輔、 川本 雅、出雲 明彦、 難波江 俊永、梅田 修洋、 上村 哲郎、内山 明彦	左下葉切除後の難治性肺癆に対して EWS が奏功した 1 例	第 6 回福岡胸部外科疾患研究会	2016/7/9	福岡
一宮 脩、江口 大樹、 難波江 俊永、中村 勝也、 川本 雅彦、出雲 明彦、 梅田 修洋、石川 幹真、 上村 哲郎、内山 明彦	腸閉塞をきたした閉鎖孔ヘルニア 15 症例の検討	第 71 回日本消化器外科学会	2016/7/14-16	徳島
村上 聡一郎、 難波江 俊永、江口 大樹、 萩野 利達、内山 明彦	腹腔鏡下胃全摘術の消化管再建におけるトラブルシューティング	第 71 回日本消化器外科学会	2016/7/14-16	徳島
中村 勝也、木村 英世、 和田 桃子、柳 親茂、 萩野 利達、村上 聡一郎、 田中 晴生、梁井 公輔、 山田 大輔、川本 雅彦、 出雲 明彦、難波江 俊永、 梅田 修洋、上村 哲郎、 笹栗 毅和、内山 明彦	胸壁に発症した筋肉内血管腫の 1 例	第 49 回日本胸部外科学会九州地方会	2016/7/21-22	鹿児島
上村 哲郎、和田 桃子、 中村 勝也	非典型的な胸郭変形に対する Nuss 法の応用	第 5 回日本小児診療多職種研究会	2016/7/30-31	横浜
和田 桃子、上村 哲郎	LPEC 中に遭遇した卵黄血管遺残の 1 例	第 45 回九州小児外科研究会	2016/8/27	福岡

業績目録

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
上村 哲郎、和田 桃子	14G 留置針を用いた腹腔鏡下幽門筋切開術の 1 例	第 26 回九州内視鏡下外科手術研究会	2016/9/3	福岡
西村 志帆、村上 聡一郎、難波江 俊永、坂梨 溪太、和田 桃子、柳 親茂、荻野 利達、貞菊 良彦、田中 晴生、中村 勝也、川本 雅彦、出雲 明彦、梅田 修洋、上村 哲郎、内山 明彦	食道胃接合部に発生した悪性黒色腫の 1 例	第 119 回北九州外科学会	2016/9/9	小倉
和田 桃子、上村 哲郎、中村 勝也	Nuss 術後に腕神経叢麻痺を来した 1 例	第 16 回 Nuss 法漏斗胸手術手技研究会	2016/11/4	徳之島
大村 隼也、山本 順子、横田 千恵、高橋 保彦、和田 桃子、上村 哲郎	絞扼性イレウスを疑い緊急手術をおこなった新生児腸間膜裂孔ヘルニアの 1 例	第 69 回九州新生児研究会	2016/11/26	由布
飯田 千晶、宗内 淳、長友 雄作、渡邊 まみ江、是松 辰哉、江上 直樹、萩尾 泰明、松岡 良平、白水 優光、岡田 清吾、大村 隼也、城尾 正彦、鳥袋 渡、横田 千恵、米田 哲、山本 順子、高橋 保彦、和田 桃子、上村 哲郎	当院における Trisomy18 (T18) 症例に対する治療内容・経過の変遷	第 492 回日本小児科学会福岡地方会	2016/12/10	福岡
堤親範、和田桃子、江上直樹、高橋保彦、上村哲郎	睪炎を繰り返した非拡張型睪尿管合流異常症の 1 例	第 493 回日本小児科学会福岡地方会	2017/2/4	久留米
和田桃子、堤親範、江上直樹、高橋保彦、上村哲郎	胆道走向異常を伴った非拡張型睪尿管合流異常症の 1 例	第 73 回北九州小児外科学研究会	2017/2/24	小倉

◆小児外科 (論文等)

氏名	論題	発表雑誌名等	巻号	頁	発表年月日
上村 哲郎、和田 桃子	重症心身障がい児の胸郭変形に対する Nuss 法	小児外科	Vol.48 No.8	p799-802	2016-12



◆心臓血管外科 (講演・学会発表等)

氏 名	演 題	発表学会名等	発表年月日	会 場
落合 由恵	左冠動脈肺動脈起始症 (Band-White-Garland 症候群) に対する中期遠隔成績の検討	第 52 回日本小児循環器学会総会・学術集会	2016年7月6日	東京ドームホテル
落合 由恵 (座長)	外科治療 11 “単心室, その他 “	第 52 回日本小児循環器学会総会・学術集会	2016年7月7日	東京ドームホテル
徳永 滋彦	一つの HAERTSTRING で複数の AC バイパス中枢吻合を作成する方法: CABG における私の吻合手技 (ビデオシンポジウム)	第 21 回日本冠動脈外科学会学術総会	2016年7月14日	電気ビル共創館: 福岡
徳永 滋彦	僧帽弁人工弁と弁形成リング: その構造と臨床的使い分け	第 32 回日本人工臓器学会教育セミナー	2016年7月16日	東京女子医大 弥生講堂
落合 由恵	Carotid swing Down 弓再建術後の遠隔成績、	第 49 回日本胸部外科学会九州地方会総会	2016年7月21日	かごしま県民交流センター
落合 由恵 (座長)	先天性心疾患 1	第 49 回日本胸部外科学会九州地方会総会	2016年7月21日	かごしま県民交流センター
城尾 邦彦	完全型 Cantrel 症候群に合併したファロー四徴症の一例	第 49 回日本胸部外科学会九州地方会総会	2016年7月21日	かごしま県民交流センター
城尾 邦彦	右側相同心房洞結節—基礎研究から臨床へ	第 49 回日本胸部外科学会九州地方会総会	2016年7月21日	かごしま県民交流センター
徳永 滋彦	僧帽弁形成における Mounting 法	第 49 回日本胸部外科学会九州地方会総会	2016年7月21日	かごしま県民交流センター
幾島 栄悟	開心術後に非典型溶血性尿毒症症候群を発症した 1 例	第 49 回日本胸部外科学会九州地方会総会	2016年7月22日	かごしま県民交流センター
徳永 滋彦 (座長)	弁膜症 3	第 49 回日本胸部外科学会九州地方会総会	2016年7月22日	かごしま県民交流センター

業績目録

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
恩塚 龍士	異所性右鎖骨下動脈塞栓術を併施した TEVAR の一例	第 49 回日本胸部外科学会九州地方会総会	2016年7月22日	かごしま県民交流センター
佐野 由佳	脳塞栓症で発症した僧帽弁腫瘍に対する手術症例	第 49 回日本胸部外科学会九州地方会総会	2016年7月22日	かごしま県民交流センター
落合 由恵	心房中隔欠損孔の作成と閉鎖	心臓血管外科サマースクール	2017年8月20日	テルモメディカルプラネックス：神奈川県足柄上郡
徳永 滋彦（座長）	特別講演：海外における重症心不全治療の動向（塩瀬明）	北九州心臓血管周術期 Forum	2016年9月16日	ホテルニュータガワ：小倉
徳永 滋彦	クリニカルビデオ（呼吸器 1）：胸腺腫浸潤 SVC に対する Two-stage 脱血カニューラによる内装法を用いた Off-pump 大静脈再建法	第 69 回日本胸部外科学会定期学術集会	2016年9月29日	ホテルグランビア岡山 他
落合 由恵（座長）	先天性 2, フォンタン手術	第 69 回日本胸部外科学会定期学術集会	2016年9月29日	ホテルグランビア岡山 他
落合 由恵	大動脈弓離断症を伴う完全大血管転位型疾患に対する二期的根治術後の遠隔期成績の検討	第 69 回日本胸部外科学会定期学術集会	2016年9月30日	ホテルグランビア岡山 他
徳永 滋彦（座長）	ワークショップ 2、心臓弁膜症の新展開	第 54 回日本人工臓器学会総会	2016年11月24日	米子コンベンションセンター BiG SHiP
徳永 滋彦（座長）	萌芽研究ポスターセッション	第 54 回日本人工臓器学会総会	2016年11月24日	米子コンベンションセンター BiG SHiP
徳永 滋彦（座長）	体外循環・補助循環教育セミナー 1	第 54 回日本人工臓器学会総会	2016年11月25日	米子コンベンションセンター BiG SHiP
落合 由恵（座長）	先天性心疾患	第 122 回日本循環器学会九州地方会	2017年12月3日	鹿児島市民文化ホール



業績目録

氏 名	演 題	発表学会名等	発表年月日	会 場
徳永 滋彦 (座長)	ナイトセッション 4	第 45 回人工心臓と補助循環懇話会	2017年2月17日	山梨県いさわ温泉 華やぎの章：笛吹市
徳永 滋彦	僧帽弁形成における Mounting 法：弁硬化による弁接合不全の対処法、ビデオ演題 4/ 僧帽弁	第 47 回日本心臓血管外科学会学術総会	2017年2月28日	グランドニッコー東京 台場
徳永 滋彦 (座長)	ビデオ演題 4/ 僧帽弁	第 47 回日本心臓血管外科学会学術総会	2017年2月28日	グランドニッコー東京 台場
徳永 滋彦 (司会)	第 171 回北筑ハートカンファレンス	第 171 回北筑ハートカンファレンス	2017年3月22日	JCHO 九州病院 新棟別館 4 階 大会議室
徳永 滋彦	2016 年心臓血管外科手術成績の報告	第 171 回北筑ハートカンファレンス	2017年3月22日	JCHO 九州病院 新棟別館 4 階 大会議室
恩塚 龍士	術前に心停止を来した急性 B 型大動脈解離破裂に対する緊急 TEVAR の救命例	第 171 回北筑ハートカンファレンス	2017年3月22日	JCHO 九州病院 新棟別館 4 階 大会議室
徳永 滋彦	当院における小切開開心術の導入と今後の展望	第 171 回北筑ハートカンファレンス	2017年3月22日	JCHO 九州病院 新棟別館 4 階 大会議室

業績目録
◆心臓血管外科 (論文等)

氏 名	論 題	発表雑誌名等	巻号	頁	発表年月日
Tokunaga S et al.	A technique to make multiple proximal anastomoses with 1 HEARTSTRING suture device	Journal of Cardiac Surgery	31	206-207	2016
徳永 滋彦	弁膜症：上行大動脈の石灰化 / 粥状病変を伴う大動脈弁置換術	進歩する心臓研究 - Tokyo Heart Journal - 特集：開心術における脳合併症を克服する	XXXVI (1)	22-24	2016
徳永 滋彦	僧帽弁用人工弁と弁形成リング：その構造と臨床的使い分け	人工臓器 2016 第 32 回教育セミナーテキスト		59-75	2016
Ochiai Y et al.	Resection of Kommerell Diverticulum After the Arterial Switch for TGA With Bilateral PDAs and Right Aortic Arch	Ann Thorac Surg	102	e321-3)	2016
落合 由恵	三尖弁閉鎖	新心臓血管外科テキスト		P436-440	2016
Onzuka T et al.	A Case of Tandem Plug Embolization for an Aberrant Right Subclavian Artery during Debranching Thoracic Endovascular Aortic Repair	Annals of vascular diseases	9 (3)	228-231	2016



◆皮膚科 (講演・学会発表等)

氏 名	演 題	発表学会名等	発表年月日	会 場
瀬戸山 絢子、廣正 佳奈、 伊豆 邦夫	Exophiala spp. による黒色菌糸症の 1 例	第 378 回日本皮膚科学会 福岡地方会	H28.9.25	北九州国際会 議場

業績目録
◆耳鼻科 (講演・学会発表等)

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
西嶋 利光	鼻粘膜皮膚置換術を施行したオスラー病の親子の2例	北九州耳鼻咽喉科臨床懇話会	2016.7.21	ホテルクラウンパレス小倉
小池 浩次	頭頸部がんを見逃さないポイント	直方鞍手医師会学術講演会	2016.11.28	直方鞍手医師会館
松尾 美央子、 次郎丸 梨那	頭頸部領域発生の肺外小細胞癌の6症例	頭頸部癌学会	2016.6.9	さいたま市
松尾 美央子、 次郎丸 梨那、小池 浩次	口腔癌化学放射線治療後に骨髄異型性症候群にいたった1例	日本耳鼻咽喉科学会	2016.5.21	名古屋市
次郎丸 梨那、 松尾 美央子、梅野 好啓、 小池浩次	初診時に脳転移を認めた頸部食道癌の一例	日本耳鼻咽喉科学会	2016.5.21	名古屋市

◆耳鼻科 (論文)

氏名	論題	発表雑誌名等	巻号	頁	発表年月日
松尾 美央子	レンバチニブが奏功した甲状腺癌2症例の経験	頭部部外科	26巻2号	259-263	2016.10
松尾 美央子	頭部部腺様嚢胞癌に対する術後放射線療法と化学療法の有用性の検討	耳鼻咽喉科臨床	109巻8号	557-561	2016.8



◆臨床病理検査科(講演・学会発表等)

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
笹栗 毅和	子宮内膜症を伴った直腸管状絨毛腺腫の一例	北若会	2016/4/20	JCHO 九州病院
笹栗 毅和	肝類上皮性血管筋脂肪腫の一例	北若会	2016/5/25	JCHO 九州病院
笹栗 毅和	前立腺導管腺癌ホルモン療法後の一例	北若会	2016/6/22	JCHO 九州病院
笹栗 毅和	BHD 症候群が疑われた多発性腎細胞癌の一例	北若会	2016/7/20	JCHO 九州病院
西山 純司、安部 拓也、 玉城 真太、立岩 友美、 豊嶋 憲子、奥蘭 学、 大内 清子、岩井 幸子、 笹栗 毅和	腎盂 Lymphoepithelioma-like carcinomo の 1 例	第 32 回日本臨床細胞学会 九州連合会	2016/7/24	久留米大学筑 水会館
玉城 真太、安部 拓也、 西山 純司、立岩 友美、 豊嶋 憲子、奥蘭 学、 野口 紘嗣、笹栗 毅和	腹腔内に自壊し腹水細胞診に出現した後腹膜原発 未分化多形肉腫 / 悪性線維性組織球腫の 1 例	第 32 回日本臨床細胞学会 九州連合会	2016/7/24	久留米大学筑 水会館
笹栗 毅和	結膜色素性母斑の一例	北若会	2016/9/28	JCHO 九州病院
笹栗 毅和	孤発性末梢小型腫瘤を形成した肺 peribronchiolar metaplasia の一例	北若会	2016/10/19	JCHO 九州病院
玉城 真太、安部 拓也、 西山 純司、立岩 友美、 豊嶋 憲子、奥蘭 学、 笹栗 毅和	濾胞樹状細胞肉腫の 1 例	第 32 回福岡県臨床細胞学 会総会・学術集会	2016/12/4	北九州市立商 工貿易会館
笹栗 毅和、玉城 真太	頸部リンパ節濾胞樹状細胞肉腫の一例	北若会	2016/12/21	JCHO 九州病院
笹栗 毅和	乳腺紡錘細胞癌の一例	北若会	2017/2/15	JCHO 九州病院

業績目録

氏 名	演 題	発表学会名等	発表年月日	会 場
笹栗 毅和	濾胞癌から発生した甲状腺低分化癌の一例	北若会	2017/3/15	JCHO 九州病院

◆臨床病理検査科 (論文等)

氏 名	論 題	発表雑誌名等	巻号	頁	発表年月日
Katsuki S, Ito K, Tadokoro T, Sasaguri T, Hisahara M, Mohri M	Mitral annulus calcification-related calcified amorphous tumour trapped and extended by closing aortic valve	Eur Heart J Cardiovasc Imaging	17 (5)	585	2016 5 月
西山 純司、安部 拓也、玉城 真太、立岩 友美、豊嶋 憲子、奥蘭 学、大内 清子、野口 紘嗣、久岡 正典、笹栗 毅和	肺原発性軟骨肉腫の一例	日本臨床細胞学会誌九州連合会雑誌	47号	47-52	2016 7 月
Tadokoro T, Keshino E, Makiyama A, Sasaguri T, Ohshima K, Katano H, Mohri M	Acute Lymphocytic Myocarditis With Anti-PD-1 Antibody Nivolumab	Circ Heart Fail	9 (10)	e003514	2016 5 月
岡松 佑樹、井上 勝博、川上 覚、河口 知允、内山 明彦、笹栗 毅和	原発性肺軟骨肉腫と考えられた 1 例	肺癌	56巻5号	373-378	2016 10 月
Tadokoro T, Katsuki S, Ito K, Onitsuka K, Nakashima A, Sasaguri T, Miyata K, Yamamoto H, Mohri M	Inoperable Primary Ovarian Carcinoid Led to the Progression of Carcinoid Heart Disease From Right-Sided to Both-Sided Involvement	Circ Heart Fail	10 (1)	e003719	2017 1 月
甲斐 聖広、平賀 聖久、笹栗 毅和	胃粘膜にランタンの沈着を認めた 1 例	日本消化器内視鏡学会雑誌	59巻2号	203-204	2017 2 月



◆看護部 (講演・学会発表等)

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
江口 菜々 他	患者と良い関係を築いている看護師の特徴に関する文献検討	第 47 回日本看護学会 看護管理	11/17	
馬場 拓也	胸腰椎手術電子パス	マネジメント学会	4/22	
巢山 直子 他	生活習慣に寄り添ったストーマケアが有効であった思春期オストメイトの 1 例	第 30 回日本小児ストーマ・排泄・創傷管理研究会	6/25	
山口 弘恵 他	乳幼児期の管理困難ストーマ 2 奨励への対応	第 30 回日本小児ストーマ・排泄・創傷管理研究会	6/25	
堤 純子	前立腺全摘患者の術前・術後の尿流動態検査を通して	老年泌尿器学会	5/13	
山崎 啓子 他	先天性心疾患を持つ経産婦の周産期リスクの検討	第 52 回日本小児循環器学会総会学術集会	7/6	
樋口 恵美	腸管切除を伴うイレウス解除術クリティカルパス	日本医療マネジメント学会 第 15 回九州山口連合大会	9/16	
村上 貴子 他	新人看護師への急変時シミュレーション研修の効果	日本救急看護学会	10/29	
林田 沙也加 他	入院当日の ERCP クリニカルパス	日本クリニカルパス学会	11/25	
櫻井 栄子 他	多職種による外来心臓リハビリが再入院予防に効果的であった慢性心不全患者の 1 例	第 20 回日本心不全学会	10/7	
山崎 啓子 他	Perinatal management of pregnant women with congenital heart diseases -Relation to the existence of cyanosis	The20EAFONS	3/9	



業績目録

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
山崎 啓子 他	先天性心疾患合併妊婦の周産期管理	第 13 回日本循環器看護学会	10/22	
山崎 啓子 他	Perinatal risk of pregnant women with congenital heart diseases-based on the classification of cyanotic and acyanotic congenital heart diseases	第 81 回日本循環器学会(一般演題部門)	3/17	
山崎 啓子	先天性心疾患合併妊婦の周産期管理中の看護 チアノーゼ性心疾患と非チアノーゼ性心疾患での比較	第 81 回日本循環器学会 (チーム医療セッション)	3/17	
山崎 啓子 他	先天性心疾患合併妊婦におけるコメディカルの役割	第 19 回日本成人先天性心疾患学会	1/15	
平石 絵里子 他	歯科のない地域がん診療拠点病院におけるオーラルサポートチームの活動と今後の課題について	第 2 回 JCHO 学会	9/16	
福田 和行	熊本震災における災害支援活動の報告	第 2 回 JCHO 学会	9/16	
山崎 加奈子	ロボット支援手術導入に向けての取組み	第 2 回 JCHO 学会	9/16	
平島 悠一、平石 絵里子 正門 直美 他	歯科のない地域がん診療連携拠点病院でのがん患者への口腔サポートチーム活動について	日本口腔ケア学会	4/23	
平島 悠一、平石 絵里子	歯科のない地域がん診療連携拠点病院でのがん患者への口腔サポート	第 54 回日本癌治療学会学術集会	2016 年 10 月 22 日	パシフィコ横浜
馬場 祐也、片山 朋子 百々 加奈子、岩淵 安紀子	胸腰椎手術バスのバリエーション分析	第 17 回日本クリニカルパス学会学術集会 (ポスター発表)	2016 年 11 月 25 日	石川県立音楽堂



◆外来 (講演・学会発表等)

氏 名	演 題	発表学会名等	発表年月日	会 場
巢山 直子	生活習慣に寄り添ったストーマケアが有効であった思春期オストメイトの1例	平成 28 年第 30 回日本小児ストーマ・排泄・創傷管理研究会	2016 年 6 月 25 日	ウィルあいち 3F 大会議室



業績目録

◆特殊外来 (講演・学会発表等)

氏 名	演 題	発表学会名等	発表年月日	会 場
有田 智香、野寄 真紀 村上 貴子	脳血管障害が疑われる患者に対して CVA 初期評価シートを導入した効果	第 20 回日本救急医学会九州地方会	2016 年 6 月 4 日	かごしま県民交流センター
河野 由希子、野寄 真紀、 村上 貴子、福島 由衣、 濱田 賢吾	脳血管障害を疑う患者に対する質の高い神経学的評価への取り組みと評価	第 35 回福岡救急医学会	2016 年 9 月 10 日	ももちパレス
福田 和行、黒木 真二	熊本地震における災害支援活動の報告	第 2 回 JCHO 地域医療総合医学会	2016 年 9 月 16 日	TKP ガーデンシティ品川
渡邊 春菜、野寄 真紀、 村上 貴子	CVA 初療システムの構築 いそげ！CVA (カバ) ちゃん!!	第 18 回「医療の改善活動」 全国大会	2016 年 10 月 29 日	倉敷市芸文館
村上 貴子、山崎 啓子、 鳴海 亜紀	新人看護師への急変時シミュレーション研修の効果	第 18 回日本救急看護学会 学術集会	2016 年 10 月 30 日	幕張メッセ国際会議場



業績目録

◆薬剤部 (講演・学会発表等)

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
末松 文博	シンポジウム「変革期における健全経営のためのアドミニストレーターの役割」：変革期における病院薬剤部のマネジメント	第 18 回日本医療マネジメント学会学術総会	2016 年 4 月 22 日	福岡国際会議場、福岡サンパレス
矢川 結香、舩永 絵里子、松本 恵、桑村 恒夫、末松 文博	予定手術患者における外来時服薬管理の利点と病棟薬剤業務への影響	第 18 回日本医療マネジメント学会学術総会	2016 年 4 月 22 日	福岡国際会議場、福岡サンパレス
吉国 健司	経皮吸収型 $\beta 1$ 選択性 β 遮断薬ビソプロロールの適正使用	第 33 回北九州心臓リハビリテーション研究会	2016 年 5 月 19 日	パークサイドビル
秋吉 尚雄 (薬剤部) 桑村 恒夫 (薬剤部) 松尾 未央子 (耳鼻咽喉科) 末松 文博 (薬剤部)	頭頸部癌化学放射線療法における口腔粘膜炎に対するアズレンスルホン酸 Na・リドカイン・グリセリン混合含嗽液の運用と効果について	第 10 回緩和医療薬学会	2016 年 6 月 3 日	アクトシティ浜松
吉国 健司	実践!心臓リハビリテーション患者の薬学的管理	第 5 回長崎臨床薬剤師循環器カンファランス	2016 年 6 月 10 日	長崎大学病院
川久保 充章 (薬剤部、がんサポートチーム) 秋吉 尚雄 (薬剤部) 居塚 しのぶ (薬剤部、がんサポートチーム) 末松 文博 (薬剤部) 近藤 恵子 (がんサポートチーム、がんセンター) 今村 秀 (がんサポートチーム、がんセンター)	当院におけるタベンタドールの使用実績調査	第 21 回日本緩和医療学会	2016 年 6 月 17 日	国立京都国際会館、グランドプリンスホテル 京都
小倉 秀美 (薬剤部) 末松 文博 (薬剤部) 谷口 由美子 (看護部) 古賀 美砂紀 (看護部) 酒井 賢一郎 (内科)	JCHO 九州病院リスクマネジメント部会におけるハイリスク薬誤薬防止に対する取り組み	医療薬学フォーラム 2016、第 24 回クリニカルファーマシーシンポジウム	2016 年 6 月 25 日	滋賀県立芸術劇場 びわ湖ホール、ピアザ淡海 滋賀県立県民交流センター、大津市勤労福祉会館
宮本 愛子 (薬剤部) 吉国 健司 (薬剤部) 高永 康弘 (リハビリテーション室) 矢頭 直子 (看護部) 辻郷 裕美 (看護部) 安河内 純子 (医療支援部) 有吉 雄司 (リハビリテーション室) 鎌塚 圭子 (薬剤部) 末松 文博 (薬剤部) 毛利 正博 (内科)	心筋梗塞二次予防のための薬物療法と急性心筋梗塞地域連携バス	北九州薬学フォーラム 2016	2016 年 7 月 7 日	ステーションホテル小倉



業績目録

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
小倉 秀美 (薬剤部) 山澤 結季 (薬剤部) 工藤 信孝 (公益社団法人 八幡薬剤師会) 有吉 俊二 (公益社団法人 八幡薬剤師会) 星野 正俊 (公益社団法人 八幡薬剤師会) 協園 隆二 (公益社団法人 八幡薬剤師会) 末松 文博 (薬剤部) 米田 哲 (小児科) 高橋 保彦 (小児科)	九州病院における薬薬連携の実践 - 小児慢性特定 疾患を中心に -	第 9 回日本在宅薬学会	2016 年 7 月 17 日	グランキューブ 大阪 国際会 議場
末松 文博	高齢者のポリファーマシーについて	JCHO 九州病院高齢者支 援部会研修会	2016 年 7 月 21 日	JCHO 九州病 院 講堂
有吉 美幸、桑村 恒夫、 末松 文博	婦人科癌に対する TC 療法施行患者の副作用につ いての調査	第 26 回日本医療薬学会年 会	2016 年 9 月 17 日	国立京都国際 会館、グランド プリンスホテル 京都
居塚 しのぶ、川久保 充章、 小倉 秀美、末松 文博	メサドンの導入が有効であった一例	第 26 回日本医療薬学会年 会	2016 年 9 月 17 日	国立京都国際 会館、グランド プリンスホテル 京都
川久保 充章 (薬剤部、が んサポートチーム) 秋吉 尚雄 (薬剤部) 居塚 しのぶ (薬剤部、が んサポートチーム) 末松 文博 (薬剤部)	当院におけるタベンタドールの使用実績調査	第 26 回日本医療薬学会年 会	2016 年 9 月 17 日	国立京都国際 会館、グランド プリンスホテル 京都
桑村 恒夫、上津 沙織、 小笠 裕斗、西村 直朗、 末松 文博	XELOX 療法の副作用とその対応に関する調査	第 26 回日本医療薬学会年 会	2016 年 9 月 17 日	国立京都国際 会館、グランド プリンスホテル 京都
野村 公子、小倉 秀美、 末松 文博	転倒転落防止と薬剤との関係についての認識調査	第 26 回日本医療薬学会年 会	2016 年 9 月 17 日	国立京都国際 会館、グランド プリンスホテル 京都
小倉 秀美、川久保 充章、 松本 恵、居塚 しのぶ、 末松 文博	薬剤師外来における麻薬導入患者への関わり	第 26 回日本医療薬学会年 会	2016 年 9 月 18 日	国立京都国際 会館、グランド プリンスホテル 京都
西村 直朗、桑村 恒夫、 末松 文博	プロトンポンプ阻害薬が高用量メトトレキサート治 療における血中濃度に与える影響	第 26 回日本医療薬学会年 会	2016 年 9 月 18 日	国立京都国際 会館、グランド プリンスホテル 京都



業績目録

氏 名	演 題	発表学会名等	発表年月日	会 場
藤村 弥生、小倉 秀美、 末松 文博	認知症・せん妄回診における薬学的介入事例の分 析	第 26 回日本医療薬学会年 会	2016 年 9 月 18 日	国立京都国際 会館、グランド プリンスホテル 京都
吉国 健司、桑村 恒夫、 上津 沙織、末松 文博	当院における持続性 G-CSF 製剤ペグフィルグラス チムの使用状況	第 26 回日本医療薬学会年 会	2016 年 9 月 18 日	国立京都国際 会館、グランド プリンスホテル 京都
阿部 名月、秋吉 尚雄、 杉原 徹哉、上原 奈緒、 舩永 絵里子、松本 恵、 矢川 結香、小倉 秀美、 末松 文博	バンコマイシンの処方設計支援システムの構築	第 26 回日本医療薬学会年 会	2016 年 9 月 19 日	国立京都国際 会館、グランド プリンスホテル 京都
吉国 健司	心不全患者に対する心臓リハビリテーション～薬 学的管理と服薬指導～	第 20 回日本心不全学会学 術集会	2016 年 10 月 7 日	ロイトン札幌・ ホテルさっぽろ 芸文館
大西 利彦	薬剤師の業務	平成 28 年度山口県立下 関西高等学校キャリアセミ ナー	2016 年 11 月 4 日	山口県立下関 西高等学校
小倉 秀美	腎機能と薬	平成 28 年度第 12 回 八幡 薬剤師会学術研修会	2016 年 11 月 10 日	八幡医師会館
末松 文博	新しい検査値付き院外処方箋について	平成 28 年度第 12 回 八幡 薬剤師会学術研修会	2016 年 11 月 10 日	八幡医師会館
小倉 秀美	薬剤管理における地域連携について	独立行政法人地域医療機 能推進機構九州病院健康 フェア	2016 年 11 月 12 日	JCHO 九州病 院 講堂
藤村 弥生	認知症・せん妄回診における薬学的介入事例の分 析	第 15 回 地域薬剤師会・ JCHO 九州病院薬剤部合 同研修会	2016 年 11 月 16 日	JCHO 九州病 院 講堂
吉国 健司	JCHO 九州病院における医薬品安全管理	第 218 回洞薬会例会	2016 年 11 月 17 日	ステーションホ テル小倉
桑村 恒夫	抗がん剤と検査値について	平成 28 年度 第 13 回八幡 薬剤師会学術研修会	2016 年 11 月 24 日	八幡医師会館

業績目録

氏 名	演 題	発表学会名等	発表年月日	会 場
吉国 健司	循環器用薬と検査値	平成 28 年度第 13 回八幡薬剤師会学術研修会	2016 年 11 月 24 日	八幡医師会館
大西 利彦 (治験支援センター、薬剤部) 川久保 充章 (治験支援センター、薬剤部) 古田 彰 (治験支援センター、経理課) 末松 文博 (治験支援センター、薬剤部) 山本 英雄 (治験支援センター、循環器内科)	JCHO 九州病院における治験実施体制強化への取り組み	第 37 回日本臨床薬理学会学術総会	2016 年 12 月 1 日	米子コンベンションセンター、米子市文化ホール
末松 文博	内服薬中止理由の分析から考察したポリファーマシー対策への課題	2016 年度洞薬会薬局長意見交換会	2017 年 2 月 3 日	ステーションホテル小倉
末松 文博	中小病院のファーマシーマネジメント	第 4 回あすか製薬学術講演会	2017 年 2 月 11 日	ホテルセントラザ博多
末松 文博	新しい検査値付き院外処方箋について～1月開始からの現状～	平成 28 年度遠賀・中間薬剤師会学術研修会	2017 年 2 月 24 日	遠賀・中間薬剤師会館
小倉 秀美 (薬剤部) 矢川 結香 (薬剤部) 橋本 沙和 (栄養部) 竹林 洋子 (看護部) 末松 文博 (薬剤部) 折口 秀樹 (内科)	九州病院における人工呼吸器装着患者の経腸栄養開始時期の実態 (第 2 報)	第 32 回日本静脈栄養学会学術集会	2017 年 2 月 24 日	ラヴィール岡山
吉国 健司 (薬剤部) 鍛塚 圭子 (薬剤部) 宮本 愛子 (薬剤部) 末松 文博 (薬剤部) 折口 秀樹 (内科)	ビソプロロール貼付剤の使用調査	第 38 回日本病院薬剤師会近畿学術大会	2017 年 2 月 25 日	大阪国際会議場
小倉 秀美 (薬剤部) 矢川 結香 (薬剤部) 竹林 洋子 (看護部) 末松 文博 (薬剤部) 井上 勝博 (内科)	九州病院集中治療室におけるバンコマイシン使用調査	第 44 回日本集中治療医学会学術集会	2017 年 3 月 10 日	さっぽろ芸文館
小倉 秀美、川久保 充章、松本 恵、居塚 しのぶ、末松 文博	薬剤師外来における麻薬導入患者への関わり	第 9 回福岡県病院薬剤師会学術大会	2017 年 3 月 12 日	九州大学医学部百年講堂
小笠 裕斗、桑村 恒夫、末松 文博	アナストロゾールの服薬継続率と認容性	日本臨床腫瘍薬学会 学術大会 2017	2017 年 3 月 19 日	朱鷺メッセ



◆薬剤部 (論文等)

氏 名	論 題	発表雑誌名等	巻号	頁	発表年月日
吉国 健司	薬剤師視点の心臓リハビリテーションとは？	月刊薬事 2017 年 3 月号 株式会社じほう	59 (4)	671-672	H29.3.1
毛利 正博 (循環器内科) 吉国 健司 (薬剤部) 末松 文博 (薬剤部)	「実践したい他施設の取り組み」薬剤師の専門性高める心筋梗塞地域連携パスと心臓リハビリテーションへの介入	2016 年 10 月 e-MR ファルマシアン サノフィ株式会社			H28.10.16

業績目録
◆放射線室 (講演・学会発表等)

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
鈴木 洋平	320 列 ADCT による低侵襲検査と画質向上～小児心臓領域を中心に～	第 51 回北九州 CT 勉強会	2016 年 6 月 4 日	小倉記念病院
福田 洋介、川崎 直正、 元岡 秀昭、前之園 康太、 山内 大雅、井上 友紀、 瀧口 雅晴、末弘 正人	診断参考レベルを考慮した小児頭部 CT 検査における撮影条件の再検討	第 2 回福岡県診療放射線技師会学術大会	2016 年 6 月 25 日	アクロス福岡
元岡 秀昭	症例から見た撮影方法～膝関節～	第 5 回サマーセミナー (北九州撮影研究会主催)	2016 年 9 月 3 日	小倉記念病院
川崎 直正、元岡 秀昭、 鈴木 洋平、末弘 正人、 落合 由恵 (心臓外科)、 宗内 淳 (小児科)	320 列 ADCT による小児心臓 CT 検査の検討	第 2 回 JCHO 地域医療総合学会	2016 年 9 月 16 日	TKP ガーデンシティ品川
川崎 直正	小児心臓 CT 検査～最新の CT 装置による低侵襲と画質向上～	第 3 回九州小児循環器セミナー	2016 年 9 月 17 日	九州大学病院
元岡 秀昭	橈骨遠位端骨折に対する撮影法	第 24 回北九州撮影研究会定例会	2016 年 9 月 29 日	JCHO 九州病院
川崎 直正、元岡 秀昭、 小屋松 育子、福田 洋介、 日野 祥悟、末弘 正人	逐次近似再構成搭載 ADCT による小児心臓 CT 検査の検討 Examination of Pediatric Cardiac CT by Area Detector CT with iterative reconstruction	第 44 回日本放射線技術学会秋季学術大会	2016 年 10 月 13 日	ソニックシティ
岡本 典彦、川崎 直正 鈴木 洋平、太田 康平 元岡 秀昭、末弘 正人	ADCT による手関節中間位での CT 撮影の検討	第 11 回九州放射線医療技術学術大会	2016 年 11 月 5 日	別府国際コンベンションセンター B-Con Plaza
元岡 秀昭	手関節の撮影方法について	第 25 回北九州撮影研究会定例会	2016 年 12 月 1 日	JCHO 九州病院

◆放射線室 (論文等)

氏名	論題	発表雑誌名等	巻号	頁	発表年月日
本村 賢大朗	当院における標準計測法 12 の取り組みと問題点	放射線治療研究会雑誌	29 巻 1 号	61 頁	平成 28 年 12 月 10 日



◆中央検査室(講演・学会発表等)

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
谷口 知治 嶋田 薫、秋光 起久子	当院における小児心電図記録の際の工夫	第 26 回福岡県医学検査学会	2016/6/26	北九州市 産業医科大学
草野 一樹 嶋田 薫、秋光 起久子	みんなで考えよう心電図 知識を深めてルーチンに生かそう	第 26 回福岡県医学検査学会	2016/6/26	北九州市 産業医科大学
黒田 依良 内田 沙織、飯塚 伸一郎	7モノソミーを伴った MDS の一症例	第 26 回福岡県医学検査学会	2016/6/26	北九州市 産業医科大学
玉城 真太 西山 純二、安部 拓也	腹腔内に自壊し腹水細胞診に出現した後腹膜原発 未分化多形肉腫 /MFH の1例	第 32 回日本臨床細胞学会 九州連合会	2016/7/24	久留米大学 筑水会館
西山 純二 奥蘭 学、笹栗 毅和	腎盂 Lymphoepithelioma-like carcinomo の 1 例	第 32 回日本臨床細胞学会 九州連合会	2016/7/24	久留米大学 筑水会館
村田 真知子	みんなで考えよう 患者さんとの接し方	平成 28 年度福岡県臨床衛生 検査技師会 北九州支部 新人研修会	2016/8/27	美萩野臨床 専門学校
村田 真知子	術後心エコー検査：評価のポイントと描出のコツ	第 3 回小児循環器セミナー	2016/9/17	九州大学
福光 梓 宗内 淳、長友 雄作	肥大型心筋症患者の妊娠例を経験して 産褥期の経時的循環変化を心エコーで診る	日本超音波医学会 第 26 回九州地方会学術集 会	2016/10/2	長崎 ブリックホール
玉城 真太 西山 純二、安部 拓也	濾胞樹状細胞肉腫の 1 例	第 32 回福岡県臨床細胞学 会総会・学術集会	2016/12/4	北九州市立 商工貿易会館
黒川 佳代 福光 梓、秋光 起久子	心房中隔欠損症に対するカテーテル閉鎖術前後に おける左房・左室容積の経時的変化	第 19 回成人先天性心疾患 学会総会・学術集会	2017/1/14	ホテルグリーン パーク津
小川 明希	心臓超音波検査の診方	北九州病院 KBC 勉強会	2017/1/20	北九州 八幡東病院



業績目録

氏 名	演 題	発表学会名等	発表年月日	会 場
福光 梓	熊本地震における災害医療支援活動報告 エコノミクス症候群フォローアップ 検診に参加して	第 30 回医療技術者セミナー	2017/2/18	ナースプラザ福岡
奥田 知世	当院生理検査室のパニック値の対応について	平成 28 年度福岡県臨床衛生検査技師会 北九州支部 新春講演会	2017/2/25	ホテルクラウンパレス北九州
福光 梓	熊本震災時の臨床検査支援活動について	平成 28 年度福岡県臨床衛生検査技師会 北九州支部 新春講演会	2017/2/25	ホテルクラウンパレス北九州



◆臨床工学室・ME (講演・学会発表等)

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
川原 未伎	外来内視鏡業務に臨床工学技士が参入して	第 24 回福岡臨床工学会	2016 年 6 月 9 日	久留米シティプラザ
宮崎 秀明	リード固定の際にスリーブの縛りが過剰であったために抵抗値が一過性に低下した一例	第 9 回植え込みデバイス関連冬季大会	2017 年 2 月 17 日	グランフロント大阪
松本 一志	RVDC を伴う PA・IVS の体外循環及びモニタリングの工夫	第 42 回日本体外循環技術医学会大会	2016 年 10 月 23 日	タワーホール船堀
松本 一志	心拍出量計の種類と特性	福臨工集中治療教育セミナー	2017 年 1 月 22 日	博多メディカル
加來 佳訓	当院における臨床工学技士の内視鏡室での活動	第 2 回 JCHO 学会	2017 年 9 月 15 日	TKP ガーデン品川

業績目録
◆栄養部 (講演・学会発表等)

氏 名	演 題	発表学会名等	発表年月日	会 場
○大庭 久実 原 裕子、三輪 真紀子	がん治療目的で当院に入院した患者へ管理栄養士 がおこなった食事対応への報告	第 2 回 JCHO 地域医療総 合医学会	2016 年 9 月 16 日 2016 年 9 月 17 日	TKP ガーデン シティー品川
○伊藤 麻美 三輪 真紀子 國廣 尚子 (臨床心理室) 十時 浩二 (リハビリテーショ ン室) 山田 明子 (看護部) 足立 雅弘 (内科医師)	多職種連携にて血糖コントロールが劇的に改善し た一症例	第 4 回日本糖尿病療養指 導学術集会	2016 年 7 月 23 日 2016 年 7 月 24 日	国立京都国際 会館
○川地 尚子 三輪 真紀子 椛島 寛子、佐藤 憲明 (リハビリテーション室) 折口 秀樹 (内科医師)	外来心臓リハビリテーションでの食塩摂取量改善 効果の検討	第 2 回日本心臓リハビリ テーション学会九州地方会	2016 年 10 月 29 日	電気ビル共創 館 みらいホール



◆リハビリ室(講演・学会発表等)

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
津崎 裕司	回復期心臓リハビリテーションにおける AVI についての検討	第 22 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	2016 年 7 月 16 日	東京国際フォーラム
帯田 有希菜	脳卒中後、重度片麻痺および腱板断裂増強を呈したが両側上肢トレーニングにより ADL の質が改善した症例	第 2 回 JCHO 学会	2016 年 9 月 17 日	TKP ガーデンシティ品川
林 秀俊	排痰の方法	北九州病院 KBC 勉強会	2016 年 10 月 7 日	北九州八幡東病院
有吉 雄司	タイプ D パーソナリティを有する空性心筋梗塞患者の特徴	第 22 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	2016 年 7 月 16 日	東京国際フォーラム
高永 康弘	心エコーの見方と運動療法 心エコー検査を運動療法にどういかすか?そのポイント	北九州病院 KBC 勉強会	2017 年 1 月 20 日	北九州八幡東病院
渡邊 勇樹	ギランバレー症候群発症後無気肺となったが体外式陽陰圧式人工呼吸器を施行し改善を認め自宅復帰が可能となった症例	九州理学療法士・作業療法士合同学会 2016in 鹿児島	2016 年 11 月 12 日	鹿児島市民文化ホール
梶島 寛子	回復期心臓リハビリテーションにおいて下肢筋力改善を認めた高齢(70 歳以上)心疾患患者の特徴	第 22 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	2016 年 7 月 16 日	東京国際フォーラム
和田 あゆみ	大腿骨近位部骨折患者の骨密度に関する調査 ～歩行・ADL・在院日数に着目して～	九州理学療法士・作業療法士合同学会 2016in 鹿児島	2016 年 11 月 12 日	鹿児島市民文化ホール
十時 浩二	糖尿病患者の筋肉量の調査	第 51 回日本理学療法学会学術大会	2016 年 5 月 29 日	札幌コンベンションセンター
十時 浩二	当院における造血幹細胞移植患者のリハビリテーションと栄養サポートについて	第 6 回リハビリテーション栄養研究会学術集会	2016 年 10 月 23 日	富山国際会議場
十時 浩二	当院における造血幹細胞移植患者のリハビリテーションと栄養サポートについて	第 6 回日本がんリハビリテーション研究会	2017 年 1 月 7 日	慶応義塾大学日吉キャンパス



業績目録

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
十時 浩二	超高齢者のリハビリテーション リハビリ栄養と心不全を中心に	福岡県理学療法士会 第7回北九州2地区研修会	2017年1月19日	JCHO九州病院講堂
十時 浩二	当院における造血幹細胞移植患者のリハビリテーションと栄養サポートの現状調査	第32回日本静脈経腸栄養学会学術集会	2017年2月24日	岡山シンフォニーホール
杉本 光徳	慢性硬膜下血腫除去及び両下肢切断の治療中に良好な経口導入が行えた嚥下障害の一例	第32回日本静脈経腸栄養学会学術集会	2017年2月24日	岡山シンフォニーホール
古門 功大	北九州糖尿病ウォークラリーから見えた運動機能課題	第4回日本糖尿病療養指導学術集会	2016年7月23日	国立京都国際会館
佐藤 憲明	CT大腰筋面積のサルコペニア診断基準値の検討 -男性心大血管疾患患者の骨格筋量指標に着目して-	第51回日本理学療法学会大会	2016年5月28日	札幌 産業振興センター
佐藤 憲明	高齢心不全患者におけるビタミンDと運動耐容能の関係	第6回日本リハビリテーション栄養研究会学術集会	2016年10月22日	富山 国際会議場
佐藤 憲明	ビタミンDと運動耐容能の関係 -高齢心不全患者における無作為化比較試験-	日本心臓リハビリテーション学会 第2回九州支部地方会	2016年10月29日	福岡 電気ビル共創館
小笠原 聡美	後期高齢心不全患者の再入院に関する因子の検討	第22回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	2016年7月16日	東京 国際フォーラム
熊谷 季美絵	造血幹細胞移植患者に対する理学療法介入効果の検討	第6回日本がんリハビリテーション研修会	2017年1月7日	慶應義塾大学日吉キャンパス



◆リハビリ室(論文等)

氏名	論 題	発表雑誌名等	巻号	頁	発表年月日
木村 悠人、林 秀俊	腰部脊柱管狭窄症患者における着座動作の運動学的分析	理学療法科学	31 巻 4 号	541-546	2016 年 8 月 20 日
佐藤 憲明	ARDS 発症後の下肢筋力減弱に対する短期間ベルト電極式骨格筋電気刺激法の効果	日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌	第 26 巻第 1 号	119-121	2016 年 4 月 25 日
佐藤 憲明	冠動脈疾患患者において日常身体活動量が高比重リポ蛋白コレステロールに及ぼす影響についての検討	心臓リハビリテーション	第 22 巻第 1 号	51-55	2016 年 6 月 25 日
佐藤 憲明	高齢慢性心不全サルコペニア患者の身体活動量と健康関連 QOL に対する心臓リハビリテーションの効果	心臓リハビリテーション	第 22 巻第 1 号	22-26	2016 年 6 月 25 日

業績目録
◆医療支援部 (講演・学会発表等)

氏名	演題	発表学会名等	発表年月日	会場
平島 惣一 (産医大) : 発表者 宮脇 昭彦 (産医大)、 大矢 亮一 (産医大)、 是永 緑 (JCHO 九州)、 平石 絵里子 (JCHO 九州)、 原田 孝昭 (八幡歯科医師会)、 大蔵 雅文 (八幡歯科医師会)、 細田 悦子 (産医大)、 渡口 佐登子 (産医大)、 長野 裕子 (産医大)	歯科のない地域がん診療連携拠点病院でのがん患者 歯科医療連携研修会口腔ケア講演実習について	第 13 回日本口腔ケア学会 総会・学術大会	2016/4/24	京葉銀行文化 プラザ
平島 惣一 (産医大) : 発表者 宮脇 昭彦 (産医大)、 平石 絵里子、正門 直美、 永野 美智代、是永 緑、 杉本 光徳、後藤 芳子、 倉元 宏美、内山 明彦、 小川 亮介 (J C H O 九 州)、 原田 孝昭 (八幡歯科医師 会)、 大蔵 雅文 (八幡歯科医師 会)、 大矢 亮一、 秋森 俊行 (産医大)	歯科のない地域がん診療連携拠点病院でのがん患 者への口腔サポートチーム活動について	第 54 回日本癌治療学会学 術大会	2016/10/21	パシフィコ横浜
峯 修平 (発表者) 是永 緑、曾我 美穂子、 高崎 薫子、水島 明	ICT「きしのうらネット (ID-Link)」の運用実績と、 今後の課題について	第 2 回 JCHO 地域医療 総合医学会	2016/9/16	TKP ガーデン シティ品川

◆医療支援部 (論文等)

氏名	論題	発表雑誌名等	巻号	頁	発表年月日
木村 円	あなたを支える 医療費の相談	がん医療 がん在宅 医療 ガイドブック <北九州・筑豊版>		38 ~ 40	2016/3/22

平成 28 年度

診療実績及び診療統計

Japan Community Health care Organization JCHO



独立行政法人 地域医療機能推進機構 九州病院

診療実績及び診療統計
◆臨床指標CI「医療の質を示す指標」

	分類I	機能	総合的臨床指標	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年
1	1. 総合指数	総合	外来患者数	187,065	185,843	177,893	178,738	178,785
2		総合	新入院患者数	13,819	14,026	13,670	14,023	14,061
3		標準化	平均在院日数	13.2	12.6	12.7	12.4	12
4		標準化	平均病床稼働率	93.4%	91.1%	89.2%	89.8%	86.9%
5		標準化	紹介率	79.3%	80.3%	79.6%	80.4%	91.2%
6			逆紹介率	98.2%	98.7%	108.0%	116.1%	117.4%
7			在院日数延長 DPC 対象患者 -2SD 越延日数 (率)	658 (6.4%)	710 (8.5%)	753 (7.6%)	693 (5.2%)	885 (6.3%)
8		教育	クリティカルパス使用率	60.6%	55.0%	59.4%	89.9%	58.0%
9			診療要約 (サマリー) 2 週以内完成率	90.6%	93.8%	96.6%	95.4%	97.2%
10			総合初期研修医数 講習会受講指導医数	26 34	25 34	22 39	23 42	23 40
11	2. 救急医療	救急	救急室受診者数: 成人	11,349	10,824	10,517	10,708	9,968
12			救急室受診者数: 小児	11,562	10,085	9,288	8,885	8,342
13			救急入院件数 (率)	成人 2,370 (20.9%) 小児 482 (4.2%)	成人 2,560 (23.7%) 小児 413 (4.1%)	成人 2,639 (25.1%) 小児 398 (4.3%)	成人 2,809 (26.2%) 小児 456 (5.1%)	成人 2,684 (26.9%) 小児 527 (6.3%)
14			救急車受入台数	4,013	4,337	4,564	5,314	5,527
15	3. 地域連携	診療・検査予約	画像診断センター院外利用件数	1,211	980	994	934	1,064
16			事前紹介外来患者数	11,971	12,370	11,871	11,935	11,642
17		開放病床	開放型病床利用率	52.7%	62.3%	62.6%	54.9%	49.0%
19		退院調整	退院調整件数 (医療支援部介入)	1,475	1,709	1,935	1,923	1,839
20		地域連携	大腿骨近位部骨折	70	99	102	89	95
21		クリティカルパス	脳卒中	105	139	139	155	111
22			AMI (2010 年 1 月開始)	45	80	75	83	85
23			胃がん	1	3	3	0	0
24			大腸がん	7	13	9	2	4
25			肺がん (2012 年 4 月開始)	2	32	25	18	22
26			乳がん (2012 年 4 月開始)	4	1	0	5	5
27			肝臓がん (2012 年 4 月開始)	2	0	0	0	0
28			前立腺がん (2014 年 10 月開始)	-	-	12	27	50
29			加齢黄斑変性症 (2012 年 4 月開始)	9	9	20	5	2
30		がん相談件数	入院外来患者相談件数 (医療支援部介入)	1,591	1,486	1,737	1,916	2,972
31			がん相談支援センター相談件数	222	290	314	242	199
32		保健	政府管掌検診: 日帰り	2,773	2,690	2,710	2,868	3,107
33			健康診断	728	658	699	846	781
34			個人検診: 一泊・日帰り	1,073	982	1,035	1,120	937
35			市乳癌検診	1,328	1,239	1,524	1,285	1,151



診療実績及び診療統計

	分類Ⅱ	機能	医療の質と安全に関する臨床指標	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	
1	4. 医療の質		死亡退院数 (率)	525 (3.8%)	477 (3.4%)	408 (3.0%)	449 (3.1%)	430 (3.1%)	
2			剖検数 (率)	21 (4.0%)	14 (2.9%)	11 (2.7%)	14 (3.1%)		
3			予期せぬ 28 日以内再入院件数	183	200	233	266	801	
4			集中治療室 ICU 再入室 (率)	26 (2.6%)	17 (1.8%)	25 (2.3%)	25 (2.3%)	34 (3.5%)	
5			投書箱 (ご意見)	95	100	177	224	201	
6			投書箱 (おほめ)	68	53	68	87	89	
7	5. チーム医療	ICT	手術部位感染 (SSI) 発生率						
8			心臓外科 開心術	0%	2.9%	2.9%	1.9%	1.6%	
9			大血管手術	0%	0.0%	2.8%	2.0%	8.9%	
10			CABG (SGV なし)	0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
11			CABG (SGV あり)	0%	5.0%	0.0%	0.0%	4.4%	
13			整形外科 人工膝関節術	4%	0.0%	0.0%	0.0%	6.7%	
14			人工股関節術	0%	1.2%	0.0%	0.0%	0.8%	
15			椎弓切除術	0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.7%	
16			脊椎固定術	0%	9.1%	1.9%	1.8%	3.6%	
18			外科 結腸手術	14.8%	10.3%	16.2%	19.0%	16.7%	
19			直腸手術	8.9%	19.0%	16.7%	18.0%	11.6%	
20			MRSA 感染治療報告件数	152	104	126	107	8.2	
21			心臓リハビリ	心臓リハビリ導入総件数 (循環器内科 / 心臓血管外科)	555 (406/149)	597 (461/136)	662 (512/150)	794 (594/196)	727 (523/204)
22			NST	NST 回診件数	601	437	342	399	419
23	褥瘡ケア	褥瘡発生患者数	202	191	155	156	121		
24	6. 医療安全	医療安全	インシデント・アクシデントレポート総件数	1,650	1,635	1,556	1,505	1,361	
25			医師レポート提出件数 (率)	52 (3.2%)	44 (2.7%)	44 (3.1%)	49 (3.3%)	79 (5.8%)	
26			有害事象 (3b 以上) 件数	19	24	17	25	27	
27			インスリン誤薬 (3b 以上)	18 (0)	20 (0)	20 (0)	29 (0)	21 (0)	
28			アナフィラキシーショック発生件数	40	49	40	34	34	
29			緊急対応 (55) 放送件数	52	51	33	43	41	
30			心停止件数 / 心拍再開件数	37/25	31/17	20/12	16/10	12/5	
31			緊急 (O 型赤血球) 輸血件数	1	3	0	7	2	
32			中心静脈カテーテル (CV) 件数	1,021	844	884	986	626	
33			CV 関連感染症合併件数 (発生率)	14 (1.23)	13 (1.42)	17 (1.22)	19 (1.26)	13 (1.09)	
34			CV カテーテル平均使用日数	14.7	14.9	15.7	16.0	19.1	
35			術後血栓性肺塞栓発生件数	3	2	3	0	5	



診療実績及び診療統計

	分類Ⅲ	機能	集学的センター医療に関する臨床指標	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年
1	7. 診療センター	手術室	手術室使用総件数	7,933	8,072	7,938	7,952	7,959
2			麻酔科管理手術件数	4,570	4,680	4,640	4,538	4,244
3			全身麻酔件数	3,787	3,864	3,857	3,740	3,548
4			緊急手術・処置件数	1,420	1,376	1,354	1,329	1,220
5		集中治療室	ICU 入院患者数	4,120	3,975	4,154	4,166	4,230
6			〔診療科別〕 心臓外科	1,590	1,146	1,512	1,563	1,585
7			〔診療科別〕 内科	1,013	1,177	1,108	1,359	1,203
8			〔診療科別〕 小児科	620	587	443	397	647
9			〔診療科別〕 外科	436	486	534	403	369
10			〔診療科別〕 脳外科	315	429	382	358	295
11	循環器センター	成人心臓カテーテル検査件数	1,154	1,249	1,077	1,229	1,233	
12		PTCA Stent 件数	360	325	286	365	340	
13		Door to balloon 所要時間：分	65	75	61	65	70	
14		アブレーション件数（成功率）	121 (93.0%)	126 (97.0%)	97 (92.0%)	96 (96.0%)	113 (93.8%)	
15		小児心臓カテーテル検査・治療総件数	390	328	371	354	313	
16		同 新生児・乳児件数	173	150	174	158	132	
17		同 カテーテル治療件数	82	72	102	106	100	
18		先天性心疾患小児手術件数	150	133	153	163	129	
19		冠動脈バイパス手術 (OPCAB 件数 / 率)	50 (42/84.0%)	49 (42/85.7%)	44 (26/59.1%)	30 (23/76.6%)	40 (32/74.4%)	
20		弁膜症手術件数	34	35	24	38	45	
21	大動脈瘤胸部解離手術	43	27	30	24	64		
22	ペースメーカー植込み手術件数	123	129	129	127	129		
23	周産期センター	分娩数	446	405	496	406	371	
24		帝王切開例数（率）	178 (39.9%)	210 (51.9%)	239 (48.1%)	189 (46.6%)	178 (47.9%)	
25	新生児室	母体搬送受入れ件数	42	53	50	40	46	
26		治療を必要とした胎児異常例数	32	29	42	36	63	
27	NICU	新生児入院治療件数	248	248	293	285	266	
28		新生児特定集中治療室 (NICU) 入院件数	178	199	250	200	233	
29	内視鏡室	超低出生体重児 1000g 未満 入院数（生存率）	22 (95%)	18 (94%)	15 (100%)	11 (91%)	13 (92%)	
30		内視鏡検査総件数	7,503	7,714	7,616	8,023	7,844	
31		緊急内視鏡件数（率）	1,308 (17.4%)	1,307 (16.9%)	1,272 (16.7%)	1,450 (18.0%)	1,449 (18.5%)	
32		内視鏡治療総件数	1,813	1,679	1,780	1,853	1,921	
33		緊急内視鏡治療件数（率）	415 (22.9%)	488 (29.1%)	397 (22.3%)	469 (25.3%)	509 (26.5%)	
34		内視鏡的ポリープ切除	188	101	135	136	-	
35		内視鏡的粘膜剥離術 ESD	123	120	111	113	94	
36		内視鏡的粘膜切除術 EMR	118	190	204	314	383	
37		透析室	透析新規導入	25	19	29	27	21
38			維持透析	21	20	18	16	16
39	外来腹膜透析		14	19	11	30	26	
40	8. 集学的 がん診療	がん拠点診療	がん登録件数（院内がん登録数） ※公開 1 年後	2,014	2,151	2,005	2,050	
41			外来化学療法実施件数	3,852	4,087	4,781	5,170	5,537
42			放射線新規治療がん患者数	348	344	329	369	396
43			放射線治療件数	8,774	7,993	8,473	9,769	10,040
44		緩和病棟	緩和ケア外来受診件数	386	365	264	268	243
45			緩和ケアチーム依頼件数	211	229	142	131	142
46	緩和病棟平均在院日数		33.0	33.0	35.0	37.2	35.0	



診療実績及び診療統計

	分類Ⅳ	機能	診療実績に関する臨床指標	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	
1	9. 診療科別指標	内科 循環器	成人心臓カテーテル検査件数	1,154	1,249	1,077	1,229	1,233	
2			PTCA Stent 件数	360	377	286	365	340	
3			アブレーション件数 (成功率)	121 (93.0%)	126 (97.0%)	97 (92.0%)	96 (96.0%)	113 (93.8%)	
4			急性期心筋梗塞入院患者数	124	141	120	132	132	
5			同 死亡退院数 (率)	10 (8.0%)	7 (5.0%)	7 (5.8%)	6 (4.5%)	3 (2.3%)	
6			心臓リハビリ導入総件数 (循環器内科/心臓血管外科)	567 (406/149)	597 (461/136)	662 (512/150)	794 (594/196)	727 (523/204)	
7			急性心筋梗塞心リハ導入件数 (同 導入率) (同 継続率)	95 (76.6%) (68.2%)	112 (79.4%) (63.6%)	101 (84.2%) (61.5%)	116 (88.5%) (37.5%)	112 (84.8%) (66.7%)	
8	内科 腎臓・透析	透析新規導入	25	19	29	27	21		
9		維持透析	21	20	18	16	16		
10		外来腹膜透析	14	19	11	30	26		
11	内科 血液疾患	自家末梢幹細胞移植	7	4	6	8	7		
12		同胞間同種骨髄移植	0	0	0	0	0		
13		同胞間末梢幹細胞移植	5	5	3	7	1		
14		非血縁者間同種骨髄移植	1	5	3	7	4		
15		臍帯血移植	4	0	3	5	5		
		非血縁同種末梢血幹細胞	-	-	2	0	0		
16	神経内科	急性期脳梗塞 (発症 1 週内) 治療例数	164	193	176	200	145		
17		TPA 投与件数	11	6	5	7	7		
18	小児科	時間外・休日救急受診件数	11,517	10,084	9,288	10,065	8,306		
19		川崎病入院治療数 (冠動脈瘤発生数)	43 (0)	48 (1)	28 (0)	23 (1)	24 (0)		
20		小児心臓カテーテル検査・治療総件数	390	328	371	354	313		
21		同 新生児・乳児件数	173	150	174	158	132		
22		同 カテーテル治療件数	82	72	102	106	100		
23		バルーンによる肺動脈弁形成術	10	10	21	17	10		
24		Amplatzer による心房中隔欠損閉鎖術	14	16	18	15	19		
25		新生児入院治療件数	248	248	293	291	266		
26		新生児特定集中治療室 (NICU) 入院件数	178	199	250	260	233		
27		超低出生体重児 1000g 未満 入院数 (同生存率)	22 (95%)	18 (94%)	15 (100%)	8 (88%)	13 (92%)		
28	外科	外科手術総件数	1,639	1,659	1,725	1,653	1,561		
29		胃がん	127	120	127	94	93		
30		大腸がん	207	209	185	182	164		
31		食道がん	19	13	10	16	12		
32		乳がん	181	172	174	195	172		
33		肝がん	27	27	24	28	26		
34		膵・胆道がん	21	27	28	23	24		
35		呼吸器外科 (肺がん)	166 (81)	169 (90)	165 (95)	176 (91)	154 (84)		
36		小児外科	193	184	182	177	190		
37		腹腔鏡下手術	529	741	592	535	499		
38		胸腔鏡下手術	93	129	159	166	135		
39		9. 診療科別指標	整形外科	整形外科手術総件数	956	1,010	897	858	805
40				人工関節手術件数	151	168	175	159	146
41				脊椎手術件数	228	200	188	185	174
42	大腿骨近位部骨折手術件数			99	132	143	153	121	



診療実績及び診療統計

43	心臓血管外科	先天性心疾患小児手術件数	150	133	153	163	129
44		冠動脈バイパス手術(OPCAB 件数 / 率)	50 (42/84.0%)	49 (42/85.7%)	44 (26/59.1%)	30 (23/76.7%)	40 (32/74.4%)
45		弁膜症手術件数	34	35	24	38	45
46		大動脈瘤胸部解離手術	43	27	30	82	64
47		ペースメーカー植込み手術件数	123	129	129	127	129
48	脳神経外科	くも膜下出血入院例数	22	15	12	27	16
49		破裂脳動脈瘤クリッピング術数	10	9	10	18	7
50		慢性硬膜下血腫手術数	31	28	32	30	32
51	産婦人科	分娩数	446	405	496	406	371
52		帝王切開例数 (率)	178 (39.9%)	210 (51.9%)	239 (48.1%)	189 (46.6%)	178 (47.9%)
53		母体搬送受入れ件数	42	53	50	40	46
54		母体偶発合併症件数	267	252	247	201	185
55		子宮頸癌 0 期 / I a-IV	10/39	22/40	11/28	6/21	12/28
56		子宮体癌	30	45	35	22	46
57		卵巣癌	24	30	13	12	21
58	眼科	網膜・硝子体手術	335	380	322	271	301
59		緑内障手術	51	57	76	93	129
60		緑内障 Laser 手術 k270 k273	29	28	30	58	48
61		光線力学的療法 PDT 件数	23	11	38	11	14
62		角膜移植術	11	5	6	5	6
63		ルセンティス硝子体注射	393	469	524	539	663
64		外来白内障手術	90	87	118	84	122
65	耳鼻咽喉科	頭頸部悪性腫瘍手術件数	101	82	80	82	60
66		内視鏡下副鼻腔手術件数	97	112	94	89	67
67	泌尿器科	腎臓癌手術件数	45	38	56	39	53
68		膀胱癌手術件数	146	158	135	196	152

	分類V	機能	診療協力部門に関する臨床指標	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	
1	10. 看護部	看護	認定看護管理者数	2	1	1	0	0	
2			専門看護師数	1	1	1	1	1	
3			認定看護師数	18	20	22	22	24	
4			離職率	10.1%	9.7%	11.2%	11.0%	11.4%	
5	11. 薬剤部	医薬品	薬剤管理指導実施件数	15,378	15,750	15,969	17,772	18,466	
6			疑義照会による処方変更件数 (率)	3,607 (0.74%)	3,213 (0.74%)	3,377 (0.69%)	4,250 (0.86%)	5,958 (1.16%)	
7	12. 放射線室	放射線検査	CT 検査件数	23,571	23,854	23,500	24,377	26,173	
8			MR 検査件数	6,627	6,445	6,287	6,369	6,761	
9	13. 臨床検査部	中央検査室	臨床検査技師会精度管理成績	98.5%	95.3%	100.0%	99.6%	99.1%	
10		輸血管理室	組織検査件数 (術中迅速検査)	7,517 (462)	8,030 (513)	7,932 (393)	8,197 (374)	7,711 (328)	
11			輸血製剤 (濃厚赤血球) 廃棄率	1.17%	1.70%	1.20%	0.73%	0.75%	
12	14. リハビリ室	理学療法等	リハビリ実施率	30.3%	24.2%	35.0%	33.7%	37.5%	
13			リハビリ対象者在院日数	23.2	23.5	22.9	22.7	21.7	
14			疾患別実績(単位数)	脳血管疾患等リハビリ (廃用も含む)	46,922	44,794	33,085	26,876	23,234
15				心大血管リハビリ	15,733	17,350	16,579	19,074	20,569
16				運動器リハビリ	23,526	25,780	30,596	28,069	22,682
17				呼吸器リハビリ	11,995	9,994	11,008	8,590	7,838
18				がん患者リハビリ	-	-	8,043	18,843	20,465
19				廃用症候群リハビリ(平成 28 年度より)	-	-	-	-	7,877
20	15. 栄養部	栄養指導	栄養指導実施件数	1,802	1,590	1,778	2,380	2,376	



◆入院・外来患者統計

1. 平成 28 年度入院科別・月別延患者数

診療科名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4-3月計
整形外科	1,357	1,242	1,154	1,360	1,286	1,132	1,340	1,275	1,235	1,313	1,193	1,380	15,267
外科	1,340	1,551	1,578	1,640	1,645	1,677	1,721	1,655	1,426	1,501	1,335	1,654	18,723
心臓血管外科	350	455	502	492	643	563	493	557	618	500	485	489	6,147
脳神経外科	455	494	398	547	494	384	389	488	321	470	514	569	5,523
内科	5,442	5,873	5,571	5,226	5,246	5,408	5,668	5,485	5,558	5,759	5,136	5,738	66,110
皮膚科	70	25	55	56	129	93	58	108	148	87	119	95	1,043
泌尿器科	459	424	705	661	634	538	557	555	563	528	488	534	6,646
産婦人科	830	936	955	1,003	1,058	799	986	824	784	838	964	921	10,898
眼科	543	415	629	473	514	349	464	422	383	356	440	420	5,408
耳鼻咽喉科	483	407	527	503	545	637	493	490	372	308	439	466	5,670
小児科	1,474	1,444	1,457	1,917	1,720	1,617	1,543	1,467	1,822	1,764	1,621	1,757	19,603
神経内科	260	283	283	334	468	212	267	258	311	439	391	385	3,891
放射線科	0	2	0	7	2	2	13	0	0	0	2	0	28
緩和ケア科	232	254	278	276	263	311	312	256	300	253	231	255	3,221
麻酔科	4	5	0	8	25	15	4	8	11	58	8	22	168
合計	13,299	13,810	14,092	14,503	14,672	13,737	14,308	13,848	13,852	14,174	13,366	14,685	168,346

2. 平成 28 年度入院科別・月別入退院患者数

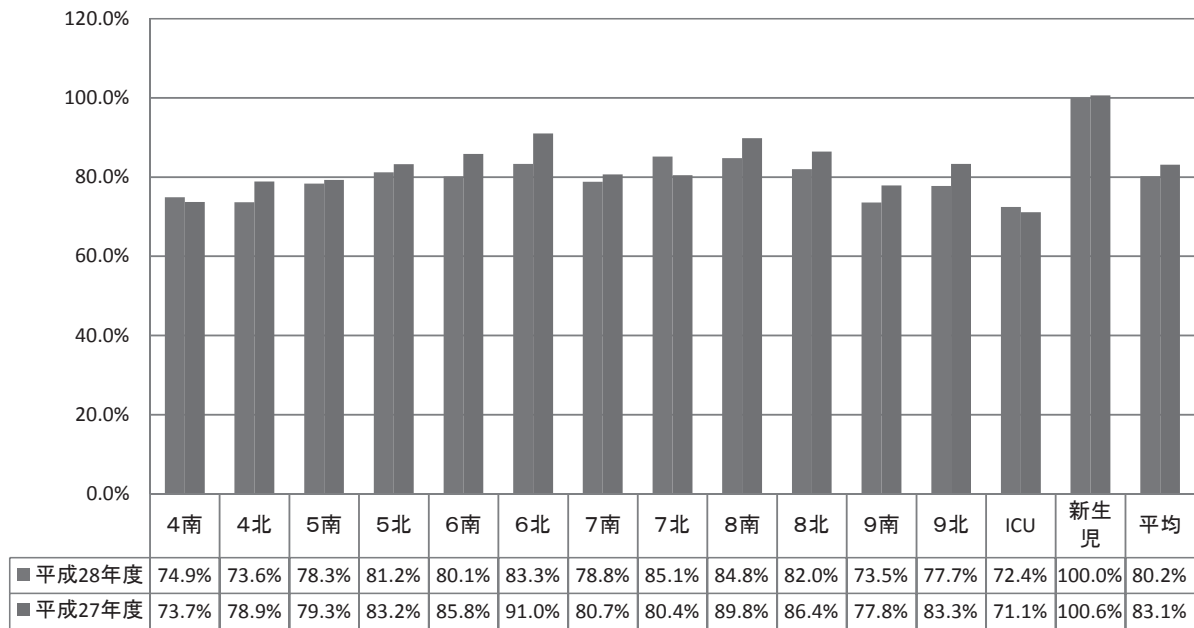
診療科名	入退院	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4-3月計
整形外科	入院数	61	56	61	77	70	72	58	64	63	55	59	72	768
	退院数	74	58	64	62	80	62	59	67	62	58	59	67	772
外科	入院数	123	133	162	152	161	150	159	147	131	141	130	146	1,735
	退院数	126	124	150	146	172	149	152	152	157	107	139	149	1,723
心臓血管外科	入院数	16	17	17	26	27	19	22	22	20	25	22	22	255
	退院数	18	17	24	21	29	26	19	23	32	18	25	24	276
脳神経外科	入院数	28	35	29	34	22	26	38	28	23	26	30	25	344
	退院数	27	30	33	26	33	29	35	30	25	21	24	30	343
内科	入院数	427	442	448	416	435	407	439	469	417	443	399	467	5,209
	退院数	422	394	475	422	394	410	421	467	476	381	409	455	5,126
皮膚科	入院数	7	2	6	4	7	3	2	8	7	7	4	6	63
	退院数	4	5	4	4	6	6	2	7	7	6	6	5	62
泌尿器科	入院数	78	71	94	77	89	71	75	69	73	78	78	79	932
	退院数	77	64	88	85	88	70	74	68	83	66	84	84	931
産婦人科	入院数	102	115	125	130	147	127	121	118	114	141	134	129	1,503
	退院数	104	101	117	146	137	128	122	130	116	123	138	135	1,497
眼科	入院数	67	59	86	74	92	58	69	77	52	65	67	69	835
	退院数	65	56	88	80	81	62	76	65	73	51	68	74	839
耳鼻咽喉科	入院数	46	46	56	51	59	45	47	47	32	32	37	34	532
	退院数	47	48	53	49	55	42	54	49	38	30	31	36	532
小児科	入院数	127	133	143	134	145	123	129	124	125	107	120	124	1,534
	退院数	132	140	119	146	136	124	138	112	124	104	118	126	1,519
神経内科	入院数	22	21	24	28	25	17	20	16	23	20	22	24	262
	退院数	19	24	21	20	30	18	21	16	19	14	27	23	252
放射線科	入院数	0	1	0	1	1	1	4	0	0	0	1	0	9
	退院数	0	1	0	0	2	1	4	0	0	0	0	1	9
緩和ケア科	入院数	9	5	5	1	8	2	1	6	3	4	3	3	50
	退院数	14	10	14	13	12	10	9	16	9	9	9	9	134
共同	入院数	2	1	0	4	6	4	2	1	4	2	1	3	30
	退院数	3	1	0	3	7	2	1	2	2	3	1	3	28
合計	入院数	1,115	1,137	1,256	1,209	1,294	1,125	1,186	1,196	1,087	1,146	1,107	1,203	14,061
	退院数	1,132	1,073	1,250	1,223	1,262	1,139	1,187	1,204	1,223	991	1,138	1,221	14,043

診療実績及び診療統計

3. 各科別入院患者数推移

診療科名	在院延患者数			一日平均入院患者数			新入院患者数			平均在院日数		
	2014	2015	2016	2014	2015	2016	2014	2015	2016	2014	2015	2016
整形外科	19,352	17,243	15,267	53.0	47.1	41.8	935	881	768	20.5	19.5	19.8
外科	21,628	21,212	18,723	59.3	58.0	51.3	2,039	1,865	1,735	10.6	11.4	10.8
心臓血管外科	6,055	6,046	6,147	16.6	16.5	16.8	263	261	255	21.2	22.2	23.2
脳神経外科	4,717	6,035	5,523	12.9	16.5	15.1	282	370	344	16.7	16.2	16.1
内科	64,010	66,903	66,109	175.4	182.8	195.2	4,589	4,949	5,209	14.0	13.6	12.8
皮膚科	571	502	1,043	1.6	1.4	2.9	33	50	63	16.6	10.4	16.7
泌尿器科	5,786	6,368	6,646	15.9	17.4	18.2	815	918	932	7.1	7.0	7.1
産婦人科	12,942	12,092	10,898	35.5	33.0	29.9	1,667	1,605	1,503	7.8	7.5	7.3
眼科	4,029	4,772	5,408	11.0	13.0	14.8	637	702	835	6.3	6.8	6.5
耳鼻咽喉科	6,762	6,619	5,670	18.5	18.1	15.5	628	635	532	10.7	10.5	10.7
小児科	21,609	20,449	19,603	59.2	55.9	53.7	1,476	1,475	1,534	14.9	13.8	12.8
神経内科	4,492	3,029	3,891	12.3	8.3	10.7	253	215	262	17.7	14.4	15.1
放射線科	66	41	28	0.2	0.1	0.1	17	15	9	4.0	2.6	3.1
緩和ケア科	1,508	3,418	3,221	4.1	9.3	8.8	24	48	50	36.3	37.6	35.0
麻酔科	80	131	168	0.2	0.4	0.5	12	34	30	7.0	4.4	5.8
合計	173,607	174,860	168,345	475.6	477.8	475.3	13,670	14,023	14,061	12.7	12.5	12.0

4. 病棟別病床稼働率



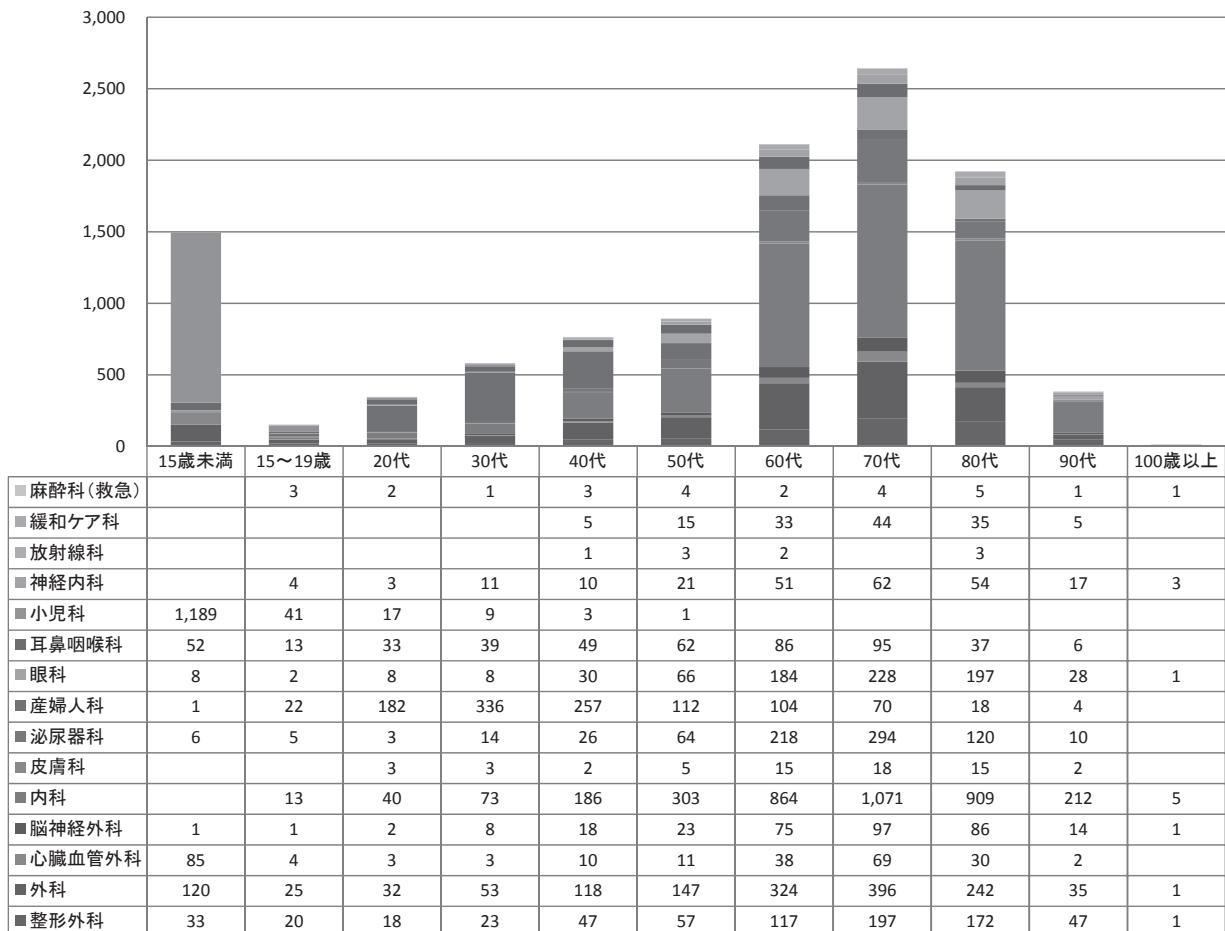


診療実績及び診療統計

5. 入院患者の年齢別構成

診療科名	15歳未満	15～19歳	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	100歳以上	総計
整形外科	33	20	18	23	47	57	117	197	172	47	1	732
外科	120	25	32	53	118	147	324	396	242	35	1	1,493
心臓血管外科	85	4	3	3	10	11	38	69	30	2		255
脳神経外科	1	1	2	8	18	23	75	97	86	14	1	326
内科		13	40	73	186	303	864	1,071	909	212	5	3,676
皮膚科			3	3	2	5	15	18	15	2		63
泌尿器科	6	5	3	14	26	64	218	294	120	10		760
産婦人科	1	22	182	336	257	112	104	70	18	4		1,106
眼科	8	2	8	8	30	66	184	228	197	28	1	760
耳鼻咽喉科	52	13	33	39	49	62	86	95	37	6		472
小児科	1,189	41	17	9	3	1						1,260
神経内科		4	3	11	10	21	51	62	54	17	3	236
放射線科					1	3	2		3			9
緩和ケア科					5	15	33	44	35	5		137
麻酔科(救急)		3	2	1	3	4	2	4	5	1	1	26
合計	1,495	153	346	581	765	894	2,113	2,645	1,923	383	13	11,311

年齢分布グラフ



診療実績及び診療統計
6. 平成 28 年度外来科別・月別新患者数

診療科		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
整形外科	新患者数	107	98	108	90	92	79	90	80	74	81	64	91
	一日あたり	5.1	5.4	4.9	4.1	4.4	4.2	4.3	4.2	3.9	4.3	3.2	4.1
外科	新患者数	143	122	137	130	98	105	139	134	118	117	107	110
	一日あたり	6.8	6.8	6.2	5.9	4.7	5.5	6.6	7.1	6.2	6.2	5.4	5.0
心臓血管外科	新患者数	10	8	19	10	7	11	8	11	14	10	4	20
	一日あたり	0.5	0.4	0.9	0.5	0.3	0.6	0.4	0.6	0.7	0.5	0.2	0.9
脳神経外科	新患者数	7	18	12	20	22	19	22	12	14	9	12	10
	一日あたり	0.3	1.0	0.5	0.9	1.0	1.0	1.0	0.6	0.7	0.5	0.6	0.5
内科	新患者数	271	281	314	304	277	256	252	274	287	277	275	283
	一日あたり	12.9	15.6	14.3	13.8	13.2	13.5	12.0	14.4	15.1	14.6	13.8	12.9
皮膚科	新患者数	36	64	61	54	62	55	57	40	53	46	35	49
	一日あたり	1.7	3.6	2.8	2.5	3.0	2.9	2.7	2.1	2.8	2.4	1.8	2.2
泌尿器科	新患者数	69	73	82	74	79	73	81	91	79	83	69	84
	一日あたり	3.3	4.1	3.7	3.4	3.8	3.8	3.9	4.8	4.2	4.4	3.5	3.8
産婦人科	新患者数	129	119	131	128	133	114	130	115	129	117	108	110
	一日あたり	6.1	6.6	6.0	5.8	6.3	6.0	6.2	6.1	6.8	6.2	5.4	5.0
眼科	新患者数	104	109	125	113	105	102	108	105	82	93	99	115
	一日あたり	5.0	6.1	5.7	5.1	5.0	5.4	5.1	5.5	4.3	4.9	5.0	5.2
耳鼻咽喉科	新患者数	133	143	140	126	135	116	134	113	102	115	118	142
	一日あたり	6.3	7.9	6.4	5.7	6.4	6.1	6.4	5.9	5.4	6.1	5.9	6.5
小児科	新患者数	575	616	492	697	619	492	576	548	751	680	629	664
	一日あたり	27.4	34.2	22.4	31.7	29.5	25.9	27.4	28.8	39.5	35.8	31.5	30.2
心療科精神科	新患者数	0	0	0	0	1	2	1	0	1	0	0	1
	一日あたり	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0
神経内科	新患者数	32	42	43	40	52	30	33	36	38	39	40	33
	一日あたり	1.5	2.3	2.0	1.8	2.5	1.6	1.6	1.9	2.0	2.1	2.0	1.5
放射線科	新患者数	122	116	127	112	97	105	135	105	75	82	95	92
	一日あたり	5.8	6.4	5.8	5.1	4.6	5.5	6.4	5.5	3.9	4.3	4.8	4.2
緩和ケア科	新患者数	4	3	3	4	3	7	1	5	2	6	3	2
	一日あたり	0.2	0.2	0.1	0.2	0.1	0.4	0.0	0.3	0.1	0.3	0.2	0.1
救急科	新患者数	388	425	345	449	456	360	364	349	474	367	347	387
	一日あたり	18.5	23.6	15.7	20.4	21.7	18.9	17.3	18.4	24.9	19.3	17.4	17.6
計	新患者数	2,130	2,237	2,139	2,351	2,238	1,926	2,131	2,018	2,293	2,122	2,005	2,193
	一日あたり	101.4	124.3	97.2	106.9	106.6	101.4	101.5	106.2	120.7	111.7	100.3	99.7

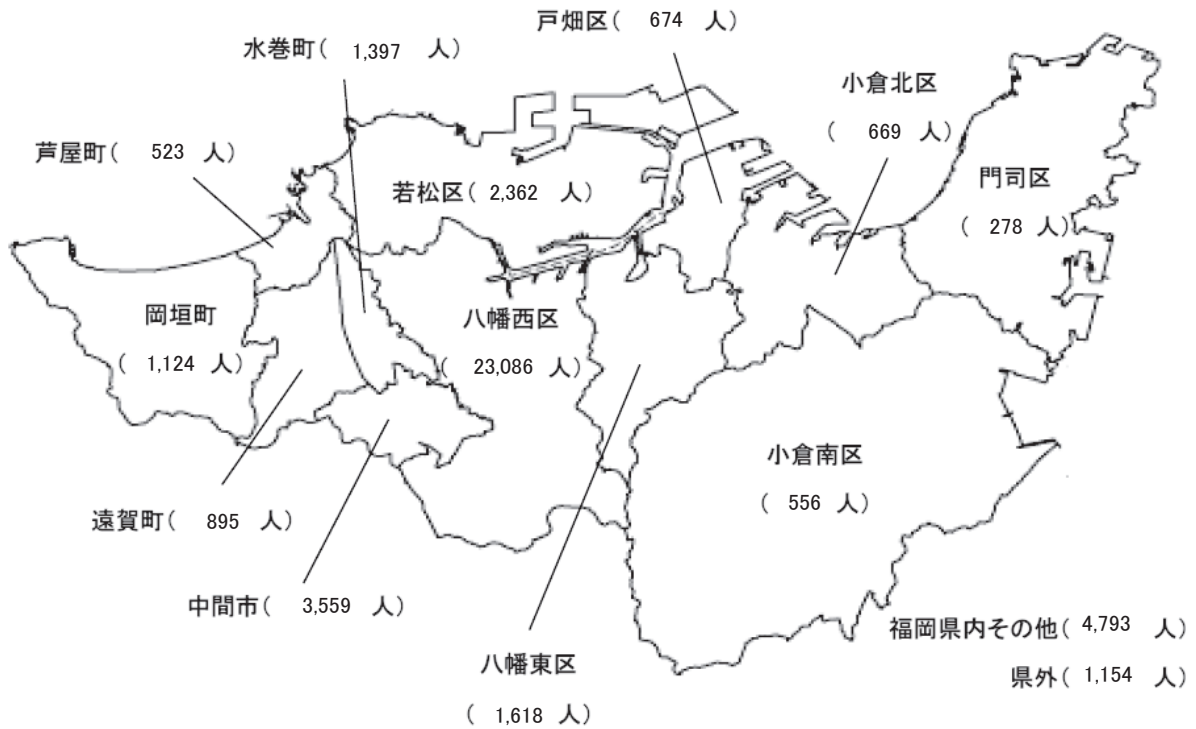


7. 平成 28 年度外来科別・月別再来患者数

診療科名		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
整形外科	再来患者数	533	485	603	561	616	617	528	516	544	500	535	659
	一日あたり	25.4	26.9	27.4	25.5	29.3	32.5	25.1	27.2	28.6	26.3	26.8	30.0
外科	再来患者数	1,843	1,735	2,012	1,840	1,769	1,818	1,893	1,881	1,793	1,796	1,790	1,889
	一日あたり	87.8	96.4	91.5	83.6	84.2	95.7	90.1	99.0	94.4	94.5	89.5	85.9
心臓血管外科	再来患者数	289	273	357	292	270	311	357	276	300	281	240	356
	一日あたり	13.8	15.2	16.2	13.3	12.9	16.4	17.0	14.5	15.8	14.8	12.0	16.2
脳神経外科	再来患者数	228	214	238	224	159	205	236	197	152	170	171	189
	一日あたり	10.9	11.9	10.8	10.2	7.6	10.8	11.2	10.4	8.0	8.9	8.6	8.6
内科	再来患者数	3,571	3,535	3,768	3,602	3,630	3,601	3,503	3,611	3,519	3,506	3,460	3,922
	一日あたり	170.0	196.4	171.3	163.7	172.9	189.5	166.8	190.1	185.2	184.5	173.0	178.3
皮膚科	再来患者数	435	472	515	500	494	506	455	472	466	472	424	507
	一日あたり	20.7	26.2	23.4	22.7	23.5	26.6	21.7	24.8	24.5	24.8	21.2	23.0
泌尿器科	再来患者数	829	822	788	844	838	818	822	790	821	807	727	906
	一日あたり	39.5	45.7	35.8	38.4	39.9	43.1	39.1	41.6	43.2	42.5	36.4	41.2
産婦人科	再来患者数	1,027	1,036	1,129	1,038	1,205	1,141	1,148	1,132	1,096	1,099	1,125	1,255
	一日あたり	48.9	57.6	51.3	47.2	57.4	60.1	54.7	59.6	57.7	57.8	56.3	57.0
眼科	再来患者数	813	955	976	954	1,063	923	959	985	1,021	923	990	1,094
	一日あたり	38.7	53.1	44.4	43.4	50.6	48.6	45.7	51.8	53.7	48.6	49.5	49.7
耳鼻咽喉科	再来患者数	561	528	607	541	618	583	530	537	585	517	510	571
	一日あたり	26.7	29.3	27.6	24.6	29.4	30.7	25.2	28.3	30.8	27.2	25.5	26.0
小児科	再来患者数	1,313	1,310	1,321	1,411	1,731	1,335	1,362	1,462	1,381	1,275	1,339	1,666
	一日あたり	62.5	72.8	60.0	64.1	82.4	70.3	64.9	76.9	72.7	67.1	67.0	75.7
心療科精神科	再来患者数	0	3	3	6	7	6	10	7	5	10	7	16
	一日あたり	0.0	0.2	0.1	0.3	0.3	0.3	0.5	0.4	0.3	0.5	0.4	0.7
神経内科	再来患者数	141	150	200	184	202	177	158	196	195	209	175	225
	一日あたり	6.7	8.3	9.1	8.4	9.6	9.3	7.5	10.3	10.3	11.0	8.8	10.2
放射線科	再来患者数	366	577	681	449	526	438	492	568	425	349	390	492
	一日あたり	17.4	32.1	31.0	20.4	25.0	23.1	23.4	29.9	22.4	18.4	19.5	22.4
緩和ケア科	再来患者数	55	56	53	48	41	48	55	54	60	44	54	53
	一日あたり	2.6	3.1	2.4	2.2	2.0	2.5	2.6	2.8	3.2	2.3	2.7	2.4
救急科	再来患者数	176	182	193	222	202	171	221	179	213	187	162	143
	一日あたり	8.4	10.1	8.8	10.1	9.6	9.0	10.5	9.4	11.2	9.8	8.1	6.5
計	再来患者数	12,180	12,333	13,444	12,716	13,371	12,698	12,729	12,863	12,576	12,145	12,099	13,943
	一日あたり	580	685	611	578	637	668	606	677	662	639	605	634

診療実績及び診療統計

8. 平成 28 年度入院・外来患者分布図 (患者実数)

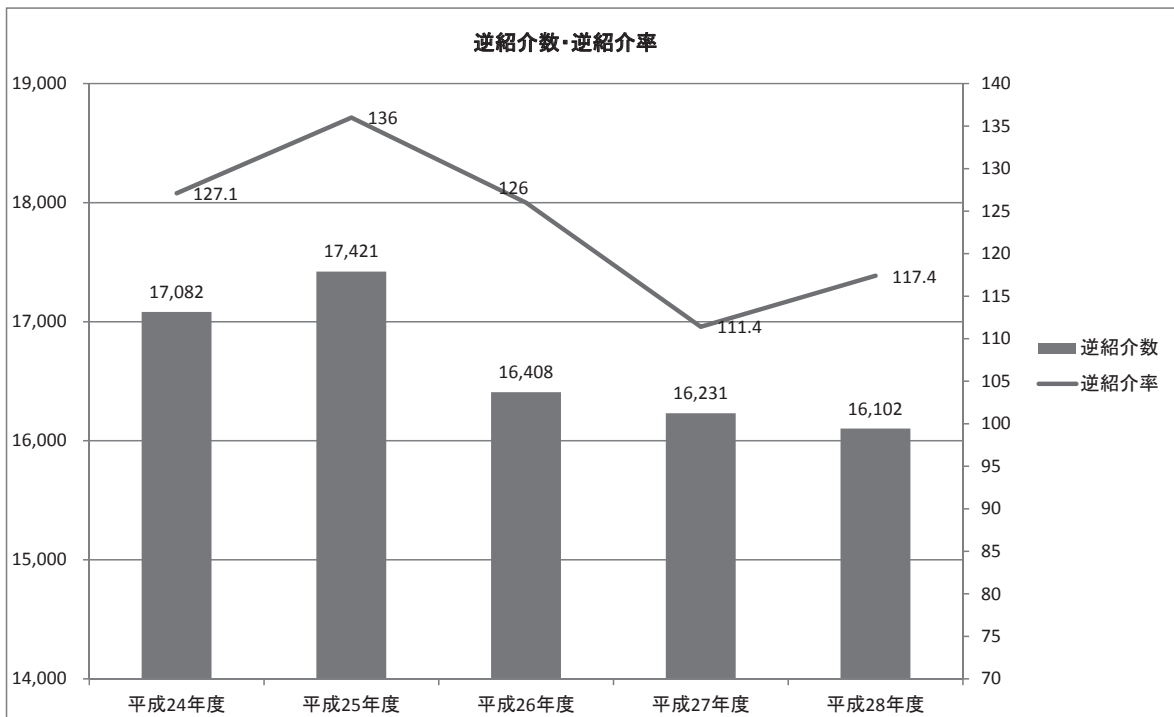
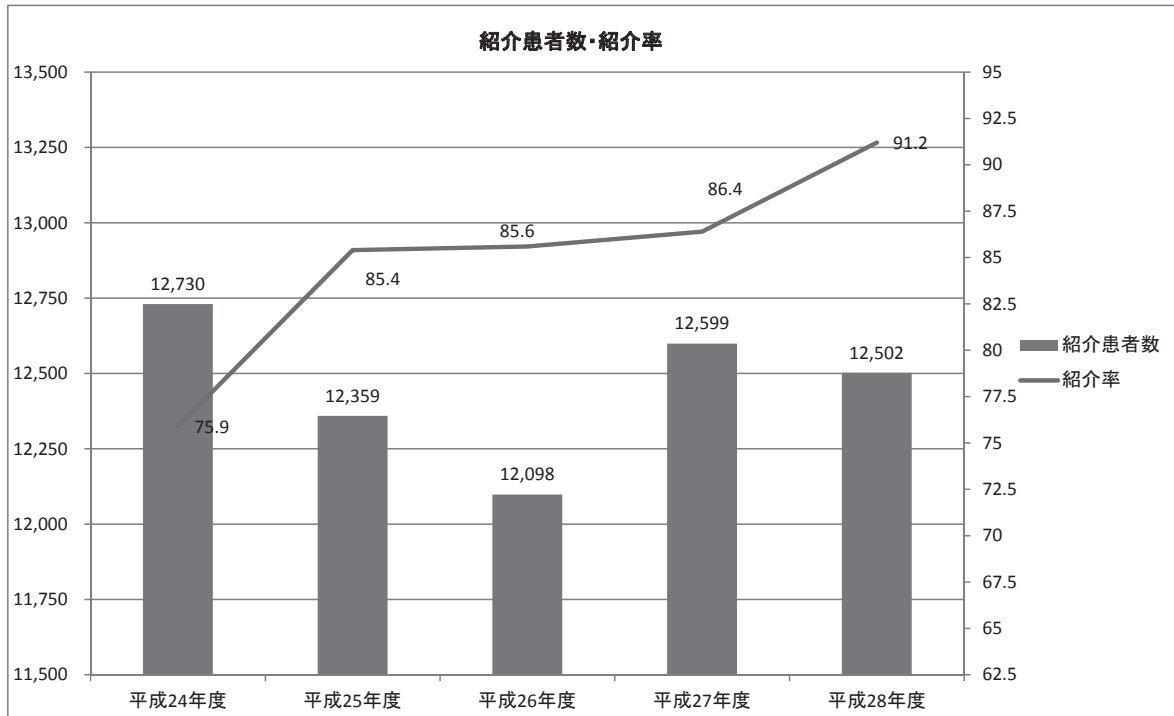


市区町村名	実数	割合
北九州市門司区	278	0.7%
北九州市小倉北区	669	1.6%
北九州市小倉南区	556	1.3%
北九州市若松区	2,362	5.5%
北九州市戸畑区	674	1.6%
北九州市八幡東区	1,618	3.8%
北九州市八幡西区	23,086	54.1%
中間市	3,559	8.3%
遠賀郡芦屋町	523	1.2%
遠賀郡遠賀町	895	2.1%
遠賀郡岡垣町	1,124	2.6%
遠賀郡水巻町	1,397	3.3%
福岡県内のその他医療圏	4,793	11.2%
県外	1,154	2.7%
総計	42,688	100.0%



9. 紹介患者数推移・紹介率、逆紹介患者数・逆紹介率推移

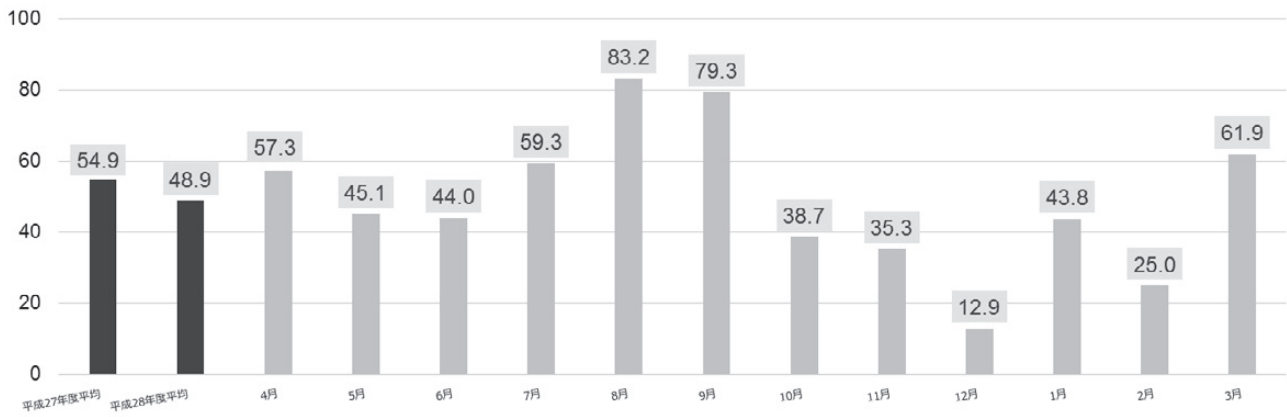
	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
紹介患者数	12,730	12,359	12,098	12,599	12,502
紹介率	75.9	85.4	85.6	86.4	91.2
逆紹介数	17,082	17,421	16,408	16,231	16,102
逆紹介率	127.1	136	126	111.4	117.4





診療実績及び診療統計

10. 平成28年度開放型病床の稼働率推移





診療実績及び診療統計

◆手術統計

1. 平成 28 年度診療科別手術件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	H27年度	H26年度
整形外科	64	47	52	76	71	70	56	61	72	51	67	70	757	876
(整形外科急患)	9	10	4	12	13	15	7	8	18	10	9	6	121	134
外科	102	109	143	135	146	125	132	130	128	127	113	126	1516	1635
(外科急患)	13	20	20	13	20	22	19	16	18	18	11	15	205	240
脳外科	12	7	13	22	13	12	12	16	12	7	15	14	155	180
(脳外科急患)	3	5	5	11	3	5	6	4	3	5	6	5	61	91
皮膚科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(皮膚科急患)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌尿器科	45	37	58	54	58	42	52	53	46	50	50	58	603	609
(泌尿器科急患)	2	1	7	7	3	0	5	5	1	3	1	5	40	47
産婦人科	50	57	60	70	80	58	64	64	58	59	71	71	762	761
(産婦人科急患)	7	13	5	15	14	6	8	7	7	11	9	12	114	141
眼科	97	94	124	107	115	91	105	104	98	100	110	119	1264	971
(眼科急患)	5	7	10	5	12	3	6	7	7	6	4	6	78	58
耳鼻咽喉科	34	30	46	42	46	34	36	33	27	27	27	32	414	485
(耳鼻科急患)	0	1	3	2	1	1	1	0	0	1	2	4	16	15
小児科 [総件数]	25	21	36	20	35	30	24	26	28	18	36	38	337	341
(小児科急患総数)	1	2	3	3	2	1	1	2	5	1	3	4	28	17
[小児循環器科]	25	21	35	20	35	30	23	26	28	18	36	38	335	335
(小児循環器急患)	1	2	2	3	2	1	1	2	5	1	3	4	27	15
[小児一般]	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	6
(小児一般急患)	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
放射線科	18	5	13	12	5	13	11	12	10	10	7	15	131	131
(放射線科急患)	4	2	2	3	2	5	1	2	0	3	0	1	25	30
心臓血管外科	22	26	23	27	44	25	28	30	34	32	31	38	360	387
(心臓外科急患)	4	10	3	7	10	6	4	5	9	10	9	16	93	92
内科 [総件数]	118	143	166	129	131	116	123	129	149	148	125	123	1600	1525
(内科急患総数)	23	46	33	23	45	22	36	24	39	31	25	33	380	415
[循環器科内科心カテ]	90	114	136	96	110	90	93	108	122	117	96	99	1271	1338
★ [循内カテ以外]	4	8	9	13	9	10	12	9	6	6	7	8	101	101
(循内心カテ急患)	20	38	29	21	41	19	26	21	37	29	23	29	333	395
★ (循内その他急患)	1	3	1	2	4	3	7	2	1	1	2	4	31	31
[血液内科]	0	1	1	1	0	0	1	1	1	1	1	1	9	2
(血液急患)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
[腎臓内科]	16	14	6	10	6	6	10	7	7	14	14	9	119	87
(腎急患)	2	5	2	0	0	0	3	1	1	1	0	0	15	17
[肝臓内科]	8	6	14	8	6	10	7	4	13	10	7	6	99	96
(肝急患)	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
消化器内科	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
(消化器内科急患)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
呼吸器内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
(呼吸器内科急患)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ペインクリニック	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(ペイン急患)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
緩和ケア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(緩和ケア急患)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻酔科	1	0	0	0	1	0	0	1	0	2	1	0	6	4
(麻酔科急患)	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2	1	0	5	2
合計	588	576	734	694	745	616	643	659	662	631	653	704	7905	7905
急患再掲 (CV 除く)	72	117	95	101	126	86	94	80	107	101	80	107	1166	1282
手術件数 (カテ除く)	473	441	563	578	600	496	527	525	512	496	521	567	6299	6232
麻酔科管理数	301	290	365	396	426	343	348	362	350	329	346	388	4244	4538
CV 挿入 (急患扱い)	3	4	3	10	8	2	7	5	2	2	5	3	54	47
CV 挿入 (定期症例)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
手術室稼働数	591	580	737	704	753	618	650	664	664	633	658	707	7959	7952
急患総数	75	121	98	111	134	88	101	85	109	103	85	110	1220	1329
当日申込数 (CV 含む)	67	92	85	101	113	79	84	76	93	96	73	98	1057	1149
中止症例数	1	0	3	1	2	1	0	0	0	0	2	0	10	8
(科別)	脳外		小	心外	循内	眼					眼			
			外											
			2											

★循内カテ以外⇒PPMI・永久ペースメーカー植込み・ジェネレーター交換・ループレコーダー植込み

診療実績及び診療統計
2. 診療科別・手術コード別件数 (上位3)

診療科	手術コード	項目名称	件数
整形外科	K0461	骨折観血の手術 (大腿)	99
整形外科	K0821	人工関節置換術 (股)	88
整形外科	K131-2	内視鏡下椎弓切除術	43
外科	K672-2	腹腔鏡下胆嚢摘出術	152
外科	K5223	食道狭窄拡張術 (拡張用バルーンによるもの)	134
外科	K6335	ヘルニア手術 (鼠径ヘルニア)	103
心臓血管外科	K6002	大動脈バルーンパンピング法 (IABP法) (1日につき) (2日目以降)	63
心臓血管外科	K552-22	冠動脈、大動脈バイパス移植術 (人工心臓を使用しないもの) (2吻合以上のもの)	33
心臓血管外科	K5551	弁置換術 (1弁のもの)	31
脳神経外科	K164-2	慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	29
脳神経外科	K1692	頭蓋内腫瘍摘出術 (その他のもの)	21
脳神経外科	K1771	脳動脈瘤頸部クリッピング (1箇所)	13
内科	K7211	内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術 (長径2センチメートル未満)	260
内科	K5493	経皮的冠動脈ステント留置術 (その他のもの)	228
内科	K6002	大動脈バルーンパンピング法 (IABP法) (1日につき) (2日目以降)	193
皮膚科	K0061	皮膚腫瘍摘出術 (露出部以外) (長径3cm未満)	87
皮膚科	K0051	皮膚腫瘍摘出術 (露出部) (長径2cm未満)	53
皮膚科	K0011	皮膚切開術 (長径10センチメートル未満)	36
泌尿器科	K8036 イ	膀胱悪性腫瘍手術 (経尿道的手術) (電解質溶液利用のもの)	135
泌尿器科	K783-2	経尿道的尿管ステント留置術	103
泌尿器科	K843-4	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術 (内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	103
産婦人科	K877	子宮全摘術	118
産婦人科	K8982	帝王切開術 (選択帝王切開)	108
産婦人科	K861	子宮内膜搔爬術	95
眼科	K2821 ロ	水晶体再建術 (眼内レンズを挿入する場合) (その他のもの)	1018
眼科	K2801	硝子体茎頭微鏡下離断術 (網膜付着組織を含むもの)	207
眼科	K2761	網膜光凝固術 (通常のもの (一連につき))	100
耳鼻咽喉科	K3772	口蓋扁桃手術 (摘出)	151
耳鼻咽喉科	K300	鼓膜切開術	49
耳鼻咽喉科	K331	鼻腔粘膜焼灼術	43
小児科	K0613	関節脱臼非観血的整復術 (小児肘内障)	30
小児科	K0004	創傷処理 (筋肉、臓器に達しないもの (長径5センチメートル未満))	29
小児科	K5621	動脈管開存症手術 (経皮的動脈管開存閉鎖術)	21
神経内科	K386	気管切開術	3
神経内科	K616	四肢の血管拡張術・血栓除去術	2
神経内科	K664	胃瘻造設術 (経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)	2
放射線科	K7211	内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術 (長径2センチメートル未満)	19
放射線科	K7212	内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術 (長径2センチメートル以上)	3
放射線科	K526-21	内視鏡的食道粘膜切除術 (早期悪性腫瘍粘膜切除術)	1
緩和ケア科			
緩和ケア科			
緩和ケア科			
麻酔科 (救急)	K0004	創傷処理 (筋肉、臓器に達しないもの (長径5センチメートル未満))	114
麻酔科 (救急)	K0005	創傷処理 (筋肉、臓器に達しないもの (長径5センチメートル以上10センチメートル未満))	28
麻酔科 (救急)	K0002	創傷処理 (長径5cm以上10cm未満 筋肉、臓器に達するもの)	8

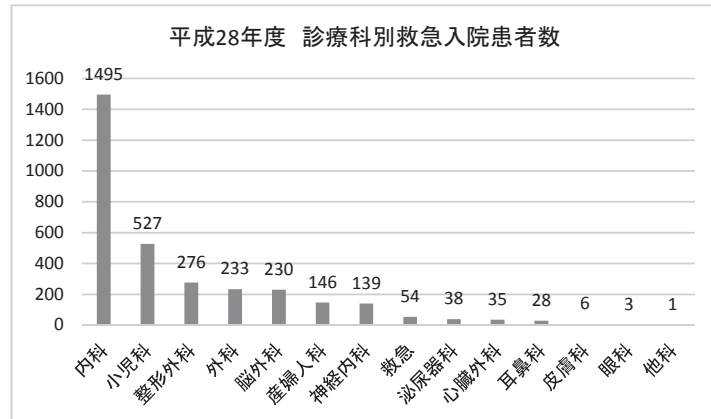


◆救急患者統計

1. 平成 28 年度救急患者統計

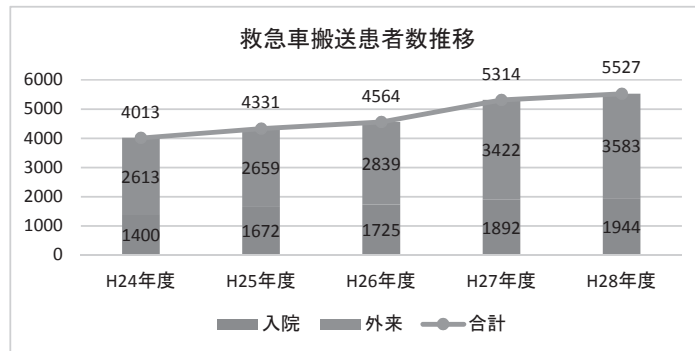
A 平成28年度 診療科別救急入院患者数

内科	1495
小児科	527
整形外科	276
外科	233
脳外科	230
産婦人科	146
神経内科	139
救急	54
泌尿器科	38
心臓外科	35
耳鼻科	28
皮膚科	6
眼科	3
他科	1
合計	3211



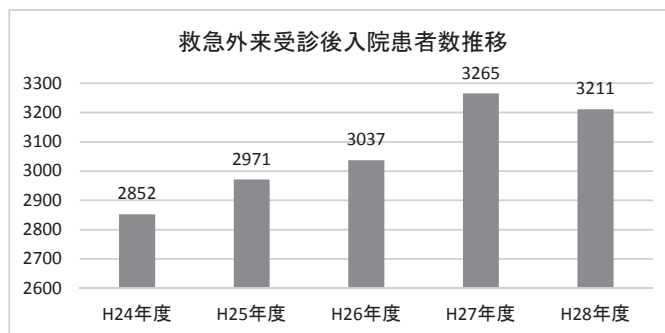
B 救急車搬送患者数推移

	入院	外来	合計
H24年度	1400	2613	4013
H25年度	1672	2659	4331
H26年度	1725	2839	4564
H27年度	1892	3422	5314
H28年度	1944	3583	5527



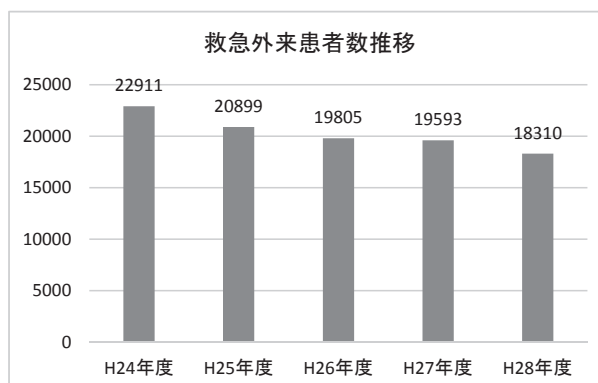
C 救急外来受診後入院患者数推移

H24年度	2852
H25年度	2971
H26年度	3037
H27年度	3265
H28年度	3211



D 救急外来患者数推移

H24年度	22911
H25年度	20899
H26年度	19805
H27年度	19593
H28年度	18310





診療実績及び診療統計

2. 平成 28 年度地域別救急患者数

救急隊別受入れ状況

署別	救急隊	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
八幡西	八幡西	87	94	83	102	80	72	76	74	75	65	63	89	960
	黒崎	79	90	67	78	84	66	77	74	85	51	69	65	885
	折尾	31	44	36	33	37	33	50	40	47	44	32	32	459
	上津役	88	89	78	97	94	92	104	97	95	85	91	94	1,104
	楠橋	52	45	49	50	55	57	61	38	67	46	44	44	608
	小計	337	362	313	360	350	320	368	323	369	291	299	324	4,016
若松	島郷	3	3	7	4	4	2	1	1	2	5	3	8	43
	若松	19	29	35	27	29	18	24	25	40	42	22	27	337
	小計	22	32	42	31	33	20	25	26	42	47	25	35	380
八幡東	高度	20	24	21	16	27	12	20	15	21	24	12	18	230
	高見	3	2	5	3	3	3	3	5	3	5	6	7	48
	小計	23	26	26	19	30	15	23	20	24	29	18	25	278
戸畑	戸畑	2	6	1	2	5	2	1	4	8	5	2	1	39
小倉北	小倉北	3	1	4	1	6	0	4	1	3	2	2	2	29
	浅野	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	1	0	4
	井堀	0	5	4	3	2	1	1	1	1	2	3	2	25
	富野	2	1	0	0	0	1	0	1	0	1	0	1	7
	小計	5	7	9	4	10	2	5	3	4	5	6	5	65
小倉南	小倉南	0	0	1	2	3	0	0	1	1	3	0	4	15
	臨空	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2
	三谷	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	4
	小計	0	0	1	2	5	3	0	1	1	3	1	4	21
門司	門司	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	3
	老松	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	3
	松ヶ江	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	3
	小計	1	0	1	1	0	1	0	3	0	1	0	1	9
中間	中間	37	42	32	36	31	40	49	27	45	45	34	48	466
遠賀	遠賀	14	20	14	15	20	13	8	16	20	22	15	19	196
	芦屋	9	4	16	19	14	4	12	6	12	8	4	5	113
	岡垣	9	9	4	6	9	11	3	6	8	6	6	6	83
	小計	32	33	34	40	43	28	23	28	40	36	25	30	392
福岡県内その他		24	38	21	24	20	14	18	24	46	32	26	25	312
県外		1	1	0	0	0	2	0	0	2	1	1	0	8
合計		484	547	480	519	527	447	512	459	581	495	437	498	5,986



3. 平成 28 年度救急センター実績報告

来院患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
救急	552	589	529	666	643	531	564	506	670	533	515	502	6,800
小児	653	773	598	775	630	577	681	638	869	804	669	675	8,342
整形	21	24	18	25	14	31	17	22	21	29	18	30	270
外科	12	33	19	19	28	30	29	29	24	22	25	28	298
心外	4	4	3	1	6	3	6	4	7	5	6	6	55
脳外	18	25	21	24	16	17	24	16	15	19	19	19	233
内科	129	143	116	114	137	122	142	147	151	150	110	141	1,602
皮膚	1	6	3	1	2	1	2	0	2	0	0	0	18
泌尿器	3	2	5	4	5	4	6	5	5	10	2	1	52
産婦人	36	31	34	31	27	30	29	27	35	30	22	35	367
眼科	2	2	2	6	4	3	1	2	6	2	3	1	34
耳鼻	5	3	8	5	13	9	11	8	5	13	7	8	95
神内	14	9	13	14	5	10	11	7	19	13	13	15	143
他科	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	1451	1644	1369	1685	1530	1368	1523	1411	1829	1630	1409	1461	18,310
日勤	509	624	469	585	539	519	548	510	739	643	546	506	6,737
中勤	557	634	553	605	569	481	583	517	621	598	505	581	6,804
夜勤	385	386	347	495	422	368	392	384	469	389	358	374	4,769
入院患者数	252	301	248	259	251	258	290	279	283	283	233	274	3,211
救急車台数	452	514	434	488	478	415	481	430	539	447	393	456	5,527
ON入室	243	259	252	281	253	215	245	195	271	224	172	226	2,836

入院率 (全体)	17.4	18.3	18.1	15.4	16.4	18.9	19.0	19.8	15.5	17.4	16.5	18.8	17.5
小児科入院率	6.9	7.0	6.9	6.1	5.9	8.1	7.6	6.9	4.9	4.9	6.0	5.6	6.3
成人入院率	25.9	28.4	26.8	23.3	23.8	26.7	28.3	30.4	25.0	29.5	26.1	30.0	26.9
救急車搬入率	31.2	31.3	31.7	29.0	31.2	30.3	31.6	30.5	29.5	27.4	27.9	31.2	30.2
ON入室率	16.7	15.8	18.4	16.7	16.5	15.7	16.1	13.8	14.8	13.7	12.2	15.5	15.5

入院患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
日勤	110	123	126	106	100	117	121	127	129	122	93	110	1,384
中勤	67	103	74	82	82	77	97	77	84	87	78	85	993
夜勤	75	75	48	71	69	64	72	75	70	74	62	79	834
合計	252	301	248	259	251	258	290	279	283	283	233	274	3,211



診療実績及び診療統計

救急車台数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
日勤	164	193	164	167	193	157	178	177	224	174	155	189	2,135
中勤	129	157	136	148	137	106	142	109	143	125	118	140	1,590
夜勤	159	164	134	173	148	152	161	144	172	148	120	127	1,802
合計	452	514	434	488	478	415	481	430	539	447	393	456	5,527

救急車で来院し入院となった件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
救急	2	2	2	4	4	2	3	2	7	2	3	4	37
小児	8	13	9	9	5	11	6	9	14	12	6	7	109
整形	16	20	9	18	10	19	16	21	16	19	13	19	196
外科	7	14	9	7	11	11	16	10	15	11	11	16	138
心外	4	3	3	0	2	1	3	3	4	1	3	5	32
脳外	17	24	17	19	15	13	22	16	11	19	16	18	207
内科	93	99	66	67	92	79	89	85	92	92	81	95	1,030
皮膚	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
泌尿器	0	2	3	1	4	2	4	4	1	2	2	1	26
産婦人	2	3	1	5	2	1	3	3	3	2	2	3	30
眼科	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	3
耳鼻	3	2	4	1	0	2	1	2	2	0	1	1	19
神内	13	8	11	13	5	8	8	5	13	11	10	11	116
他科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	165	190	134	145	152	149	171	160	179	171	148	180	1,944

入院患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
救急	3	4	3	6	7	4	3	4	7	4	4	5	54
小児	45	54	41	47	37	47	52	44	43	39	40	38	527
整形	16	23	16	23	10	25	16	22	18	24	16	21	230
外科	11	32	18	17	25	29	28	25	21	21	23	26	276
心外	4	3	3	0	2	1	3	3	5	3	3	5	35
脳外	18	25	21	24	16	17	24	16	15	19	19	19	233
内科	122	139	107	106	129	107	136	135	140	141	101	132	1,495
皮膚	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	3
泌尿器	2	2	5	4	4	3	6	5	1	3	2	1	38
産婦人	12	8	15	15	12	12	10	12	12	15	11	12	146
眼科	0	0	1	2	3	0	0	0	0	0	0	0	6
耳鼻	4	3	4	1	1	3	1	6	2	1	1	1	28
神内	14	8	13	13	5	10	11	7	18	13	13	14	139
他科	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	252	301	248	259	251	258	290	279	283	283	233	274	3,211



診療実績及び診療統計

オーバーナイト入室患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
救急	105	108	105	125	131	85	115	82	125	108	76	90	1,255
小児	107	112	111	120	101	102	101	82	101	81	69	100	1,187
整形	1	3	4	1	0	1	2	3	2	5	1	3	26
外科	3	8	4	4	4	4	4	4	2	2	7	4	50
心外	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
脳外	0	0	0	1	2	0	1	0	1	1	1	1	8
内科	18	25	18	22	12	18	15	19	32	17	13	20	229
皮膚	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2
泌尿器	1	0	2	2	0	0	1	0	1	3	0	0	10
産婦人	6	1	6	1	1	3	2	3	3	5	4	5	40
眼科	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	3
耳鼻	0	0	0	0	1	1	1	1	0	2	1	0	7
神内	1	2	2	4	1	0	2	0	2	0	0	3	17
他科	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	243	259	252	281	253	215	245	195	271	224	172	226	2,836

処置

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
心カテ	10	9	12	10	14	10	15	13	13	15	16	17	154
手術	2	15	11	13	5	11	9	11	16	12	9	14	128
内視鏡	12	14	12	13	11	15	18	17	16	11	19	16	174
アンギオ	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	3
CPOA	7	7	6	4	5	3	7	13	13	6	9	9	89
エンゼルケア	6	7	5	3	3	2	7	10	7	7	7	5	69
転送	6	3	4	12	11	6	11	7	19	22	12	19	132
へり搬送	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1

小児科統計

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総受診者数 (小児科も含む)	1,451	1,644	1,369	1,685	1,530	1,368	1,523	1,411	1,829	1,630	1,409	1,461	18,310
小児科受診者数	653	773	598	775	630	577	681	638	869	804	669	675	8,342
時間外 (16:45~8:00)	651	771	596	769	628	571	680	634	867	803	663	673	8,306
深夜帯 (22:00~5:00)	123	111	98	166	122	91	120	126	157	141	116	113	1,484

小児科救急車数	49	60	52	56	45	41	40	39	59	53	34	60	588
成人救急車数	403	454	382	432	433	374	441	391	480	394	359	396	4,939

診療実績及び診療統計

◆退院患者統計

1. 疾病統計

1) 疾病別退院患者数 (大分類) (平成 28 年 1 月～12 月)

大分類表	退院患者数			延在院日数		
	男	女	計	男	女	計
1 感染症及び寄生虫症 A00-B99	137	127	264	1,344	1,367	2,711
2 新生物 C00-D48	2,732	2,341	5,073	38,843	28,329	67,172
3 血液及び造血器の疾患ならびに免疫機構の障害 D50-89	35	43	78	702	785	1,487
4 内分泌、栄養及び代謝疾患 E00-90	98	109	207	1,076	1,190	2,266
5 精神および行動の障害 F00-90	2	8	10	16	150	166
6 神経系の疾患 G00-99	202	139	341	2,002	1,847	3,849
7 眼および付属器の疾患 H00-59	402	398	800	3,024	3,068	6,092
8 耳および乳様突起の疾患 H60-95	28	23	51	221	168	389
9 循環器系の疾患 I00-99	1,094	702	1,796	14,586	10,718	25,304
10 呼吸器系の疾患 J00-99	654	447	1,101	7,241	4,591	11,832
11 消化器系の疾患 K00-93	795	582	1,377	7,460	5,307	12,767
12 皮膚および皮下組織の疾患 L00-99	38	48	86	442	980	1,422
13 筋骨格系および結合組織の疾患 M00-99	212	200	412	3,669	4,316	7,985
14 尿路性器系の疾患 N00-99	254	425	679	3,263	3,366	6,629
15 妊娠, 分娩および産じょく<褥> O00-99	0	455	455	0	4,772	4,772
16 周産期に発生した病態 P00-96	85	88	173	2,047	1,816	3,863
17 先天奇形, 変形および染色体異常 Q00-99	304	242	546	5,693	5,407	11,100
18 症状, 徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの R00-99	97	78	175	934	601	1,535
19 損傷, 中毒およびその他の外因の影響 S00-T98	324	410	734	4,527	6,402	10,929
21 健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用 Z00-99	96	30	126	516	234	750
合 計	7,589	6,895	14,484	97,606	85,414	183,020



2) 疾病別退院患者数(小分類) (平成 28 年1月~12月)

疾 病 名			男	女
c- 100	I 感染症および寄生虫症	A00-B99	137	127
c- 101	原因の明示された腸管感染症	A00-08	22	14
c- 102	感染症と推定される下痢および胃腸炎	A09	34	25
c- 103	呼吸器結核	A15-16	5	3
c- 104	その他の結核	A17-19	0	0
c- 105	百日咳	A37	0	2
c- 106	敗血症	A40-41	16	18
c- 107	その他の細菌性疾患	A20-36,38-39,42-49	14	14
c- 108	梅毒	A50-53	0	0
c- 109	淋菌感染症	A54	0	0
c- 110	主として性的伝播様式をとるその他の感染症	A55-64	0	1
c- 111	ヘルペスウイルス感染症	B00	3	1
c- 112	水痘	B01	1	0
c- 113	带状疱疹	B02	7	9
c- 114	麻疹	B05	0	0
c- 115	風疹	B06	0	0
c- 116	皮膚および粘膜の病変を伴うその他のウイルス疾患	B03-04,07-09	2	2
c- 117	B型ウイルス肝炎	B16-17,0,18,0-18.1	3	2
c- 118	C型ウイルス肝炎	B17.1,18.2	5	7
c- 119	その他の慢性ウイルス肝炎	B15-19の残り	0	1
c- 120	ヒト免疫不全ウイルス〔HIV〕病	B20-24	0	0
c- 121	ムンプス	B26	2	2
c- 122	その他のウイルス疾患	A80-99,B25,B27-34	14	18
c- 123	皮膚糸状菌症	B35	0	0
c- 124	カンジダ症	B37	0	1
c- 125	その他の明示された真菌症	B36,38-49	8	4
c- 126	結核の続発・後遺症	B90	0	0
c- 127	その他および詳細不明の感染症および寄生虫症	B91-94	0	1
c- 128	その他の感染症及び寄生虫症	A00-B99の残り	1	2
小 計 (I)			137	127
c- 200	II 新生物	C00-D48	2,732	2,341
c- 201	口唇, 口腔および咽頭の悪性新生物	C00-14	74	28
c- 202	食道の悪性新生物	C15	180	17
c- 203	胃の悪性新生物	C16	214	91
c- 204	結腸の悪性新生物	C18	136	117
c- 205	直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物	C19-20	104	78
c- 206	肛門および肛門管の悪性新生物	C21	2	0
c- 207	肝および肝内胆管の悪性新生物	C22	128	54
c- 208	胆のう及びその他の胆道の悪性新生物	C23-24	37	48
c- 209	膵の悪性新生物	C25	71	55
c- 210	その他の消化器の悪性新生物	C17,26	5	2
c- 211	喉頭の悪性新生物	C32	30	2
c- 212	気管, 気管支及び肺の悪性新生物	C33-34	655	257
c- 213	その他の呼吸器系および胸腔内臓器の悪性新生物	C30-31,37-39	13	7
c- 214	骨および関節軟骨の悪性新生物	C40-41	10	0
c- 215	皮膚の悪性黒色腫	C43	0	0
c- 216	その他の皮膚の悪性新生物	C44	5	2
c- 217	中皮および軟部組織の悪性新生物	C45-49	13	68
c- 218	乳房の悪性新生物	C50	0	274
c- 219	子宮頸(部)の悪性新生物	C53	0	90
c- 220	子宮体(部)の悪性新生物	C54	0	234
c- 221	子宮の部位不明の悪性新生物	C55	0	1
c- 222	卵巣の悪性新生物	C56	0	181
c- 223	その他の女性性器の悪性新生物	C51-52,57-58	1	0

診療実績及び診療統計
2) 疾病別退院患者数(小分類) (平成 28 年1月~12月)

疾 病 名			男	女
c- 224	前立腺の悪性新生物	C61	352	0
c- 225	その他の男性性器の悪性新生物	C60,62-63	6	0
c- 226	腎及び腎盂の悪性新生物	C64-65	60	25
c- 227	膀胱の悪性新生物	C67	136	47
c- 228	その他の尿路の悪性新生物	C66,68	18	24
c- 229	眼および付属器の悪性新生物	C69	0	0
c- 230	中枢神経系の悪性新生物	C70-72,75.1-75.3	11	10
c- 231	甲状腺の悪性新生物	C73	9	24
c- 232	ホジキン病	C81	8	7
c- 233	非ホジキンリンパ腫	C82-85	159	154
c- 234	白血病	C91-95	76	56
c- 235	その他のリンパ組織、造血組織および関連組織	C88-90,96	39	32
c- 236	その他の悪性新生物	C00-97 の残り	55	32
c- 237	子宮頸(部)の上皮内癌	D06	0	15
c- 238	その他の上皮内新生物	D00-05,07-09	6	0
c- 239	皮膚の良性新生物	D22-23	1	5
c- 240	乳房の良性新生物	D24	0	2
c- 241	子宮平滑筋腫	D25	0	113
c- 242	卵巣の良性新生物	D27	0	79
c- 243	泌尿器の良性新生物	D30	0	0
c- 244	中枢神経系のその他の新生物	D32-33,35.2-35.4,	4	10
c- 245	その他の新生物	D00-48 の残り	114	100
小 計 (II)			2,732	2,341
c- 300	Ⅲ 血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	D50-89	35	43
c- 301	鉄欠乏性貧血	D50	0	5
c- 302	その他貧血	D51-64	10	11
c- 303	出血性の病態並びにその他の血液及び造血器の疾患	D65-77	21	27
c- 304	免疫機構の障害	D80-89	4	0
小 計 (III)			35	43
c- 400	Ⅳ 内分泌、栄養および代謝疾患	E00-90	98	109
c- 401	甲状腺中毒症	E05	0	5
c- 402	甲状腺炎	E06	0	1
c- 403	その他の甲状腺障害	E00-04,07	8	5
c- 404	インスリン依存性糖尿病	E10	1	4
c- 405	インスリン非依存性糖尿病	E11	41	45
c- 406	その他の糖尿病	E12-14	3	6
c- 407	卵巣機能障害	E28	0	0
c- 408	栄養失調(症)及びビタミン欠乏症	E40-46,50-56	0	1
c- 409	肥満(症)	E66	0	1
c- 410	高脂血症	E78.0-78.5	0	0
c- 411	体液量減少(症)	E86	8	4
c- 412	その他の内分泌、栄養および代謝疾患	E00-90 の残り	37	37
小 計 (IV)			98	109
c- 500	Ⅴ 精神および行動の障害	F00-99	2	8
c- 501	血管性及び詳細不明の痴呆	F01,03	0	0
c- 502	アルコール使用<飲酒>による精神および行動の障害	F10	0	1
c- 503	その他の精神作用物質使用による精神および行動の障害	F11-19	1	0
c- 504	精神分裂病、分裂病型障害および妄想性障害	F20-29	0	0
c- 505	気分〔感情〕障害(躁鬱病を含む)	F30-39	0	0
c- 506	神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害	F40-48	0	3
c- 507	精神遅滞	F70-79	0	0
c- 508	その他の精神および行動の障害	F00-99 の残り	1	4
小 計 (V)			2	8
c- 600	Ⅵ 神経系の疾患	G00-99	202	139



診療実績及び診療統計

2) 疾病別退院患者数(小分類) (平成 28 年1月~12月)

疾 病 名			男	女
c- 601	髄膜炎	G00-03	4	3
c- 602	中枢神経系の炎症性疾患	G04-09	4	2
c- 603	脊髄性筋萎縮症および関連症候群	G12	3	10
c- 604	パーキンソン病	G20	0	1
c- 605	アルツハイマー病	G30	0	0
c- 606	多発性硬化症	G35	1	3
c- 607	てんかん	G40-41	33	23
c- 608	片頭痛及びその他の頭痛症候群	G43-44	0	0
c- 609	一過性脳虚血発作および関連症候群	G45	13	10
c- 610	睡眠障害	G47	38	13
c- 611	神経、神経根および神経そうの障害	G50-64	32	28
c- 612	脳性麻痺およびその他の麻痺性症候群	G80-83	22	22
c- 613	自律神経系の障害	G90	2	5
c- 614	その他の神経系の疾患	G00-99 の残り	50	19
小 計 (Ⅵ)			202	139
c- 700	Ⅶ 眼および付属器の疾患	H00-59	402	398
c- 701	麦粒腫およびさん粒腫	H00	0	0
c- 702	涙器の障害	H04	0	1
c- 703	結膜炎	H10	0	0
c- 704	角膜炎	H16	1	2
c- 705	白内障	H25-26	149	222
c- 706	網膜剥離および裂孔	H33	66	23
c- 707	網膜血管閉塞症	H34	2	1
c- 708	緑内障	H40-42	58	50
c- 709	斜視	H49-50	6	3
c- 710	屈折および調節の障害	H52	0	0
c- 711	盲<失明>および低視力	H54	0	0
c- 712	その他の眼および付属器の疾患	H00-59 の残り	120	96
小 計 (Ⅶ)			402	398
c- 800	Ⅷ 耳および乳様突起の疾患	H60-95	28	23
c- 801	外耳炎	H60	0	0
c- 802	耳垢栓塞	H61.2	0	0
c- 803	その他の外耳障害	H61.0-61.1,61.3-62	0	0
c- 804	中耳炎	H65-67	7	7
c- 805	耳管炎	H68.0	0	0
c- 806	耳管閉塞	H68.1	0	0
c- 807	中耳真珠腫(症)	H71	7	4
c- 808	その他の中耳および乳様突起の疾患	H69-70,72-75	1	0
c- 809	メニエール病	H81.0	2	0
c- 810	中枢性めまい	H81.4	0	0
c- 811	その他の内耳疾患	H80,81.1-81.3,	6	8
c- 812	難聴	H90-91	5	4
c- 813	その他の耳疾患	H92-95	0	0
小 計 (Ⅷ)			28	23
c- 900	Ⅸ 循環器系の疾患	I00-99	1,094	702
c- 901	本態性(原発性) 高血圧(症)	I10	2	0
c- 902	高血圧性心疾患	I11	0	1
c- 903	高血圧性腎疾患	I12	0	0
c- 904	高血圧性心腎疾患	I13	0	0
c- 905	二次性高血圧症	I15	0	0
c- 906	狭心症	I20	137	68
c- 907	急性心筋梗塞	I21-22	86	51
c- 908	冠動脈硬化症	I25.0-25.1	17	7
c- 909	陳旧性心筋梗塞	I25.2	57	17

診療実績及び診療統計

2) 疾病別退院患者数 (小分類) (平成 28 年 1 月～12 月)

疾 病 名	男	女
c- 910 その他の虚血性心疾患	87	26
c- 911 慢性リウマチ性心疾患	5	4
c- 912 慢性非リウマチ性心内膜疾患	55	43
c- 913 心筋症	13	10
c- 914 不整脈及び伝導障害	137	110
c- 915 心不全	118	88
c- 916 その他の心疾患	23	21
c- 917 くも膜下出血	7	13
c- 918 脳内出血	35	42
c- 919 脳梗塞	122	65
c- 920 脳動脈硬化 (症)	3	15
c- 921 その他の脳血管疾患	23	9
c- 922 肺塞栓症	8	9
c- 923 動脈硬化 (症)	27	13
c- 924 大動脈瘤および解離	92	42
c- 925 レイノー症候群	0	0
c- 926 動脈の塞栓症および血栓症	5	1
c- 927 その他の動脈、細動脈及び毛細血管の疾患	4	12
c- 928 静脈炎、血栓 (性) 静脈炎並びに静脈の塞栓症及び血栓症	5	5
c- 929 下肢の静脈瘤	1	1
c- 930 痔核	2	1
c- 931 食道静脈瘤	18	19
c- 932 低血圧 (症)	0	0
c- 933 その他循環器系の疾患	5	9
小 計 (IX)	1,094	702
c- 1000 X 呼吸器系の疾患	654	447
c- 1001 急性鼻咽頭炎 [かぜ]	0	1
c- 1002 急性副鼻腔炎	1	2
c- 1003 急性咽頭炎及び急性扁桃炎	17	12
c- 1004 急性喉頭炎および気管炎	0	0
c- 1005 その他の急性上気道感染症	12	8
c- 1006 インフルエンザ	12	9
c- 1007 肺炎	196	153
c- 1008 急性気管支炎	50	37
c- 1009 急性細気管支炎	10	5
c- 1010 アレルギー性鼻炎	1	0
c- 1011 慢性副鼻腔炎	19	17
c- 1012 その他の鼻および副鼻腔の疾患	11	8
c- 1013 扁桃およびアデノイドの慢性疾患	29	33
c- 1014 その他の上気道疾患	24	22
c- 1015 急性または慢性と明示されない気管支炎	1	0
c- 1016 慢性閉塞性肺疾患	17	6
c- 1017 喘息	45	41
c- 1018 気管支拡張症	0	3
c- 1019 じん肺 (症)	0	0
c- 1020 間質性肺疾患	43	19
c- 1021 気胸	47	9
c- 1022 その他呼吸器系の疾患	119	62
小 計 (X)	654	447
c- 1100 XI 消化器系の疾患	795	582
c- 1101 う蝕	0	0
c- 1102 歯肉炎および歯周疾患	0	0
c- 1103 その他の歯および歯の支持組織の障害	0	4
c- 1104 口内炎および関連疾患	1	1



2) 疾病別退院患者数 (小分類) (平成 28 年 1 月～12 月)

疾 病 名	男	女
c- 1105 その他の口腔, 唾液腺及び顎の疾患	6	10
c- 1106 胃潰瘍	25	16
c- 1107 十二指腸潰瘍	17	8
c- 1108 部位不明の消化性潰瘍	0	0
c- 1109 胃炎および十二指腸炎	1	0
c- 1110 その他の食道, 胃および十二指腸の疾患	18	11
c- 1111 虫垂の疾患	52	42
c- 1112 単径ヘルニア	145	23
c- 1113 その他のヘルニア	9	27
c- 1114 クロウン病	7	0
c- 1115 潰瘍性大腸炎	3	2
c- 1116 腸閉塞	45	60
c- 1117 過敏性腸症候群	0	2
c- 1118 便秘	2	4
c- 1119 裂肛および痔瘻	0	0
c- 1120 その他の胃腸の疾患	137	96
c- 1121 腹膜の疾患	11	3
c- 1122 アルコール性肝疾患	5	1
c- 1123 慢性肝炎 (アルコール性のものを除く)	1	1
c- 1124 肝硬変 (アルコール性のものを除く)	4	9
c- 1125 その他の肝疾患	19	27
c- 1126 胆石症	162	137
c- 1127 胆のう炎	21	11
c- 1128 急性膵炎	24	11
c- 1129 慢性膵炎	5	0
c- 1130 その他の膵疾患	3	2
c- 1131 その他の消化器系の疾患	72	74
小 計 (X I)	795	582
c- 1200 X II 皮膚および皮下組織の疾患	38	48
c- 1201 皮膚および皮下組織の感染症	26	27
c- 1202 アトピー性皮膚炎	0	0
c- 1203 接触皮膚炎	1	0
c- 1204 その他の皮膚炎及び湿疹	1	0
c- 1205 乾せん及びその他の丘疹落せつ性障害	0	0
c- 1206 じんま疹	2	0
c- 1207 爪の障害	0	0
c- 1208 脱毛症	0	0
c- 1209 ざ瘡<アクネ>	0	0
c- 1210 色素 (沈着) 異常症	0	0
c- 1211 うおのめおよびべんち	0	0
c- 1212 その他の皮膚および皮下組織の疾患	8	21
小 計 (X II)	38	48
c- 1300 X III 筋骨格系および結合組織の疾患	212	200
c- 1301 慢性関節リウマチ	2	2
c- 1302 痛風	0	0
c- 1303 その他の炎症性多発性関節障害	3	3
c- 1304 関節症	35	105
c- 1305 四肢の後天性変形	1	1
c- 1306 膝内障	1	0
c- 1307 関節痛	0	0
c- 1308 その他の関節障害	3	9
c- 1309 全身性エリテマトーデス <SLE>	0	1
c- 1310 乾燥症候群 [シェーグレン症候群]	0	1

診療実績及び診療統計

2) 疾病別退院患者数 (小分類) (平成 28 年1月~12月)

疾 病 名	男	女
c- 1311 ベーチェット病	1	1
c- 1312 その他の全身性結合組織障害	29	12
c- 1313 脊椎障害 (脊椎症を含む)	95	33
c- 1314 椎間板障害	15	14
c- 1315 頸腕症候群	0	0
c- 1316 腰痛症及び坐骨神経痛	0	0
c- 1317 その他の背部痛	0	0
c- 1318 その他の脊柱障害	1	5
c- 1319 軟部組織障害	5	3
c- 1320 肩の傷害	0	1
c- 1321 骨粗しょう症	0	0
c- 1322 その他の骨の密度および構造の障害	4	3
c- 1323 骨髄炎	0	1
c- 1324 若年性骨軟骨症<骨端症>	0	0
c- 1325 その他の筋骨格系及び結合組織の疾患	17	5
小 計 (XIII)	212	200
c- 1400 XIV 尿路生殖器系の疾患	254	425
c- 1401 急性及び急速進行性腎炎症候群	1	1
c- 1402 ネフローゼ症候群	8	4
c- 1403 その他の糸球体疾患	5	1
c- 1404 腎尿細管間質性疾患	47	60
c- 1405 慢性腎不全	51	28
c- 1406 その他の腎不全	11	2
c- 1407 尿路結石症	69	37
c- 1408 膀胱炎	5	2
c- 1409 その他の尿路系の疾患	24	30
c- 1410 前立腺肥大 (症)	10	0
c- 1411 その他の男性生殖器の疾患	23	0
c- 1412 乳房の障害	0	24
c- 1413 卵管炎および卵巣炎	0	1
c- 1414 子宮頸 (部) の炎症性疾患	0	0
c- 1415 その他の女性骨盤炎症性疾患	0	5
c- 1416 子宮内膜症	0	51
c- 1417 女性生殖器脱	0	19
c- 1418 卵巣, 卵管および子宮広間膜の非炎症性障害	0	4
c- 1419 月経障害	0	6
c- 1420 閉経期およびその他の閉経周辺期障害	0	0
c- 1421 女性不妊症	0	0
c- 1422 その他の女性生殖器の疾患	0	150
小 計 (XIV)	254	425
c- 1500 XV 妊娠, 分娩および産じょく	0	455
c- 1501 自然流産	0	5
c- 1502 医学的人工流産	0	6
c- 1503 その他の流産	0	31
c- 1504 妊娠中毒症	0	14
c- 1505 妊娠早期の出血	0	3
c- 1506 前置胎盤, 胎盤早期剥離及び分娩前出血	0	13
c- 1507 その他の胎児及び羊膜腔に関連する母体のケア並びに 予想される分娩の諸問題	0	169
c- 1508 早産	0	12
c- 1509 分娩後出血	0	7
c- 1510 単胎自然分娩	0	106
c- 1511 その他の妊娠及び分娩の障害及び合併症	0	84
c- 1512 主として産じょくに関連する合併症及びその他の産科的	0	5



2) 疾病別退院患者数(小分類) (平成 28 年1月~12月)

疾 病 名	男	女	
病態、他に分類されないもの	0	0	
小 計 (X V)	0	455	
c- 1600 X VI 周産期に発生した病態	P00-96	85	88
c- 1601 妊娠期間および胎児発育に関連する障害	P05-08	38	36
c- 1602 出産外傷	P10-15	0	1
c- 1603 周産期に特異的な呼吸障害および心血管障害	P20-29	23	21
c- 1604 周産期に特異的な感染症	P35-39	5	6
c- 1605 胎児および新生児の出血性障害および血液障害	P50-61	12	14
c- 1606 その他の周産期に発生した病態	P00-96 の残り	7	10
小 計 (X VI)	85	88	
c- 1700 X VII 先天奇形、変形および染色体異常	Q00-99	304	242
c- 1701 二分脊椎<脊椎披裂>	Q05	0	1
c- 1702 その他の神経系の先天奇形	Q00-04,06-07	2	5
c- 1703 心臓の先天奇形	Q20-24	175	148
c- 1704 その他の循環器系の先天奇形	Q25-28	37	32
c- 1705 唇裂および口蓋裂	Q35-37	2	1
c- 1706 小腸の先天欠損、閉鎖および狭窄	Q41	2	1
c- 1707 その他の消化器系の先天奇形	Q38-40,42-45	22	11
c- 1708 停留精巣<睾丸>	Q53	13	0
c- 1709 その他の尿路性器系の先天奇形	Q50-52,54-64	12	5
c- 1710 股関節部の先天(性)変形	Q65	0	0
c- 1711 足の先天変形	Q66	1	0
c- 1712 脊柱および骨性胸郭の先天奇形	Q76	0	0
c- 1713 その他の筋骨格系の先天奇形及び変形	Q67-75,77-79	8	3
c- 1714 その他の先天奇形	Q10-18,30-34,80-89	19	18
c- 1715 染色体異常、他に分類されないもの	Q90-99	11	17
小 計 (X VII)	304	242	
c- 1800 X VIII 症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他	R00-99	97	78
c- 1801 腹痛および骨盤痛	R10	2	1
c- 1802 めまい	R42	1	2
c- 1803 不明熱	R50	5	5
c- 1804 頭痛	R51	0	1
c- 1805 老衰	R54	1	1
c- 1806 その他の症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見	R00-99 の残り	88	68
小 計 (X VIII)	97	78	
c- 1900 X IX 損傷、中毒およびその他の外因の影響	S00-T98	324	410
c- 1901 頭蓋骨および顔面骨の骨折	S02	11	2
c- 1902 頸部、胸部及び骨盤の骨折(脊椎を含む)	S12,22,32,T08	11	23
c- 1903 大腿骨の骨折	S72	26	118
c- 1904 その他の四肢の骨折	S42,52,62,72,82,92,	89	106
c- 1905 多部位の骨折	T02	0	2
c- 1906 明示された部位及び多部位の脱臼、捻挫及びストレイン	S03,S13,S23,S33,	11	11
c- 1907 眼球及び眼窩の損傷	S05	4	1
c- 1908 頭蓋内損傷	S06	53	26
c- 1909 その他の内臓の損傷	S26-S27,S36-S37	4	7
c- 1910 明示された部位及び多部位の挫減損傷及び外傷性切断	S70-S08,S17-S18,S28,	0	0
c- 1911 その他の明示された部位、部位不明及び外部位の損傷	S00-S01,S04,S09-S11,	42	17
c- 1912 自然開口部からの異物侵入の作用	T15-T19	3	5
c- 1913 熱傷および腐食	T20-T32	1	0
c- 1914 薬物、薬剤および生物学的製剤による中毒	T36-T50	0	4
c- 1915 薬用を主としない物質の毒作用	T51-T65	1	1
c- 1916 虐待症候群	T74	1	0
c- 1917 その他及び詳細不明の外因の作用	T33-T35,T66-T73,	9	15
c- 1918 外傷の早期合併症並びに外科的及び内科的ケア	T79-T88	56	72



診療実績及び診療統計

2) 疾病別退院患者数(小分類) (平成 28 年1月~12月)

疾 病 名	男	女
c- 1919 損傷, 中毒およびその他の外因による影響の続発・後遺症 T90-T98	2	0
小 計 (XIX)	324	410
c- 2100 XXI 健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービス Z00-Z99	96	30
c- 2101 検査および診査のための保健サービスの利用者 Z00-Z13	0	0
c- 2102 無症候性ヒト免疫不全ウイルス [HIV] 感染状態 Z21	0	0
c- 2103 予防接種 Z23-Z27	0	0
c- 2104 伝染病に関連する健康障害をきたす恐れのある Z20,Z22,Z28-Z29	0	0
c- 2105 避妊管理 Z30	0	0
c- 2106 分娩前スクリーニング及びその他の妊娠の管理 Z34-Z36	0	0
c- 2107 その他の生殖に関連する環境下での保健サービス Z31-Z33,Z37-Z38	0	1
c- 2108 分娩後のケアおよび検査 Z39	0	0
c- 2109 菌の補てつ Z46.3-Z46.4	0	0
c- 2110 特定の処置(菌の補てつを除く)及び保健ケア Z40-Z46.2,Z46.5-Z54	8	5
c- 2111 腎透析依存 Z99.2	0	0
c- 2112 その他の理由による保健サービスの利用者 Z55-Z99.1,Z99.3-Z99.9	88	24
小 計 (XXI)	96	30
合 計	7,589	6,895
	14,484	



3) 疾病別死亡患者数 (小分類) (平成 28 年1月～12月)

疾病名	件数	延べ日数
c- 100 I 感染症および寄生虫症 A00-B99	13	379
c- 101 原因の明示された腸管感染症 A00-08	0	0
c- 102 感染症と推定される下痢および胃腸炎 A09	0	0
c- 103 呼吸器結核 A15-16	1	53
c- 104 その他の結核 A17-19	0	0
c- 105 百日咳 A37	0	0
c- 106 敗血症 A40-41	8	220
c- 107 その他の細菌性疾患 A20-36,38-39,42-49	1	16
c- 108 梅毒 A50-53	0	0
c- 109 淋菌感染症 A54	0	0
c- 110 主として性的伝播様式をとるその他の感染症 A55-64	0	0
c- 111 ヘルペスウイルス感染症 B00	0	0
c- 112 水痘 B01	0	0
c- 113 帯状疱疹 B02	0	0
c- 114 麻疹 B05	0	0
c- 115 風疹 B06	0	0
c- 116 皮膚および粘膜の病変を伴うその他のウイルス疾患 B03-04,07-09	0	0
c- 117 B型ウイルス肝炎 B16-17,0,18,0-18.1	0	0
c- 118 C型ウイルス肝炎 B17.1,18.2	1	12
c- 119 その他の慢性ウイルス肝炎 B15-19 の残り	0	0
c- 120 ヒト免疫不全ウイルス [HIV] 病 B20-24	0	0
c- 121 ムンプス B26	0	0
c- 122 その他のウイルス疾患 A80-99,B25,B27-34	0	0
c- 123 皮膚糸状菌症 B35	0	0
c- 124 カンジダ症 B37	0	0
c- 125 その他の明示された真菌症 B36,38-49	1	51
c- 126 結核の続発・後遺症 B90	0	0
c- 127 その他および詳細不明の感染症および寄生虫症の B91-94	0	0
c- 128 その他の感染症及び寄生虫症 A00-B99 の残り	1	27
小 計 (I)	13	(379)
c- 200 II 新生物 C00-D48	285	6,356
c- 201 口唇, 口腔および咽頭の悪性新生物 C00-14	3	64
c- 202 食道の悪性新生物 C15	11	209
c- 203 胃の悪性新生物 C16	27	391
c- 204 結腸の悪性新生物 C18	16	277
c- 205 直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物 C19-20	13	537
c- 206 肛門および肛門管の悪性新生物 C21	0	0
c- 207 肝および肝内胆管の悪性新生物 C22	17	238
c- 208 胆のう及びその他の胆道の悪性新生物 C23-24	12	334
c- 209 膵の悪性新生物 C25	25	453
c- 210 その他の消化器の悪性新生物 C17,26	2	19
c- 211 喉頭の悪性新生物 C32	3	84
c- 212 気管, 気管支及び肺の悪性新生物 C33-34	57	1,216
c- 213 その他の呼吸器系および胸腔内臓器の悪性新生物 C30-31,37-39	2	81
c- 214 骨および関節軟骨の悪性新生物 C40-41	1	47
c- 215 皮膚の悪性黒色腫 C43	0	0
c- 216 その他の皮膚の悪性新生物 C44	1	9
c- 217 中皮および軟部組織の悪性新生物 C45-49	3	47
c- 218 乳房の悪性新生物 C50	19	450
c- 219 子宮頸(部)の悪性新生物 C53	5	119
c- 220 子宮体(部)の悪性新生物 C54	6	193
c- 221 子宮の部位不明の悪性新生物 C55	1	38
c- 222 卵巣の悪性新生物 C56	4	75
c- 223 その他の女性性器の悪性新生物 C51-52,57-58	0	0
c- 224 前立腺の悪性新生物 C61	4	69
c- 225 その他の男性性器の悪性新生物 C60,62-63	0	0

診療実績及び診療統計

3) 疾病別死亡患者数 (小分類) (平成 28 年1月~12月)

疾病名	件数	延べ日数
c- 226 腎及び腎盂の悪性新生物	3	54
c- 227 膀胱の悪性新生物	8	111
c- 228 その他の尿路の悪性新生物	1	5
c- 229 眼および付属器の悪性新生物	0	0
c- 230 中枢神経系の悪性新生物	0	0
c- 231 甲状腺の悪性新生物	2	17
c- 232 ホジキン病	0	0
c- 233 非ホジキンリンパ腫	13	275
c- 234 白血病	8	323
c- 235 その他のリンパ組織、造血組織および関連組織	6	289
c- 236 その他の悪性新生物	6	84
c- 237 子宮頸(部)の上皮内癌	0	0
c- 238 その他の上皮内新生物	0	0
c- 239 皮膚の良性新生物	0	0
c- 240 乳房の良性新生物	0	0
c- 241 子宮平滑筋腫	0	0
c- 242 卵巣の良性新生物	0	0
c- 243 泌尿器の良性新生物	0	0
c- 244 中枢神経系のその他の新生物	0	0
c- 245 その他の新生物	6	248
小計 (II)	285	(6,356)
c- 300 III 血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	0	0
c- 301 鉄欠乏性貧血	0	0
c- 302 その他貧血	0	0
c- 303 出血性の病態並びにその他の血液及び造血器の疾患	0	0
c- 304 免疫機構の障害	0	0
小計 (III)	0	(0)
c- 400 IV 内分泌、栄養および代謝疾患	3	90
c- 401 甲状腺中毒症	0	0
c- 402 甲状腺炎	0	0
c- 403 その他の甲状腺障害	0	0
c- 404 インスリン依存性糖尿病	0	0
c- 405 インスリン非依存性糖尿病	0	0
c- 406 その他の糖尿病	1	86
c- 407 卵巣機能障害	0	0
c- 408 栄養失調(症)及びビタミン欠乏症	0	0
c- 409 肥満(症)	0	0
c- 410 高脂血症	0	0
c- 411 体液量減少(症)	0	0
c- 412 その他の内分泌、栄養および代謝疾患	2	4
小計 (IV)	3	(90)
c- 500 V 精神および行動の障害	0	0
c- 501 血管性及び詳細不明の痴呆	0	0
c- 502 アルコール使用<飲酒>による精神および行動の障害	0	0
c- 503 その他の精神作用物質使用による精神および行動の障害	0	0
c- 504 精神分裂病、分裂病型障害および妄想性障害	0	0
c- 505 気分〔感情〕障害(躁鬱病を含む)	0	0
c- 506 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害	0	0
c- 507 精神遅滞	0	0
c- 508 その他の精神および行動の障害	0	0
小計 (V)	0	(0)
c- 600 VI 神経系の疾患	2	45
c- 601 髄膜炎	1	12
c- 602 中枢神経系の炎症性疾患	0	0
c- 603 脊髄性筋萎縮症および関連症候群	0	0
c- 604 パーキンソン病	0	0



診療実績及び診療統計

3) 疾病別死亡患者数 (小分類) (平成 28 年1月～12月)

疾病名	件数	延べ日数
c- 605 アルツハイマー病	0	0
c- 606 多発性硬化症	0	0
c- 607 てんかん	1	33
c- 608 片頭痛及びその他の頭痛症候群	0	0
c- 609 一過性脳虚血発作および関連症候群	0	0
c- 610 睡眠障害	0	0
c- 611 神経、神経根および神経そうの障害	0	0
c- 612 脳性麻痺およびその他の麻痺性症候群	0	0
c- 613 自律神経系の障害	0	0
c- 614 その他の神経系の疾患	0	0
小計 (VI)	2	(45)
c- 700 VII 眼および付属器の疾患	0	0
c- 701 麦粒腫およびさん粒腫	0	0
c- 702 涙器の障害	0	0
c- 703 結膜炎	0	0
c- 704 角膜炎	0	0
c- 705 白内障	0	0
c- 706 網膜剥離および裂孔	0	0
c- 707 網膜血管閉塞症	0	0
c- 708 緑内障	0	0
c- 709 斜視	0	0
c- 710 屈折および調節の障害	0	0
c- 711 盲<失明>および低視力	0	0
c- 712 その他の眼および付属器の疾患	0	0
小計 (VII)	0	(0)
c- 800 VIII 耳および乳様突起の疾患	0	0
c- 801 外耳炎	0	0
c- 802 耳垢栓塞	0	0
c- 803 その他の外耳障害	0	0
c- 804 中耳炎	0	0
c- 805 耳管炎	0	0
c- 806 耳管閉塞	0	0
c- 807 中耳真珠腫(症)	0	0
c- 808 その他の中耳および乳様突起の疾患	0	0
c- 809 メニエール病	0	0
c- 810 中枢性めまい	0	0
c- 811 その他の内耳疾患	0	0
c- 812 難聴	0	0
c- 813 その他の耳疾患	0	0
小計 (VIII)	0	(0)
c- 900 IX 循環器系の疾患	59	899
c- 901 本態性(原発性)高血圧(症)	0	0
c- 902 高血圧性心疾患	0	0
c- 903 高血圧性腎疾患	0	0
c- 904 高血圧性心腎疾患	0	0
c- 905 二次性高血圧症	0	0
c- 906 狭心症	1	56
c- 907 急性心筋梗塞	0	0
c- 908 冠動脈硬化症	0	0
c- 909 陳旧性心筋梗塞	0	0
c- 910 その他の虚血性心疾患	1	24
c- 911 慢性リウマチ性心疾患	0	0
c- 912 慢性非リウマチ性心内膜疾患	2	9
c- 913 心筋症	0	0
c- 914 不整脈及び伝導障害	9	84
c- 915 心不全	6	195

診療実績及び診療統計
3) 疾病別死亡患者数 (小分類) (平成 28 年1月～12月)

疾病名	件数	延べ日数
c- 916 その他の心疾患	I01-02.0,I27,I30-33,	3 98
c- 917 くも膜下出血	I60.69.0	5 37
c- 918 脳内出血	I61.69.1	13 62
c- 919 脳梗塞	I63.69.3	4 46
c- 920 脳動脈硬化(症)	I67.2	0 0
c- 921 その他の脳血管疾患	I62.64-67.1,67.3-68,	0 0
c- 922 肺塞栓症	I26	0 0
c- 923 動脈硬化(症)	I70	1 2
c- 924 大動脈瘤および解離	I71	12 281
c- 925 レイノー症候群	I73.0	0 0
c- 926 動脈の塞栓症および血栓症	I74	0 0
c- 927 その他の動脈、細動脈及び毛細血管の疾患	I72,77-79	1 3
c- 928 静脈炎、血栓(性) 静脈炎並びに静脈の塞栓症及び血栓症	I80-82	0 0
c- 929 下肢の静脈瘤	I83	0 0
c- 930 痔核	I84	0 0
c- 931 食道静脈瘤	I85	1 2
c- 932 低血圧(症)	I95	0 0
c- 933 その他循環器系の疾患	I00-99 の残り	0 0
小 計 (IX)		59 (899)
c- 1000 X 呼吸器系の疾患	J00-99	38 541
c- 1001 急性鼻咽頭炎 [かぜ]	J00	0 0
c- 1002 急性副鼻腔炎	J01	0 0
c- 1003 急性咽頭炎及び急性扁桃炎	J02-03	0 0
c- 1004 急性喉頭炎および気管炎	J04	0 0
c- 1005 その他の急性上気道感染症	J05-06	0 0
c- 1006 インフルエンザ	J10-11	0 0
c- 1007 肺炎	J12-18	9 46
c- 1008 急性気管支炎	J20	0 0
c- 1009 急性細気管支炎	J21	0 0
c- 1010 アレルギー性鼻炎	J30	0 0
c- 1011 慢性副鼻腔炎	J32	0 0
c- 1012 その他の鼻および副鼻腔の疾患	J31,33-34	0 0
c- 1013 扁桃およびアデノイドの慢性疾患	J35	0 0
c- 1014 その他の上気道疾患	J36-39	0 0
c- 1015 急性または慢性と明示されない気管支炎	J40	0 0
c- 1016 慢性閉塞性肺疾患	J41-44	1 2
c- 1017 喘息	J45-46	0 0
c- 1018 気管支拡張症	J47	0 0
c- 1019 じん肺(症)	J60-65	0 0
c- 1020 間質性肺疾患	J80-84	8 199
c- 1021 気胸	J93	2 20
c- 1022 その他呼吸器系の疾患	J00-99 の残り	18 274
小 計 (X)		38 (541)
c- 1100 XI 消化器系の疾患	K00-93	16 295
c- 1101 う蝕	K02	0 0
c- 1102 歯肉炎および歯周疾患	K05	0 0
c- 1103 その他の歯および歯の支持組織の障害	K00-01,03-04,06-08	0 0
c- 1104 口内炎および関連疾患	K12	0 0
c- 1105 その他の口腔、唾液腺及び顎の疾患	K09-11,13-14	0 0
c- 1106 胃潰瘍	K25	0 0
c- 1107 十二指腸潰瘍	K26	1 10
c- 1108 部位不明の消化性潰瘍	K27	0 0
c- 1109 胃炎および十二指腸炎	K29	0 0
c- 1110 その他の食道、胃および十二指腸の疾患	K20-23,28,30-31	0 0
c- 1111 虫垂の疾患	K35-38	0 0
c- 1112 鼠径ヘルニア	K40	0 0



診療実績及び診療統計

3) 疾病別死亡患者数 (小分類) (平成 28 年1月～12月)

疾 病 名	件数	延べ日数
c- 1113 その他のヘルニア	0	0
c- 1114 クロウン病	0	0
c- 1115 潰瘍性大腸炎	0	0
c- 1116 腸閉塞	1	9
c- 1117 過敏性腸症候群	0	0
c- 1118 便秘	0	0
c- 1119 裂肛および痔瘻	0	0
c- 1120 その他の胃腸の疾患	1	9
c- 1121 腹膜の疾患	1	13
c- 1122 アルコール性肝疾患	2	41
c- 1123 慢性肝炎 (アルコール性のものを除く)	0	0
c- 1124 肝硬変 (アルコール性のものを除く)	1	20
c- 1125 その他の肝疾患	1	13
c- 1126 胆石症	2	18
c- 1127 胆のう炎	0	0
c- 1128 急性膵炎	0	0
c- 1129 慢性膵炎	0	0
c- 1130 その他の膵疾患	1	37
c- 1131 その他の消化器系の疾患	5	125
小 計 (X I)	16	(295)
c- 1200 X II 皮膚および皮下組織の疾患	1	21
c- 1201 皮膚および皮下組織の感染症	1	21
c- 1202 アトピー性皮膚炎	0	0
c- 1203 接触皮膚炎	0	0
c- 1204 その他の皮膚炎及び湿疹	0	0
c- 1205 乾せん及びその他の丘疹落せつ性障害	0	0
c- 1206 じんま疹	0	0
c- 1207 爪の障害	0	0
c- 1208 脱毛症	0	0
c- 1209 ざ瘡<アクネ>	0	0
c- 1210 色素 (沈着) 異常症	0	0
c- 1211 うおのめおよびべんち	0	0
c- 1212 その他の皮膚および皮下組織の疾患	0	0
小 計 (X II)	1	(21)
c- 1300 X III 筋骨格系および結合組織の疾患	3	38
c- 1301 慢性関節リウマチ	0	0
c- 1302 痛風	0	0
c- 1303 その他の炎症性多発性関節障害	0	0
c- 1304 関節症	0	0
c- 1305 四肢の後天性変形	0	0
c- 1306 膝内障	0	0
c- 1307 関節痛	0	0
c- 1308 その他の関節障害	0	0
c- 1309 全身性エリテマトーデス <SLE>	0	0
c- 1310 乾燥症候群 [シェーグレン症候群]	0	0
c- 1311 ベーチェット病	0	0
c- 1312 その他の全身性結合組織障害	1	35
c- 1313 脊椎障害 (脊椎症を含む)	0	0
c- 1314 椎間板障害	0	0
c- 1315 頸腕症候群	0	0
c- 1316 腰痛症及び坐骨神経痛	0	0
c- 1317 その他の背部痛	0	0
c- 1318 その他の脊柱障害	0	0
c- 1319 軟部組織障害	2	3
c- 1320 肩の傷害	0	0

診療実績及び診療統計
3) 疾病別死亡患者数 (小分類) (平成 28 年1月～12月)

疾 病 名	件数	延べ日数
c- 1321 骨粗しょう症	0	0
c- 1322 その他の骨の密度および構造の障害	0	0
c- 1323 骨髄炎	0	0
c- 1324 若年性骨軟骨症<骨端症>	0	0
c- 1325 その他の筋骨格系及び結合組織の疾患	0	0
小 計 (XIII)	3	(38)
c- 1400 XIV 尿路性器系の疾患	5	264
c- 1401 急性及び急速進行性腎炎症候群	0	0
c- 1402 ネフローゼ症候群	0	0
c- 1403 その他の糸球体疾患	0	0
c- 1404 腎尿細管間質性疾患	0	0
c- 1405 慢性腎不全	3	242
c- 1406 その他の腎不全	1	10
c- 1407 尿路結石症	0	0
c- 1408 膀胱炎	0	0
c- 1409 その他の尿路系の疾患	1	12
c- 1410 前立腺肥大(症)	0	0
c- 1411 その他の男性性器の疾患	0	0
c- 1412 乳房の障害	0	0
c- 1413 卵管炎および卵巣炎	0	0
c- 1414 子宮頸(部)の炎症性疾患	0	0
c- 1415 その他の女性骨盤炎症性疾患	0	0
c- 1416 子宮内膜症	0	0
c- 1417 女性性器脱	0	0
c- 1418 卵巣, 卵管および子宮広間膜の非炎症性障害	0	0
c- 1419 月経障害	0	0
c- 1420 閉経期およびその他の閉経周辺期障害	0	0
c- 1421 女性不妊症	0	0
c- 1422 その他の女性性器の疾患	0	0
小 計 (XIV)	5	(264)
c- 1500 XV 妊娠, 分娩および産じょく	0	0
c- 1501 自然流産	0	0
c- 1502 医学的人工流産	0	0
c- 1503 その他の流産	0	0
c- 1504 妊娠中毒症	0	0
c- 1505 妊娠早期の出血	0	0
c- 1506 前置胎盤, 胎盤早期剥離及び分娩前出血	0	0
c- 1507 その他の胎児及び羊膜腔に関連する母体のケア並びに 予想される分娩の諸問題	0	0
c- 1508 早産	0	0
c- 1509 分娩後出血	0	0
c- 1510 単胎自然分娩	0	0
c- 1511 その他の妊娠及び分娩の障害及び合併症	0	0
c- 1512 主として産じょくに関連する合併症及びその他の産科的 病態, 他に分類されないもの	0	0
小 計 (XV)	0	(0)
c- 1600 XVI 周産期に発生した病態	1	31
c- 1601 妊娠期間および胎児発育に関連する障害	1	31
c- 1602 出産外傷	0	0
c- 1603 周産期に特異的な呼吸障害および心血管障害	0	0
c- 1604 周産期に特異的な感染症	0	0
c- 1605 胎児および新生児の出血性障害および血液障害	0	0
c- 1606 その他の周産期に発生した病態	0	0
小 計 (XVI)	1	(31)
c- 1700 XVII 先天奇形, 変形および染色体異常	7	400



診療実績及び診療統計

3) 疾病別死亡患者数 (小分類) (平成 28 年1月～12月)

疾 病 名	件数	延べ日数
c- 1701 二分脊椎<脊椎披裂>	0	0
c- 1702 その他の神経系の先天奇形	1	5
c- 1703 心臓の先天奇形	2	31
c- 1704 その他の循環器系の先天奇形	0	0
c- 1705 唇裂および口蓋裂	0	0
c- 1706 小腸の先天欠損、閉鎖および狭窄	0	0
c- 1707 その他の消化器系の先天奇形	0	0
c- 1708 停留精巣<睾丸>	0	0
c- 1709 その他の尿路性器系の先天奇形	0	0
c- 1710 股関節部の先天(性)変形	0	0
c- 1711 足の先天変形	0	0
c- 1712 脊柱および骨性胸郭の先天奇形	0	0
c- 1713 その他の筋骨格系の先天奇形及び変形	1	125
c- 1714 その他の先天奇形	1	223
c- 1715 染色体異常、他に分類されないもの	2	16
小 計 (XVII)	7	(400)
c- 1800 XVIII 症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他	11	71
c- 1801 腹痛および骨盤痛	0	0
c- 1802 めまい	0	0
c- 1803 不明熱	0	0
c- 1804 頭痛	0	0
c- 1805 老衰	2	3
c- 1806 その他の症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見	9	68
小 計 (XVIII)	11	(71)
c- 1900 XIX 損傷、中毒およびその他の外因の影響	8	163
c- 1901 頭蓋骨および顔面骨の骨折	0	0
c- 1902 頸部、胸部及び骨盤の骨折(脊椎を含む)	0	0
c- 1903 大腿骨の骨折	0	0
c- 1904 その他の四肢の骨折	0	0
c- 1905 多部位の骨折	1	54
c- 1906 明示された部位及び多部位の脱臼、捻挫及びストレイン	0	0
c- 1907 眼球及び眼窩の損傷	0	0
c- 1908 頭蓋内損傷	1	4
c- 1909 その他の内臓の損傷	0	0
c- 1910 明示された部位及び多部位の挫滅損傷及び外傷性切断	0	0
c- 1911 その他の明示された部位、部位不明及び外部位の損傷	1	53
c- 1912 自然開口部からの異物侵入の作用	1	1
c- 1913 熱傷および腐食	0	0
c- 1914 薬物、薬剤および生物学的製剤による中毒	0	0
c- 1915 薬用を主としない物質の毒作用	0	0
c- 1916 虐待症候群	0	0
c- 1917 その他及び詳細不明の外因の作用	1	2
c- 1918 外傷の早期合併症並びに外科的及び内科的ケア	3	49
c- 1919 損傷、中毒およびその他の外因による影響の続発・後遺症	0	0
小 計 (XIX)	8	(163)
c- 2100 XXI 健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービス	0	0
c- 2101 検査および診査のための保健サービスの利用者	0	0
c- 2102 無症候性ヒト免疫不全ウイルス〔HIV〕感染状態	0	0
c- 2103 予防接種	0	0
c- 2104 伝染病に関連する健康障害をきたす恐れのある	0	0
c- 2105 避妊管理	0	0
c- 2106 分娩前スクリーニング及びその他の妊娠の管理	0	0
c- 2107 その他の生殖に関連する環境下での保健サービス	0	0
c- 2108 分娩後のケアおよび検査	0	0
c- 2109 菌の補てつ	0	0

診療実績及び診療統計

3) 疾病別死亡患者数 (小分類) (平成 28 年1月～12月)

疾 病 名	件数	延べ日数	
c- 2110 特定の処置(歯の補てつを除く)及び保健ケアの	Z40-Z46.2,Z46.5-Z54	0	0
c- 2111 腎透析依存	Z99.2	0	0
c- 2112 その他の理由による保健サービスの利用者	Z55-Z99.1,Z99.3-Z99.9	0	0
小 計 (X X I)	0	(0)	
合 計	452	9,593	

I. 死亡原因別死亡数

	整外	形外	形成	リハ	外科	心外	臓外	脳神経	内科	循環	環器	皮膚	泌尿	産婦	眼科	耳鼻	小児	神経	精神	神経	経内	放射	射線	歯科	麻酔	リウ	マテ	緩和	和ケ	合 計
診療科別死亡数	1				32	9	20	208					14	9		9	12				7				2			129	452	
麻酔による死亡数																													0	
術後1ヶ月以内の死亡数	1				5	5	3	15					3			1	2				1				1			9	46	
産婦出生による死亡数																													0	
新生児(生後28日以内)死亡数														0															0	
(再掲)																													(0)	
入院48時間以内死亡数					2	4	9	42					3	3			4								1			2	70	

注) 新生児死亡数欄で院外出生の死亡数は () をもって再掲とする。

II. 麻酔件数・手術件数・分娩件数・新生児数

	整外	形外	形成	リハ	外科	心外	臓外	脳神経	内科	循環	環器	皮膚	泌尿	産婦	眼科	耳鼻	小児	神経	精神	神経	経内	放射	射線	歯科	麻酔	リウ	マテ	緩和	和ケ	合 計
麻酔件数	804				1,554	339	165	1,558					535	760	1,225	453	321					135			52					7,901
手術件数	805				1,559	341	165	1,572					578	760	1,225	453	321					139			53					7,971
分娩件数														368															368	
新生児数														387															387	
(再掲)																													(0)	

注) 新生児数欄で院外出生の数は () をもって再掲とする。

III. 退院患者診療科別転帰統計

	整外	形外	形成	リハ	外科	心外	臓外	脳神経	内科	循環	環器	皮膚	泌尿	産婦	眼科	耳鼻	小児	神経	精神	神経	経内	放射	射線	歯科	麻酔	リウ	マテ	緩和	和ケ	合 計
治癒	1				74	1	4	138				12	6	95	32	143	37				1				1					545
軽快	789				1566	285	299	2939				44	596	1198	795	394	1181				170	9			30			11	10,306	
不変	33				169	16	26	1562				2	146	134	6	44	176				62	1			2				2,379	
増悪	1				2			38					7	6		2	6				7								69	
死亡	1				32	9	20	208					14	9		9	12				7				2			129	452	
その他					4	4	16	357					168	39		9	128				7	1							733	
合計	825	0	0		1847	315	365	5242	0		58	937	1481	833	601	1540	0			254	11		0	35	0		140	14,484		

IV. 剖 検 数

18	件
----	---

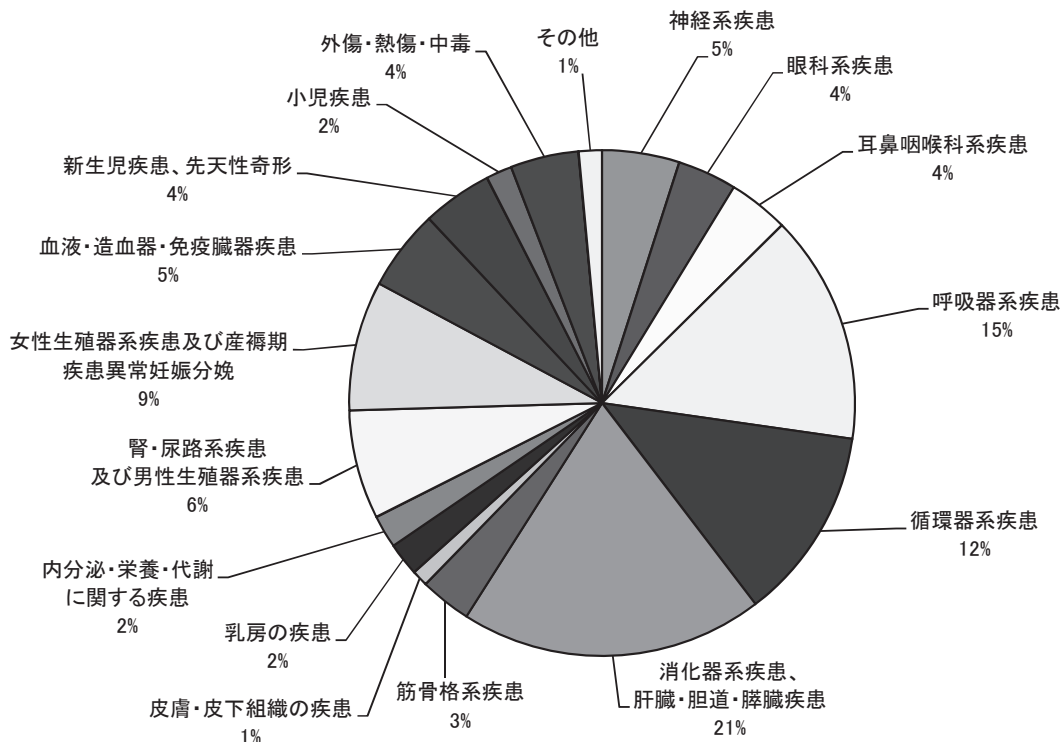


2. DPC 統計

1) MDC 別退院患者数

MDC 番号	MDC 名称	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
01	神経系疾患	47	55	58	43	59	44	62	41	46	37	52	56	600
02	眼科系疾患	37	31	55	42	49	32	45	34	38	23	36	38	460
03	耳鼻咽喉科系疾患	41	42	46	50	52	32	41	42	37	27	31	27	468
04	呼吸器系疾患	167	159	138	151	134	150	173	175	141	113	136	145	1,782
05	循環器系疾患	106	127	159	102	131	115	107	130	149	122	114	138	1,500
06	消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患	190	166	218	195	207	205	198	218	224	156	180	197	2,354
07	筋骨格系疾患	44	24	33	37	36	32	36	39	28	24	27	38	398
08	皮膚・皮下組織の疾患	11	10	13	14	10	10	6	11	11	7	9	13	125
09	乳房の疾患	18	17	19	21	31	24	17	21	28	18	18	26	258
10	内分泌・栄養・代謝に関する疾患	22	21	22	23	25	20	31	16	14	19	23	20	256
11	腎・尿路系疾患及び男性生殖器系疾患	77	59	79	79	76	66	66	61	70	66	70	78	847
12	女性生殖器系疾患及び産褥期疾患 異常妊娠分娩	61	65	84	94	89	94	83	88	80	81	95	92	1,006
13	血液・造血器・免疫臓器の疾患	43	38	44	61	56	59	59	61	62	41	50	54	628
14	新生児疾患、先天性奇形	52	34	42	53	65	42	47	30	37	41	52	49	544
15	小児疾患	10	16	18	17	10	15	12	20	22	25	18	18	201
16	外傷・熱傷・中毒	36	40	40	37	66	52	43	42	46	41	47	40	530
17	精神疾患	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
18	その他	16	19	17	20	14	13	7	15	17	16	10	16	180
	合計	978	923	1,085	1,039	1,110	1,005	1,034	1,044	1,050	857	968	1,045	12,138

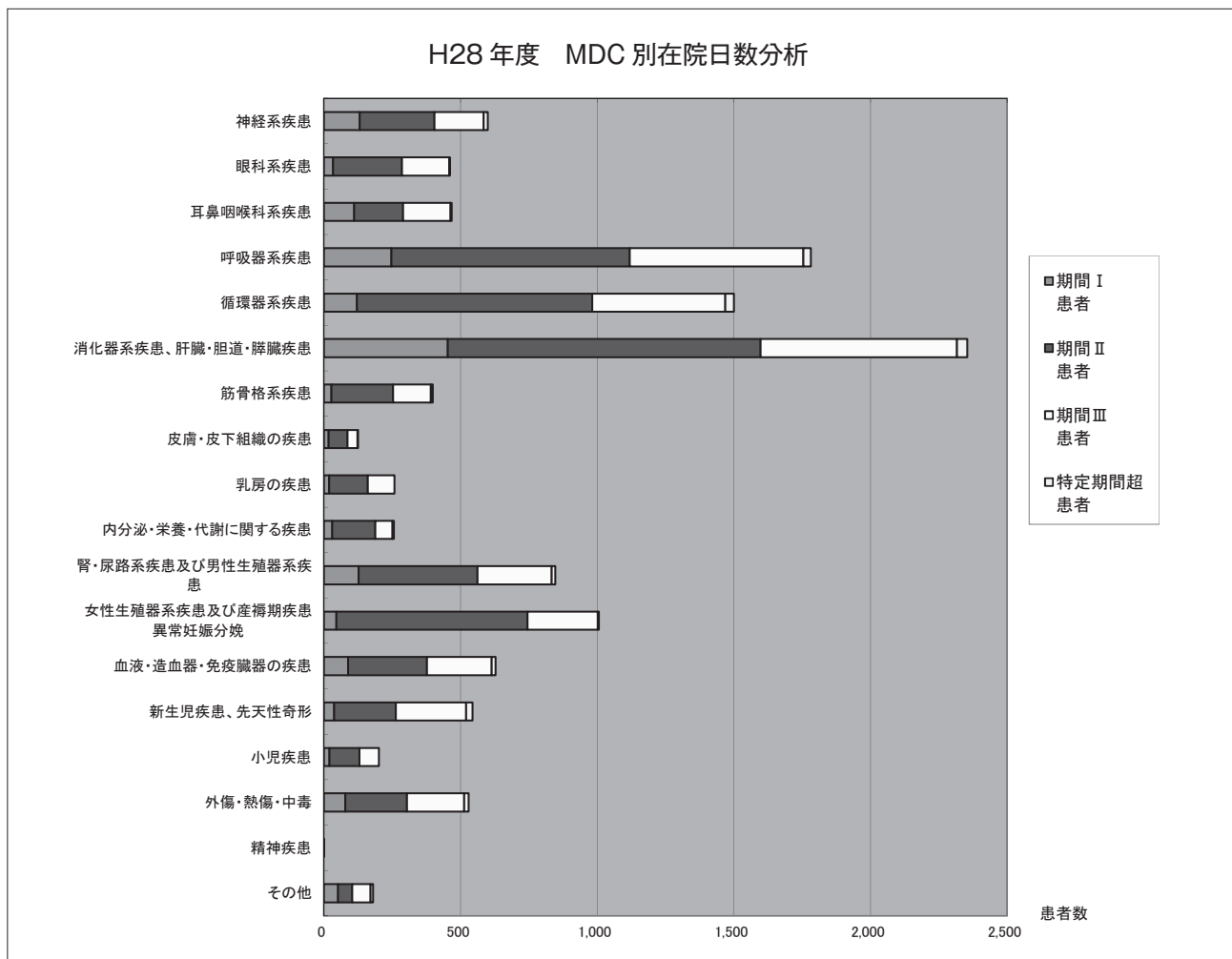
H28 年度 MDC 別退院患者割合



診療実績及び診療統計

2) MDC 別在院日数分析

MDC 番号	MDC 名称	平均在院日数	期間 I 患者	期間 II 患者	期間 III 患者	特定期間超患者	合計
01	神経系疾患	16.8	131	274	180	15	600
02	眼科系疾患	9.1	34	252	173	1	460
03	耳鼻咽喉科系疾患	11.2	111	179	174	4	468
04	呼吸器系疾患	12.5	247	872	635	28	1,782
05	循環器系疾患	13.8	121	861	487	31	1,500
06	消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患	12.3	453	1,145	718	38	2,354
07	筋骨格系疾患	19.7	27	226	138	7	398
08	皮膚・皮下組織の疾患	11.2	17	69	37	2	125
09	乳房の疾患	8.3	19	142	97	0	258
10	内分泌・栄養・代謝に関する疾患	12.5	31	157	63	5	256
11	腎・尿路系疾患及び男性生殖器系疾患	11.7	127	435	272	13	847
12	女性生殖器系疾患及び産褥期疾患 異常妊娠分娩	7.8	46	699	257	4	1,006
13	血液・造血器・免疫臓器の疾患	20.4	88	289	237	14	628
14	新生児疾患、先天性奇形	20.8	38	225	257	24	544
15	小児疾患	6.2	20	110	71	0	201
16	外傷・熱傷・中毒	15.7	78	226	209	17	530
17	精神疾患	3.0	0	0	1	0	1
18	その他	19.8	52	52	67	9	180
	合計	13.3	1,640	6,213	4,073	212	12,138





診療実績及び診療統計

3) 年齢別・性別退院患者数

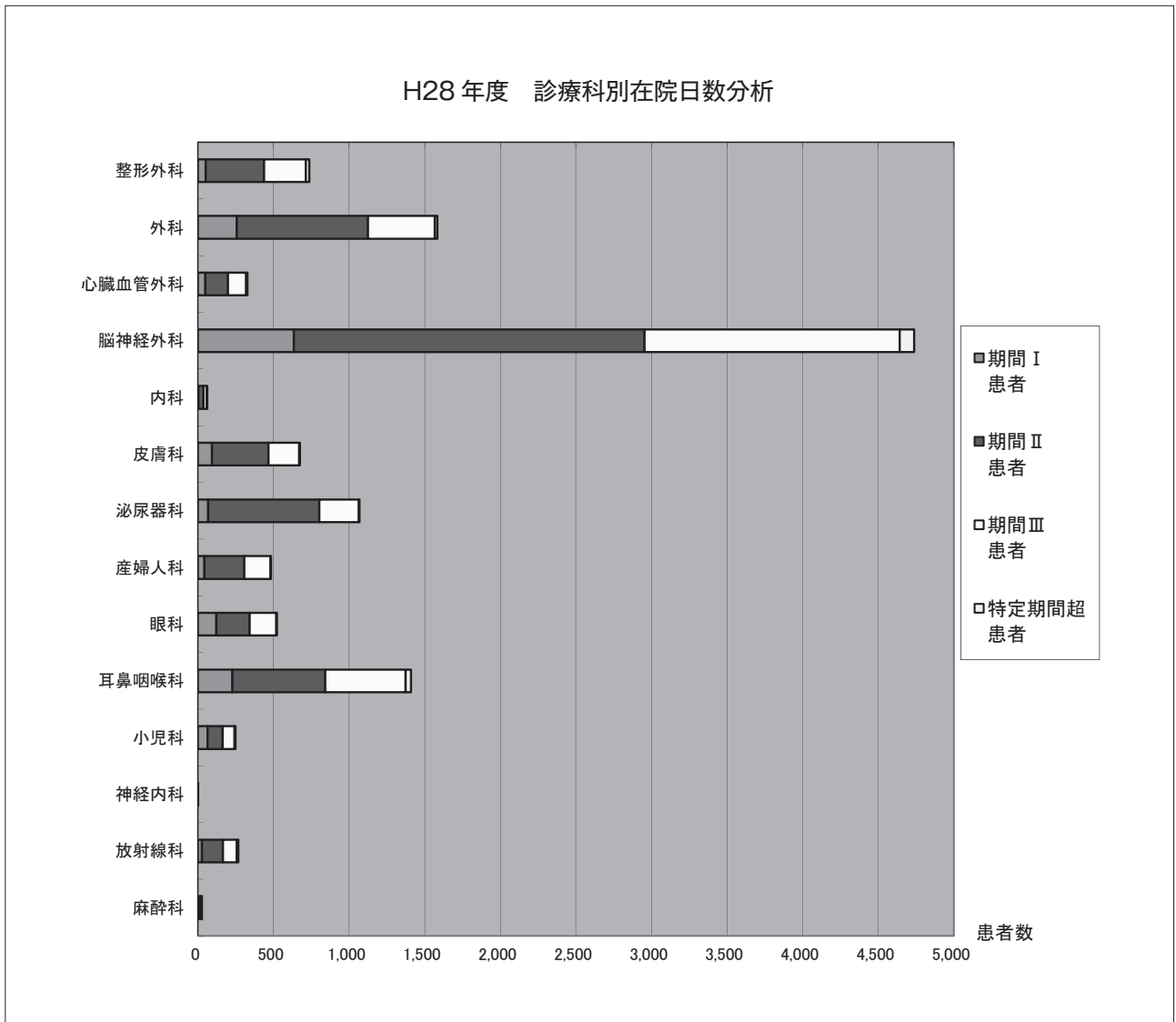
MDC 番号	MDC 名称	性別	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80～89歳	90～99歳	100歳～	合計
01	神経系疾患	男	25	11	5	8	12	24	86	93	53	11		328
		女	22	9	11	9	15	18	58	68	53	9		272
		計	47	20	16	17	27	42	144	161	106	20		600
02	眼科系疾患	男	6	7	6	8	16	44	78	68	39	1		273
		女	2	1	4	3	9	20	58	45	38	7		187
		計	8	8	10	11	25	64	136	113	77	8		460
03	耳鼻咽喉科系疾患	男	58	11	14	22	29	27	54	49	13	2		279
		女	34	11	18	15	22	25	25	23	13	3		189
		計	92	22	32	37	51	52	79	72	26	5		468
04	呼吸器系疾患	男	215	28	14	11	20	56	275	303	195	22		1,139
		女	188	23	9	13	28	27	89	132	102	32		643
		計	403	51	23	24	48	83	364	435	297	54		1,782
05	循環器系疾患	男	8	9	6	23	59	92	251	300	183	14		945
		女	12	15		11	14	40	108	139	167	49		555
		計	20	24	6	34	73	132	359	439	350	63		1,500
06	消化器系疾患、 肝臓・胆道・膵臓 疾患	男	37	26	16	22	82	123	346	446	235	25		1,358
		女	30	18	12	33	56	75	221	282	214	55		996
		計	67	44	28	55	138	198	567	728	449	80		2,354
07	筋骨格系疾患	男	5	1	2	4	22	28	45	67	22	3		199
		女	5	6	4	4	11	18	36	71	43	1		199
		計	10	7	6	8	33	46	81	138	65	4		398
08	皮膚・皮下組織の 疾患	男	14	2	1	1	2	4	13	18	7	2		64
		女	14	4	3		3	3	11	9	11	3		61
		計	28	6	4	1	5	7	24	27	18	5		125
09	乳房の疾患	男												0
		女		1	3	17	41	55	70	50	17	4		258
		計		1	3	17	41	55	70	50	17	4		258
10	内分泌・栄養・ 代謝疾患	男	17	3	1	7	10	13	27	32	14			124
		女	15	4	3	3	11	17	16	33	23	7		132
		計	32	7	4	10	21	30	43	65	37	7		256
11	腎・尿路系疾患及び 男性生殖器系疾患	男	21	15	3	8	13	44	175	201	88	9		577
		女	7	9	5	11	17	32	49	80	49	11		270
		計	28	24	8	19	30	76	224	281	137	20		847
12	女性生殖器系疾患及び 産褥期疾患異常妊娠 分娩	男								1				1
		女	1	10	49	137	232	222	226	103	22	3		1,005
		計	1	10	49	137	232	222	226	104	22	3		1,006
13	血液・造血器・ 免疫臓器疾患	男	5		8	4	16	43	106	73	63	5		323
		女	2	1	2	8	13	23	68	102	75	11		305
		計	7	1	10	12	29	66	174	175	138	16		628
14	新生児疾患、 先天性奇形	男	249	29	2	2	4	1	6	1				294
		女	217	17	3	3	1	3	5	1				250
		計	466	46	5	5	5	4	11	2				544
15	小児疾患	男	77	14	5	2	1	1	3	5	2			110
		女	57	21	3	1	1	1	3	1	2	1		91
		計	134	35	8	3	2	2	6	6	4	1		201
16	外傷・熱傷・中毒	男	34	35	7	13	10	18	25	30	42	8		222
		女	16	10	6	6	3	16	35	73	104	39		308
		計	50	45	13	19	13	34	60	103	146	47		530
17	精神疾患	男												0
		女									1			1
		計									1			1
18	その他	男	3	4		2	2	6	21	36	15	3		92
		女	2	1		3	9	11	16	22	21	3		88
		計	5	5		5	11	17	37	58	36	6		180
合計		男	774	195	90	137	298	524	1,511	1,723	971	105	0	6,328
		女	624	161	135	277	486	606	1,094	1,234	955	238	0	5,810
		計	1,398	356	225	414	784	1,130	2,605	2,957	1,926	343	0	12,138

診療実績及び診療統計

4) 診療科別在院日数分析

診療科名	平均在院日数	期間Ⅰ患者	期間Ⅱ患者	期間Ⅲ患者	特定期間超患者	合計
整形外科	20.5	51	386	276	22	735
外科	12.5	257	868	441	17	1,583
心臓血管外科	17.0	48	150	121	7	326
脳神経外科	14.1	635	2,319	1,689	95	4,738
内科	16.5	3	34	19	5	61
皮膚科	9.9	93	372	204	5	674
泌尿器科	7.7	67	736	261	5	1,069
産婦人科	9.0	42	263	175	1	481
眼科	11.4	122	220	175	4	521
耳鼻咽喉科	12.1	227	614	533	34	1,408
小児科	15.9	63	99	80	6	248
神経内科	8.0	0	2	0	0	2
放射線科	23.6	25	140	92	10	267
麻酔科	8.9	7	10	7	1	25
合計		1,640	6,213	4,073	212	12,138

※麻酔科は、救急科を含みます。





5) MDC6 桁分類別疾患件数 (上位 20 分類)

MDC6 コード	MDC6 分類名称	件数	平均在院日数	構成比率
040040	肺の悪性腫瘍	771	12.8	6.4%
050050	狭心症、慢性虚血性心疾患	499	5.7	4.1%
12002x	子宮頸・体部の悪性腫瘍	381	8.0	3.1%
130030	非ホジキンリンパ腫	325	16.9	2.7%
040080	肺炎等	323	10.9	2.7%
050130	心不全	254	26.7	2.1%
090010	乳房の悪性腫瘍	248	8.5	2.0%
060020	胃の悪性腫瘍	245	14.3	2.0%
14031x	先天性心疾患 (動脈管開存症、心房中隔欠損症を除く)	230	24.5	1.9%
060340	胆管 (肝内外) 結石、胆管炎	224	9.0	1.8%
010060	脳梗塞	207	18.5	1.7%
060050	肝・肝内胆管の悪性腫瘍 (続発性を含む)	196	9.2	1.6%
120010	卵巣・子宮附属器の悪性腫瘍	189	6.6	1.6%
060035	結腸 (虫垂を含む) の悪性腫瘍	188	14.9	1.5%
110070	膀胱腫瘍	172	10.2	1.4%
060010	食道の悪性腫瘍 (頸部を含む)	158	14.3	1.3%
140010	妊娠期間短縮、低出産体重に関連する障害	156	24.6	1.3%
050070	頻脈性不整脈	153	6.6	1.3%
160800	股関節大腿近位骨折	139	21.1	1.1%
110080	前立腺の悪性腫瘍	137	13.1	1.1%

※構成比率=該当件数/全件数

平成28年度 病院年報

平成 30 年 12 月発行

発行者 独立行政法人 地域医療機能推進機構 九州病院

〒 806-8501

北九州市八幡西区岸の浦 1 丁目 8 番 1 号

TEL 093-641-5111



独立行政法人
地域医療機能推進機構

九州病院